

平成28年度



ふるさと^ゆ夢プロジェクト

事業報告書



平成29年2月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	平成28年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画	2
3.	4年生「北広島 お宝発見・体験ツアー」	
	(1) 実施計画	4
	(2) 活動の様子	7
	(3) 児童アンケート結果	15
	(4) 児童作文	17
4.	5年生「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～	
	(1) 実施計画	40
	(2) 活動の様子	45
	(3) 児童アンケート結果	57
	(4) 児童作文	62
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	
	(1) 実施計画	101
	(2) 活動の様子	105
	(3) 講演会	108
	(4) 児童アンケート結果	111
	(5) 児童作文	121
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って	148
7.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 考察	153
8.	おわりに	159

はじめに

日本創成会議の人口問題検討部会が、2040年には全国の896市町村が消滅の危機にあるとセンセーショナルな試算結果を発表して、3年近くがたとうとしています。日本全体の人口減少が進む中、地方創生がキーワードとされ、各自治体では人口減少に対峙するため様々な施策が展開されています。

本町も「北広島町総合戦略」を策定し、教育部門では、ふるさとに愛着を持ち、ふるさとに貢献したいと考える若者の育成を強化することに取り組んでいます。

私は、この「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を通じて、ふるさとを誇りに思う気持ちを、子どもの視点を通してより深く醸成していくことで、将来の定住や北広島を応援する気持ちを多くの住民に持っていただくことに繋がりたいと思っています。直ぐに結果が表れるものではなく、地道な活動ではありますが、子どもたちが北広島町で様々な体験をすることにより、この町の良さを実感することは大変大切なことと考えます。

昨年度から実施しているこの事業は、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をすることで、町内には多くの仲間や魅力的な大人がたくさんいることを子どもたちは感じています。是非ともこの冊子にある子どもたちの感想文を読んでそのことを実感していただけたらと思います。

今年度、北広島町は来年度からの10年間の施策に反映させる「第2次長期総合計画」を策定しました。長期総合計画にかかる住民アンケート結果では「教育」は重要度が高く、満足度も高い項目の一つになっており、今後も「北広島ふるさと夢プロジェクト」を重点施策として位置付け、取組みを進めてまいります。

子どもたちに北広島町の良さを伝えることができても、生活の基盤を支える働く場の創出は私たちの責任です。子どもたちが北広島町に住みたいという気持ちをしっかりと支えることをお誓いしたいと思います。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年2月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

隊長 箕野 博 司

(北 広 島 町 長)

平成28年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊設置にあたって

目 的

事業目的:「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町では昨年度から箕野町長がすすめる若者定住を主要施策として、全庁あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし、定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町で「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い、子供たちに町の魅力を再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。事業を通して全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。また、本事業は、広島県教育委員会が実施する「広島版『学びの変革』アクション・プラン」にも対応し、先駆けとなるものとする。このプロジェクトを実施するにあたり、町全体で応援隊を組織し、企画立案や運営を行う。

事業主体 北広島町

主 管 北広島町教育委員会

組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・企画課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う)

教育委員会事務局を事業事務局とする。

また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	空田 賢治 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	総務課長	企画課長
	商工観光課長	藤田 典生 (中学校代表)
	佐々木 昭典 (小学校代表)	教育委員会職員
事務局	石坪 隆雄 (事務局長)	佐々木 直彦 (事務局次長)
	沖中 満春 (事務局員)	

2 今年度の取組の基本方針・具体的な取組について

町内の同学年が一堂に会して北広島町の「ひと・もの・こと」のすばらしさを学んだり、感動ある同一体験をすることで、ふるさとに誇りを持たせたり、町内には多くの友達がいることを認識させ仲間意識の醸成を図る「夢・感動体験事業」と、各学校・地域ごとに、地域と一体となったふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育（ふるさとへの愛着）」と、その基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育（夢や目標、勤労・職業観）」を融合させた「ふるさとキャリア教育事業」を展開する。

ふるさとキャリア教育については、平成26年度各学校で計画を立てて、平成27年度より全面实施していく。

「夢・感動体験事業」の概要について

町内の4年以上の学年について、次の事業を実施する。

学年	4年			5年			6年		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
芸北小	2	9	11	7	7	14	9	8	17
大朝小	4	7	11	6	8	14	7	7	14
新庄小	8	6	14	6	4	10	4	8	12
川迫小	1	4	5	0	2	2	2	4	6
八重小	12	13	25	20	16	36	12	11	23
八重東小	11	11	22	8	8	16	7	12	19
壬生小	13	13	26	18	17	35	12	16	28
本地小	6	2	8	8	15	23	9	5	14
豊平小	7	13	20	6	15	21	5	9	14
合計	64	78	142	79	92	171	67	80	147

①【4年生】－「北広島 お宝発見・体験ツアー」＜9月27日〔火〕＞－142名

《目的》

- 各学校の4年生が、町内のお宝（ひと・もの・こと）を見学・体験する学習を立て、北広島町の自然・歴史・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとが好きになり誇りを持たせる。
- 近隣の学校でいっしょに学習をしたり、交流会を持ったりすることで、児童間の親睦を図る。
- 公共施設の利用など校外における集団行動を通して、一人一人に社会（集団）の一員としての自覚を持つとともに、社会における基本的な生活態度（マナーやルール）を身に付けさせる。

《主な活動内容》

＜グループごとの体験・見学地＞

- (1) 芸北小・豊平小 ー■ユートピアサイオト ジップライン（芸北） ■三島食品（千代田）
- (2) 大朝小・新庄小 ー■テングシデ群落（大朝） ■夢天文台アストロドリーム（豊平）
■芸北民俗芸能保存伝承館（千代田） ■古保利薬師（千代田）
- (3) 八重小 ■芸北高原の自然館（芸北） ■どんぐり庵（豊平）
- (4) 川迫小・壬生小 ー■オオアサ電子株式会社（大朝） ■戦国の庭歴史館（豊平）
■どんぐり庵（豊平）
- (5) 八重東小・本地小ー■芸北高原の自然館（芸北） ■夢天文台アストロドリーム（豊平）

②【5年生】－「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」事業＜7月＞－171名

《目的》

- 町内の自然を生かした体験活動や民泊での田舎生活体験、地域の方とのふれあいを通して、ふるさとの良さを実感させる。
- 町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。
- 養魚場でのつかみ取りや調理体験・登山等の活動を通して、町内児童間の親睦を図る。

《期日》（学校を3つのグループに分けて実施）

- Aグループ：新庄小・川迫小・八重小・本地小・豊平小（総児童数－92名）
7月 4日（月）～ 7日（木） ※民泊－芸北・千代田・豊平地域＜5・6日＞
- Bグループ：芸北小・八重東小（総児童数－30名）
7月11日（月）～14日（木） ※民泊－豊平・大朝地域＜12・13日＞
- Cグループ：大朝小・壬生小（総児童数－49名）
7月19日（火）～22日（金） ※民泊－芸北・豊平地域＜20・21日＞

《主な活動内容》

- ◆1日目－※学校等へ宿泊（授業終了後に活動開始）－食事作り・星空の観察等
- ◆2日目－開会式（学校紹介・交流） 人間関係作り（レクリエーション等）
対面式（民泊受入れ家庭と）－民泊家庭で田舎生活体験
- ◆3日目－大暮養魚場での川魚つかみ取り・調理体験、民泊家庭で田舎生活体験・食事作り
- ◆4日目－登山体験 高杉山〔芸北〕・雲月山〔芸北〕・龍頭山〔豊平〕

③【6年生】－「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」＜10月20日〔木〕＞－147名

《目的》

- 植松電機 植松努先生の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

《主な活動内容》

- ◆学校紹介をして児童交流を行う。
- ◆講演を聞き、夢と感動のある生き方について考える。
- ◆一人一機のロケットを製作し発射させる。

4年生 北広島 お宝発見・体験ツアー



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（４年生）実施要項

～「北広島 お宝発見・体験ツアー」～

- 1 日 時 平成28年 9月27日（火） （雨天決行）
- 2 目 的
 - 各学校の4年生が、町内のお宝（ひと・もの・こと）を見学・体験する学習を立て、北広島町の自然・歴史・文化等のすばらしさを学ばせることで、ふるさとが好きになり誇りを持たせる。
 - 近隣の学校でいっしょに学習をしたり、交流会を持ったりすることで、児童間の親睦を図る。
 - 公共施設の利用など校外における集団行動を通して、一人一人が社会（集団）の一員としての自覚を持つとともに、社会における基本的な生活態度（マナーやルール）を身に付けさせる。
- 3 見学場所及び日程
※別紙参照
- 4 参加予定児童と引率職員
※別紙参照
- 5 事前・事後の取組
 - (1) 事前指導と連携
 - ①プロジェクトの趣旨を踏まえて、見学・体験学習の内容を決定する。また、見学先と目的について事前学習を行い、目的意識を持って参加させる。
 - ②車中・見学先でのマナーについて指導をしておく。
 - ・さわらない さわがない 走らない ・単独行動をとらない。
 - ・説明者の話をよく聞く。 ・必要な場合はメモをとる。
 - ・見学先でのあいさつ（はじめとおわり）と丁寧な言葉づかいをする。
 - ・車中では、「立たない」「騒がない」の指導をしておく。
 - ※学校間で連携して、座る場所等について協議しておく。
 - ③特別な支援を必要とする児童については、学校間で連携して事前の指導・対応を考えておく。
 - ④安全で効率のよい見学・体験学習にするために、事前に下見をしたり学習の内容について連携をとったりしておくようにする。
 - (2) 事後指導と事後の取組
 - ①実施後にアンケートを実施する。見学・体験したこと、学んだこと等を作文に書き、原稿用紙（3枚程度）にまとめる。
 - ②集団行動や見学のマナー、安全について振り返らせ、今後の生活に活かしていく。
 - ③次の内容の報告書を作成する。
 - 【内容】プロジェクトのねらい
 - 各グループの計画・実施の様子
 - <各グループ写真入りでA4用紙2枚程度にまとめる>
 - 作文<各学校2～3人>
 - 実施後のアンケート結果
- 6 役割分担
 - 見学・体験先との渉外（各グループごと） ○バス会社と連携（町教委<沖中>）
 - 「見学のしおり」又は「見学ノート」（各グループで必要に応じて作成）
 - 教育委員会届出（各学校） ○保護者通知（各学校）
 - 会計（バス、見学・体験費用等）（大朝小<山根>・町教育委員会）
 - 見学・体験先での進行・児童指導、健康管理・救急対応（各グループごとに担当者を決めておく）

○昼食・交流会での指導（大朝小・八重小・本地小）

・全体指導（大朝小 齋藤教諭）

⇒ 昼食は、豊平ウイングの二階で食べる。

昼食後の交流会は、豊平ウイングのアリーナで行う。

① 学校ごとの「学校紹介〔3分〕」（各学校で事前指導しておく）

② 交流ゲーム〔14分〕（本地小 田村教諭）

③ 記念写真（八重小 重村教諭）

※担当の3校で事前に打ち合わせと準備をしておく。

・報告書作成

⇒ プロジェクトのねらい（豊平小）

各グループの計画・実施の様子

各グループ写真入りでA4用紙2枚程度にまとめる。

※写真担当を決めておく＜全体の記念写真担当 八重小 重村教諭＞

※様式は、事前に各学校へ送付

作文＜各学校2～3人＞

※学校ごとに指導して作成－10月中旬に作文を選んで豊平小へ送付

実施後のアンケート結果

アンケートの作成（豊平小）－事前に各学校へ送付

学校ごとに集計して、10月中旬に豊平小へ送付

○全体総括（大朝小－山根）

⇒各グループの管理職と緊急連絡が取れる体制を作り、円滑で安全なプロジェクトが実施できるようにする。

7 安全指導

○教職員は、児童の安全を確保できるように細心の注意を払う。特に、マムシや蜂等の被害を受けないように児童へ指導をするとともに、見学地の状況を事前に把握し必要な措置をしておく。

○随時、人数確認を行い、健康状況を把握する。

○見学先で、単独行動をさせず、グループで行動させる。

○不審者に声をかけられたり、連れ去られたりしそうになったら、大きな声を出すなど、具体的な行動の仕方を実態に応じて指導しておく。

○緊急事態発生の場合は、直ちに児童の安全を確保し、グループの管理職に連絡し指示を受ける。

管理職は、必要な対応をするとともに、町教委・該当児童の学校（校長）へ迅速に報告する。

学校ごとに救急バックを携帯し、軽傷についてはその場で処置をする。

○見学地等を考慮し、グループごとに判断して必要に応じて、緊急対応車を手配する。

8 その他

○雨天実施であるが、台風などの接近により荒天が予想される場合は、町教委と連携して中止とする。中止が決定され次第、保護者に迅速に連絡を入れる。

○雨天の場合、雨の影響を受ける内容については、事前に対応を考えておく。

H28年9月27日(火) 北広島ふるさと夢プロジェクト事業 4年生「北広島 お宝発見・体験ツアー」見学・体験場所

グループ	芸北小・豊平小	大朝小・新庄小	八重小	壬生小・川迫小	八重東小・本地小
見学場所等	○ユートピアサイオト ジップライン 北広島町才乙144 ○三島食品 北広島町有田3436	○テングシデ群落 北広島町田原灰谷 ○夢天文台アストロドリーム 北広島町今吉田2591 ○古保利薬師 北広島町古保利224 ○芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町有田1234	○芸北高原の自然館 北広島町東八幡原119-1 ○どんぐり庵 北広島町都志見2609	○オオアサ電子株式会社 大朝3817-10 ○戦国の庭歴史館(豊平) 北広島町海応寺255-1 ○どんぐり庵 北広島町都志見2609	○芸北高原自然館 北広島町東八幡原119-1 ○夢天文台アストロドリーム 北広島町今吉田2591
日程	8:20 豊平小発(集合8:15) 大型バスにて、直接才乙へ 8:30 芸北小(集合8:25) 公用車で直接才乙へ 9:00 ユートピアサイオト・ジップライン [11:30まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30まで] 14:10 三島食品見学 [15:30まで] 16:00 豊平小着 16:30 芸北小着	8:30 新庄小出発 8:50 大朝小出発 9:10 テングシデ群落見学 生涯学習課:大下[10:00まで] 11:00 夢天文台アストロドリーム (太陽の黒点を見よう) [11:55まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30まで] 14:00 伝承館見学 伝承館:松井[14:50まで] 15:00 古保利薬師見学 生涯学習課:大下[16:00まで] 16:20 新庄小着 16:40 大朝小着	8:10 八重小発 9:40 芸北高原の自然館等見学 虫・植物観察[11:10まで] ※八重東小・本地小と合同で 白川+観光ガイド3人 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30まで] 14:00 どんぐり庵 (そばうち体験) [15:30まで] ※壬生小・川迫小と合同で 16:20 八重小着	8:20 壬生小発(集合8:10) 8:30 川迫小(集合8:20) 9:10 オオアサ電子株式会社 [10:10まで] 10:40 戦国の庭歴史館 生涯学習課:沢元[11:40まで] 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30まで] 14:00 どんぐり庵 (そばうち体験) [15:30まで] ※八重小と合同で 16:20 壬生小着 16:35 川迫小着	8:00 本地小発(集合7:50) 8:10 八重東小(集合8:00) (国道沿い山田石油前) 9:40 芸北高原の自然館等見学 虫・植物観察[11:10まで] ※八重小と合同で 白川+観光ガイド3人 12:15 豊平どんぐり運動公園 (昼食・交流会) [13:30まで] 14:00 夢天文台 アストロドリーム (太陽の黒点を見よう) [15:30まで] 16:10 本地小着 16:30 八重東小着
経費	サイオト・ジップライン使用料 31,000円<一人1,000円>	夢天文台アストロドリーム 講師料(5,000円)	そば打ち体験代(児童25名) 22,500円<一人900円>	そば打ち体験代(児童31名) 27,900円<一人900円>	夢天文台アストロドリーム 講師料(5,000円)
児童数 (在籍)	芸北小-11名 豊平小-20名 計-31名	大朝小-11名 新庄小-15名 計-26名	八重小-25名 計-25名	壬生小-26名 川迫小-5名 計-31名	本地小-8名 八重東小-24名 計-32名
引率者	<芸北小> ・板倉寿恵美(校長) ・藤川一志(4年生担任) ・清見和美(養護教諭) (3)名 <豊平小> ・大下朋子(教頭) ・朽木伸幸(4年生担任) ・高木恵美(非常勤講師) (3)名 計[6]名	<大朝小> ・山根昌美(校長) ・齋藤要(4年生担任) (2)名 <新庄小> ・尾崎恵(4年生担任) ・佐々木智子(養護教諭) (2)名 計[4]名	<八重小> ・上本美代子(教頭) ・重村栄男(4年生担任) (2)名 計[2]名	<壬生小> ・高杉佳奈(4年生担任) ・川井久美子(特支学級支援員) ・山崎初恵(養護教諭) (3)名 <川迫小> ・多川牧子(教頭) ・砂原正樹(4年生担任) (2)名 計[5]名	<八重東小> ・沖田敬治(教頭) ・杉谷洋造(4年生担任) ・輪田みゆき(養護教諭) (3)名 <本地小> ・山城美和(教頭) ・田村正宏(4年生担任) (2)名 計[5]名
バス利用	31+[6]名 大型バスを利用(豊平交通)	26+[4]名 中型バスを利用(大朝交通)	25+[2]名 中型バスを利用(八重タクシー)	31+[5]名 大型バスを利用(八重タクシー)	32+[5]名 大型バスを利用(八重タクシー)

※ バスの手配は町教委が予約している。詳細(日程・バス席の把握等)は各グループでバス会社と連携し、決定次第町教委に報告。

「北広島 お宝発見・体験ツアー」の活動の様子

【芸北小・豊平小グループ】

芸北小・豊平小グループは、サイオトスキー場でのジップライン体験と三島食品の工場見学をしました。このツアーでは、普段なかなかできないジップラインの体験を通して、地域の自然のよさを感じることで、食品工場見学を通して、身近なふりかけが作られていることを知ることで、自分達の地域のすばらしさを学ぶことがねらいでした。

ジップライン体験では、体に装着するたくさんの器具を指導員の方が準備してくださり、装着の仕方・移動中の体勢・止まり方など、分かりやすく説明をしてくださりました。始める前は、怖いと感じていた子供達もいましたが、いざやってみるととても楽しかったようです。いくつかのコースをグループに分かれて滑り、2校の交流も広がりました。青空が広がり、スリルや空中で風を感じる気持ちよさを味わって大満足でした。

三島食品の工場見学では、ふりかけが出来るまでの様子を見たり聞いたりして学びました。まずは、ふりかけでおなじみの「ゆかり」が作られている工場を見学しました。屋外で収穫した、たくさんのしその葉を材料に、工場の中で作業している様子を見学しました。機械はあるものの、人の手で作業している様子を知りました。ふりかけがどのようにして作られているかがよく分かりました。次に、ふりかけの歴史が展示してある資料館へ行きました。昔のふりかけなどが展示してあり、ふりかけの歴史がよく分かる資料館でした。

グループに分かれて話をしながら体験・見学を行うことができました。

【ユートピアサイオト ジップライン体験（芸北）】

高さや長さが違う6つのコースがあったよ。怖いと思ったけど、滑っていくうちにだんだん慣れて楽しくなってきたよ。滑っている時の風は気持ちよく、天気がよくて景色も最高だったよ。

サイオトスキー場の指導員の方に、ジップラインのやり方をていねいに教えてもらったよ。とても分かりやすく教えてもらってうれしかったよ。





終わった後の満足感。普段味わえない体験ができたよ。
ハイ・チーズ！



たくさんのふりかけがあるね。
あっ！この味は、食べたことがあるよ。

【三島食品 紫の里 楠苑 見学（千代田）】

紫の里では、三島食品の代表的な商品「ゆかり」の原料である赤しそを加工するところを見られてうれしいな。



創業者の思いや考えが見られたり、聞けたりして勉強になったよ。

楽しかったね！また、会いましょう！



ゆっくりと交流する時間はなかったのですが、グループの中で、自然に子供達が話をしていました。お別れする時は、声をかけ合ったり手をふったり、名残惜しそうにしていました。

【新庄小・大朝小グループ】

新庄小・大朝小グループは、大朝テングシデ群落・夢天文台アストロドリーム・芸北民俗芸能保存伝承館・古保利薬師の体験学習をしました。北広島町の町木であり国の天然記念物でもあるテングシデを知ること、天体望遠鏡で太陽の黒点を観察すること、北広島町に古くから残っている歴史や民俗芸能を知ることがねらいとしました。

大朝テングシデ群落の見学では、教育委員会の大下さんよりテングシデの由来や生態について説明を聞き、間近で木の幹の形や葉を観察し、落ちている種を探しました。また、シデの木の前で、昔話の読み聞かせを行い、地域に古くから伝わる文化にも接しました。夢天文台アストロドリームでは、数々の天体望遠鏡を見学し、実際に天体望遠鏡をのぞいて太陽の観察を行い、宇宙の不思議さを感じました。残念ながら黒点を観察することはできませんでした。芸北民俗芸能保存伝承館では、松井学芸員さんより北広島町の民俗芸能である花田植えや虫送り、神楽といった稲作を中心とした昔の祭りについて説明を聞きました。その後民具マスター調査カードを使って昔の道具を見学し、実際に見たり触ったりすることで昔の生活や文化について知ることが出来ました。古保利薬師では、大下さんより古墳群について説明を聞いた後、いくつかの古墳を見学しました。また、収蔵庫の中では、本尊の薬師如来坐像をはじめ平安時代に作られた12体の仏像が国の重要文化財の指定を受けていることについて説明を聞きました。たくさんの仏像をじっくりと見て、ユーモラスな表情やポーズも観察しました。

昨年につき2年目のツアーなので、お互いの学校の友達の色や名前を知っており、バスの中でも話をしたりゲームをしたりして、一日中にぎやかに交流しました。

【テングシデ群落の見学（大朝）】



どうしてこんなに枝が曲がっちゃったんだろう。ひいおじいちゃんのような古い木から、赤ちゃんの木や種まであって、まるでテングシデの大家族だね。
曲がりくねった枝のハートのマーク、発見！

【夢天文台アストロドリームの見学（豊平）】

いろんな形の天体望遠鏡があるんだね。どれも大きい！そして、それぞれにお家があるんだね。

天体望遠鏡で見ると、太陽ってオレンジ色なんだね。



【芸北民俗芸能保存伝承館の見学（千代田）】



北広島町に伝わっている「新庄のはやし田」や「南条踊り」「本地の花笠踊り」など、地域は違っていてもつながっているんだな。

神楽で使う大太鼓や昔の道具を見たよ。使い方を調べたり手に取って動かしたりして、勉強になった。大切に残していきたい。



【古保利古墳群の見学（千代田）】



北広島町の古保利地区に、50 以上も古墳があるなんて知らなかったな。昔は、今と違って土葬にしていたんだね。古墳は、山の中にあった。高いところに造るのは大変だっただろうな。

【古保利薬師の見学（千代田）】



重要文化財の指定を受けている仏像が 12 体もあるなんてすごいな。北広島町のお宝だ。

仏像の顔を描いたよ。優しい顔をしているなど思った。

1 本の木からできていることや、仏像の顔がそれぞれ違っていることが分かって嬉しい。

【八重小・壬生小・川迫小グループ】

午前は、壬生小・川迫小グループで、「オオアサ電子株式会社」と「戦国の庭歴史館」に行きました。オオアサ電子株式会社では、世界に誇れるスピーカーや電子機器の製造販売をしておられると聞き、小さな町北広島町が世界につながっていることに、夢と希望を持ち誇りに思いました。360度全ての方向の音が出るスピーカーは迫力満点でした。

戦国の庭歴史館では、400年前の世界にタイムスリップし、当時の着物や甲冑を身につけたりお皿に触ったりすることができました。今まで、教科書や本でしか知らなかった戦国武将が北広島町にもいたということの感激と、復元された家を見て当時の生活の暮らしぶりが実感できたことが大きな収穫です。

午後は、八重小・壬生小・川迫小グループはどんぐり庵でそば打ちの体験学習をしました。この体験では、豊平で有名な「そば」を実際に自分の手で打ってみることで、その地域で培われてきた文化を体験することがねらいでした。八重小・壬生小・川迫小の混合グループを編成し、学校間の交流を深めながら活動しました。そば粉と小麦粉のさらさらな感触を感じ、それに水を加えて徐々に塊になっていく様子に驚きながら夢中になってそばをうちました。講師の方が生地を伸ばすお手本を見せてくださり、楕円の生地があつという間にきれいな四角になりました。職人の技を間近で見られ、技術の高さに驚いていました。生地をたたんで切る頃には、児童同士打ち解けて、切る順番を決める声かけをしたり、互いに譲り合ったりしながら楽しく活動しました。小グループで協力的して活動に取り組み、交流を深め、北広島町の文化に触れることができました。

【オオアサ電子（大朝）】



「エグレッタ」という名前のスピーカーの音を聞かせてもらったよ。音が前だけでなく、360度全体に出ているよ。「音がどこまで聞こえるか。」(年齢によって聞こえる音が少なくなります)という体験もしたよ。夢を持って頑張っている会社が、地元にあることを知ったよ。

スマホや車の中などでも見つけることができる液しようパネルのことも教えてもらい、実際に液しようパネルをさわらせてもらったよ。なぜ、パネルに字や絵が出るのか不思議だったよ。



【戦国の庭歴史館（豊平）】

吉川元春の館の様子が模型になっていたよ。昔の家は部分ごとに分かれていて、廊下でつながっているよ。門から入るとすぐ玄関があり、奥にはお風呂や便所があったよ。



教育委員会の人からお話を聞いたよ。吉川元春がどんな人だったか、昔の人の暮らしはどんな様子だったかくわしくわかったよ。

大きな石で作った石垣が残っているよ。どうやって石を運んだり石垣を組んだりするのか知りたいと思ったよ。



【そば打ち体験（豊平）】



そば粉と小麦粉をまぜて塊を作ったよ。手を「クマの手」にして、外側に向けてかき混ぜるんだ。水を加えて混ぜていくと、だんだん固まってきたよ。

塊になったそば粉を伸ばしていくよ。手のひらを使って、生地を回しながら広げていくんだね。のし棒を使って、もっと薄く、広くのばしていくよ。



薄くのばしたら、いよいよ切っていくよ。切る前に生地をたたんで、重ね合わせたよ。「キツネの手」で生地をおさえ切った。そば打ちの先生はリズムよく切っていたけれど、速く切るのは難しいな。

【本地小・八重東小グループ】

本地小・八重東小グループは、「芸北 高原の自然館」と「夢天文台アストロドリーム」を訪れ、体験学習をしました。このツアーでは、北広島町の植物や動物を観察し、地域の自然のすばらしさを知ることや、県内最大級の望遠鏡を備えた天文台が町内にあることを知り、宇宙の神秘に触れることがねらいでした。

【芸北 高原の自然館】

午前は、北広島町八幡にある「芸北 高原の自然館」の見学をしました。自然館の白川主任学芸員と3名の芸北トレッキングガイドの方が、高原の自然館や周辺の山道を案内してくださいました。

自然館では、町内に生息する動植物の生態について、展示を見ながら学ぶことができました。児童は特に、ツキノワグマの剥製の迫力に驚き、興味深く見入っていました。

山道の散策では、季節の草花をたくさん観察することができました。ガイドの方が、一つ一つの植物の名前やその由来、葉や花、実の特徴、人々との関わりなどについて、くわしく教えてくださいました。実際に葉をこすって匂いをかいだり、実の味を確かめたりするなど、体験的な活動もさせてもらいました。また、イノシシが掘り起こした跡やモグラの穴などもあり、動物の生態についても学ぶことができました。

「おーいの丘」とよばれる丘に登り、臥竜山をはじめとする芸北の雄大な山々を眺めました。青空のもと、山に向かって大声で叫んでは、こだまを楽しんだり、草原に寝転がってくつろいだりして、豊かな自然を満喫することができました。

また、ここでは、八重小、本地小、八重東小の3校混合で4グループを編成して活動しました。はじめは少し緊張した様子でしたが、いっしょにトレッキングする中で、会話も弾み、交流を深めることができました。

【芸北 高原の自然館の見学（芸北）】



マツムシソウにトリカブト、
カンボク、アケビ・・・
ガイドさんの楽しいお話を
聞いて、秋に見られる草木の名
前や特徴がよく分かったよ。

おーいの丘では、班のみんな
と大声でさけびました。こだま
が返ってきて楽しかったし、気
分もすっきり。また来てみたい
な。



【夢天文台アストロドリーム（豊平）】

午後からは、北広島町今吉田にある「夢天文台アストロドリーム」の見学をしました。広島県内最大級の屈折望遠鏡や5棟のドーム等が置かれ、のどかな風景に囲まれた中で、広大な宇宙を垣間見ることのできる場所でした。宿泊施設もあり、県外からもたくさんの人が訪れている場所でもあります。9月27日当日の午後は曇天となり、思うように太陽の観測ができませんでしたが、太陽や天体、望遠鏡そして施設についての説明を受けている際に、一瞬、太陽が雲の間からその姿をのぞかせました。少しではありましたが、オレンジ色をした太陽を望遠鏡越しに見ることができ、子供達は感嘆の声を上げていました。



それぞれの棟にある天体望遠鏡についてくわしい説明をしてもらったよ。

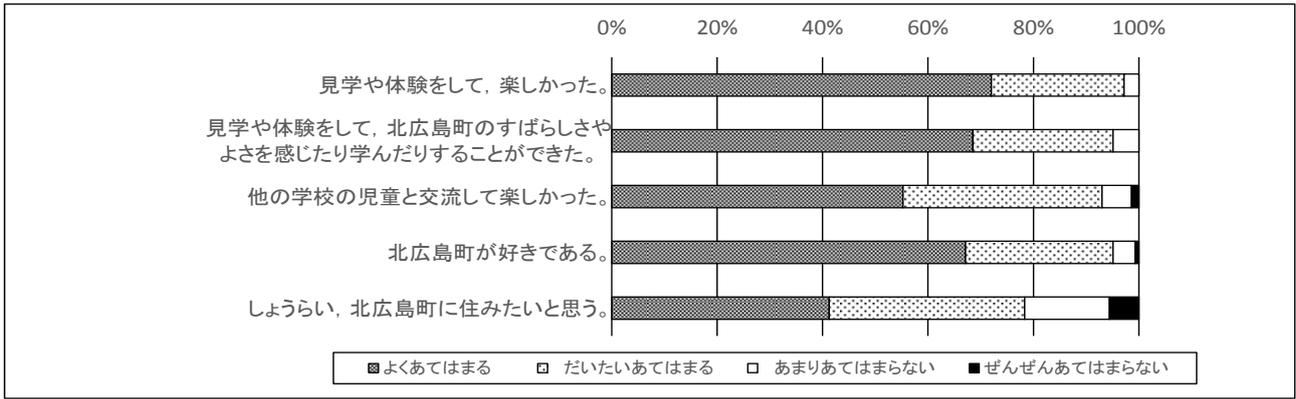


雲の間から一瞬オレンジ色の太陽を見ることができたよ。



屈折望遠鏡や反射望遠鏡について実際に見させていただいたり、説明をしていただいたりしました。太陽をはじめ天体に関する話をたくさん聞くことができました。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果



今日一日で、特に心に残っていることは、どんなことですか。

芸北小学校	大朝小学校
<ul style="list-style-type: none"> ①ジップラインが体験でき、楽しかったこと（自然が心に残った）(8) ②三島食品でふりかけを見たことやいろいろな解説があり楽しかったこと(7) ③豊平小の人と話ができたこと(4) ④交流会でいろいろな学校のことが分かったこと(4) ⑤三島食品でいろいろな機械を見ることができて社会科の勉強になったこと(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ①テングシデ群落のところで、テングシデにまつわる昔話を読んでもらったこと(4) ②芸北民俗芸能保存伝承館で、民具マスター調査カード調べをしたときに昔の道具に触ったり使ったりしながら、友達と一緒に話したり書いたり探したりしたこと(2) ③テングシデ群落で、落ちていた種を探したことや枝の中からハート形を見つけたこと(2) ④夢天文台アストロドリームにいろいろな天体望遠鏡があったこと ⑤天体望遠鏡で見た太陽の色が赤ではなくオレンジだったこと ⑥交流会のとき、去年友達になった人に会えたこと ⑦ゲームをする時間がなくて残念だったこと
新庄小学校	川迫小学校
<ul style="list-style-type: none"> ①交流会での学校紹介で発表をしたりいろいろな学校のことが分かったりしたこと(4) ②バスの中で、大朝小学校の友達と話したこと(2) ③夢天文台アストロドリームで、望遠鏡で太陽を見たことや黒点が見えなくて残念だったこと(2) ④芸北民俗芸能保存伝承館を見学したり、民具マスターの活動をしたりしたこと(2) ⑤古保利薬師で仏像を見たり顔をかいたりしたこと ⑥古墳を見ることができたこと ⑦時間がなくてお弁当をゆっくり食べられなかったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ①オオアサ電子株式会社のスピーカーは、前だけでなく全方向に音が出ているのですごいと思ったこと(3) ②戦国の庭歴史館で昔の着物を実際に着ることができたことや、吉川氏の館のあとを実際に見ることができたこと(3) ③友達がたくさんできてよかったこと(2) ④初めてのそば打ちはきん張したけれど、できてうれしかったこと
八重小学校	壬生小学校
<ul style="list-style-type: none"> ①芸北高原の自然館で、動物や植物を見ている色々な種類があることが分かり、北広島町には自然がいっぱいあることがわかったこと(20) ②そば打ち体験を初めてして楽しかったこと(10) ③他の学校の人と交流でき、友達ができたこと(9) ④草花で遊んだり草原を走り回ったり、やまびこが返ってきたりして楽しかったこと(5) ⑤学校紹介で大きな声を出せたこと(4) ⑥そばをいつも打っている人の大変さを知ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ①どんぐり庵でそば打ちをして、おいしいそばができてうれしかったこと(17) ②オオアサ電子のスピーカーの音が聞いたこと(ハイレゾの音・360度の方向への音・きれいな音・超音波の研究)(12) ③戦国の庭歴史館で、吉川元春が使っていたものや昔のものがあつたから楽しかったこと(8) ④それぞれの学校が自分の学校をアピールする発表が面白かったことやいろいろな学校のことを知ることができたこと(4)

<p>と(3)</p> <p>⑦全体会で、他の学校のがんばっていることを知ることができてうれしかったこと(2)</p> <p>⑧協力してそば打ちができたこと(2)</p> <p>⑨指導者の方が優しく教えてくださり、「上手だね」と言ってくださりうれしかったこと(2)</p> <p>⑩家にある植物を調べたいと思ったこと</p> <p>⑪草原の奥にある道を行ってみたいと思ったこと</p> <p>⑫豊平に、こんなにおいしいそばがあると分かったこと</p> <p>⑬2年続けてお宝発見ツアーができたこと</p>	<p>⑤オオアサ電子でいろいろなことが学べたこと(4)</p> <p>⑥交流会の発表で、緊張したけれどがんばってできたこと(3)</p> <p>⑦川迫小学校の人と一緒にできたことやご飯を食べたこと(3)</p> <p>⑧武将の服を試着したこと(2)</p> <p>⑨打ったそばを家族で食べたら「おいしい」と言われ、うれしかったこと(2)</p> <p>⑩班の人と協力しておいしいそばが作れたこと(2)</p> <p>⑪水の量などのそば打ちの大変さが分かったこと(2)</p> <p>⑫たくさんの友達が出来たこと(2)</p> <p>⑬エグレッタが日本に広まっていることを知りびっくりしたこと(1)</p> <p>⑭北広島町がもっと好きになれたこと</p> <p>⑮みんなで協力して石垣のパズルができたこと</p>
八重東小学校	本地小学校
<p>①芸北高原の自然館の山で、いろいろな植物を観察して、初めて知ることがたくさんあってよかったこと(19)</p> <p>②夢天文台アストロドリームの望遠鏡で、太陽の色を見ることができてうれしかったこと(9)</p> <p>③他の学校の友達と話ができてうれしかったこと(8)</p> <p>④展示物を見て、動物や昆虫の生態を知ることができてよかったこと(8)</p> <p>⑤みんなで大声で叫んだり坂を転がったりして楽しかったこと(2)</p> <p>⑥風が気持ちよくて、景色がとてもきれいだったこと</p> <p>⑦トレッキングガイドの方が親切に教えてくれたことがうれしかったこと</p> <p>③ 学校紹介のときに、とても緊張したこと</p> <p>⑨他の学校の紹介を聞いて、他の学校のことを知ることができてよかったこと</p>	<p>①他の学校の児童と交流できてよかったこと(4)</p> <p>②芸北高原の自然館で、いろいろな植物を見ることができてよかったこと(3)</p> <p>③夢天文台アストロドリームで、太陽を見ることができてよかったことと星などについて知ることができてよかったこと(2)</p> <p>④北広島町のすばらしさが分かったり好きなどころが見つかったりしたこと(2)</p> <p>⑤こぶしの実が伸びておもしろかったこと(1)</p> <p>⑥やまびこに驚いたこと</p> <p>⑦友達もできてうれしかったこと</p> <p>⑧学校紹介のとき緊張したこと</p>
豊平小学校	
<p>①ジップラインが楽しかったこと(きれいな自然を見ることができた・ふだんできない体験ができた・風が気持ちよかった・空を自由に飛べた気がした)(18)</p> <p>②芸北小の人とたくさん話ができてよかったことや去年と今年も会えてうれしかったこと(12)</p> <p>③三島食品他で、ふりかけの歴史やふりかけのことがよく分かったこと(6)</p> <p>④ゆかりを作る作業を見ることができ、ゆかりのことがよく分かったこと(5)</p>	<p>⑤みんなで食べたお弁当がおいしかったこと(2)</p> <p>⑥学校紹介で他の学校のことを知ることができてよかったこと(2)</p>

プロジェクトを終えての「児童作文」

ゆめプロジェクト

芸北小学校 東條 和乃

今日、ゆめプロジェクトでは、ジップライン・交流会・三島食品の見学をしました。

ジップラインでは、私たちのAチームは五コースしました。一コース目はドキドキラインでした。出るのがちょっとこわかったけど、Aグループに入ったから、「すぐ出なきゃ。」と思って、三・二・一のかけ声に合わせてがんばっていきました。二コース目のイエティラインは、手をはなしてすべるコースでした。私は手をちょっとしかはなせなかったの、また行った時にははなしてみたいです。三コース目のダントツスリルラインは、すべりながら回ることをしました。一回転しかできなかつたんだけど、けしきが見れてよかったです。次は、二回転してけしきを見たいです。四コース目のビートルラインは、スタートと着地する高さが同じくらいだったので、スピードを出すために体を小さくしました。むずかしかつたけどやってみたら楽しかったです。五コース目はイーグルラインというコースで、これまでやったものの中から選んですべりました。五コース目のまち時間に平さんと平野さんと榎木さんとお話をして友達になりました。

ジップラインを終えて、豊平運動公園に行きました。お弁当を食べていると、大朝小の友達に会いました。次に学校紹介をしました。芸小は二番目の発表だったので、もう私たちの番だと思いました。きんちょうしたけどヤルッシー（挑戦科のキャラクター）を上を上げてセリフを言えました。

次に、三島食品に行きました。部屋に入ったしゅん間に、においが「バツ」ときました。見ると手作業でしていたので、「くろうされているんだな。」と思いました。ゆかりがきらいな私もがんばって食べようと思いました。

今回の町内ゆめプロジェクトをとおして学んだことは、ふだん気にしないで使っている身近なものは、いろんな人が時間をかけてがんばってつくっている物だから、大切にしていったりしなきゃいけないということです。だから、ふだん使っているえんぴつやランドセルなども、感しゃの気持ちをこめて使おうと思います。

「お宝発見・体験ツアー」に行つて

芸北小学校 山脇 歩子

今日、お宝発見・体験ツアーに行きました。芸北小は豊平小学校の人といっしょに行動をしました。

まず、ユートピアサイオトでジップラインをしました。私はA班で、芸北小は上田君、岡本君、東條さん、私の四人と、豊平小の六人でした。コースの短い所で練習してから、本番のコースへ向かいました。

最初のコースは、「ドキドキライン」です。私は、三年ぶりにサイオトのジップラインをしたので、ちょっとこわかったです。でも、着地がとても上手に出来たので、「これなら行ける。」と思い、次のコースが楽しみになりました。しかし、次のコースは高さがとてもあつて、すべり出して下を見るととてもこわかったです。手をはなしたら、後ろに体重がか

かってこわかったしあせりました。次のコースは回転をするコースで、やる前は、あんなことできるのかなと思ったけれど、やってみると思ったより回ることができて、しかも、自分の予定の一回転以上回れることができて、とてもうれしかったです。次のコースは、最後が少し登りになっていたのでも、ちゃんと行けるか不安でした。このコースは、体を小さくしてスピードを出すコースでした。ここで、豊平小の人と友達になれて、たくさん話ができ楽しかったです。このコースもとても楽しかったです。

最後のコースは、今日やったすべり方のどれかをやってすべることでした。私は四番目にすべったスピードを出すのをしました。たくさんスピードが出て楽しかったし、とても気持ちよかったです。最後のコースも無事に成功し、安心しました。

昼に、豊平運動公園で町内の四年生が集まって交流会がありました。学校紹介で自分が言うセリフがちゃんとと言えるか不安でした。発表の時に、言葉を思い出して言えて安心しました。私達の芸北小と豊平小は、着くのがおそかったのでも、お弁当の時間が少なくてゲームが出来なくて残念でした。

あっという間に昼休けいが終わり、午後の見学が始まりました。午後は三島食品の工場とふりかけの資料館に行きました。心に残ったことは、赤しその分別です。機械で流れてきた赤しそのかたい所を手作業で取りのぞきます。大変そうに見えました。その部屋は、とてもいいにおいがしました。もう一つあって、昔はふりかけを売するのに大きいカンに入れて売っていたことです。持ち運びが重くて大変そうに思えました。資料館には、いろいろな会社のふりかけや、昔の持ち物などがあってすごかったです。友達もたくさん出来て、まだ見学をしていたかったです。

今日は、ユートピアサイオトでジップラインを体験して、初めて行ったコースもあったので楽しかったです。豊平運動公園の交流会では、前に友達になった人に、私達が来た時やご飯を食べている時に会えて、たくさん話ができうれしかったです。三島食品では、赤しそについてくわしく知ることができて勉強になりました。

とても楽しい一日でした。

町内めぐりをして

芸北小学校 佐々見 愛結

今日、町内の九校の学校と、「北広島ふるさと夢プロジェクト」～「北広島・お宝発見・体験ツアー」～をしました。芸北小学校は、豊平小学校のみんなと町内めぐりをしました。行く場所はユートピアサイオトと豊平運動公園と三島食品でした。

最初に、ユートピアサイオトに行って、ジップラインをしました。わたしたちは、先生の車で行きました。豊平小学校のみんなを見た時は、きんちょうしてしまっただけでも、ヤルッシーでがんばりました。わたしはBチームで谷本さんについてもらってやりました。わたしは、芸北小のわくわくランドでジップラインをやっているけど、やり方がいっしょか気になったけど、楽しみでわくわくしながら、ハーネスをつけたり谷本さんの話を聞きました。準備が終わってやり方をかくにんするために、四メートルくらいの短い練習場で教えてもらい実際にすべってみました。やり方のせつ明などが終わって、一コース目のドキドキラインに行っていると、Aチームの人がやっていました。見ていると、わくわくラン

ドとは全くちがって、だんだんときんちょうしてきました。私は二番にやることになりました。一番のおざきさくらさんが終わって私の番になると、とてもこわくなってきました。でも、ヤルッシーになって、三・二・一・ゴー！で足をふみ出しました。心ぞうがドクドクしたけど気持ちよかったし楽しかったです。

次のコースでは、「二コース目は手をはなしてください。」と言われたので、もっとこわくなりました。そして、また私の番になるときんちょうしてきました。少しだったけど手をはなすことができうれしかったです。

三コース目は、回転しながらすべりました。ドキドキがとまらなかったけど楽しかったです。だんだんとジップラインになれてきました。

全部で五コースしました。とても楽しかったので、またやりに行きたいです。

バスに乗っている時に、豊平小のみんなと「ジップライン楽しかったね。」と話ができました。

どんぐり村に行って昼ごはんを食べました。時間が短かったので全部食べれなかったけど、みんなで食べたのでおいしかったです。交流もできて楽しかったです。

最後に、三島食品に行きました。ゆかりのふりかけなどを作っておられて、赤じそをさいばいされていました。見学を始めてさいしょの場所では、赤じそのしんやついているゴミを取りのぞく作業をしておられました。四人で大変な作業をされていてびっくりしました。残り時間でしつ問することができたので、よかったです。

今日、交流や見学をして、多くのことを知ることができたのでよかったです。またこんな活動をやりたいです。

初めて知ったことがいっぱい

大朝小学校 石浦 椋花

お宝発見体験ツアーで、豊平の夢天文台アストロドリームというところに行きました。少し前でバスを降りて坂道を歩いていきました。最後の階段を上がると平らな所に出て、天体望遠鏡がいっぱいならんでいました。それぞれの望遠鏡に、それぞれの建物がありました。最初に右側の望遠鏡を見ました。のぞいてみると自分の目と眼鏡が見えたので不思議でした。最後に一番大きなドームの中に入っている天体望遠鏡をのぞいてみました。そのドームと中の天体望遠鏡は、星と同じ速さで星と同じ方向に動くそうです。星の観察をする時には、長い時間星を見るそうです。もし、望遠鏡が動かないと、星は動いて見えなくなってしまうので、星と同じ速さで動くようになっているそうです。望遠鏡をのぞくと太陽が見えました。見えた太陽の色にびっくりしました。太陽といえば色は「赤」というイメージがあったのですが、見えた太陽は「オレンジ色」をしていました。黒点は見えなかったので残念でした。

お昼に全体会をしました。時間がなかったので急いでお弁当を食べました。トイレに行っている時、どこからかわたしをよぶ声が聞こえたのでふりむくと、夏休みに出会った友達でした。学校しょうかいでは、豊平小学校が最初に発表しました。豊平はそばが有名なので、そばをクイズにしてしょうかいしていました。4番目に大朝小学校の発表をしました。大朝小学校はラジオ体操をしました。とってもはずかしかったです。どこの学校とく

らべても一番目立っていたと思います。でも、練習の時とはぜんぜんちがって声も小さかったので、後ろまで声のとどいたか心配でした。川迫小学校は、5人なのに大きな声ではっきりと言っていたので、すごいと思いました。ゲームをする時間がなかったので残念でした。

午後の最後に、古保利薬師に行きました。初めに大下さんから「古ふん」という昔のお墓について話を聞きました。その後、山の中に入って古墳を見ました。通った道のとちゅう、あちこちに古墳があつてびっくりしました。昔の人はこうやって有名な人のお墓を作ったんだなあと思ました。次に建物の中に入って、仏像を見ました。大下さんの話を聞いてみると約1300年前の仏像があるそうです。そんなに古いものがあるなんてびっくりしました。いろいろな仏像を近くで見て、お気に入りの仏像を見つけて絵をかきました。こわい顔や笑った顔の仏像や、いろんなポーズをとった仏像がありました。

町内のいろんなところを見学できて楽しかったです。「お宝 発見したぞー！」

新しい発見があった「お宝発見・体験ツアー」

大朝小学校 白砂 望亜

まず初めに、「テングシデ群落」に行きました。初めて知ったことがいっぱいありました。1つ目は、国の指定天然記念物だということです。国や県の大切なものだとは知っていたけれど、くわしくは知らなかったのでびっくりしました。2つ目は、「イヌシデ」の一種で突然にこんな風に曲がった枝の木ができたということです。それが次々と増えて100本もあるというのが、特にめずらしいそうです。3つ目は、花が咲くということです。色はあざやかではないと聞きましたが、テングシデにも花が咲いて種ができることにびっくりしました。4つ目は、140年も立っているということです。台風や大雪にも負けずに頑張っているということです。30年くらい前に大きな台風が来て倒れた木が、また元通りになっていることにびっくりしました。割れた枝から、新しい芽が出ている木もありました。このテングシデは、昔の人たちが大切に育ててきて、こんなにたくさんの木が残っているそうです。今度はわたしたちが受けついで、次の人へ、次の人へとテングシデを守って、種が芽を出して増えるといいです。落ちていた種は持って帰って庭へうめました。

豊平どんぐり運動公園で交流会がありました。まず、急いでお弁当を食べて、その後学校しょうかいがありました。発表を見ていたら、芸北小学校にスキーのライバルがいました。その子が芸北小学校だとは知らなかったので、見つけた時にはびっくりしました。「他の学校にも知っている子がいるかな。」と試みていたけれど、いませんでした。わたしたちの出番が来ました。練習ではみんな大きな声で言っていたのに、みんなきん張っていて声が小さくなりました。ラジオ体そうでは1テンポおくれてしまったところがありました。それはそれで思い出になりました。

交流会が終わった後に、芸北民俗芸能保存伝承館に行きました。伝承館では、松井さんが説明をしてくれました。花田植えや神楽、昔の人の道具などが展示してありました。そして「民具マスター調査カード」をしました。民具シールに書いてある民具をさがして、その特ちょうや何に使う道具か調べて、イラストもかきました。わたしがさがしたのは、「すげがさ」という、ぼうしのようなかさでした。その後、伝承館の中を回って、いろん

な道具を見ました。カンテラ，せんべい焼き器，太こ，ろうそくたてなど，2階まで大きなものから小さなものまでありました。たくさんの道具があっっておもしろかったです。

前よりもっといろいろなことがわかった「お宝体験・発見ツアー」

大朝小学校 中屋原 心人

北広島町の「お宝発見・体験ツアー」がありました。

朝一番に、「テングシデ群落」に行きました。大下さんに，シデの木は百本あることや，「イヌシデ」の木がとつぜん曲がったりねじれたりしたことなどを教えてもらいました。シデの木の近くに行ったときに，種のことを話してくださいました。木についていた種は，茶色くかかれた葉のようなものについていて，2ミリくらいの大きさでした。落ちていた種は，なかなか見つけられなかったです。

豊平運動公園で全体会がありました。時間がないから，ものすごいいきおいでお弁当を食べました。食べた後，知っている人はいないかさがしました。トムソーヤで友達になった人を見つけました。いよいよ学校紹介です。ぼくら大朝小学校は4番目です。トップバッターは豊平小学校，芸北小学校，新庄小学校と発表を見ながら，「だんだん近づいてきた。」と思っていました。ぼくら大朝小学校は，ラジオ体そうをしました。ぼくは真ん中に立ってやりました。みんなきんちょうしていて，1，2，3，4の号令が小さかったです。

午後から，芸北民俗芸能保存伝承館に行きました。ぼくは，小さいころ見に行ったことがあって，お母さんにいろいろ教えてもらいました。今年，お宝発見・体験ツアーでもう一度行くと，もっともっといろいろなことがわかりました。壬生の花田植えや本地の花がさおどり，僕の大好きな神楽の三つのコーナーがあって，松井さんに説明してもらいました。花田植えでは，牛が8か月になると鼻にあなをあけると聞いて，とても痛そうでした。「あっせー。」と言うと左，「ばー。」と言ったら止まるので，すごいと思いました。神楽の新舞と旧舞とのちがいが説明してありました。テレビで説明していたのでじっと見てしまいました。神楽の昔の衣しょうがたくさんあったので，すごく貴重なものだと思います。おにのお面が，今と昔とではちがっていて，昔のお面は「すごくあついな。」と思いました。昔の道具を見て，「これは何に使うんだろう。」と想像していたら，側に説明が書いてあったので，うなずきながら見て回りました。この道具が，どうやって今のような道具になったのか不思議に思いました。子どもはただなので，また見に行きたいです。

分かり合えた夢プロジェクト

新庄小学校 有田 權人

9月27日に，大朝小学校の4年生と新庄小学校の4年生で，「夢プロジェクトお宝発見・体験ツアー」に同じバスに乗って行きました。ぼくは，天文台に行くのが初めてだったので，特に楽しみにしていました。

まず，テングシデを見に行きました。生がい学習かの大下さんにテングシデの木のひみつを教えてもらいました。見学時間にみんなが集まっているので「どうしたのかな。」と思い，その場所へ行ってみました。すると，わき水がありました。みんなが飲んでいるので，

「そんなにおいしいのかな。」と思いながら飲んでみると、ぼくも「うまいね。」と言っていました。ただの水なのに「おいしい。」と思ったのは初めてでした。それから、木を近くで見ることになりました。すると、小さい子どもの木がありました。大きい木も小さい木もあって、家族みたいになっていました。生まれたばかりの小さい木からも、枝が横にのびていました。大きい木の枝には種がありました。みんな、「すごい。」と言っていました。ぼくもそう思いました。ぼくは、このめずらしい木がいつまでも生き続けてほしいなと思いました。

次に夢天文台アストロドリームに行きました。細い道なので、バスが通れない所がありました。そこは、歩いて行きました。しばらく歩いたので、着いた時はとても暑かったです。ぼくは、天文台に行くことをとても楽しみにしていました。ぼう遠鏡は、小さいサイズの物しか見たことがなかったからです。案内されて見てみると、いきなりジャンボサイズのぼう遠鏡が出てきました。でも、「これはまだ、小さい方なんよ。」と説明してもらって、とてもびっくりしました。その後も、とてつもなく大きなぼう遠鏡がたくさん出てきました。ぼう遠鏡には、反しゃぼう遠鏡やくっせつぼう遠鏡など、仕組みによっていろいろな種類があることがわかりました。ぼくは、大きなぼう遠鏡を見ることができて、本当にうれしい気持ちになりました。最後に太陽の黒点を見るはずだったけれど、雲がかかっていることができなかったので残念でした。でも、太陽は見えませんでした。太陽は、オレンジ色でした。

今回、ぼくが発見したお宝は、ぼう遠鏡です。太陽を大きく見ることが出来るぼう遠鏡は、めったにないと思います。北広島町にこんなお宝があるんだとおどろきました。それから、もう一つは友達です。友達といっしょにしていると、「わあ。」とか、「きゃあ。」とか言うてうるさくなります。うるさい時は、もり上がっていて前よりもずっと仲良くなっているという事だと思います。ぼくは、いっしょにもり上がれる友達はお宝だと思います。ちょっと話ただけでも笑い声が聞こえて分かり合えた気持ちになってくるので、ぼくは、友達がお宝だと思いました。

4年生の夢プロジェクトは最高でした。

最高の思い出

新庄小学校 森田 野子

9月17日に、北広島町夢プロジェクトの「お宝発見・体験ツアー」に行きました。私は、きょ年の夢プロジェクトに行けなかったもので、初めは「新しい友達と仲良くできるかな。」と、他の学校の人と仲良く一日がすごせるか気になって、とてもきんちょうしていました。

私が一番心に残っているのは、芸北民俗芸能保存伝承館です。私は、はやし田や花がさおどり、神楽などの歴史は知らなかったし、大朝の人々の昔のくらしもよく知りませんでした。でも、芸北民俗芸能保存伝承館の方にお話を聞いたり、昔の道具を調べる体験やクイズをしてもらったりしたので、昔の人のくろうや工夫がとてもよくわかりました。昔は電気が無いから人の力で全部しないといけないから大変だと思いました。それで、今のくらしは、とても楽だという事がわかりました。

ました。朝の練習では言いまちがえたけれど、上手く言えたのでよかったです。みんなで「伝統と文化を受けついで、がんばっています。」と言って、発表が終わりました。並んでいた場所にもどって発表タイムを聞くと、目標タイムと同じ3分ちょうどでした。とてもうれしかったです。

3番目に楽しかった場所は、古保利薬しです。最初に古ふんを見に行きました。山道を歩いて行くので、とても大変でした。と中でぼくは、「きつい。」「ああ。やばい。つかれた。」と言いました。まだかな、まだかなと思いながら山を歩きました。そしてやっと、古ふんがある場所に着きました。古ふんがある所は、ぼくが立っている場所とちがって、山のようになっていました。高いところだから、古ふんを作るのは、とても大変そうだなと思いました。もう一つの古ふんは、初め見たのよりもとても大きくて広がったです。これも、作るのは大変そうだなと思いました。来た道を帰る時、5回もすべったのでこわかったです。今は人をおはかに入れる時は火そうですが、昔は土そうといってかめに人を入れてそれを土にうめていました。それが古ふんです。古ふんのことを知ることができて、よかったです。

ぼくは今年の8月に、2年生の1学期までいた新庄小学校に転校してきました。初めて夢プロジェクトに行って、北広島町にはお宝がたくさんあって、その場所ごとにちがうお宝があるんだなと思いました。前にいた大阪ではこんなツアーは無かったけど、北広島町ではこんないい経験ができるから、帰ってきてよかったなと改めて思いました。もっといろんな所に行ってみたいです。

夢プロジェクト お宝発見

川迫小学校 崎原 彩心

北広島お宝発見・探検ツアーに行きました。わたしたちは壬生小学校の人と一緒に見学をしました。

最初に、オオアサ電子株式会社に行きました。オオアサ電子の「オオアサ」は、大朝町のオオアサからとったそうです。オオアサ電子株式会社では、スピーカーやスマホカバーなどを作っているそうです。だけど、作っているところは見ることができなくて残念でした。でも、迫力のあるスピーカーの音を聞くことができてよかったです。わたしは、エグレッタというスピーカーは世界でもここだけで作られているスピーカーだと聞いてびっくりしました。見学の最後に、長田さんからのお話がありました。

「大朝にもがんばっている会社があることを覚えておいてください。みなさんも夢を持ってがんばってください。」

と言われました。わたしも夢を持ってがんばろうと思いました。

次に、戦国の庭歴史館に行きました。最初にビデオを見ました。戦国時代のくらしや出来事が分かったのでよかったです。資料館の中には400年ぐらい前の着物やお皿のかけらなどが残っていたのですごいと思いました。わたしは、昔の着物を着ることができました。なんだか、むかしの結こん式の時お嫁さんが着る着物みたいでした。その後、やしきの跡地に行きました。台所は昔のように作ってあったので、びっくりしました。そして、石がきもきちんとした形で残っていたので、おどろきました。昔の人はどうやって大きな

石を積んで石がきをつくったのかなと思いました。すごく歴史の勉強になったのでよかったです。

そして、お昼には、豊平どんぐり運動公園に行きました。お弁当を食べた後、学校紹介をしました。いろいろな学校の自まんやがんばっていることを聞いたのでよかったです。私は、豊平小学校のしょうかいがそばのことをクイズにしておもしろいなと思いました。大朝小学校では、ラジオ体操をがんばっていることも知ることができました。

午後からは、そば打ち体験をしました。最初に、そばうち名人の人に聞きながらそば打ちをしました。わたしは、「水まわし」というそばのおいしさが決まるところをやらせてもらいました。とてもきん張っていたので、うでがいたくなりました。切るときも、そばが太くなったり細くなったりしてむずかしいなと思いました。最初は上手できなかったけれど、名人の人に教えてもらいながら、最後にはおいしそうなそばができたのでうれしかったです。お家に帰って、家族と一緒に食べました。とてもおいしかったです。

北広島町の会社や歴史、特産物などいろいろな北広島町のお宝を見つけることができた一日になりました。

心に残った お宝発見・体験ツアー

川迫小学校 水川 乃音

9月27日、北広島ふるさと夢プロジェクト事業「北広島 お宝発見・体験ツアー」に行きました。私たちは、壬生小の人と一緒に見学をしました。

最初は、オオアサ電子株式会社の見学に行きました。長田さんと村上さんがいろいろなことを分かりやすく説明してくださいました。例えば、オオアサ電子株式会社の工場などが、広島・島根・東京にあることを知りました。スマホや車の中などでも見つけることができる液しょうパネルのことも教えてもらいました。主に、車の中の液しょうパネルを作っておられるそうです。実際に液しょうパネルをさわらせてもらいました。長方形のガラスの板で、はしっこにはり金のようなものがついていました。どうして、このパネルに字や数字が写るのか不思議でした。それから、世界でも有名なスピーカーの音を聞きました。ふつうのスピーカーは音が前に出ているけれど、エグレッタというスピーカーの音は360度全体に出ているそうです。すごくきれいな音でした。最後に長田さんから

「私たちもがんばっているんで、みなさんも夢をもってチャレンジしてください。」というお話がありました。また、行きたいなと思いました。

次に、戦国の庭歴史館に行きました。中に入ってみると、昔の物がたくさんならべてありした。今から400年も前のものだと聞いてびっくりしました。ザラザラした食器は日本で作られたもの、ツルツルした食器は中国からきたものということも分かりました。お話を聞きDVDを見終わったら、昔の着物を着ました。その着物は、重く感じました。なんだか、400年前にいったような気持ちになりました。見学の途中で、壬生小学校の人と話をすることができました。友達ができてうれしかったです。

お昼には、豊平どんぐり運動公園にいったお弁当を食べました。壬生小学校の友達と一緒に食べました。その後、全体会がありました。ほかの小学校の人は人数も多く、声も出ていたので、私は発表の前にはきん張っていました。でも最初に、炭村さんが「気をつけ、

れい。」と大きな声で言ったので、私も負けられず大きな声で学校紹介を言いました。他の小学校の人もクイズを出したり体操をしたりしていて「すごいな。」と思いました。全体会が終わった後、みんなで一緒にゲームをする予定でしたが、時間がなかったのでゲームをすることができませんでした。残念でした。

午後からは、そば打ち体験をしました。そば打ち体験では、班ごとに分かれました。わたしの班は、知らない人たちばかりでした。でも、そばを打つ時は協力してできました。むずかしかったのは最初の丸めるところです。粉に水をやりながら丸くしようとしましたが、なかなか丸くならなくて大変でした。でも、そば打ち名人の方に教えてもらいやっとできました。そのほか、めんぼうで生地をのぼすときも、なかなかうすくならなくてむずかしなあとと思いました。やっと、そばができたときはうれしかったです。家に帰って、そば打ちの仕方を説明しました。今度は、家族でそば打ちをしたいと思いました。

今回の体験ツアーに行っているいろいろなものを見て、さわり、体験することができました。町内の会社のこと、歴史のこと、特産品のそばのことを知ることができました。これらは北広島のお宝だと思います。心に残る体験ツアーになりました。

みんなの知らない北広島の宝

八重小学校 宮本 陽奈子

今日、お宝発見・体験ツアーへ行きました。

まず、芸北高原の自然館へ行きました。4つのはんに分かれていろいろな植物を見ました。わたしたち2はんは、「トリカブト」という名前でした。

山の中に入って初めに、「マツムシソウ」という植物を見つけました。マツムシソウは、マツムシが鳴くころに咲くからこの名前がついたそうです。次に、はんの名前でもあるトリカブトを見つけました。きれいな花でしたが、実は、くき・花・根っこなどすべてにどくがあるそうです。特に根っこにはもうどくがあるそうです。でも、どくをぬいて薬にすることもあったそうです。

いろいろ発見をしながら山に登り、ちょう上に着いたときにみんなで「やっほー」とさげびました。お茶を飲んだり、草の上に転がったりして休けいしました。山を下るときに、「ナツグミ」という植物がありました。食べてみたらとてもすっぱくて食べられませんでした。だいぶ下のほうに下ると「ツタウルシ」という植物がありました。これは、雨宿りをしているときに、ツタウルシに当たった雨が当たると、そこがかぶれるぐらいきけんな植物だそうです。

自然館の中も見て、案内してくださった人にお礼を言い、次の豊平どんぐり運動公園へ行きました。

着いたら建物の中に入りお弁当を食べました。その後交流会で、学校しょうかいをしました。自分のせりふを練習したときより大きな声で言えました。その後ゲームをする予定でしたが、時間がなくなりできなかったのでざんねんでした。

最後に「どんぐりあん」でそば打ち体験をしました。わたしは、地いきの子ども会で7月に一度だけ体験をしたことがあって、今回で2回目です。でも、こねたりのぼしたりするのがむずかしくて大変でした。しかし、子ども会るときよりは少し上手くなったような

気がしました。特に、こねる・のぼす、そして切るの3つがよくできたと思います。もし、次に行けるときがあれば、もっと上手に作れるようになりたいと思います。

今日一日、北広島のお宝をたくさん発見できたと思います。特に自然館では、わたしは花や葉っぱなど植物のことにあまりくわしくないのに、案内をしてくれた人が分かりやすく話してくださって、いろいろ学ぶことができて楽しかったです。今日学んだことを、お父さんやお母さんに教えてあげようと思います。

北広島町お宝大発見

八重小学校 増本 武士

今日「お宝発見・体験ツアー」に行きました。芸北高原の自然館に行くまでのバスで、一人ひとり自分の目標を言いました。ぼくの目標は、全体会での発表のときに「八重小の『まとまってる感』を出す」ことです。

最初に行ったのは、芸北高原の自然館です。初めに見た生き物は「カナヘビ」という生き物です。次に「カンボク」という木の実です。変な味で、鳥さえも食べません。その他に、ぼくがびっくりしたものは3つです。1つ目は、アブです。アブは空中で止まることができます。2つ目は、ツリフネソウの実です。ツリフネソウの実は、さわるとどうなると思いますか？答えは、小さくばく発します。3つ目は、モグラです。モグラの巣のを見つけ方を知りました。モグラは、巣の中でふんをせずに、巣の外でします。そのふんからきのこが生えてきます。そのきのこは1mぐらいのびます。そのきのこをたどればモグラの巣があります。芸北高原の自然館では、いつもは見られない生き物や植物にふれられてうれしかったです。

次に行った場所は、豊平どんぐり運動公園です。そこでご飯を食べました。みんなで食べる弁当は、とてもおいしかったです。全体会が始まると、いよいよ練習してきた学校しようかいです。朝のバスの中で言った目標の「まとまってる感」を出そうとがんばりました。みんな練習の成果を出して、今までの中で1番大きな声を出せていたと思います。

最後に行った場所は、どんぐりあんです。そこではそば打ち体験をしました。むずかしかったことが5つあります。1つ目は、水が全体にいくよう、こねずにまぜるところです。2つ目は、こねてかたまりにするところです。速くしないと生地になんか水分がなくなりかんそうしてしまうから、すごく急いでやりました。3つ目は、厚さを1cmぐらいにするのに、力を入れすぎず、弱めすぎずにのぼすのが大変でした。4つ目は、長いめんぼうで四角になるように転がすところです。そして最後は、切る作業です。そばの特別な切り方にびっくりしました。

そばを作るのがこんなに大変なのに、職人の人はすごく速くてていねいにやっていたので、すごいと思いました。自分で作ったそばは、とてもこしがあっておいしかったです。

言葉の出会いで「つながる」

八重小学校 立盛 友貴依

今日は、お宝発見・体験ツアーでした。最初はバスで、芸北まで行きました。

わたしは、もっと早く着くと思っていたけれど予想外で、芸北まで行くのに1時間ぐら

いかかりました。バスの中で学校しょうかいの練習をしたとき、むねがどきどきして、みんなの前で言えるかな、少しはずかしいなと心の中で思いました。

芸北高原の自然館に着いて、たくさん他の学校の子がいて、友達になれるかなと少し不安でした。でも、自然館ではバディを組み、自己しょうかいで名前を言うとき、出上くんという子と友達になりました。

自然館を見て回った感想をバディの人に言うとき、わたしはまだ少しはずかしかったけれど、思い切ってわたしから先に言いました。わたしは、言った後に「ほっ」としました。出上くんが、「分かりました。」と言ってくれたからです。交代して出上くんが感想を言った後、わたしもはく手をして「分かりました。」と言ってあげました。

次にお昼ご飯を食べて、全体会に向かいました。壬生小や豊平小は自然館にいなかったもので、会場を見るとすごい人の数でびっくりしました。全部の小学生を数えると、百五十人近くいるのですごいと思いました。

お昼ごはんとは交流会が終わって、次は、手打ちそばの体験をしました。手打ちそばはめったにやることがないので、はりきって学びました。

手打ちそばは、粉をさらさらにしてしっかりこね、ぼうでのぼします。生地を四角にして2回ぐらい折り、そこに打ち粉をたっぷりかけます。最後にそばを細く切って、粉をはたいて出来上がりです。手打ちそばは時間のせいげんがあって、急いで作らないとざらざらになってしまうから、そこもがんばりました。

家に帰って、手打ちそばを1分ゆでてよく水を切り食べると、すごくおいしかったです。どんぐりあんとは自然館、それぞれの場所でよく学べたと思いました。

わたしはあまり芸北に行ったことがありません。今日行って見て、たんけんしたり、さわったりにおったり、豊平ではそばをこねたりのぼしたりして、すごく楽しかったです。

これからも、芸北など北広島町のことを、まだまだ楽しく学びたいと思います。

「思い出に残る一日」

八重東小学校 山崎 鈴花

9月27日に、夢プロの「お宝発見・体験ツアー」に参加しました。このツアーの行き先は、「芸北高原の自然館」と「夢天文台アストロドリーム」です。全体会は、「豊平どんぐり運動公園」で行われました。

バスの中では、本地小学校の4年生といっしょでした。最初に「芸北高原の自然館」を見学しに行きました。

まずは自然館の学芸員の白川さんの話を聞きました。そのあとに、班に分かれました。1班から4班まであり、私は1班になりました。1班は、白川さんが担当になってくださいました。白川さんがつけた班の名前は「こなら班」でした。「こなら」というのは、どんぐりの実がなる木のことでした。

長そで長ズボンを着用し、準備ばつたんで行きました。歩いていると中、ふしぎな虫を見つけました。それは、空中でピタッと止まる虫でした。初めて見たので、いい思い出になりました。私は、この虫が一番印象に残っています。その後、いのししがほりおこしたあとや、もぐらが出ていたあとなどを見つけました。ひさしぶりに、たくさん自然にふれ

ることができたので、よかったです。

次は全体会がありました。昼食を食べた後にしましたが、時間がおくれていたため、学校紹介のあとに予定されていたゲームができませんでした。ざんねんでした。でも、学校紹介がうまくいったのでよかったです。

最後は、「夢天文台アストロドリーム」に行きました。私は、天文台に行ったことがないので、ワクワクしていました。

天文台には、反射望遠鏡と屈折望遠鏡がありました。すごいなと思ったことは、どちらの望遠鏡も星の動きに合わせて動かせるようになっていたことです。私は感心しました。屈折望遠鏡で、太陽を見ました。曇っていたので、見えたり見えなかったりしましたが、やっとのことで見ることができました。私は、太陽の色を、赤か黄色だと思っていました。でも、本当の色はオレンジでした。びっくりしました。太陽のことを知ることができたのでよかったです。

私は、今、住んでいる北広島町のお宝を発見したり、体験したりすることができたので、よかったです。思い出に残る一日となりました。

「いろんな動物や植物と出会えた自然館」

八重東小学校 出上 幸太

ぼくは、9月27日火曜日に、お宝発見・体験ツアーに参加しました。

最初に行った芸北高原の自然館では、まず近くの山を歩きました。ぼくたちの班を案内してくださったのは、学芸員の白川さんでした。はじめのあいさつの中で、「はかせ」とよんでくださいと言われてました。

歩いていると小さな川を見つけました。そこに、トリカブトという花がありました。むらさき色で鳥の頭のような形をしたきれいな花でした。でも、この花には、もうどくがあって、ぜったいに食べたらいけないと、はかせに教えてもらいました。次に、葉をこするとレモンのようなにおいがする、クロモジという植物を教えてもらいました。葉をこすって、その手をにやってみると、本当にレモンのいいにおいがしたので、ずっとにおっておきたいなと思いました。

その後、イノシシが土を掘った後を見つけました。イノシシは、土の上からでもえさを見つけることができるとはかせが教えてくれました。えさのにおいをおぼえているなんて、鼻が相当いいんだなと、ぼくは思いました。モグラのあなも見つけました。モグラのあなは空どうだから、えさとなるものが入ってくる時があり、それがもぐらのひげに当たると食べるのだそうです。もぐらの家はおもしろい家だなと思いました。そこから少し歩くと、アブがいました。はかせから、アブは飛んだまま空中で止まることができるなんて聞いて、ぼくは変わっているなと思いました。

その近くに赤いきれいな実がありました。カンボクという木の实です。見た目はいいけど、食べたらとても後かいするぐらい苦いと、はかせが言ったので、ぼくはぜったいに食べたくないと思いました。さらに歩いていると、はかせから、「この実をだれかさわってみて」と言われたのでさわってみると、その実がはれつしたのでびっくりしました。

丘のちょう上まで登ると、向こうに大きな山が見えました。北広島で一番高い山で、1000

m以上あると聞いたので、びっくりしました。ぼくたちは、その丘にある草原を転がったりして遊びました。

最後に、「高原の自然館」に入りました。コウモリやドジョウ、ウサギやキツネなど、いろいろな生き物の食べ物や住んでいるところなどがよく分かりました。

このように、ぼくは、このお宝発見・体験ツアーに参加して、芸北の自然館や山で、色々な植物や動物のことを知ることができて、とてもいい勉強になったのでよかったです。

「おどろきと学びがあった体験ツアー」

八重東小学校 織田 彩見

私たち4年生は、9月27日に、お宝発見・体験ツアーに参加しました。

本地小学校の友達とバスに乗って、最初に芸北高原の自然館へ行きました。そこでは、芸北トレッキングガイドの方といっしょに自然観察を行い、花や木、鳥の名前などを教えてもらいました。

私たちの班の名前は、「トリカブト」でした。歩き始めるとすぐに、このトリカブトという花を見つけました。このトリカブトは、花やくき、根っこ、葉っぱなどにどくをもっていると聞きました。見た目はきれいだけど強力な毒をもっているのです。私は見た目ではんだんしてはいけないなと思いました。

わたしがこわいと思った植物はもう一つあります。それはウルシです。ウルシの中でもこわいのがツタウルシです。雨の日にツタウルシの木の下を通るだけでかぶれてしまうと聞いたからです。ウルシにふれると2週間くらいかゆみがおさまらないと聞いて、おどろきました。

最後の方で、ガイドさんから、秋の七草のおぼえ方を教えてもらいました。それは「おすきなふくは」です。お…おみなえし、す…すすき、き…ききょう、な…なでしこ、ふ…ふじばかま、く…くず、は…はぎ、とおぼえるのだそうです。この中でも、知らない草花があったので、知ることができてよかったです。

午後からは、夢天文台アストロドリームへ行きました。

アストロドリームでは、反射望遠鏡、屈折望遠鏡を見させてもらいました。また、今けんせつ中のドームの中には、これから直径30cmの大きな望遠鏡がせっちされると聞いておどろきました。

天文台の方から、太陽や宇宙についての話を聞きました。わたしは、太陽の直径は、地球の109倍もあるということや、太陽の表面温度が6000度、真ん中はなんと1500万度ということを知って、おどろきました。そして、「太陽があるからみんなが活着ているんだよ。」という言葉聞いて、私はむねがあつくなりました。

バスで家に帰ると、学んだことや楽しかったこと、おもしろかったことなどを、お母さんやお父さんに話して、最後に「おべんとう、ありがとう。」と言いました。

お宝発見・体験ツアーに参加して、学級のみならず、他の学校のみならず、きずなが深まったと思います。これからは、ここで学んだいろいろなことを生かしたいと思いません。

お宝発見・体験ツアー

壬生小学校 佐々木 鼓

9月27日に「お宝発見・体験ツアー」に行きました。みんなでバスに乗って行きました。バスでは、となりのせきの友達といろいろな話をして行き、楽しかったです。はじめに、川迫小に行ってから、「オオアサ電子かぶしき会社」に行きました。さいしょにビデオを見ました。エグレッタを作っている会社だということは知っていたけれど、車のえきしょうパネルも作っていることは、はじめて知りました。えきしょうパネルをつけている車は、トヨタ車・ホンダ車・マツダのアテンザなどだそうです。えきしょうパネルのメインの会社は大朝の会社なのです。世界さいせんたんでLEDも作っています。昔は、人がほしいというものを作っていたけれど、今は会社のアイデアで作ることになったそうです。そうして作ったのが、エグレッタだったそうです。小さい音が聞こえるかどうかのじっけんでは、最後の音は聞こえなかったけど、ほぼ聞こえたのでうれしかったです。今回とてもお世話になったので、家族で行ってみたいと思います。

次に、「戦国の庭歴史館」に向いました。「戦国の庭歴史館」では、まず広島のおぶしょう・「吉川元春」のビデオを見ました。少しむずかしかったけど、おもしろかったです。そして待ちに待った昔のようすのもけいを見ました。もけいで家のことを教えてもらいました。門からすぐ、げんかんがあつて、おくには、ふろやべんじょがあります。左の方は、台所と台所の倉庫があります。吉川家は、やねがうすい板だったことをはじめて知りました。「大」という漢字が書いてあるかめや、竹のものさしもありました。皿は少し重みがありました。げたをはいてみると、少し歩きにくかったです。着物はとてもあたたかかったです。ふろやべんじょのおけの中に、きせい虫のたまごや、うりやぶどうのたねも見つかったそうです。石がきのパズルは、むずかしかったけど、できたのでうれしかったです。かぶとを、試着するコーナーがあつたけど、ぼくは試着できませんでした。吉川家がたっていたところがありました。とても広くて台所をふくげんさせていたのがすごかったです。そして、吉川家のには池もありました。次に「戦国の庭歴史館」に来たら、かぶとを試着したいなと思いました。

その後は、「どんぐり村」へ向いました。どんぐり村で弁当を食べていると、どんどんべつの小学校の人たちが来ました。知っている人も何人かいました。こうりゅう会では、自分達でそばを育てている学校や花がさおどりをしている学校もあつて、すごいなあとと思いました。壬生小は道具なしで田楽をやりました。きんちょうしたけどうまくできたのでよかったです。時間が足りなくなったので、みんなでするゲームはできなかつたけど、楽しいこうりゅう会でした。

さいごに「どんぐりあん」に行きました。八重小の人たちと、ぼくが先頭で「どんぐりあん」まで歩きました。そば作りでは、はじめに、こなを入れて水を入れてかきまぜます。かたまったら、だえん形にします。このさぎょうは道場の先生がやってくれました。つぎに、丸めたそばをつくえにおきます。そうしたら、手でまるく大きくのばしてしていきます。そして、めんぼうにまきつけて、ぼうをまわして少しそばこをとってふり、ダッダッダッとぼうを向こうがわにおし下げます。その時ぼくは「う

まい。」とほめてもらいました。うれしかったです。そして、だんだん四角形にのぼしていきます。それをくりかえしたら、その後はめんぼうからそばを全部とって、たたんで、またこなをかけてたたみます。たたんだそばの広さ分の板の上にこなをかけてそばをのせ、その上に板をのせて、板を少しずつ左にずらしながらほうちょうで切っていきます。はじめは、できるか心配でした。けれど、先生と切ったので安心してできました。二回目は自分で切りました。だいじょうぶかなと思ったけど切れたからうれしかったです。作ったそばはつゆといっしょに持って帰りました。次は、家族でそばを食べに来たいと思いました。家に帰ってそばを食べました。わさびも入れました。おいしかったです。

「お宝発見・体験ツアー」はとても楽しかったです。ぼくが一番心にのこったのは、そばうち体験です。わけは、めんぼうでのぼすとき、「うまい。」

と言われて、うれしかったからです。これから、体験ツアーで習ったことを勉強にかしていこうと思います。

お宝発見・体験ツアー

壬生小学校 橋本 妃葵

私は、二つのことが心に残りました。

一つ目は、「オオアサ電子株式会社」です。「オオアサ電子」は「エグレッタ」が有名です。私は、前に、「オオアサ電子」にスマホのガラスを買いに行ったことがあります。その時、目に入ったのが「エグレッタ」でした。あの大きいものは何なのか、と、ぎもんに思いました。でも分からないまま帰りました。しかし、この「お宝発見・体験ツアー」であらためてスピーカーであることが分かりました。この「エグレッタ」は、上から高い音が出て、下からは低い音が出ていたので、よく考えられていると思いました。リモコンもしゅうのうできるところが、すごいです。私が一番びっくりしたことは、部屋のどこにいても、「エグレッタ」を使うことで、同じ音りょうで聞きとることができるので、びっくりしました。上には、工場があるけど、ルールで見せていただくことができませんでした。でも、北広島町にこんなすごい会社があることが分かったので、うれしかったです。

二つ目は、「どんぐりあん」の「そば打ち体験」です。みんなで生地から作るには、チームワークがとても大切だなと思いました。さいしょにこなをこねるところが、むずかしかったけど、5はんの人といっしょにがんばりました。すると、とてもいい生地ができました。どんぐりあんのしょく人の人は、とても上手で、さぎょうがはやかったです。私も、負けずにがんばりましたが、とてもかなわなかったです。ほうちょうで切るのは、さいしょはむずかしかったけど、だんだんなれてきて、上手に切ることができました。ほうちょうが大きくてびっくりしました。手を切らなかつたので、よかったです。切ったそばは細いのも、太いのもありました。みんなで、

「むずかしい。」

「交代して。」

「大変。」

などと言いながらも、がんばりました。そば打ち体験は、はじめてだったので、とてもよいけいけんができたと思います。

交流会では、学校発表をしました。私は、せりふを言う大事な役目でしたが、何とか言うことができました。全体での遊びはできなくてざんねんだったけど、写真をみんなでとれてよかったです。

また「戦国の庭歴史館」では、吉川元春のことがよく分かりました。また、昔は、家が部分ごとに分かれてろう下でつながっていることが分かりました。

このような一日をみんなで楽しくすごしました。私は、時間が少なかったのもっと勉強していきたいと思います。また、話をして友達になれた人もいたのでよかったです。

この体験ツアーを終えたあと、色々な人と、

「楽しかったね。」

「またドッジボール大会で会おうね。」

「バイバーイ。」

「また行きたいね。」

「むずかしかったね。」

などと、言い合いながら帰りました。学校紹介や帰りのバスの中などで、田楽の歌を歌って楽しかったです。また、そば打ちをしに行ったり、オオアサ電子にも行ったりしてみたいと思いました。

どんぐりあん そば打ち体験

壬生小学校 佐渡 雄大

ぼくが「お宝発見・体験ツアー」で心にのこったのは、「どんぐりあん」のそば打ち体験です。どんなそばができるか楽しみでした。

そば打ち体験では、まず、こなに水を入れて手でかきまぜて生地をつくりました。手を止めていると、かたまってきたので手がつかれました。次に生地を手でおしてのぼしました。ちょうどいいあつきにするのがむずかしかったです。

その次に、めんぼうで生地をうすくなるようにのぼしました。のぼすとき力が強すぎたり弱すぎたりしたので、ちょうどいい力にするのがむずかしかったです。

その後にした、生地をまきぼうで、まいて、おして、生地を四角くする方法には、おどろきました。何回か回してもあんまり四角にならなかったけど、

「パンパン。」

と音がしたときには、うまくなった気がしてとてもうれしかったです。それを全部の角でやるのでたいへんでした。へんな形になってしまったりすることもあったけど、やっていくとうまくできていて、ほめられたからうれしかったです。

最後に、生地をたたんで切るようにしました。生地をたたむときに、生地が切れそうになってしまってむずかしかったです。こなをかけるときには、こながかかりすぎているところや、かかっていないところがないように気をつけました。包丁でそばを切るのは、すごくあぶなそうでした。1回目は包丁を、ちょっとしか、たおしていなかったり、反対にたおしすぎたりして、めんが太くなりすぎたり、細くなりすぎたりしました。だけど、2

回目に切るときは、ちょうどいいくらいにたおして切れたので

「うまい。」

と言われました。うれしかったです。

家でゆでて食べたら、ちょっとかたかったけど、おいしかったです。

友だちができたよ！

本地小学校 西原 大斗

夢プロジェクトで3つの見学地に行きました。芸北高原自然館、豊平どんぐり運動公園、そして夢天文台アストロドリームの3か所です。3つの見学場所で心に残ったことをそれぞれ書きます。

まず、芸北高原自然館です。ぼくがここに残ったことは3つあります。

1つ目は、マツムシソウという花です。このマツムシソウは、むらさき色をしていて、マツムシが鳴くころにさく花だそうです。とてもきれいな花だと思いました。また、マツムシソウはかんきょうによっては、どんどんへってしまうということもトレッキングガイドの人に教えていただきました。そのことをぼくは全く知りませんでした。

2つ目は、ノリウツギという花です。ノリウツギむかし和紙をつくる時ののりとして使っていたそうです。ぼくは、ノリウツギという花を初めて知りました。

3つ目は、カンボクの木です。カンボクの木は、秋に実が赤くなり、冬にじゅくして鳥も食べるようになるそうです。カンボクの木はとてもきれいでした。

次に、豊平運動公園についてです。ぼくが、豊平運動公園で心に残ったことは2つあります。

1つ目は、体育館でお弁当を食べたことです。2階で食べました。みんないろいろなお弁当で、どれもおいしかったです。ぼくの弁当はもちろんおいしくて最高でした。食べ終わるとおなかパンパンになってしまいました。

2つ目は、学校しょうかいの時間です。ぼくは、自分の出番を待つ間、むねがドキドキしてとてもきんちょうしていました。いよいよぼくの順番がきました。ちょっとわすれかけてしまい、声が小さくなってしまったかもしれませんが、スラスラ発表することができました。他の学校のしょうかいでは、いろいろなやり方で発表していました。おどっていた学校があったし、体操を取り入れている学校もありました。どの発表もすばらしいと思いました。ぼく自身の反省では、声が少し小さかったことと、途中で言葉をわすれてしまったことです。今度、このようなチャンスがあれば、きっちりときめたいと思いました。

最後に、夢天文台アストロドリームについてです。ここで心に残ったことは3つあります。

1つ目は、くっせつ望遠きょうです。このくっせつ望遠きょうは、光がくっせつする望遠きょうです。他にもくっせつ望遠きょうがありましたが、準備中ということでした。しかし、その場所に行ってみるとすごい迫力でした。

2つ目は太陽についての話です。太陽の大きさは、ぼくたちが住んでいる地球の109倍もあるのだそうです。その大きさはそうぞうできないくらいです。そのほかの話では、太陽の表面温度は約6000度、中心の温度は、なんと1500万度くらいあるそうです。

太陽の色はぼくは赤だと思っていたけどオレンジ色なんだそうです。太陽についてたくさんのお話をさせていただきました。

3つ目は、反射望遠きょうです。反射望遠きょうは、「第5すばる堂む」と書いてある建物においてありました。すごく大きくて、くっせつ望遠きょうと同じくらい迫力満点でした。

ぼくは、3つの見学場所に行き、それぞれの場所がとてもおもしろかったです。夢プロジェクトは本当に楽しかったです。バスの中や見学場所で他の学校の4年生と友だちになることができよかったです。

北広島町のすばらしさ

本地小学校 河内 心美

八重東小学校と八重小学校の4年生とともに芸北高原の自然館に行きました。楽しかったことが2点あります。

1点目は、コブシという植物の実についてです。コブシの実にはオレンジ色をしていて、人間の手のこぶしに似ています。いくつ実がついていたかわすれしましたが、実を引っばると糸のようなものが出てきておどろきました。

2点目は、トンボがたまごをうむところを見たことです。高原の下り坂に水たまりがあって、トンボがたまごをうんでいました。オスのトンボが上になり、下にメスがいてちゃんと水にしっぽをつけてたまごをうんでいました。すぐに水たまりのところに行ってたまごをさがしましたが、すごく小さくて見ることはできませんでした。でも、うんでいる場面を見ることができてうれしかったです。

また、北広島町の4年生がとよひら運動公園に集まって交流会をしました。その中で、まず、学校しょうかいがあり、とてもきんちょうしました。なぜかという学校しょうかいで自分が担当している内容をまちがえたらどうしようかと思っていたからです。しかし、自分の順番がきた時、大きな声ではっきり言えたと思うので、自分ではまあまあよかったと思いました。学校しょうかいでは、初めて知ったこともありました。それは新庄小学校の「なんじょうおどり」で使っていた楽器です。ほとんど私たちが取り組んでいる「本地花がさおどり」の楽器に似ていました。むかしの人はすごいなあと思いました。

北広島町の4年生みんなとゲームをすることはできなかったけど、それぞれの学校のことを知ることができたのでよかったです。他の学校のことをもっと知りたいと思いましたし、4年生全員と友だちになりたいとも思いました。

最後に、夢天文台アストロドリームの見学を通して初めて知ったこと、楽しかったことがそれぞれ一つずつあります。初めて知ったことは、太陽についてです。クイズが出されて、

「太陽の表面の温度は何度くらいでしょう？」

と説明してくださった人が言われました。答えは6000度で、私が思っていたことと近かったです。しかし、

「太陽の中心の温度は何度くらいでしょう？」

と言われたとき、1500万度と教えていただいて私の予想とははるかにちがっていました。

た。これらのことがわかったのでうれしかったです。

楽しかったことは、望遠きょうで太陽を少しだけ見ることができたことです。望遠きょうをのぞいて見えた太陽はオレンジ色で、黒い点々もようがありました。

北広島ふるさとゆめプロジェクトにさんかして、新しい友だちができたし、北広島の自然のすばらしさを知ることができて、私が生まれた北広島町は、とてもすごいなあと思いました。

北広島町のたから物

本地小学校 中島 迅斗

9月28日、八重東小学校の4年生とともにバスに乗り、北広島ふるさとゆめプロジェクトに参加し、いっしょに行動しました。3つの見学場所に行くことができました。

まず、最初に行ったのは芸北高原自然館でした。ぼくは、3つのことが心に残っています。1つ目はツキノワグマのほねが展示してあったことです。一本一本のほねが太くて、とても大きく、思わず

「すごい。」

という言葉が口から出ていました。

2つ目は、ボタンをおすと小鳥の鳴き声が聞こえる道具です。それぞれの小鳥の鳴き声がとてもきれいで、大変おどろきました。

3つ目はツキノワグマのふんです。それは、とても太くて長く、大きかったです。これにもおどろかされました。

次の学習の場は、とよひらウィングでお弁当を食べたり、学校しょうかいをしたりしました。そこで楽しかったこと、きんちょうしたことが一つずつあります。楽しかったことは、もちろん、みんなで食べたお弁当です。みんなとおしゃべりをしながら食べたお弁当は最高でした。きんちょうしたことは、学校しょうかいで、ぼくが一番最初に声を出したところです。会場には140名をこえる人たちがいたので、足がすごくふるえました。それでも、まちがえず、大きな声を出すことができて、きんちょうはしたけどすっきりした気持ちで終わることができました。とてもうれしかったです。

最後の見学場所は、夢天文台アストロドリームです。ここではびっくりしたことが四つありました。

1つ目は、反しゃ望遠鏡のでレンズのあつさが20センチメートルもあるということを知ったことです。反しゃ望遠鏡もくっせつ望遠鏡もモーターで動かすということを知ってびっくりしました。

2つ目は、太陽はガスのかたまりであるということを知ったことです。ぼくが思っていたのは、何かあついものでできているのだろうとしか思っていなかったのに、これもびっくりしました。

3つ目は、やはり太陽のことですが、表面温度と中心の温度がちがうということにびっくりしました。ぼくは、どこも同じ温度だと思っていたからです。じっくり望遠鏡をのぞいて太陽を観測することはできなかったけど、たくさんのお話を聞けたし、望遠鏡を見せてもらって、とても楽しかったです。

ぼくは、1日の学習を通して他の学校の二人の友だちができたことが、とてもうれしかったです。

四年生とのふれあいの日

豊平小学校 平 弥生

9月27日に豊平小学校と芸北小学校と一緒に夢プロジェクトに参加しました。

私たちが行ったところは、ユートピアサイオト・ジップラインとどんぐり村と三島食品楠苑です。行った場所それぞれに心に残ったことがあります。

ユートピアサイオト・ジップラインの心に残ったこと、1つ目は、各コースのミッションです。各コースには、色々な名前が付いていて、そのコースにピッタリのミッションがありました。2つ目は、Aグループ担当のウォーリー先生がたくさんの事を教えてくださったことです。私は、Aグループで一番始めにコースに行き、いざすべろうとした時にとってもこわくて心配でしたが、ウォーリー先生が優しく勇気の出るアドバイスをくださったので楽しくすべることができました。3つ目は、最後のコース「イーグルライン」で友達ができただけです。最後のコースミッションは、「大きな声を出して自由にすべろう」でした。すべる直前に芸北小学校の子が「どんな感じですか？」と聞いてきてくれたので、「私は手をはなしてすべるよ。」と言いました。そこからだんだん仲良くなり、名前も聞きました。山脇歩子さんと東條和乃さんです。バスの中でいろんなことを話しながら次の目的地に進みました。

三島食品で心に残ったこと、1つ目は、収穫する時期のことです。3月に種をまき、5月に草取りをし、6月に収穫するので赤しそを育てるのに四ヶ月もかかることにおどろきました。2つ目は、大きなたるがあったことです。たるの大きさは、たて横2.5メートルでそれに7トンもゆかりのもとになる赤しそが入ることが分かりました。3つ目は、収穫した赤しその量です。今年は、3000キログラムもの量を収穫したそうです。たくさんのことを知り、とても苦勞をされているのだなと思いました。

三島食品資料館 楠苑で心に残っていること、1つ目は、たくさんの名前がかべにずらりと飾ってあったことです。担当の人に聞いてみると「創業者が大切にしていた営業員の名前が二十人以上あるのですよ。」と言っておられました。創業者の方の想いが伝わってきました。2つ目は、最初のふりかけです。最初のふりかけは、魚の骨をすり潰した物をお腹の中に赤ちゃんのいる妊婦さんに渡していたと書いてあり、赤ちゃんの栄養にもなっているのだと思いました。3つ目は、全国のふりかけです。たくさんのふりかけを見ていると県のキャラクターをデザインしたふりかけもありました。全国のふりかけ会社や様々なふりかけが見られてうれしかったです。

夢プロジェクトに参加するのは、今年で2回目でした。見かけたことのある北広島町の四年生だと思っていたんだけど、実際は、見かけたこともない4年生ばかりでした。これからたくさんの4年生と友達になりたいです。北広島町全体の4年生が今度もドッジボール大会に集まるので、また、交流ができたらいいなと思いました。来年の夢プロジェクトが今から楽しみです。

初めて体験したこと

豊平小学校 箕牧 佑季乃

私たちは、夢プロジェクトで北広島町内をめぐるしました。今年は、芸北の「ユートピアサイオト」と千代田の「三島食品」に行きました。

ユートピアサイオトでは、ジップラインを体験させてもらいました。私のグループは、B グループだったので、谷ポン先生がガイドをしてくださいました。ちなみに、A グループはウォーリー先生で、C グループはヨッシー先生でした。それぞれガイドの先生に教えてもらいながら練習をしました。練習の時には、私が1番だったのでとても緊張しました。

ジップラインの綱にプーリーを付けて、自分の後ろに命綱を付けて滑りました。「スリー、ツー、ワン、ゴー！」という掛け声で滑りました。ダントツ！スリルラインでは、手を放して滑りました。また、イエティラインでは、プーリーをわざと回転させてから綱に付けることで、グルグル回りながら滑ることができました。手を放すのは、少し距離が短いとあわてたり、着地の時にあぶなかつたりしたけど、距離が長くなるとあわてることもなく楽しんですることができました。ジップラインの後は、豊平どんぐり村で昼食と交流会がありました。時間がなかったので学校紹介だけで終わってしまい少し残念でした。

午後からは、三島食品に行きました。三島食品では、まず、紫の里を見学しました。紫の里は、赤しそだけでなく、広島菜も栽培していました。今年は、赤しそを、150 トン収穫したそうです。広島菜は、100 トン作る予定だそうです。赤しそ畑は全部で38個あるそうです。種まきは3月に行い、5月に草取りをして、6月から9月の初めに収穫をするそうです。楠苑では、ふりかけの歴史について展示がしてありました。昔のふりかけや、ふりかけを作った人も知ることができました。

私は、この夢プロジェクトで北広島町についてたくさんを知ることができました。また、北広島町の自然や歴史、文化についても知ることができました。将来、北広島町で働いたり、住んだりしたいと思う気持ちが改めて強くなりました。

家族と一緒に

豊平小学校 圓山 恵果

私たちは、夢プロジェクトで芸北の人達と仲良くなったり、色々な体験をしたりしました。

初めに、ユートピアサイオト・ジップラインというところに行きました。ジップラインは、6コースありました。1コース目は、ドキドキラインというコースで、私は「ドキドキするコースか。」と思いながらしてみると、本当にドキドキしました。最初はこわくてすぐにはなれないと思ったけど気がつけば、鳥のように空を飛んでいる気がしました。2コース目は、ダントツスリルラインというコースで、1コース目と違って地面からはなれていたのですごくこわかったです。そのとき、インストラクターの谷ポンさんが「次のコースは、手をはなしてすべっていこう！」と言われたので、「いきなり言われても・・・。」と思いました。あせっていましたが2回ほど手を放せたのでうれしかったです。3コース目は、イエティラインコースです。そこでも谷ポンさんが「このコースは、雪が降ってい

るときにスキー場をさえぎると、白い雪がきれいに見えるからこの名前が付いているのだよ。」と教えてくれました。次々進んで、5コース目は、ビートルラインです。谷ポンさんが「手を放したり、回転したりしないでください。」と言われました。その訳は、147メートルあって勢いがないと途中で止まってしまうからです。私は、言われた通りに体を真っ直ぐにしてゴールまで行きました。最後のコースは、イーグルラインです。ここでは、自分の思っていることをさげびながらすべります。言った言葉は、「また、家族で行きたい！」でした。たくさんのコースをすべることができて良かったです。

次に、三島食品へ行きました。そこで知ったことは、3月に種をまいて、6月～9月に収穫することです。大きさは、約2～3ミリメートルぐらいのとても小さな種でした。また、たて横2.5メートルの大きなプールに赤しそがいっぱいに入っていて、赤しそから出た液を重しにしてありました。収穫するときは、機械で収穫し、お茶をつみ取る機械と同じ物だそうです。実際に目で色々な物が見られてとても勉強になりました。また、楠苑では、三品食品の他の会社の商品もかざってありました。三島食品の会社デザインは、こうのたかし氏デザインで、しゃもじやふりかけのマークやメダルもあるそうです。

この夢プロジェクトで体験したことや三島食品で見学したことやふりかけのメダル以外のことについてもこれからも調べていきたいと思いました。

5年生

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 1 期 日 Aグループ：平成28年7月 4日（月）～ 7日（木）
 Bグループ：平成28年7月11日（月）～14日（木）
 Cグループ：平成28年7月19日（火）～22日（金）
- 場 所 Aグループ：芸北文化ホール，芸北大暮養魚場，芸北・豊平地域民宿等，高杉山
 Bグループ：豊平中央公民館，芸北大暮養魚場，芸北・豊平地域民宿等，龍頭山
 Cグループ：芸北文化ホール，芸北大暮養魚場，芸北・豊平地域民宿等，雲月山
 〔芸北大暮養魚場〕 広島県山県郡北広島町大暮 85-3
- 2 目 的
 ○町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいをとおしてふるさとの良さを実感させる。
 ○町内の同学年児童による自然の中での共同体験を通して，課題解決する力や協働する力を養う。
 ○養魚場でのつかみ取りや調理体験・登山等の活動を通して，町内児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校5年生

	Aグループ					Bグループ		Cグループ		計
	7月4日～7日					7月11日～14日		7月19日～22日		
	新庄小	川迫小	八重小	本地小	豊平小	芸北小	八重東小	大朝小	壬生小	
男子	6	0	20	7	6	7	8	6	18	78
女子	4	2	16	15	15	7	8	8	17	92
児童数	10	2	36	22	21	14	16	14	35	170
グループ 総児童数	91 (男39・女52)					30 (男15・女15)		49 (男24・女25)		170

4 日程（民泊2泊を含む3泊4日間）

(1) 各学校より交流会会場への集合

【Aグループ：平成28年7月5日（火）～7日（木） 交流会会場：芸北文化ホール】

〔移動手段：大型バス2台〕

- ①八重小〔8:20〕→川迫小〔8:40〕→新庄小〔9:00〕→芸北文化ホール〔9:45〕＝大型バス
(児童48)
- ②本地小〔8:45〕→豊平小〔9:10〕→芸北文化ホール〔9:45〕＝大型バス(児童43)
 ※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

【Bグループ：平成28年7月12日（火）～14日（木） 交流会会場：豊平中央公民館】

〔移動手段：中型バス2台〕

- ① 芸北小〔8:15〕→豊平中央公民館〔9:45〕＝中型バス(児童14)
- ②八重東小〔8:25〕→豊平中央公民館〔9:45〕＝中型バス(児童16)
 ※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

【Cグループ：平成28年7月20日（水）～22日（金） 交流会会場：芸北文化ホール】

〔移動手段：大型バス1台〕

- ①壬生小〔8:45〕→大朝小〔9:15〕→芸北文化ホール〔9:45〕＝大型バス(児童49)
 ※ 9時45分に会場に到着できるように，グループ担当者がバス会社と協議して計画する。

(2) 2日目の流れ ※1日目（学校泊）の流れについては，各校で決めて実施する。

時刻	内容	備 考
～ 9:45	到着，荷物置き	各学校より開会式会場に到着。到着後，学校ごとに場所を決めて荷物を置く。
9:45～ 10:00	整列	学校ごとに整列する。
10:00 ～ 10:20	児童交流開会式	【A：芸北文化ホール，B：豊平中央公民館，C：芸北文化ホール】 ① 開会挨拶 ② 児童代表挨拶 ③ 各校の自己紹介諸連絡

10:30 ～ 12:30	人間関係づくり	引率者が指導して行う 事前に担任で連絡を取り合い、内容を決めておく。 ○学校の枠をはずして仲良くなるようなプログラムを用意する。 ○昼の活動班（異なる学校で構成した6人）での交流・活動を重点的に 行う。
12:30 ～ 13:30	昼食	弁当ー活動班ごとに弁当を食べる。 ○人間関係の構築と休憩を兼ねて、ゆっくり過ごす。
13:30 ～ 14:00	対面式	民泊のための受入家庭との対面式 1 開会 2 北広島町代表あいさつ 3 学校代表あいさつ 4 児童代表あいさつ 5 受け入れ家庭紹介 6 協議会スタッフ紹介 7 学校引率者紹介 8 受け入れ家庭とのお互いの自己紹介 ※児童は事前に準備しておいた自己紹介カードを手渡して自己紹 介→握手・あいさつ 9 閉会
14:00	受入家庭へ移動開始	受入家庭の自家用車にて移動
	田舎暮らし体験	受入家庭にて活動
	入浴, 食事作り	
	夕食	
21:30	就寝	民泊

(3) 3日目の流れ

時刻	内 容	備 考
6:30	起床	受入家庭にて
7:00	朝食	受入家庭にて
9:00	移動	受入家庭の自家用車でバス停へ、バスがバス停を巡回して児童を乗せる。
～9:45	到着, 荷物置き	バスで大暮養魚場に到着後, 班ごとに場所を決めて荷物を置く。
9:45～ 10:00	整列	班ごとに整列する。
10:00 ～ 13:10	川魚つかみ取り体験	大暮養魚場において 1 開会 2 学校代表挨拶 3 児童代表あいさつ 4 指導者よりあいさつ 5 着替え 6 炭おこし 7 つかみ取り 8 着替え(体操服) 9 養殖の説明・施設見学 10 アマゴ調理 11 すみ火で焼く 12 昼食(アマゴ2匹, おにぎり, 味噌汁) 13 片付け 14 学校代表挨拶 15 児童代表あいさつ 16 指導者よりあいさつ 17 閉会
13:30	休憩・整列	持ち物の確認をさせる。

		受入家庭ごとに整列する。
13:30	受入家庭への移動開始	移動 バスでバス停へ移動し、受入家庭の迎えを待つ。
15:00	田舎暮らし体験	受入家庭にて
	入浴, 食事作り	受入家庭にて
	夕食	受入家庭にて
21:30	就寝	民泊

(4) 4日目の流れ

時刻	内 容	備 考
6:30	起床	受入家庭にて
7:00	朝食	受入家庭にて
8:30	移動	受入家庭からバス停へ送ってもらい、バス停よりバスに乗り、登山口に移動
～ 9:15	到着	各受入家庭よりバスで登山口に到着後、班ごとに場所を決めて荷物を置く。 ※弁当を受け取り、各自リュックに入れる。
9:15 ～ 9:30	整列, 登山開会行事	班ごとに整列する。 ① 開会 ② 学校代表挨拶 ③ 児童代表挨拶 ④ 登山インストラクター(ガイド)の自己紹介・諸注意
9:30 ～ 13:10	登山開始 雨天の場合は山村体験推進協議会とトレッキングガイドの会と相談する。 昼食 記念撮影 下山	A:高杉山, B:龍頭山, C:雲月山 ○所要時間:約4時間(頂上での昼食時間を含む) ○ガイド1名につき, 1グループは15～20名程度 ※雲月山は芸北トレッキングガイドの会 ※龍頭山は龍頭の森の案内人の方がガイド ※高杉山はユートピアサイオトがガイド ※熊よけ鈴をつける。 ※頂上で弁当(天候や気温により下山後に昼食となる場合もあり) 弁当 グループごとに記念写真を撮る。
13:15 ～ 13:30	登山の閉会行事	① 学校代表挨拶 ② 児童代表挨拶 ③ 登山インストラクターの言葉
13:30 ～ 13:40	閉会式会場への移動開始	バスで閉会行事会場へ
14:10 ～ 14:30	閉会式	【A:芸北文化ホール, B:豊平中央公民館, C:芸北文化ホール】 ① 閉会 ② 学校挨拶 ③ 児童代表挨拶 ④ 北広島町代表あいさつ
14:30 ～ 15:00	お別れ式	※受入家庭と児童のお別れ式を行う。 受け入れ家庭との個別のあいさつ
15:00	各校へ出発	お別れ式後, バスで学校へ帰る。
	帰校	各校で保護者へ迎え依頼の連絡(安心メール等)

5 会場・準備物等

(1) 開会式・閉会式

【町教委】

- 横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト（小5）「民泊体験」
～北広島の自然を満喫しよう～

※3回持ち回りをする

(2) 活動

【町教委】

- トイレトーパー等（登山時のトイレは、登山口にて）

【学校】

- 音響装置（ハンドマイク）
- 〔登山時使用グッズ〕レジャーシート（登山途上でのトイレ用）、スコップ（小）、トイレトーパー、汚物入れ用袋
- 児童の名札（ガムテープか養生テープに、マジックで大きく学校名・名前を書いたものを体操服等に貼り付ける。）・・・3日分準備
- 児童の保険証コピー

【児童】

〔服装〕：○体操服 ○赤白帽子着用 ○はき慣れた運動靴
〔持ち物〕

服装・着替え		日用品		その他
上着類 (3日分)	シャツ(夏でも長袖要)	洗面用具	歯ブラシ	リュックサック (弁当・水筒が入る サイズ)
	ズボン(くるぶしまで隠れもの)		歯磨き粉	
	防寒		タオル	
下着類 (3日分)	シャツ	タオルケット・寝袋等 (1泊目用)		虫除けスプレー
	パンツ			虫さされ薬
長袖体操服(上下)【登山用】		ハンカチ(4日分)		熊よけ鈴(ある人) ない人は担任に事前に申 し出る
半袖・半ズボン体操服【川魚つかみどり用】		ティッシュ(4日分)		
くつ下(4日分)		タオル(5～6枚)		敷物(登山用)
帽子(赤白帽)		※川魚つかみどりや登山 の時も使用する		体験活動のしおり
運動靴(履き慣れたもの)				ビニール袋(5枚) (着替え入れ・ごみ)
水着(川魚つかみどり用) Tシャツ(水着の上に着用)		軍手(滑り止めのついてい ない木綿のもの1セッ ト, 田舎暮らし体験, つ かみ取り, 登山用)		筆記用具
濡れてもよい運動靴(川魚つかみどり用)		雨具 (両方)	カッパ	常備薬 (必要に応じて)
長靴(農業体験等で使用)			折りたたみ かさ	
寝間着(Tシャツ・ジャージ)		水筒 (ペットボトル不可・ 大きすぎないもの)		保険証(コピー)

※その他, 1泊目に必要なものがあれば, 各校で加える。

※出発時の服装については, 各グループで協議する。

(3) 昼食

【町教委】

- 2日目(人間関係づくりの日)4日目(登山の日)の弁当
- 3日目(大暮養魚場での)昼食

(4) 費用について

【町教委】

《大暮養魚場》○昼食代, 利用料
《バス代》 其他

6 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケート事前に各学校へ送付する。

(アンケートは、今年度も県教委に提出するようになるので、昨年度の様式を活用して各校で実施する。)

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

活動の内容・様子

<写真入りで、概要をまとめる。>

児童の作文<各学校3人以上(川迫小2名以上) - 400字原稿用紙で5枚以下>

実施後のアンケート結果

7 役割分担

担当校長・教頭を中心に分担

○商工観光課との渉外(町教委<沖中>)

○バス会社と連携(町教委)

→A(新庄小<折口>) B(芸北小<佐々木>) C(壬生小<國本>)

○教育委員会届出(壬生小→各学校)

○保護者通知(芸北小→各グループ代表校長)

○しおり(新庄小→各学校)

○実施に当たっての資料(芸北小→各学校)

・昼間の活動班分担表

・宿泊グループ分担表

○健康調査票・アレルギー調査表(芸北小→各学校)

○会計(町教育委員会)

児童の費用納入は、実施後に町教委から各学校へ請求書が送られる。

○報告書作成

データ等は全共有ホルダー — 教育委員会 — ふるさと夢プロジェクト — 5年生民泊の中に入れてください。

◆プロジェクトのねらい(壬生小)

◆活動の内容・様子—写真入り, A4で4枚程度にまとめる。<各グループで担当を決めて>

◆記録用写真撮影<各グループで担当を決めて>

◆作文<各学校3人以上(川迫小2名)>

学校ごとに指導して作成—作文をパソコン入力して, データを共有ホルダーへ入れる。

◆実施後のアンケート結果

学校ごとに集計して, 7月29日までに共有ホルダーへ入れる。

※活動の様子, 作文は, 8月15日までに作成してデータを共有ホルダーへ入れる。

(Cグループは夏休みに入るが登校日等を活用して児童に書かせる)

◆夢プロだよりは, 民泊担当3校で分担

○全体総括(芸北小—板倉)

8 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて, 児童に目的意識を持って参加させるようにする。

○保護者案内は, 6月1日を目安に学校ごとに作成して配布する。

○特別な支援を必要とする児童, 健康に留意する必要がある児童については, 事前に保護者と連携をしておくとともに, 引率職員体制について配慮する。

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

【民泊体験活動 Aグループ】（新庄小・川迫小・八重小・本地小・豊平小）

〈 第1日目（7月4日）〉

○ 1日目は、各学校に宿泊。

	活動内容	活動の様子（写真）
新庄小学校	初日、夕食の食材を地域のお店と舞ロードに注文し、放課後から夕食作りに取り掛かった。夕食は、北広島の野菜や肉を使ったカレーライスとシーザーサラダ。なべで米を炊いたり、協力して野菜の皮をむいたりした。芸北高原豚を最後に乗せて、児童はうまい！と大満足のご様子。その後、夜の校内探検を行い、学校のシャワーを使って汗を流した後、21時半に就寝した。	
川迫小学校	7月4日、午後から物資の買出しに3人で行った。夕食と朝食5人分の材料をそろえた。夕食のメニューはビーフシチューとサラダ。朝食はサンドイッチ。夕方から3人で調理開始。材料を切って、ぐつぐつ煮込み、サラダを準備し、デザートのお果物もそろえて準備完了。教頭先生と校長先生を呼んで、中庭でおいしくいただきま～す！片付けもバッチリ終えて21時半に就寝完了。	
八重小学校	初日の午前中は平常通り授業を行い、午後の家庭科の時間に夕食のカレー作りを行った。2時間のうちにご飯を仕掛け、カレーを作り、サラダを盛り付ける前の状態まで協力して手際よく行えた。一度下校した後、各家庭で入浴を済ませ再び荷物を持って18時に学校に集合。開始式を行い、みんなで夕食のカレーを食べた。夜はミーティングを行い、21時半に就寝した。	
本地小学校	本地小学校では、1日目の午前に民泊体験活動の各活動での諸注意や意欲付けを行った。午後は、今年度初めての水泳指導を行いプールに入った。とても暑い日だったので児童も思いっきり水泳を楽しみ、民泊活動としていいスタートが切れた。16時からグループに分かれてカレーライス作りをした。その後、19時より図書室で映画鑑賞を行い、21時半に就寝した。	
豊平小学校	民泊体験学習初日は、通常通り学校生活を送り、16時に5年生以外が下校してから豊平中の調理室で夕食のカレー作りを始めた。カレー作りだけでなく、ご飯も鍋で炊くことに挑戦。どちらもとてもおいしく出来上がりみんな大満足！19時から龍頭温泉へみんなで。さっぱりした後、学校の多目的ホールで星空学習。宇宙の壮大さにふれ、21時半に就寝した。	

〈 第2日目 (7月5日) 〉

○開会式 (芸北文化ホール)

民泊Aグループ (新庄小・八重小・川迫小・本地小・豊平小) 児童 91 名が芸北文化ホールに集合し、開会式を行いました。

新庄小学校の宮本校長先生から「北広島の良さを実感しよう」「協働してやりとげよう」「他の学校の人と仲良くなろう」の3つの目標を聞き、活動への気持ちを新たにしました。

○人間関係作り (芸北文化ホール)

他校の児童と交流し、仲良くなるために、人間関係づくりを行いました。最初に、雰囲気をもたせるために「コール (call) づくり」から始まりました。次に、身振り手振りだけで誕生日順に並ぶ「バースデイライン」をしました。

その後、15の活動班ごとに自己紹介をしたり各班の目標を決めたりしました。徐々に打ち解けて一人ひとりが進んで話をし、他校の友達のことを知ることができました。最後に「猛獣狩り」で大いに盛り上がりました。交流活動は大成功でした！



【開会式での学校紹介の様子】



【班ごとに目標決め】



【猛獣狩りで交流】

○対面式 (芸北文化ホール)

活動班ごとに昼食をとった後、いよいよ受け入れ家庭の方々と対面式です。芸北及び豊平地域26の民泊家庭の方と顔を合わせました。

はじめは緊張していた子供達も、受け入れ家庭の方々の温かい笑顔と気さくな言葉かけですぐに馴染み、楽しい会話がしばし館内に広がりました。

「よろしくお願いします。」「行ってきます。」と元気な声で挨拶をし、それぞれの民泊先へ向かいました。

○民泊体験 (各民泊家庭)

各家庭で貴重な体験をしました。ある民泊家庭では、児童がじゃがいもやきゅうりの収穫をして大喜び。

夕食は収穫した野菜で、ポテトサラダ作りです。野菜を切る手伝いをしました。子供達の感想は「最高の味だった」そうです。



【対面式での様子】



【民泊家庭の方と“はいチーズ”】

〈 第3日目 (7月6日) 〉

○川魚つかみ取り体験 (大暮養魚場)

各民泊先より集合場所に集まり、貸し切りバスに乗り大暮養魚場へ集合し、川魚つかみ取り体験を行いました。

大暮養魚場では、まず命の話をしていただきました。自然界に生息する生き物の命を我々人間はいただいて生きている。感謝をしていただかなければならないということと、命を大切にしていかなければならないということをお話していただきました。子供たちはその話に、真剣に耳を傾けていました。

その後の活動では、前半に二つのグループに別れて行動しました。Aグループはアマゴの生態について、実際に養殖の段階を紹介していただきながら学習をしました。アマゴとヤマメの見分け方等も、分かりやすく解説していただきました。Bグループは、加計高校芸北分校の生徒さんたちに協力していただき、火おこしを行いました。教員がついて行う時とは違って、児童は年齢の近いお兄さんお姉さんのアドバイスに親しみを持って活動していました。

それぞれのグループ活動を行った後、放流されたアマゴをいっせいに捕まえ始めました。放流されたばかりのアマゴは元気いっぱい、子供たちはなかなか捕まえることができず悪戦苦闘していました。しかし時間が経過してアマゴが疲れてくると、たちまち沢山のアマゴをつかみ、初めての体験に子どもたちは興奮した様子でした。(なかなか捕まえられないアマゴは、職員も川に入り、思いの外子供たちよりもムキになって捕まえていました。)大変だったのは、その後の調理でした。割り箸を使ってアマゴの内臓を取り出すのですが、いかんせん先程まで元気に川を泳いでいた魚なので、生きた状態での調理と血に軽く戦意喪失してしまう児童が数名。しかし、これも加計高校芸北分校の生徒さんの助けもあり、無事アマゴを竹串に刺すことができました。そして炭火でじっくりと火を通し、焼いたアマゴとおにぎり、お味噌汁をいただきました。竹串調理の時には気持ち悪がっていた児童も、しっかりとアマゴにかぶりついていました。

今回、アマゴのつかみ取りを通して普段できない体験ができただけでなく、生き物の命をいただいて生きている我々の心の在り方について「命の勉強」をすることができました。事後アンケートにおいても、命の勉強について触れる児童が多々いました。また、この活動を行う上で、大変尽力を頂いた加計高校芸北分校の生徒さんは、火おこし・調理・調理の片付け、そして見学児童の釣り堀の世話まで手際よく行ってくださいました。にも関わらず、食事もとらず帰校され、有難いと感じるとともに少し申し訳なくも感じました。大暮養魚場では地域の方や生徒さんと関わることもでき、よい活動となりました。



みなさん、けがをしないように…!

頑張って登ると～!

全員そろって!
ハイ、チーズ!

みんな、よく登ったよ!
すごい景色だよ!

ウフ～ッ!
ここを登って
きたのか!

泣きさんな!
また来んさいね!

お別れの時・・・

北広島は
やっぱり
いい所!

ほんとうに
ありがとうございました!

北広島ふるさと夢プロジェクト(小5)「民泊体験」
～北広島市の自然を満喫しよう～

学校での宿泊から始まった、3泊4日の「民泊体験」。2日目にはたくさんの友だちと交流をし、それぞれの民泊に分かれての体験を行いました。民泊での体験は、とても貴重な体験でした。アマゴのつかみ取りや高杉山の登山も班のみんなと協力できました。たくさんのおかげで、楽しい思い出がいっぱいできました。

みなさん本当にありがとうございました!

【民泊体験活動 Bグループ】 (芸北小・八重東小)

〈第1日目(7月11日)〉

〔芸北小学校〕

1日目はお風呂へ入らせていただくために、オークガーデンの草取りをしました。子供たちは普段の感謝の気持ちも込め、きれいに草を取り、草取りでかいた汗を温泉でしっかり流させてもらいました。

夕食作りでは、2グループに分かれてカレーとツナサラダを作りました。始める前に自分たちで「役割分担をしよう」と声をかけ、どうやったら早く作れるかを考えながら調理をしました。カレーの作り方は、ルーの箱の裏の作り方を見ながら作りました。食材を切るのは慣れた手つきでした。カレーのルーを入れる際に水の量を間違えてしまい、スープカレーになったグループと、水が少なくドロドロになったグループができました。しかし、その2つをうまく混ぜ、2班ともおいしいカレーに仕上がりました。

寝る前には今日の振り返りと次の日のめざす自分を一人一言ずつ発表しました。初めて会う友達や民泊家庭の方との関わり方のことが多くできました。



学校へ宿泊することが、楽しみな児童もいれば、不安な児童もいました。親から離れることへの寂しさで涙を流す子もいました。すると、隣で寝ている友達が背中をさすってあげたり、「大丈夫だよ、みんないるから」など優しく声をかけ励ましていました。



いただき
マスカット



〔八重東小学校〕

いよいよ3泊4日の民泊体験学習が始まりました。初めの会の後、早速夕食作りに取り組みました。夕食のメニューは、ウインナーカレーライスとカラフルサラダでした。みんなで役割分担をし、力を合わせて最高においしいカレーライスとサラダを作りました。たくさんお代わりして食べました。

そろそろゆで上がったかな？



野菜たっぷりの
ウインナーカレー。





役割分担をして調理をしよう。



自分たちで作った夕食は最高!!

片付けの後は、これからの民泊体験活動に向けて、5年生の結束を高めるためにレクリエーションをしました。ジャンケンゲームや時間当てゲーム、テレパシーゲーム等でとても盛り上がり、夜の校舎に笑い声が響き渡りました。友達と思いを一つにしたときの楽しさや喜びを味わい、始まったばかりの体験学習への意欲がさらに高まりました。



何を出せば勝てるかな?



僕の思いが届くといいな。

〈 第2日目 (7月12日) 〉

2日目は豊平中央公民館に移動し、交流会がいよいよ始まりました。開会式後、まずはお互いの人間関係づくりです。まず、お互い歌を歌って学校の紹介をしました。その後、活動班に分かれてアイスブレイクを行いました。フラフープを使ってくぐっていくゲームや誕生日チェーン、ホワイトシート列車、じゃんけんなどをしました。中でも一番盛り上がったのはホワイトシート列車です。ホワイトシートの上に班全員が乗り、シートを動かしながら

前に進んでいくゲームです。最初はどやうやって進んでいいのかわからず、どのチームもゴールするまでに5分近く時間がかかりました。しかし先生チームは43秒でゴールをし、先生チームが優勝しました。それに納得のいかない子供たちは「もう一度やりたい」と勝負を挑み、第2回戦が行われました。この活動を通して、他校の友達と作戦を考えたり、体がくっついたりすることでグッと距離が縮まり、どこかぎこちなかった笑顔が満面の笑みに変わりました。



昼食は、活動班ごとに食べました。様子を見ていると、同じ学校の友達と話すより他校の友達と話している子が多く、すっかり打ち解けている様子がみてとれました。

午後からは民泊家庭との対面式です。「どんな方なんだろう」「どんな体験できるかな」と不安と楽しみが入り混じっていました。しかし、民泊家庭ではウェルカムボードを用意してくださったところもあり、自分達をあたたかく迎えてくださったことに感激していました。また、そうめん流しや花火なども準備していただき、民泊家庭の方と話もはずみ、楽しい時間を過ごすことができました。

〈 第3日目 (7月13日) 〉

3日目は、大暮養魚場でアマゴのつかみ取りをしました。朝から雨模様で心配なスタートとなりましたが、徐々に雨が上がり思い切りつかみ取りを楽しむことができました。

まずは、たくさんのアマゴが元気よく泳いでいる姿を見ながら、アマゴの育て方についての説明を聞きました。時間と手間をかけ、活きのよい「芸北アマゴ」

が育てられていることを知りました。

次に、アマゴを焼くための炭をおこしました。何度も火をつけ直したり、うちわで扇いだり、みんなで考えを出し合い試行錯誤しながら炭をおこしました。その後、「命をいただく」ことについて、地元の方の話を聞きました。普段何気なく言っている「いただきます」の言葉の

意味についても教えていただきました。

続いてアマゴのつかみ取りです。水の冷たさに驚きながらも一生懸命アマゴを追いかけました。いとも簡単に次々とアマゴをつかむ子供、逃げられて悔しがる子供、友達につかみ方を教わる子供等、いろいろな姿が見られました。班で協力して、人数分のアマゴを捕まえることができました。



たくさんのアマゴにびっくり！



やっと火がついた！



岩の陰にかくれているよ！



焼きたてのアマゴは最高！

獲ったアマゴは割り箸で内臓を取り、塩をまぶして炭火で焼きました。魚が焼けるいいにおいが広がり、一気におなかすいてきました。おむすび、味噌汁と一緒に食べる焼き立てのアマゴの味は最高でした。何分か前まで生きていたアマゴをつかみ取りし、自分で内臓を取り、焼いて食べるという体験は初めてで、先ほど聞いた話のまさに「命をいただく」を実感することができました。

〈 第4日目 (7月14日) 〉



4日目は龍頭山へ登山です。登りながら、インストラクターの方に龍頭山のことを教えて頂きました。龍頭山には途中、滝がありました。子供たちはその滝を見た瞬間、疲れが吹っ飛びました。滝の下にもぐらせてもらい、水しぶきで涼しみ、やる気復活です。しかし、それでも登り始めると暑さにもやられ、「疲れた」「もう無理」などのマイナス発言が聞こえてきました。そんなとき、助けてくれたのは他校の友達でした。背中を押してくれたり、手をつないで引っ張ってくれたり、声をかけてくれたりしました。「疲れた」と言っている子に対してただ「がんばれ」だけではなく、考え方を改めて「疲れたほうが頂上についたときのお弁当がよりおいしいよ」と、今がんばれば、どんなよいことが待っているのかを教えてくださいました。そうして協力し合いながら、全員無事に登りきることができました。がんばって登って見た頂上からの景色は最高でした。もちろんお弁当もおいしく食べられました。

お別れ式では、民泊家庭の方と一緒に焼印を作り、登山の話や2泊3日の思い出話をし、なごりを惜しみながらお別れをしました。



もう少し
だから
がんばれ!!



頂上から
ヤッホー!!



【民泊体験】

大暮養魚場を後にして、それぞれの民泊家庭に向かいました。民泊家庭では、農作業や夕食作り、動物の世話など様々な体験をさせていただきました。これまでしたことがある活動も初めての活動も、民泊家庭の方々の思いのこもった“特別”の活動でした。



温かく迎えてくださり
ありがとうございます。



おいしそうな野菜がいっぱい!

笑顔で温かく迎えていただき、忘れることのできない思い出を作ることができました。心から感謝します。

【民泊体験活動 Cグループ】 (壬生小・大朝小)

〈第1日目(7月19日)〉

〔壬生小〕

19日(火)3泊4日の民泊体験活動がスタートしました。初めの会の後、3泊4日の活動の流れを確認し、早速夕食作りをしました。夕食のメニューは、牛丼・キャベツもみ・すまし汁でした。八つのグループに分かれ、それぞれのグループで決めた役割分担に沿って、夕食作りを行いました。すまし汁に入れるしょうゆの分量を間違えるというハプニングもありましたが、「水を入れて薄めると大丈夫!」と、臨機応変に対応し、美味しい夕食を作ることができました。自分たちで作った夕食は、特別おいしく、4升炊いたご飯は、あっという間になくなりました。



豆腐はさいころぐらいの大きさに切るんだっただね。手を切らないようにそーっとね。



たまねぎの厚さは同じようにするんだっただね。ぱっちりだね!



みんなで食べると美味しいね☆味付けも分量もぱっちり、次はおうちでも作ってみようかな?

夕食の後は、アザレアに行き、温泉に入りました。一般のお客さんもおられるので、マナーを守り、4人ずつ順番に入りました。温泉に入った後は、1日の振り返りをし、就寝準備をし、2日目からの活動にそなえて寝ました。

〔大朝小〕

19日(火)、午後から出発式を行って民泊体験活動スタート。みんなで大塚ふれあいセンター(旧大塚小学校)に移動し、2グループに分かれて早速夕食の夏野菜カレーとサラダ作りに取り掛かりました。野菜はそれぞれが家から持ち寄った新鮮な夏野菜たち。サラダは1学期の家庭科で学習したことをしっかり生かして作りました。味付けはマヨネーズを用意していたのですが「先生、ドレッシングを作るので酢と塩と胡椒をください。それがあれば作れますよ。」と言ってきて、自分たちの記憶と舌でとてもおいしいドレッシングを作っていました。

カレーもご飯もサラダもとてもおいしくて全て完食!



野菜、切りすぎたかな?

自分たちでこんなにおいしい夕食が作れるなんてすごいわ。家でも作ろ〜っと!



夕食後はB&G大朝海洋センターのプールで泳ぎました。さっぱりしたところで1日の振り返りをし、翌日からの活動に備えて寝ました。

〈 第2日目 (7月20日) 〉

20日(水)朝、
壬生小学校・大朝
小学校の2校がバス
で合流し、芸北文化ホールに
向かいました。到着後すぐに
開会式をし、各校の学校紹介
をしました。



北広島町のよさや友だち
のいいところをたくさん
みつけましょう。



大朝小学校で磨いている四
つの玉。一つは(さ)いごまで
やりきるねばり玉



開会式後は活動班に分かれて人間関係づくりを中心に交流会
をしました。自己紹介をし、つないだ手を離さないで次々と出さ
れる課題をみんなで解決していくゲームをしました。みんなが自
然にさっと手をつなぎ、どうしたらうまく課題を解決できるかを
みんなで考え、声を掛け合って活動しました。班の役割分担やめ
あてを相談して決め、プラカードに書く頃にはみんな仲良くなっ
ていました。各班の発表では、発表のし方に班ごとの工夫が見ら
れ、それぞれの違いや良さを感じることができました。



手をつないだまま立つよ！
みんないい？

この班の
みんなと
がんばるぞ！



対面式も終わっていいよ民泊家庭の方といっしょにわくわくしながら民泊先へ！

これからお世話になります。
よろしくお願いします！

よろしくね。楽しみに
待ってたよ。

さっき掘ってきたじゃがい
もでこれから夕ご飯のコロ
ックを作るんだ。



〈 第3日目 (7月21日) 〉

21日(木)朝、各受入家庭よりバスで大暮養魚場に到着しました。養魚場の方から活動の説明を受け、炭火起こし、アマゴのつかみ取り・割りばしを使っての内臓の取り出し・炭火での塩焼きをし、おいしく頂きました。



養殖している魚は、アマゴ・サーモンなどだよ・・・

とても楽しみです。よろしくお願ひします。

炭火は、班で工夫して起こすんだよ。魚の命を頂くんのだ。



ええと・・・新聞紙の上に杉の葉を置いて、マッチをすって、火がつくと、小枝を入れ、よく燃え出したら炭を入れるんだな。成功、成功。

二つの班が協力して炭火を起こしました。

マッチ・新聞紙・杉の葉・小枝・木炭を準備してもらい、自分たちで工夫して火をつけました。養殖している魚を見ながら説明を受け、いよいよアマゴのつかみ取り。逃げかくれするアマゴを追いかけ、楽しんでつかんでいました。「ここにいるよ。」と声をかけ、つかめない人を助けるやさしい人もいました。つかまえ終わると、割りばしを使って内臓を取り出し、炭火で焼いて食べました。おいしくて楽しく、そして命の勉強にもなった活動でした。

大暮養魚場のみなさん

ありがとうございました。



アマゴは瀬戸内海水系ヤマメは日本海水系だよ



えさがふってきた。さあ食べよう。すごいでしょ、水しぶき

さあ、つかまえる。アマゴさん、ごめんなさい。

内臓を取り出した後は、くしにさして・・・



さあ、おいしく焼けたぞ。残さず食べてくれよな。俺たちの命を



うまい。アマゴさんの命、しっかり頂くからね。ありがとう。

〈 第4日目 (7月22日) 〉

22日(金)朝、各受入家庭よりバスで登山口に到着後、登山を開始しました。4名の芸北トレッキングガイドのみなさんから、一面に咲くリンドウの花などの名前を教えてくださいながら、雲月山山頂をめざしました。



今日は、約4時間の行程です。
声をかけ合って登りましょう。



急な下りは怖かったけど、ゆっくり安全に気をつけながら下りました。この写真は、広島県と島根県の県境をまたいでいるところです。



山頂からの景色は最高でした！
しかし、日本海はかすんで見えませんでした。
残念！

民泊体験活動も今日で終わりです。川に連れて行ってもらったり、木登りを教えてもらったり、普段の生活では体験できないことをたくさんさせていただきました。本当の家族のように接していただき、思い出の多い2泊3日になりました。

お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。



また、会おうね。楽しみにしているよ。

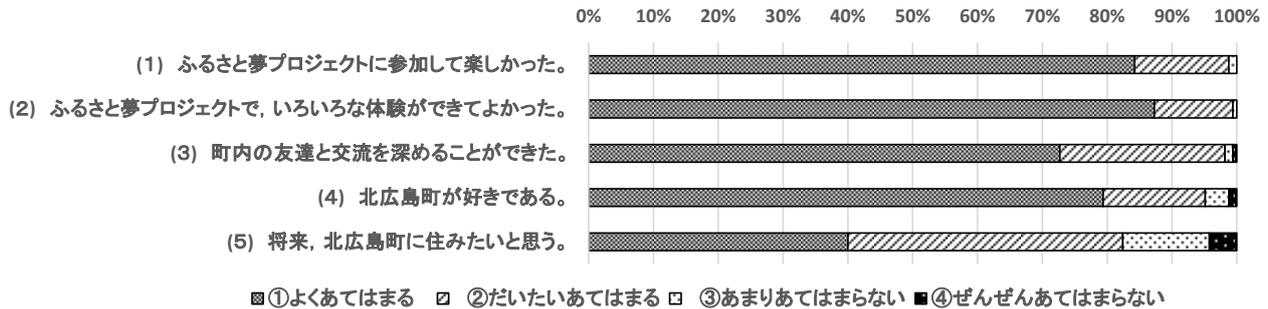


北広島町の自然を思い切り満喫しました。
また来たいです。ありがとうございました！



プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果

北広島ふるさと夢プロジェクト事業(5年)宿泊体験活動児童アンケート



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください。

芸北小学校

- ①みんなでいろいろな体験ができたこと。(5)
- ②民泊体験では竹を使っていろいろなものが作れるんだと思った。(2)
- ③民泊家庭には、小さな子が2人いたので、挑戦科でのつくし保育園の経験がいかされた。(2)
- ④おもち作りをしたのが心に残った。
- ⑤知らない人と過ごすのはドキドキしたけど、楽しかった。

- ⑥アイスクリームを食べたり温泉に行ったりしたのが楽しかった。
- ⑦自分の中でやり遂げられたことが成長したことだと思う。
- ⑧普段できないことができて良かった。
- ⑨自分なりの目標をもってできた。
- ⑩お手伝いができた。
- ⑪竹林にはいったこと。

大朝小学校

- ①いつもはなかなかできない田舎暮らし体験やしたことのない経験ができて楽しかった。(8)
- ②これからもっと家族の手伝いをしようと思った。(2)
- ③民泊家庭でとてもやさしくしてもらってうれしかった。
- ④民泊家庭のロケットストーブでカレーを作ったのが楽しかった。

- ⑤畑の仕事や野菜の収穫など、家ではできないことができてうれしかった。
- ⑥自分でいろいろ試してみても母親の大切さが分かった。
- ⑦寂しくて家の人に会いたくなかったときがあった。

新庄小学校

- ①畑仕事をしてじゃがいもときゅうりを収穫した。(3)
- ②民泊家庭の人がいろいろ仕事をさせてくれた。めんどくさいことも楽しめた。(2)
- ③ピザ作りが楽しかった。ピザを食べておいしかった。(2)
- ④民泊家庭の人と夕食を作ったことがとても心に残っている。ご飯がおいしかった。(2)
- ⑤家の周りとはあまり変わらない風景だった。すべて家でできることだった。(2)

- ⑥ピザ釜があったので、生地から作った。一度も食べたことのない味だった。
- ⑦みんなと過ごせてよかった。
- ⑧田舎暮らしとか言っているけど、思ったより田舎ではなかった。
- ⑨田舎暮らしの体験では、自分の家だと思って行う。「え～」などと言う前に言われたことを先に言う。
- ⑩きゅうりがすごく大きかった。
- ⑪草を集めて焼くのが楽しかった。

川迫小学校

- ①民泊家庭のおばあちゃんに昔ながらのさくらもちの作り方を教わったり、おじさんにいろいろなど昔の家の事をたくさん教わったりして、昔の暮らしに興味があった。

- ②私は30分畑にいるだけで、もうクタクタだけど、私のおばあちゃんは、ほぼ半日畑仕事をしているのですごいと思った。

八重小学校	
<p>①民泊先の方がとても優しくかった。(6) ②普段できない体験が沢山できたのでよかった (3) ③田舎や自然のよさを感じた。(3) ④ものづくり(火吹き)体験で、のこぎりの使い方が分かってよかった。(2) ⑤ものづくり体験でいろんな道具を使えてよかった。(2) ⑥収穫したじゃがいもを、翌朝食食べることができてよかった。(2) ⑦蚊帳で寝たのが新鮮だった。(2) ⑧家族のように接してくださり、すごく嬉しかった。お母さんの気持ちが分かった気がした。 ⑨自分のおばあちゃんの家みたいで安心した。 ⑩いろいろと勉強になる話をしてくださった。 ⑪キウイが木になることをはじめて知った。 ⑫草取り等、農業の大変さを知った。 ⑬虫刺され等で薬の使い分けを知りよい経験になった。</p>	<p>⑭農業体験から、野菜のありがたみがわかった。 ⑮同じ田舎でも、知らないことが沢山あって、よい経験になった。 ⑯他人の家に泊まることが初めてだったので、よい経験になった。 ⑰そうめん流しやいろりに火をつけ過ごしたことが新鮮だった。 ⑱ごはんを一緒につくることができて楽しかった。 ⑲天体望遠鏡で星を見たのが貴重な体験だった。 ⑳虫やセミの鳴き声がきれいだった。 ㉑とろてんづくりが楽しかった。 ㉒じゃがいもや落花生を植えられてよかった。 ㉓七輪で焼き鳥をしたのがよかった。</p>
八重東小学校	
<p>①やったことのない体験をしてうれしかった。(薪割り、五右衛門風呂)(4) ②民泊家庭でグラウンドゴルフをしたのが楽しかった。(2) ③自分でいろいろなことをしなければならなかった。親の大切さを感じた。(2) ④田舎暮らしは、ちょっと不便で大変だと思った。(2) ⑤野菜の収穫が大変だった。 ⑥野菜の収穫が楽しかった。 ⑦友達に進んで声をかけられるようになったのがうれしかった。</p>	<p>⑧活動するとき、丁寧に説明して下さって分かりやすかった。 ⑨今まで、川で泳いだことはほとんどない。川で泳いだのが楽しかった。 ⑩民泊で、ロケットストーブに火をつけるのが難しかった。 ⑪景色がきれいで、空気がおいしかった。 ⑫民泊での料理の手伝いがとても楽しかった。 ⑬民泊家庭の人がやさしく接してくださった。話をするのが楽しいと思った。</p>
壬生小学校	
<p>①民泊で、野菜を収穫したり、料理をしたりしたことが心に残った。(8) ②民泊で、竹細工(はし作り、おわん作り)をするのが楽しかった。(4) ③民泊で、畑の野菜を手でぬいたことが少ししかなかったので貴重な体験になった。(3) ④民泊で、木登りをしたのが楽しかった。(2) ⑤民泊家庭の方と話をしたり、なかよくできたり、やさしく接してくださったので嬉しかった。(2) ⑥民泊の家で、おばさんとおじさんがよいことはほめてくださって、いけないことはいけないと注意をしてくださったのでとても勉強になった。(2) ⑦むらさき色のジャガイモがあることを初めて知った。(2) ⑧民泊でまき割りをして、「おの」や「なた」ですばっと切れたから気持ちがよかった。</p>	<p>⑨自然の山や木に囲まれて生活をしていて、「山や木は大切な自然だから、よごしたりゴミをすてたりしないようにしましょう。」と思った。 ⑩ご飯を作るときにとっても大変だったので、もっとお母さんに感謝しないといけないと思った。 ⑪民泊家庭で掃除を協力して出来たので、家でも掃除をするようになった。 ⑫民泊で、民泊の家の方と一緒にたくさん話ができ楽しかった。 ⑬民泊家庭の方に、山に連れて行ってもらったり、花火をさせてもらったり、民泊家庭の方とアイスを一緒に作ったりするのが楽しかった。 ⑭民泊で、取れたての野菜を食べることができたのでよかった。</p>

本地小学校	
<p>①普段できないことができてよかった。(3)</p> <p>②田舎暮らし体験では、いろいろな経験ができてよかった。(2)</p> <p>③家族の人が毎日大変なことをしていることがわかった。(2)</p> <p>④たまねぎを取って大変だったけど楽しかった。</p> <p>⑤自分の家ではないのでドキドキした。(2)</p> <p>⑥楽しかった。もっとやりたい。(2)</p> <p>⑦知らない人の家に行くと思ってこわかったけど、とてもやさしい人だったのでよかった。</p> <p>⑧いろいろな人と友達になれた。</p>	<p>⑨自然がいっぱいでいろんなことが見つけれられた。</p> <p>⑩アマゴの取り方を教えていただいた。</p> <p>⑪つりで、えさを焼きそばとこいのえさをまぜ、だんごじょうにしたのがおどろいた。</p> <p>⑫班の中でも友達との関係が深まった。</p> <p>⑬お手伝いが家でもできればいいな、と思った。</p> <p>⑭自分達でとった野菜で料理を作った。</p> <p>⑮友達と協力してできた。</p> <p>⑯民泊の人と話せるようになった。</p>
豊平小学校	
<p>①家ではできないことができたのでいい体験になった。(木登り、らっきょうほり、竹とんぼづくり、はしづくり、農作物の収穫、甘酒作り) (10)</p> <p>②自然館見学等を通して、命の大切さや生き物のことがわかった。(3)</p> <p>③民泊先の方があたたかくむかえ入れて下さってうれしかった。とても優しくかった。(3)</p> <p>④みんなが楽しくするために先生たちががんばってくださっていたので感謝の気持ちでいっぱいになった。</p>	<p>⑤わらびやごみなど、いろいろな山菜や野菜をとらせていただいて、どんな特徴があるかがわかった。</p> <p>⑥シートの中に布団を一人で入れるのはとても難しいと思った。</p> <p>⑦民泊で手伝いやリュックの準備をして、お母さんの大変さが分かった。</p> <p>⑧北広島町が好きになった。</p> <p>⑨民泊では自分の自由にはできないから、自分のものは自分で管理するという責任感を持つことを学んだ。</p>

川魚つかみ取り体験・登山をして、心に残っていることはどんなことですか	
芸北小学校	
<p>①命のお話が心に残った。(4)</p> <p>②登山では、こまが滝を見たこと。(3)</p> <p>③山頂のパノラマ風景(3)</p> <p>④登山の時に誰かが疲れたら「大丈夫？」と声をかけてあげていたこと。(2)</p> <p>⑤川魚つかみ取り体験では、アマゴをたくさんつかめた。</p>	<p>⑥ルールを守れた。</p> <p>⑦アマゴを5匹つかまえたこと。</p> <p>⑧登山では、話をしながら楽しくできた。</p> <p>⑨民泊家庭でいろんなものを食べたこと。</p> <p>⑩アマゴをつかまえられなくて悔しかった。</p>
大朝小学校	
<p>①自分の手で魚を捕まえて感動した。みんなにも応援してもらってうれしかった。(4)</p> <p>②魚をさばくときちょっといやだったけど自分でさばいて食べることができて良かった。(4)</p> <p>③登山のとき、途中でしんどかったけど頂上までのぼって下ることができてよかった。これからはなにかをするとき最後まであきらめずにがんばろうと思った。(3)</p> <p>④魚のつかみ取りのとき命のお話を聞いたのが心に残っている。これからは食べ物を残さないようにしようと思った。(2)</p> <p>⑤魚のつかみ取りも登山も壬生小と合同の活動班のみんなと協力してできたことが心に残った。(2)</p>	<p>⑥魚のつかみ取りも登山も初めてだったのでどちらも心に残った。</p> <p>⑦アマゴをつかんだときのぬるぬるした感触がまだ残っている。</p> <p>⑧登山のとき足をくじいた人のリュックをみんなを持ってあげたのが心に残った。</p> <p>⑨登山のとき、初めて見た植物もあり感動した。</p> <p>⑩サーモンのえさやりが心に残った。</p> <p>⑪壬生小の友だちがたくさんできてうれしかった。</p>

新庄小学校	
<p>①魚のつかみ取りでは、一つの命でも価値は大きいことを学んだ。</p> <p>②みんながぼくの魚を取ってくれたからうれしかった。</p> <p>③魚がつかまえられなかったのが悔しかった。</p> <p>④おもしろい内臓のとり方だった。</p> <p>⑤4班と5班が火おこしをして火がついたのでよかった。</p> <p>⑥命のお話を聞いて魚の内臓を取るのがとてもかわいそうだった。でも最後までおいしくいただいた。</p>	<p>⑦3匹アマゴをつかまえてみんなで食べたことがうれしかった。</p> <p>⑧昼食がよかった。</p> <p>⑨初めてアマゴを食べてちょっと苦かった。</p> <p>⑩山では、苦労して食べたお弁当は最高だった。</p> <p>⑪高杉山の山頂からの景色は絶景だった。</p> <p>⑫協力して登ったこと。</p> <p>⑬協力や声かけは大事。</p>
川迫小学校	
<p>①登山では、ガイドの人が花の名前や毒を持った草などのクイズで教えてくれてとても楽しかった。(2人)</p> <p>②命の大切さがわかった。</p> <p>③私は取ろうとしたが逃げて一匹きも取れなかったが、班の人が取ってくれたから優しいなと思った。</p> <p>④川魚掴み取り体験では、炭火をおこすのに自分のすったマッチで火がついたこと。</p>	<p>⑤つかみ取りで、自分は2匹しか取れなかったけど、9匹も取っている人がいてびっくりした。</p> <p>⑥とても急な山だったけどみんな全員登りきったこと。</p> <p>⑦登山をしてつらかったけど、無事頂上に到着できたし、景色がすごくきれいだった。</p>
八重小学校	
<p>①命の話聞かせてもらい、心を改めました。(5)</p> <p>②山に登りきった達成感と、山頂で食べるお弁当は最高だった。(5)</p> <p>③色々な花や植物を教えていただけた。(5) 命をいただいているという気持ちを学ぶことができた。(4)</p> <p>④登山はきつかったけれど、景色が最高だった。また登ってみたい。(4)</p> <p>⑤斜面が急で大変だった。(3)</p> <p>⑥美しい景色が印象的だった。(3)</p> <p>⑦仲間がいたから最後まで登れた。(2)</p> <p>⑧アマゴの見分け方が分かった。(2)</p>	<p>⑨山登りのとき、「がんばれ」「あと少し」と声をかけてもらえて嬉しかった。</p> <p>⑩みんなで協力して登山できたのがよかった。</p> <p>⑪苦労して一つの目標を成し遂げたのは初めてだった。</p> <p>⑫友達ができた。</p> <p>⑬アマゴ取りの時、アドバイスをしてもらえて嬉しかった。</p> <p>⑭アマゴが石の下に隠れることがわかった。</p> <p>⑮アマゴを一匹も捕まえられなかった。</p> <p>⑯割り箸で内臓を取り出すのが初めての体験だった。</p> <p>⑰初めて魚をさわった。</p>
八重東小学校	
<p>①命の話が心に残り、命の大切さを知った。(5)</p> <p>②登山のとき景色がきれいで、滝の川魚をつかむと水が散り、気持ちよかった。(3)</p> <p>③川魚のつかみ取りで、友達と協力できてよかった。(2)</p> <p>④アマゴを2匹とって楽しかった。</p> <p>⑤他の学校の友達と仲良くなれてよかった。</p>	<p>⑥「いただきます。」とは命をいただくことだということが心に残った。</p> <p>⑦アマゴの内臓をとるのが心に残った。</p> <p>⑧アマゴを捕まえるのが難しかった。</p> <p>⑨アマゴを焼く火をつけるのがたいへんだった。</p> <p>⑩登山は、坂が急で階段もありがたいへんだった。</p>
壬生小学校	
<p>①アマゴは、ぬるぬるしてとりにくかったけど、みんなと協力してとることができた。(7)</p> <p>②いろいろな草や花の名前が分かった。(6)</p> <p>③最後まであきらめず、協力して登ることができたのでよかった。(6)</p> <p>④ヤマメとアマゴの見分け方が分かった。(3)</p>	<p>⑪いろいろな花を見てきれいだなと思った。</p> <p>⑫急な坂を登って楽しかった。</p> <p>⑬高いところから遠くの山を望遠鏡で見て、風車を見つけたことにびっくりした。</p> <p>⑭頂上の景色がきれいだった。</p> <p>⑮養殖場の仕組みがわかってよかった。</p>

<p>⑤つかれたときに友だちが元気づけてくれたので元気が出た。(2)</p> <p>⑥川魚をつかまえて食べたのが楽しかった。(2)</p> <p>⑦とても距離が長くて大変だった。(2)</p> <p>⑧アマゴのスピードが速くてとりにくかった。(2)</p> <p>⑨アマゴがとてもかわいかった。</p> <p>⑩軍手をかまれて「あごの力が強い」と思った。</p>	<p>⑯レモンサーモンにえさをあげたときに飛びついてきたことが心に残った。</p> <p>⑰火起こしですぐに火がついたのでよかった。</p> <p>⑱アマゴなど魚は岩の下やすきまにいることがよくわかった。</p> <p>⑲「いのち」について話をしてもらったことが心に残った。</p>
<p>本地小学校</p>	
<p>①助け合いながら山登りをした。(4)</p> <p>②魚がいっぱいつかまえられてとってもうれしかった。(3)</p> <p>③登山にはあまり興味が無かったが、上から見る景色はとてもきれいだった。(3)</p> <p>④最後までやりとげた。(2)</p> <p>⑤魚を友達が取ってくれてうれしかった。</p> <p>⑥命の大切さを感じた。(2)</p> <p>⑦アマゴがおいしかった。(2)</p>	<p>⑧登山で「努力」ということを身をもって体験した。(2)</p> <p>⑨登りきったとき、うれしかった。(2)</p> <p>⑩アマゴの内臓を取るのがかわいそうだった。</p> <p>⑪山登りで最後のところが急な坂で降りるのがこわかった。</p> <p>⑫いろいろな草木の名前がわかった。</p> <p>⑬自然を大切にしないといけないと思った。</p> <p>⑭「どれくらいとれた？」と聞きながら魚を取れた。</p>
<p>豊平小学校</p>	
<p>①みんなで協力して登山をしたこと。(6)</p> <p>②魚をつかむのが大変だった。(4)</p> <p>③山が急ですごく登るのが大変だった。(4)</p> <p>④とった魚を焼いて食べたこと。(4)</p> <p>⑤川魚のつかみ取り体験で、命の大切さを知った。食べる時、食べ終わったときなど、心をこめて「いただきます」「ごちそうさま」を言いたいと思った。(3)</p> <p>⑥川魚のつかみ取り体験で、とれない友達に自分が教えてあげたらとることができた。</p>	<p>⑦登山でつらいときに、他の学校の友達と励ましあいながら登った。班の友達とも仲良くなって、また会いたいなと思った。</p> <p>⑧高杉山の頂上からの景色がきれいだったこと。</p> <p>⑨登山であきらめない心を学んだ。</p> <p>⑩協力や命の大切さなどを学んだ。</p> <p>⑪登山のとき、登る山が急で少し怖かった。</p> <p>⑫アマゴとヤマメの違いや住んでいる川も分りおもしろかった。</p> <p>⑬頂上で班ごとにお弁当を食べたこと。</p>

友達の大切さを学んだ体験活動

芸北小学校 梶原 楓

私はこの民泊を通して学んだこと、思ったことは六つあります。

一つ目は、私は支え合うということ学びました。私たちは民泊家庭に着いたら田舎寿司を作りました。その田舎寿司は、豊平に住む一人暮らしのおばあちゃんたちに持って行ってあげるために作りました。田舎寿司をもらったおばあちゃんたちは、どの人もすごく嬉しそうでした。私は喜んでおばあちゃんたちを見て、私もこんな活動を日頃からしてみようと思います。

二つ目は、命の大切さを学びました。二日目、私たちはアマゴのつかみ取り体験をしに大暮養魚場まで行きました。その時、片桐さんが命の話をして下さいました。その話の中に「みんながつかむアマゴにも小さなアリにも大きなゾウにも同じ大切な命があるんだよ。」そう話して下さいました。私はそういうことを深く考えたことがありませんでした。ほかに「いただきます。」「ごちそうさまでした。」の一言には、大切な意味が込められていることを知り、私はこれから今まで以上に心をこめて言いたいと思います。

三つ目は、龍頭山に登ったことです。私は最初余裕で登っていました。でも、急な階段を登っている時、ヤルッシーが三分の一に減ってきて、へなりんになりそうな時、同じチームの友達が背中を押してくれたり「がんばれ。」と言って、励ましてくれました。だから最後までへなりんになりませんでした。

四つ目は何事にも熱心にとということです。アマゴのつかみ取り体験をしたとき、はじめ、私は全くつかめませんでした。岩に手をいれるとピクツとして手にはあたるんだけど、するっと逃げていってしまいます。「だめだ。」と思った時、「かえちゃんががんばれ。」と校長先生が応援して下さいました。私自身も「よしっ。」と思ってヤルッシーになれました。そしてやっと一匹つまかえることができました。

五つ目は、プラス思考に考えるということです。私はマイナス思考に考えてしまうことがあります。だから登山の時は、へなりんになるはやさが早くて、結構疲れて、ずーんとしていると友達が「今は疲れているけど、疲れたほうがお弁当おいしいよ。」とプラス思考で励ましてくれました。私はその言葉をかけられた時、すごく嬉しくなりました。「よし、がんばって山頂でおいしいお弁当を食べよう。」と思って、すごくやる気になりました。

六つ目は、感謝の気持ちです。三泊四日の民泊にかかわって下さった方にありがとうが言いたいです。

民泊先の方には、普段家ではお母さんやお父さんがしてくれていることをすべてお母さんたちの代わりになって準備して下さいました。お風呂や布団の準備、流しそうめんの竹を前もって用意して下さいたりと私たちのことを考えて下さったことがよく分かりました。

他にも大暮養魚場で命の大切さやアマゴの特徴を分かりやすく話して下さいました片桐さん。龍頭山、森の案内人をして下さった竹内さんたち。他にもいろいろ

なことに協力して下さった方々に感謝をたくさんしていきたいと思います。

私がこの民泊を通していろいろな体験をさせていただき、こんな私になりたいということがまた新しくできました。それは感謝されるような自分になりたいです。だから、このことを思い出してお手本にしたいです。

協力することの大切さを学んだ民泊体験

芸北小学校 田村 優月

私は民泊が始まる前は、楽しみな気持ちでいっぱいでした。少し不安もあったけど楽しみな気持ちがほとんどでした。

一日目、いよいよ始まって夕ごはんを作る時、いつもだと難しいことは家族がやってくれます。座っていても出てくるけど、今日はそうはいきません。みんなで協力して全てのことをしないとイケません。まず一番に班で役割分担をしました。役割分担をすると、早くできるし困ることがなくなり、役割分担の大切さを学びました。それからオークガーデンに行ってお風呂に入りました。草取りをしたので特別に無料で入らせてもらいました。お風呂ではいつもと違って、みんなで入ったり、場が違いました。だから周りの方に迷惑をかけるはいけません。お風呂ではルールを守って入れたと思います。そして学校に帰るとご飯です。部屋に入った途端にいいにおいが広がっていました。みんながんばった分だけお腹がすいて、おいしく食べることができました。「がんばったらいいことがあるな。」と思いました。その後、片付けです。次に使う人のためにきれいにしておかないといけません。ここでも役割分担をしました。いつも食器洗いは一人でやる人が多いので大人数でやると、協力しないと早くすることができません。協力はいつでも大切だと思いました。今日の振り返りは自分をしっかり振り返って明日の自分にいかしたいです。

二日目、まず朝ごはんです。みんなで協力して準備しました。あまったものは食べられる人で分けて、食べきりました。これもみんながいるからできたことです。そして使ったところをきれいに掃除して学校を出ました。出る前、みんなではないかもしれないけど、慌てて物を探したり、物をなくしたりする人がいました。だから整理整頓をいつでもしておかないといけないということを学びました。そして、学校を出て、八重東の人との交流です。各学校の紹介で芸北の空を歌いました。いい発表ができたと思います。交流の遊びの中で一番心に残っているのは、ホワイトシートです。このゲームはホワイトシートから落ちずに、どれだけ早くスタートからゴールまでできるかというゲームです。私たちははじめ、先生たちにすごい差をつけられて負けてしまいました。でも私の班は、先生たちのゲームを見て、作戦を立てて、二回目は一位になりました。その作戦の一つは、折れているところはなるべくなくすことです。私たちは最後まで悩んで二回目のチャレンジをすることを決めました。でも結果はやってよかったと思いました。その二回目をやったことで新しいことを学べ、みんなと仲良くなれたからです。その後、いよいよ民泊家庭の方と出会う時です。少し緊張していましたが、原田さんが入ってこられて目が合った時、笑顔

で接して下さいました。初めて話した時も緊張を和らげるような言葉をかけて下さいました。また、原田さんは芸北にもよく来て下さるそうで芸北のことをよく知っておられました。私たちの家も説明すると分かってもらえました。原田さんのお家に着いた時はお家が大きくてビックリしました。そして原田さんのお家に着いて巻き寿司を巻きました。巻き寿司を作るのはほとんど初めてで、なかなかうまく巻けませんでした。そんな時、優しくアドバイスをして下さいましたのが嬉しかったです。そしてあやちゃん、ゆいちゃんも手伝ってくれて巻き寿司もおいしくできました。作った巻き寿司を持って、一人暮らしのおばあちゃんの家に渡しに行きました。みなさんととても喜んでくださり、私たちも嬉しかったです。夕食の時、家族のみなさんにも「おいしい」と言っていて安心してました。夜に花火をしました。小さい子がいたので挑戦科の園児さんとの交流がいかせたのでよかったです。この日は積極的にという一つの目標が達成できたと思います。

三日目、大暮養魚場で釣りをしました。本当はつかみ取り体験をするはずだったけど、体調を崩してできませんでした。養魚場でつかみ取りをする前に火をおこしました。これも挑戦科でやっていましたが、前に出てしきることができませんでした。それから釣りをしました。初めてで分からなかったけど、みなさんが細かく教えてくださったので嬉しかったです。うまくできるようになりました。そして、はらわたを取る時、まだ生きているアマゴのはらわたを取るの本当に命のありがたさを感じました。アマゴはおいしく、きれいに食べきりました。全て楽しかったけど、その中で心に残っているのは命の話です。魚一匹一匹にも人間と同じように一つ一つ命があるということです。だから「いただきます、ごちそうさまでしたをしっかりと言う」と「きれいに食べる」ことをがんばりたいです。その夜は、そうめん流しでした。竹で流すことは久しぶりで、おいしく感じました。そして私が誕生日だったので、ケーキをいただきました。これからずっと心に残っていると思います。

四日目、原田さんとのお別れはとてもさみしかったけど、「近いからまたおいで。」と言ってもらって、今でもお守りになっています。

民泊はとっても楽しかったです。

声かけと協働することの必要性を学んだ夢プロジェクト

芸北小学校 岡崎 美優

私はこの民泊をとっても楽しみにしていました。なぜかは、民泊家庭の方たち、そして新しく会える友達、多くの人に会えるからです。

一日目、この日は学校に泊まりました。私がこの日学んだのは「協働する力」です。草取りや食事作りなど、一人でできないことばかりでした。でも、友達がいることでやる気ができました。「がんばろう。」という励ましがあったからです。私は友達と助け合うことで、いろいろなことを達成できるんだとあらためて分かりました。

二日目は、八重東小学校の人たちとの人間関係作りでした。この日の私の目標

は「積極的に話しかける」でした。その目標を達成するためにがんばりました。初めて出会った友達はとても明るい人たちでした。だから私もすぐなじむことができました。班の人たちとやったレクで、私が一番心に残っているのは二つあります。一つ目はフラフープくぐりで、二つ目はホワイトシート列車です。この二つのゲームはみんなと心を合わせてやったので、みんなの輪がつながったような気がしました。私は、今日の目標の「積極的に話す」は守れたと思います。

いよいよ民泊家庭の方たちと会う時です。私はわくわくしていました。でも、心のどこかに「大丈夫かな」という不安もありました。私は、民泊一日目で「挑戦科の学習は役に立つ」ということが分かりました。どうしてかは、私がお世話になった原田さんの家には小さな子が二人いたからです。四年生の時、私は挑戦科の勉強で園児さんとの交流をしました。だから、自分から進んで声をかけることができました。

三日目は、川魚つかみ取り体験でした。私がこの日学んだことは二つあります。一つ目は「声かけ」です。私は川魚つかみ取り体験は初めてだったので、はじめは全くつかまえられなくて、「もういやだ。」とへなりんになりました。そんなところを見ていた人が「ここ、いるよ。」と手伝ってくれました。私は「つかまえてやる。」とヤルッシーになりました。つかまえた時は、大きな達成感がありました。二つ目は「協働」です。アマゴを焼くために自分たちで火をおこさなければなりません。火をおこすためにみんなで「こうしたらいいよ。」という意見を出し合いました。

私は民泊家庭で学んだことが一つあります。それは、親の大切さです。日々過ごしている家では、親がご飯を作ってくれます。でも、この民泊では、自分たちで作ります。とても大変でした。でも、いつもお母さんやお父さんは仕事が終わって、疲れてからご飯を作ったりしてくれます。私は、これから今まで以上に手伝いをしたいと思います。そして、味わってご飯を食べたいと思います。

四日目は、登山でした。私がこの登山で学んだことは「声かけ」です。私は、声かけはいろいろなことに必要だということが分かりました。声かけはやる気をくれます。「疲れた。」とへなりんになっている時、「がんばれ」など言ってくれて、かばんが軽くなりました。

お別れ式では心をこめて、「ありがとうございます。」を言えました。

私はこの三泊四日の民泊で学んだことは二つあります。一つ目は、声かけは大事ということです。声かけはやる気が出るということが分かりました。二つ目は、「協働」です。一人ではできないことでも、みんなとだとできるということが分かりました。

この二つの「声かけ」と「協働」を続けていきたいと思いました。

初めての民泊体験活動

大朝小学校 島田 征佳

私たちは、「北広島ふるさと夢プロジェクト」の「民泊体験活動」～北広島のよさを満喫しよう～の活動で、町内の豊平地域に民泊をしました。

一日目には、校区内の旧大塚小学校「大塚ふれあいセンター」に泊まりました。2チームに分かれてカレーを作って食べました。私たちAチームは、カレーを作っている途中

「水が多いんじゃない？」

と先生から言われてちょっとずつ水を減らしていくうちに、ちょうどいい量になりました。私は野菜を家で作ってないのでカレーに入れる野菜を持って来られませんでした。でも、チームのみんなが持って来てくれたおかげでおいしい夏野菜カレーができました。私たちが一生けん命に作ったカレーはとてもおいしかったです。その後夜のB&Gで、みんなで泳いだのも気持ちよかったです。

二日目には、芸北文化ホールに移動して壬生小学校の人といっしょになりました。人間関係作りの活動で、同じ活動班の壬生小の人たちと交流しました。活動班の中で大朝小学校は私一人だったけど、「人間知恵の輪」をしているうちに壬生小の人たちとも少し仲良くなることができ楽しかったです。

午後からは民泊家庭の人との対面式がありました。私の民泊先は小里さんのお家でした。会った時はどんな人かときんちょうしていました。でも、話していくうちにだんだんなれてきました。そして小里家に向かっている時に、窓から見える山を指して

「この山に登ると、頂上から宮島が見えるんだよ。」

と、教えてくださいました。いよいよ小里さんの家に着くと、まずとうもろこしをいただいて食べました。食べた時とっても甘かったのでびっくりしました。私の家でもこんなおいしいとうもろこしができてほしいと思いました。

三日目には、大暮養魚場で魚のつかみ取り体験をしました。私は今までに魚のつかみ取りを何回かしたことがあったけど、どうやったらうまく魚をつかまえられるのか、その方法は知らなかったのでもちゃんとつかまえられるか不安になっていました。でも、小里さんにうまくとる方法を教えてもらっていたので、前よりうまくとることができました。私が一匹しかとっていなかつたら、壬生小のみんなが

「ここにおるよ！」

と言って応えんしてくれたので、私も二匹以上とることができました。大暮養魚場の方には、アマゴとヤマメの見分け方も教えていただきました。だから私はアマゴとヤマメが見分けられるようになりました。そして、いよいよ自分ではらわたを取ったアマゴを焼いて食べる時になりました。私は、食べる時にはアマゴに「命をありがとう。残さず食べるよ。」という気持ちで食べました。アマゴはとてもおいしかったです。

四日目には、雲月山に登りました。私は初めはちゃんと安全に登ることばかり考えて登っていました。でも、登っているうちにだんだん楽しくなって周りの自然にも目を向けることができるようになりました。ガイドの方が、私たちに一生けん命に

「この花はね、こんな特ちょうがあるんだよ。」

と、いろいろな植物について教えてくださいました。私が知らなかった日本ヒキガエルがたまたま出てきたので、教えてもらい知ることができたのでよかったです。

す。そして、いよいよ頂上に着くと、うっすらと海が見えたので満足でした。私は、途中でしんどかったけど弱音をはかずに雲月山を登りきったのでがんばったかいがあったと思いました。

午後からは民泊先の小里さんとのお別れ式がありました。私は小里さんとお別れしたくなかったです。小里さんとの思い出がたくさんできて楽しかったからです。お別れするときは涙が出てしまいました。小里さんとお母さんが知り合いということも分かったのでまた会えるかなと思っています。

私はこの民泊体験活動で忘れられない思い出ができました。壬生小の人たちとも仲良くなれたし、北広島のよさも満きつできたと思います。北広島町が前よりもっと好きになりました。そして、壬生小学校にも行ってみたいと思いました。小里さんにもまた会いたいです。

人とつながれた民泊体験

大朝小学校 松本 大遙

7月19日からいよいよ「民泊体験活動」～北広島町のよさを満喫しよう～が始まりました。

一日目は、旧大塚小学校で過ごしました。家とは違う環境なので行く前は少し不安でした。ここでは2チームに分かれてチームで協力してカレーを作りました。ぼくは、にんじんやじゃがいもの皮をむきました。手を近づけすぎてけがをしないように気をつけてしました。カレーをにこんでいる間にサラダを作りました。きゅうり、ズッキーニ、トマト、にんじん、ジャガイモで作りました。ズッキーニを生で食べるのは初めてだったのでほんとおいしいのか心配だったけど、食べてみるとおいしかったです。ドレッシングも家庭科で習ったフレンチドレッシングを自分たちで思い出しながら作ってかけました。カレーもサラダもとてもおいしかったです。夜は、次の日は壬生小の人たちと交流するのでちょっと不安に思いながらねました。

二日目の朝起きてラジオ体操をしたら、朝ごはんのおむすびとみそ汁を作りました。おむすびもみそ汁もおいしかったけど、みそ汁は少し味がうすかったので失敗でした。朝ごはんを食べたら朝の集いをして旧大塚小学校を出発しました。大朝小学校からはバスに乗り、壬生小の人といっしょに芸北文化ホールへ行きました。

芸北文化ホールでは壬生小学校の人といっしょの活動班に分かれ、人間関係づくりのゲームをしながらなかよくなりました。司会の花藤先生はダジャレをいっぱい言われるので面白かったです。

昼食を食べて民泊家庭の方との対面式をしました。民泊先の中さんは最初はどんな人か分からなかったのですが、ときどきしたけど、会ってみるととてもやさしそうな人でした。話してみるととてもおもしろくてやさしい人だったので安心しました。中さんの家に行くとかわいい犬がいました。名前はクッキーでした。中さんの家で最初にしたことはポテトチップス作りです。ぼくはスライサーでじゃがいもをスライスしました。ぼくが

「たのしいなあ。」

と言ったら、中さんが

「気をつけて切るんよ。指を切らんように。」

と言ってくださったのでもっと気をつけるようにしました。その日のごはんは自分たちで収かくしたじゃがいもで作ったコロッケでした。ぼくは、ミンチをいためたり、具をコロッケの形にしたり、小麦粉をつけることをしました。作り終わって食べるととてもおいしかったです。

三日目は、川魚のつかみ取り体験をしました。ぼくはアマゴとヤマメの見分けがほとんどつかなくてどっちがどっちか分からなかったけど、大暮養魚場の人に教えてもらって分かるようになりました。アマゴは横腹に赤い点があるけど、ヤマメはないのが特ちょうだそうです。つかみ取りでつかまえたアマゴは内ぞうなどを自分でとって焼いて食べました。おいしかったです。

中さんの家に帰って自分たちでカレーを作りました。カレーはロケットストーブで作りました。ロケットのような音がする道具でした。ロケットストーブでカレーを作るのは一日目の夜のカレーとも違ってとても楽しかったです。カレーは焼きおにぎりにかけて食べました。いつもと違う作り方と食べ方で味もとてもおいしかったです。

四日目は登山でした。雲月山は高さが912メートルの山です。ぼくは登山はあまりしたことがなかったので楽しみでした。登ると中で足をくじいた人がいたけど、1・2班合同の「くり」チームのみんなが

「だいじょうぶ？リュック持ってあげるよ。」

「ぼくも持つよ。」

と、言ってみんなで協力できていてみんなやさしいなと思いました。と中でしんどくなった人もいたけどみんなで頂上まで登っておりてくれることができてよかったです。

午後は民泊家庭の人とのお別れ式でした。中さんの家ではまるで自分の家みたいに過ごせたと、家ではできないいろんなことをさせてもらって楽しい思い出がたくさんできました。だからお別れするときはとてもさびしかったです。

ぼくはこの三泊四日の民泊体験で、行く前より自分で考えて行動する力がついたと思います。また、中さんといっしょにいろんなところに行ったり、雲月山の登山をしていろんな花がいっぱい咲いているのを見たりして、北広島町はこんなに自然が豊かだったんだということを発見しました。だから、これからも自分で考えて行動するようにし、植物を大切に育て、北広島町をこれからも自然豊かな町にしていきたいと思いました。

楽しかった民泊体験活動

大朝小学校 埴 俊志宏

7月19日から、大朝小と壬生小合同の民泊体験活動がありました。ぼくらの目標は、人にめいわくをかけず、自分で考えて行動することをがんばるということでした。そのために、ぼくはこの民泊の間、人の話をよく聞いて一回で行動する

ことをがんばりました。

一日目の7月19日、ぼくはとてもわくわくしながら学校に行きました。この日は旧大塚小学校に泊まる日で、ドキドキするけどとても楽しみでした。だけど授業中にだんだんしんどくなり、4時間目の終わりには保健室でねこんでしまいました。でも熱はなかったのでがんばろうと思って何とか旧大塚小学校まで行きました。だけどカレー作りには参加できず、ぼくはただねているだけでした。そして

「いっしょにいたいだろうけど、あまり無理しちゃいけないよ。」
と言われて家に帰ることになりました。楽しみにしていたカレー作りもできず、とても残念でした。

二日目はまだちょっとしんどかったから、病院に行ってみてもらい、点てきをしました。

「もう点てきしたから民泊に行ってもいいよ。」
と、お医者さんに言われましたが、ぼくはまだ自分の体が心配だったので、その日は家で休んで次の日から参加することにしました。

三日目のアマゴのつかみ取りからぼくは参加しました。壬生小の人と初めて会うのでドキドキしました。だけどすぐ仲良くなれました。つかみ取りの前にサーモンのえさやりもさせてもらいました。えさをやると、びちゃびちゃと跳んでえさを食べていました。

「すごいなあ。」
とびっくりしました。その後、先に魚を焼くための火をおこしておいてからアマゴのつかみ取りをしました。石のすきまなどにかくれているアマゴがたくさんいました。見つけたけど取れなかったアマゴもいました。つかまえたアマゴの内ぞうをとって、おこしておいた火で焼いて食べました。おいしかったです。最初は内ぞうを取るのはいかがいそうだったけど、まもるおじいさんの「生きるためには何かの命をもらわないといけない。」という命の話を聞いて、内ぞうを取ることも納得しました。だから、大切に食べないといけないと思いました。

そして午後からはいよいよ初めての民泊です。とてもドキドキしました。民泊先の立川さんがむかえに来て下さいました。ぼくが

「初めまして。埴俊志宏です。よろしくお願ひします。」

とあいさつをすると、立川さんが

「君が埴君かあ。よろしくね。」

と言って下さいました。そして立川さんの家に行きました。立川さんが

「そうじゃ、埴君、はしを作らんと。」

と言われ、竹をけずって自分のはしを作りました。前の日はぼくが体調が悪くていなかったから、予定していたそうめん流しをこの日に変えてぼくがいっしょにできるように待って下さったと聞きました。ぼくはすごくうれしかったです。はしを作ったらそうめん流しをするための竹をセットしました。そうめん流しの準備ができたなら川のこいにえさやりをして川遊びをしました。お風呂にも入ってからそうめん流しをしました。自分の作った竹のはしで食べました。おいしかったです。暗くなってから花火もしました。この日したことは全部楽しかったです。

四日目の7月22日、民泊最後の日です。この日は雲月山の登山をしました。雲月山はふもとから見ると低いなあと思いました。でも、登るととても高く、景色がきれいでした。どんどん登り、とても急な坂も登りました。山頂からおりるときにとっても急な坂があり、「うわあ〜。こわいなあ。」と思いながらも三つの山を上ったり下ったり、また上ったり下ったりしてとても苦しかったです。でも全ての山を登り切り、ふもとでおいしいお弁当を食べました。登山の後のお弁当はとてもおいしかったです。

午後からの民泊の方とのお別れの時、ぼくは少しさみしくなりました。協議会スタッフの方が用意してくださった写真のムービーを見ながらまたさみしいなと思いました。お別れの際の立川さんとの最後の言葉

「みんな、がんばってね。」

にすごく勇気づけられました。これからもがんばって、やるべきことは最後までねばり強くやりとげようと思いました。ぼくは、この民泊で自分の目標が達成できたと思います。

民泊体験活動を通して

新庄小学校 大下 紋奈

わたしは、今回の民泊を楽しみにしていました。どうしてかと言うと、同じ学校の子といっしょに泊まれるからです。民泊に向けて、家でお母さんとカレーを作ったり、一人で自分の部屋で寝たり、朝、ふとんをたたんで押入れの中に入れたりする練習をしました。お母さんが、

「あやな、ふとんたたみが上手にできるようになったね。」

とほめてくれました。わたしは、すごくうれしかったです。

いよいよ民泊の日になりました。1日目は、学校に泊まりました。まず、各班に分かれてカレーとシーザーサラダを作りました。わたしは、にんじんの皮むきをしました。できあがった料理を食べてみて、とてもおいしかったです。特に、カレーの味が最高でした。まるで、お母さんが作るカレーと同じような味でした。次に、ペットボトル探しゲームをしました。夜に学校の中を歩いたのは初めてで、わたしはこわかったけど友だちといっしょに歩いて安心しました。寝る場所は、なかよしホールでした。友だちや校長先生と寝ましたが、ぐっすり眠れました。

2日目は、バスに乗って芸北文化ホールに移動しました。学校で朝ごはんをさっさとすませて乗車しました。芸北に着いて開会式をした後、他の学校の5年生といっしょに交流会をしました。わたしは、声を出さないでたん生日じゅんにならぶゲームで少し時間がかかったけど、同じ2月生まれの人が、

「ここよ。」

とやさしく教えてくれたのでうまくならべました。活動班で自己紹介をしたとき、わたしは、副班長に選ばれました。このとき、八重小学校の人と友だちになれてわたしは、とてもうれしかったです。

昼からはいよいよ対面式です。会う前は、きんちょうして不安だったけど、「そよ風」のおじさんとおばさんに会ってやさしそうな気がして安心しました。ペン

ションそよ風に着いて、わたしたち女子4人は、おじさんとおばさんといっしょに畑に行ききゅうりを取ったりじゃがいもをほったりしました。きゅうりがとても大きかったのでびっくりしました。じゃがいももおいしそうな色をしていました。夕食は、ポテトサラダでした。自分たちが収かくしたポテトの味は最高でした。まるで、三ツ星レストランで食べているような感じがしました。

3日目になりました。朝食は、ご飯とみそ汁とめだま焼きを食べながら、みんなで楽しいお話をしました。そして、移動バスに乗り、大暮養魚場に行きました。まず、活動班に分かれて火おこしをしました。炭を一番下において小さな枝を炭の上に置き、マッチで火をつけました。わたしは、ちょっとこわかったけど一回で火がついたのでほっとしました。その後はいよいよアマゴのつかみ取りです。とても楽しみにしていましたが、なかなかつかめません。周りのみんながどんどんつかまえていたので、わたしはすごくくやしかったです。そして、アマゴのはらわたをわりばしで取りました。少し気持ち悪かったけどいい体験になりました。昼食はもちろんアマゴの塩焼きです。食べてみてとてもおいしかったです。わたしのとなりにすわっていた友だちが、「わあ、うまい。」と大声で言ったのがおもしろかったです。

「そよ風」の家に帰ってピザを作りました。家にはピザがまがあって、みんなですごいねと言いました。作るときに、ピザの生地をのばすのが難しかったです。でも、チーズがとろりと口の中でとけて、ピザがふんわりとふくらんでいたのでもとてもびっくりしました。おいしかったです。

4日目の最終日になりました。パンとココアを作ってもらって食べ、バスに乗りました。行き先は、高杉山です。先生の話聞いた後、山に登りました。でも想像していた以上に急な坂道でした。登っている途中、足が重くなり何度もしんどくなったけど、周りの友だちの顔を見て、しんどいのはわたしだけではないんだと思いました。だから、最後までがんばることにしました。そして、わたしは頂上まで登り切りました。すごくうれしかったです。

頂上に上がって周りを見てみると、みんなうれしそうな顔をしていました。周りの景色を見たら遠くの山々まで見えて気持ちよかったです。下山するときは、すべりやすくなっていて、わたしは、2回もころびました。でも最後まで自分の足で歩けました。この山登りはきつかったけどいい思い出になりました。

芸北文化ホールに帰ってお別れ会です。3日間お世話になった「そよ風」の人や活動班の友達とお別れです。「そよ風」の人がわたしたちを見送りに来て下さいました。わたしは、「そよ風」のおばさんやおじさんと別れるのがとてもさみしかったです。いっしょにサラダやピザを作ったことや畑仕事をしたこと、おじさんおばさんがとてもやさしかったこと、どれも印象に残っています。わたしは「そよ風」の人に

「ありがとうございました。とても楽しい民泊でした。」

と、感謝の気持ちを伝えました。

3泊4日の民泊活動が無事に終わりました。わたしは芸北に行き北広島のいいところを見つけることができました。友だちもたくさんできました。活動班の人とも協力して活動ができました。とてもいい4日間でした。

民泊体験活動を通して

新庄小学校 白砂 百萌

4日間の宿泊体験をしました。わたしは、4日間の中でアマゴのつかみ取りが楽しみでした。また、友だちと仲よくすることをがんばろうと思って参加しました。

まず1日目は、学校でカレーを作りました。カレーには北広島町の食材のじゃがいもやたまねぎ、にんじんを入れました。作ってみるととてもいい香りがしました。カレーの中で、じゃがいもが一番おいしくて、すごく甘い感じがしました。作ってみてよかったなと思いました。

2日目、バスに乗って出発しました。知らない人がいっぱいいたから、ちょっとはづかしかったです。でもがんばって話しかけて、この人たちとしっかり仲良くなろうと思いました。芸北文化ホールにつくと、さらにたくさんの方がいて、さらにびっくりしました。思っていたよりも同じ年の5年生が多かったからです。こんなにいっぱい同級生がいることがわかったので、うれしかったです。たくさんの方と仲良くなれるのかなと不安になったけど、半分は楽しみな気持ちがありました。対面式が始まっていろんなおじちゃんやおばちゃんがいました。「わたしが、いっしょに過ごす民宿の人はどんな人なんだろう。こわくないといいな。」と思って、すごくドキドキしました。「そよ風」のおじちゃんとおばちゃんがわたしたちの前のいすに座ったときに、「やさしそうな人だ。よかった。」と思いました。車に乗るとき、今度は「どんなおうちかな。」「どこにあるのかな。」と思って、ちょっとドキドキしました。「そよ風」についたとき家の中が広がったのですごくびっくりしました。みんながテーブルのまわりに集まって一人一人自己紹介をしました。自己紹介が終わったらみんなでおやつを食べました。おばちゃんといっしょにお話をしたり、芸北のちょうや雪景色の写真を見せてもらったりしました。写真の中にきれいなちょうがとんでいてカラフルだったので、わたしもとってみたいなと思いました。夜にはみんなでギョーザを作りました。皮がパリパリで中がホカホカだったので、すごくおいしかったです。おじちゃんもおばちゃんも

「おいしいね。おいしいよ。」

と言ってくれたので、とてもうれしかったです。サラダもおいしくできていて、また作って食べたいなと思いました。

3日目の朝、大暮養魚場でアマゴのつかみ取りをしました。大暮養魚場のおじちゃんが、命の大切さについてお話をしてくれました。お話を聞いて「今日つかまえるアマゴの命のことをしっかり考えて食べよう。」と思いました。つかみ取りでは、3、4匹つかまえました。芸北分校生のお兄ちゃんたちにアマゴの内ぞうの取り方やくしのさし方を教えてもらいました。生きている魚を調理するのに、わりばしで内ぞうを取りました。口からつつこんで上手く取れたけど、とった後はアマゴがだらんとしていたので、かわいそうだなと思いました。さっきまで生きていたのに、死んでしまったから、すごくかわいそうな気持ちになりました。そのあとみんなでアマゴを食べました。みんなでちゃんと、「いただきます。」と

言って食べました。焼きたてのアマゴの身がすごくおいしかったです。骨までしっかり焼いて骨せんべいにして食べました。最後に「ごちそうさまでした。」と言って、命を大切にしたいような気がしました。お昼からは、「そよ風」に帰ってお昼寝をしました。つかれたのでよく寝られました。起きた時、おばちゃんがおやつ準備をしていたので手伝いをしました。みんなが起きておやつを食べて、ピザを作る準備をしました。かざりつけでピザの上に野菜やチーズをのけました。真ん中にたまねぎを入れてどんどん野菜をのけました。みんなで野菜を切ったり、生地作りをしたりしました。一人で作ると大変だったろうなと思ったけど、みんなで作ると楽しく作れました。焼いてみんなで食べる時に、チーズがすごく長くのびたので、すごくびっくりしました。こんなに長くのびるチーズは初めてでした。

4日目の朝、おじちゃんの車でバス停のところまで行きました。山登りをするのがとても楽しみでした。芸北の高杉山までバスで行きました。いっしょに登ってくれるガイドさんの自己紹介がありました。いきなりライザップの音楽が流れて、木の板の上に乗ってひもをひっぱっていました。すると、木の板に乗った人が回っていたので、やってみたいと思いました。さっそく5つの班に分かれて登り始めました。すごい坂道だったのですごくつかれました。隅田君がしっぽの長いトカゲを見つけてさわらせてもらいました。しっぽがとても長かったです。休けいしながら登っていきました。山登りをしている途中で知らない草や花がいっぱいあってとてもきれいだなと思いました。何回か休けいをして目的地に着きました。頂上からの景色を見たら家と車が小さく見えました。ご飯のとき、いい景色を見ながらみんなと食べるおにぎりはすごくおいしかったです。すごく暑かったので熱中しょうになってしまうかと思いました。下りるときにとっても急だったのですべってこけそうになる人もいました。わたしは、一番前で歩いているガイドさんの真似をして下りるようにしました。するとすべらずに下りることができました。下のゴールまであと少しのところでお茶を配ってもらいました。暑い体に冷たいお茶がしみわたりました。高杉山からバスで帰って、民泊でお世話になった方とお別れ会をしました。はじめにみんなの写真をスライドショーで見ました。とてもドキドキしました。みんなの写真を見て、民泊の方とお別れをしました。わたしはちょっとさびしかったです。いっばいの思い出をつくることができました。

この体験を通して、みんなで協力すると、ピザを作ったときのように一人よりも楽に作ることができるし、みんなで作っていくと楽しくできるから、とても大事なんだなと思いました。また、命の大切さも学びました。生きている魚を食べるということは、その命をもらうことなんだということを知ることができました。これからは、「いただきます。」「ごちそうさま。」の言葉を大切に言おうと思います。そして、とてもお世話になった「そよ風」にまた泊まりたいなと思いました。

民泊体験活動を通して

新庄小学校 大内 壯翼

4日間、ぼくたちは、北広島夢プロジェクト民泊体験活動を行いました。

1日目の夕食作りで、カレーとシーザーサラダを作りました。食べたときに、芸北高原ぶたの味がしっかりして、とてもおいしかったです。たまねぎを切ると涙がすごく出て大変でした。ごはん作りなどをしていると、なべのお湯を見たり、お米の様子を見たりして、とても時間を気にすることが多かったです。ごはんを食べ終わると、学校探検が始まりました。こわくて、早く寝たいという思いしかなかったです。でも、学校探検をするときのゲームでみんなと協力できたのでよかったです。夜は、図書室で寝ました。一度、3時くらいに起きてしまったけど、その後、目をつむったら、またぐっすり眠れたのでよかったです。

2日目は、起きて歯みがきをして、ごはんを食べて、朝の会をしていると、予定の時間よりも10分早くバスが来ました。急いで荷物を持って出てバスに乗りました。芸北文化ホールに着くと、学校紹介や集団での人間関係作りをしました。そのあと、対面式がありました。ぼくの前に立っているおじちゃんとおばちゃんがとてもやさしそうだったので「ああ、よかった。」と思いました。民宿家庭に行くと、とても家が広くてびっくりしました。少し家を探検してから田舎暮らし体験をしました。最初はジャガイモほりをしました。室屋さんが、

「このジャガイモは今日コロッケにするよ。」

と言ったので、がんばってジャガイモを取って洗いました。きれいに土を落とすのはけっこう大変でした。次に、草取りをしました。畑の草取りだったけど、とてもむし暑かったのでつかれました。畑仕事が終わると、料理作りでした。コロッケをつくるのもすごくきつかったです。ほうちょうを使っていると、みずぶくれができました。がんばって野菜のもりつけをしていたら、コロッケがあがりました。食べてみるとすごくおいしかったです。手作りのコロッケは最高だなと思いました。ごはんを食べた後はお風呂に入って寝ました。最初は、ぜんぜん眠れない感じだったけど、あとになるとぐっすり寝られました。

3日目は、初めて他の家の朝ごはんを食べました。とてもおいしかったです。ご飯を食べた後で、バスに乗って大暮養魚場に行きました。養魚場では、アマゴを飼育していると思っていたけど、養殖しているんだと分かりました。養魚場のおじいさんとお兄さんのお話を聞いて、つかみどりをしました。たくさんの方が川に入ったからなかなかアマゴを見つけられなくて、ぼくは、1匹しかつかまえることができなくて悔しかったです。アマゴを食べるととてもおいしかったです。ヤマメと同じくらいおいしかったです。民宿家庭に戻ると、すこし休んで、草集めをしました。今日の作業もとても暑かったです。とてもたくさん汗をかきながら、山の草や畑の草を集めました。最後に見てみると、集めた草が山ほどあって、「やってやったぞ。」という気持ちになりました。

た。草集めが終わって、テレビでカーブ観戦をしました。室屋さんもカーブファンだったのでよかったです。いっしょに見たのに、結局カーブは負けてしまったので、ガーンとした気持ちのまま、料理の手伝いをしました。3日目はポパイなべを作りました。ほとんどおばさんがやってくれたけど、ほうちょうを使った手伝いをしたので、このときに、ぼくはほうちょうを使えるようになりました。牛乳がなべに入っていて、どんな味がするのか分からなかったけど、食べてみると、すごくおいしかったです。この日は、前の日と違ってすぐに眠ることができました。

4日目に最後の朝ごはんを食べていると、事件が発生しました。隅田君が一人でマラソンに行っていました。室屋さんに「一人で行動するな。」と言われたはずなのに、やってしまいました。最終日まで、室屋さんに怒られないようにしようと思っていたのに、こんなことで怒られてしまったので、悔しかったです。その後は、朝ごはんを食べて、室屋さんの家に「ありがとうございました。」と言ってバスに乗って、高杉山に行きました。とても暑くて、登り始めるとすぐにつかれました。そのとき浅野君が「さんぽ」や「千本桜」を歌い始めました。ぼくがびっくりすると浅野君は、
「歌おうや。」

と言ってきました。すると岡君が「いいよ。」と言っていっしょに歌い始めました。ぼくもいっしょに歌いました。周りの班の人もすこしずつ笑って元気になっているような気がしました。つかれてしまったときのいい声かけができたなと思いました。そして、山頂に着きました。登ってみると、とても景色がきれいでした。「きつかったけど、登ってよかったな。」と思いました。お弁当を食べると今度は下り道でした。下りるのはすごくかん単でした。何回かこけかけたり、ドジをふんだりしてしまっただけど、大丈夫でした。下りた後は芸北文化ホールに移動して、お別れ式をしました。ぼくの前に今回お世話になった室屋さんがいました。閉会式の後のお別れ式でおじさんとおばさんと「ありがとう。」と言葉をたくさん交わしました。他にもいろいろな話をしました。室屋さんに

「そうちゃん、野球もしっかりやって上手になるんで。」
と言われて、ぼくはまたがんばろうと思いました。全部の会が終わって、ホールからバスに行くときにもものすごい雨が降り始めました。すると、室屋さんなどの今回泊まらせてくれた人たちがバスまで屋根を作ってくれて送ってくれました。雨の中でブルーシートを持ってきて、最後まで見送ってくれたのがとてもうれしかったです。

この体験活動で学んだことは、協力することです。この協力してがんばることを今年の学習発表会で発きたいです。みんなで力をあわせて劇をするのに役立てたいと思います。このほかにも協力してがんばることを見つけてがんばっていきたいと思います。

楽しかった民泊体験

川迫小学校 本家 綺乃

1日目は学校に梅田先生・教頭先生・校長先生・日高さんと泊まりました。5・6時間目に、使う食材は買っていたので、作るだけでした。晩ご飯はなんとビーフシチューと大根と人参のシャキシャキサラダでした！しかも、デザートは桃とデラウェアでした。川迫小学校には、中庭という場所があるので、そこで晩ご飯を食べました。途中で雨が降りそうだったけど、晩ご飯を食べ終わってから雨が降ったので良かったです。そして、晩ご飯の片付けをしました。家ではあまり進んで手伝いをしないので、少し大変でした。

次に、対面式の挨拶を考えました。考えた次の日に言うので覚えられるか心配だったけど、私も日高さんもすぐに覚えられたので良かったです。そしてトイレに行ってから布団に入り、日高さんと「怖い言葉しりとり」をしました。面白かったけど、「る」と「す」が多く、意外と難しかったです。最後に私が「ん」を言ってしまったので負けてしまいました。少し悔しかったです。

2日目は、5時30分ぐらいに起きて、トイレに行ったり、顔を洗ったりしました。校長先生に、何時に起きたかを聞くと、「ん～、4時ぐらいかな。」といたので、びっくりしました。6時になって、朝ご飯作りをしました。朝ご飯はサンドイッチ・オニオンスープ・たまごサラダ・大根と人参のシャキシャキサラダでした。卵をマッシャーで潰したのが面白かったです。そして、朝ご飯を食べて、片付けをして、歯磨きをして、学校紹介の練習をして、学校を出ました。

芸北文化ホールに着いて、人間関係作りと対面式をしました。先に人間関係作りをしました。豊平小学校の山本先生と八重小学校の河野先生が進行して下さいました。

最初に「ま～え、うしろ、み～ぎ、ひだり」をしました。最初は簡単だったけど段々難しくなっていたので、最後はわけが分からなくなりました。

次に声を出さずに誕生日順に並ぶゲームをしました。全員で91人もいたのでとても難しかったです。私の生まれた月の1月は順番がグッチャグチャでした。

次に声を出さずに班に別れるゲームをしました。私が12班ということは分かっていたけど、班の人の名前を覚えていなかったので、「もーちょっとちゃんと見とけばよかったな」と思いました。でも完璧に揃っていたので良かったです。私の班の人は、八重小学校の三吉亮太くんと、八重小学校の間処桃加さんと、本地小学校の土井玲奈さんと、本地小学校の中増圭くんと、豊平小学校の松本愛依さんと一緒でした。班で自己紹介をしました。普通の自己紹介ではなく「〇〇が好きな△△さんの隣の☆☆が好きな□□です。」という仕方でした。私は1月生まれなので、最初に自己紹介をしたので楽でした。最後は三吉亮太くんでした。大変そうだったけど、最後まで言えていたので「すごいな～、私なら言えないな～」と思いました。

その次に誰が班長と副班長になるか決めました。班長は私、副班長は松本愛依さんになりました。その後班で目標を2つ決めました。1つ目は「会った人に笑顔であいさつをしよう!!」で、2つ目は「弱音をはかない!!」にしました。最後の

ゲームは猛獣狩りでした。親子キャンプで毎年やっていたのでルールは知っていました。最後に先生が言った文字数の人を集められなかったのが、前に出て自己紹介をしました。凄く恥ずかしかったです。

人間関係作りが終わってお弁当を食べて、対面式が始まりました。児童代表として前に出て話したので緊張しましたが、紙を見ずに言えたので良かったです。そして対面式が終わって若本さんの車で民泊家庭へ行きました。民泊家庭に行く途中に急に若本さんが「川を見に行くかの。」て、言ったので「ええ!!今から!!」て、思いました。でも、橋から見る川は、とっても綺麗でした。「あれは何鳥ですか。」と聞くと「あれは〇〇ドリ、あれは□□サギだよ。」と優しく教えて下さったので、嬉しかったです。民泊家庭について家を見たとき「うわ～素敵なお家だな～」と思いました。中もとても素敵でした。そして荷物を置いて、少し休憩をして、桜餅作りをしました。最初にあんこがうまく包めなかったけど、だんだんコツが掴めてきたときは嬉しかったです。全ての桜餅が完成して桜餅を食べました。自分達で作ったから何倍も美味しく感じました。

次にインゲン豆の収穫をしました。とても暑かったけど、大きいインゲン豆を収穫出来たので良かったです。そのインゲン豆を使って、誰がどれだけ面白い顔が出来るか勝負するインゲン豆グランプリをしました。みんな面白かったです。

その後、コハルというメス犬の散歩をしました。散歩の途中で、色々な発見があって、面白かったです。

晩ご飯はそうめん流しでした。でも私達がお風呂に入っている間におじさんとおばさんがそうめん流しの竹を立ててくださったので、私達は、おかずをバケツリレー的な感じで運ぶくらいしか出来ませんでした。だから明日はいっぱい仕事をしようと思いました。家でそうめん流しをした事が無いので、とても楽しかったです。キュウリやトマト、チーズも一緒に流れてきたので面白かったです。とうとうブドウまで流れてきました。食べた後は一緒に片付けをしました。

蚊帳を張って寝る準備をしました。若本のおじさんが囲炉裏を焚いて色々なお話を聞かせて下さいました。最後に「少年時代」を若本のおじさんがギターを弾いて囲炉裏は終了。歯磨きをして、日記を書いて寝ました。

3日目は4時30分くらいに起きて、顔を洗って皆を起こしました。トイレに行って約一時間ゴロゴロしてもう一度顔を洗って朝ご飯を食べました。朝ご飯は食パン・ゆで卵・キュウリ・スープ・ハム・ヨーグルト・ジャムでした。多くて全て食べられるか心配だったけど残さず食べました。とても美味しかったです。そして、しおりを見ながら準備をし、歯磨きをして、民泊家庭を出ました。バス停からは、バスに乗って大暮養魚場まで行きました。

大暮養魚場について、各班で班長が人数確認をして、開会式が始まりました。学校代表児童代表が挨拶をして、開会式が終わりました。赤グループが先にヤマメとアマゴの見分け方などを教わり、白が先に火おこしや、命の大切さなどを教わりました。命の話を聞いた後に火おこしをしました。2番目に火が付いたので嬉しかったです。次に、ヤマメとアマゴの見分け方を教わりました。赤い点々が無いのがヤマメ、赤い点々が有るのがアマゴと、話していました。後にレモンサーモンを見に行きました。カッコ良かったです。

そして、楽しみにしていたアマゴの掴み獲りの時間がやって来ました。簡単だと思っていたけど、案外難しくて、掴んでもヌルッとして、難しかったです。その後アマゴの内臓取り出しました。1匹は内臓を取り出せたけど、気分が悪くなったので、もう1匹は、高校生の山崎君に取ってもらいました。そして、塩焼きにして食べました。身はふっくら皮はパリパリで美味しかったです。骨は焼いて食べました。カリッカリでこれもまた美味しかったです。最後に閉会式をして、バスに乗ってバス停まで行き若本さんが迎えに来て下さったので、民泊家庭に戻りました。

民泊家庭に戻って30分くらい寝て、ジャガイモほりをしました。グジュグジュなのがいっぱいあったけど、良いジャガイモもあったので、良いジャガイモはかごに入れて、グジュグジュなのは違うかごに入れました。ジャガイモほりが終わってすぐに庭の落ち葉集めをしました。凄く疲れました。そして、約10分間休憩して、焼き鳥のお肉を串に刺しました。面白かったです。その後、コハルの散歩に行き、七輪に火をおこしてお風呂に入りました。お風呂からあがると七輪が移動してあって、朝ご飯を食べた所で、焼き鳥を焼きました。私が1番目に好きなのは海老で、2番目に好きなのはスペアリブで、3番目に好きなのはつくねです。そして、食べ終わって後片付けをして、花火と星の観察をしました。若本さんは色々な星を知っていたので、凄いなと思いました。歯磨きをして、トイレに行って、9時くらいに寝ました。

4日目は、3日目より遅い5時に起きました。顔を洗って約30分ゴロゴロして朝ご飯を食べました。朝ご飯は、白ご飯・出汁巻き卵・ポテトサラダ・味噌汁とヨーグルトでした。朝会の後、準備をしてバス停まで行きました。バスに乗って高杉山まで行きました。

お弁当を貰って開会式が始まりました。学校代表、児童代表が挨拶をして、ガイドさんが一人ずつ自己紹介をして、開会式が終わりました。私達F班はウォーリーと言う眼鏡をかけた人が担当でした。皆で円陣を組んで出発しました。ウォーリーは触ったらかぶれる植物や、毒のある植物を教えて下さいました。高杉山はスキー場なので、凄く急な斜面だったのでとてもきつかったです。でも、誰も怪我をせず、登り切ったので良かったです。そして、お弁当を食べました。お腹が空いていたので、より美味しく感じました。人数確認をして、下山しました。登山より、下山のほうが楽でした。下り終わってお弁当のゴミを捨てて、人数確認をして、閉会式が始まりました。学校代表と児童代表が挨拶をして、閉会式が終わりました。

芸北文化ホールで、全ての閉会式が始まって、学校代表と児童代表が挨拶をして、閉会式が終わりました。

お別れ式で、一人一人が楽しかったことや思い出に残ったとかを話しました。私は焼き鳥の事を言いました。

若本さんは「今まで撮った写真をDVDにして送ってあげるよ。」と言ったので、「凄いな。」と思いました。最後に皆で写真を撮りました。

私にとって今回の民泊体験は、これまでに経験したことがないことが、沢山あり、大切な思い出ができました。その中でも山登りが一番印象に残っています。

それは、とても苦しいことがあったけど、班の皆で声を掛け合いながら、頂上までたどり着けたからです。頂上からの景色はとても綺麗でした。

お世話になった皆さん、有難うございました。

初めての民泊体験 4日間

川迫小学校 日高 咲歩

1日目は、学校に先生と本家さんと、泊まりました。学校に来ると、寝る部屋の保健室はキンキンに冷やしてあり「早く寝たい!」と思いました。でもその前に、晩ご飯作りをしなくてははいけません。私たちは「ビーフシチュー」「シャキシャキサラダ」を作ることにしました。デザートもつけることにしました。5・6時間目に買っておいた材料で作りました。まず、米をたきました。炊飯器がなかったので、家庭科室にあるガラス鍋でたきました。ガラスなべは透明なので、たいているところがよくわかり、ずっとみていると面白かったです。ビーフシチューとシャキシャキサラダもできて、校長先生と教頭先生もきて一緒に中庭で食べました。ご飯もおこげがあって美味しかったです。食べている途中で雨がふりそうになったので心配しながら食べました。食べ終わった後に雨がふってきました。ギリギリセーフで良かったです。その後食器の片づけをしました。いつも、家で手伝いをしているけど、大量の皿は洗ったことがなかったので大変でした。やっと片づけ終わると、保健室にもどって対面式の代表のあいさつを先生と考えました。次の日にいうので、覚えられるか心配だったけど、本家さんも私もすぐに覚えることができました。その後、歯磨きをしてすぐに布団にはいりました。9時30分消灯だったけど、9時ぐらいに布団に入ったので、それまで、本家さんと「しりとり」をすることにしました。普通の「しりとり」では面白くないので、「怖い言葉しりとり」をしました。やってみると面白かったけど、「す」「る」が多くてなかなか終わりませんでした。でも本家さんが「ん」をいったので、終わってちょうど9時30分ぐらいだったので、寝ました。

2日目は朝5時30分ぐらいに起きました。いつもは、なかなか寝られなくて寝不足になるけれど、その日はしっかり寝られて、スッキリした朝でした。6時起床だったので、顔を洗いました。校長先生は4時ぐらいに起きたと聞いてびっくりしました。そして、朝食作りをしました。朝食はサンドイッチとオニオンスープをつくりました。残りのシャキシャキサラダも食べることにしました。セルフサンドイッチにしました。具は卵・レタス・ベーコン・チーズでした。ベーコンとチーズのあいしょうが、バツグンでした。

9時に芸北文化ホールに向けて出発しました。文化ホールでは、最初に人間関係作りをしました。豊平小学校の山本先生と八重小学校の河野先生が進行をしました。最初のゲームは、先生が「前・後ろ・右・左」といって、それについていく、というゲームをしました。はじめの時はそれについていくだけだったけど、段々むずかしくなって、みんなバラバラになったりしてとてもおもしろかったです。私もなかなかついていくことができませんでした。次に全員で声を出さずに誕生日順にならぶというゲームをしました。91人全員が誕生日順にならぶのは

とてもむずかしかったけど、私の生まれた月の7月はきちんとならべられたので良かったです。そして班にわかれしました。私は11班でした。松本さん、益井さん、増本君、田邊さん、溝口君といっしょの班でした。最初に自己紹介をしました。普通の自己紹介ではなくて「〇〇が好きな△△さんの隣の□□が好きな☆☆です。」という自己紹介の仕方でした。隣の人のを覚えて言わなければならないのでみんなとてもむずかしそうにやっていました。私は最後だったので、もっとむずかしかったです。自己紹介の後は班長と副班長をきめました。班長は松本さんになり、次に副班長をきめました。副班長は、増本君がやりたいといったけど「八重小ばかり班長と副班長になるから、ほかの学校の人に、副班長をゆずるよ。」と2人がいってくれたので私が副班長になりました。そのあと目標も決めました。最後にゲームの猛獣狩りをしました。

そして待ちに待った民泊家庭との対面式が始まりました。私たちが泊まる若本さんはカメラを持っていたので写真を撮ることが好きなのかなと思いました。対面式が終わると若本さんの車で民泊家庭にいきました。途中でいきなり川を見に行くことになりました。若本さんに川にいる鳥をたくさん教えてもらいました。けれど、少し話が長かったです。ようやく車にもどってやっと民泊家庭につきました。家の中に入って自己紹介をしました。一緒に泊まる人は八重小の松本さんと三宅さん、川迫小の本家さんでした。待っている時に、若本さんのおばさんがシソジュースを出してくださいました。シソジュースは甘くてとても美味しかったです。その後、泊まる部屋に行きました。中はとてもきれいでした。少し休憩をして、桜餅作りをしました。ご飯がとても熱くて大変でした。最初はあんこをつつんでもやぶれたり、ボロボロになったりして大変だったけど、おばあちゃんが教えてくれて最後はきれいにできました。完成したら食べました。私はあまり甘いものが好きではないけど、甘すぎなくて3つも食べてしまいました。その後畑でインゲン豆の収穫をしました。そして、インゲン豆グランプリをしました。(インゲン豆グランプリとは、インゲン豆2本使ってどれだけ面白いかを競うグランプリです。)私は角にしました。他の人は、キバにしたり眉毛にしたりしていました。全部面白かったです。畑から帰って犬の散歩をした後にお風呂に入って、楽しみにしていた晩ご飯になりました。メニューは、からあげとサラダとそうめん流しでした。そうめん流しは家ではあまりしないのでとても楽しかったです。でも、具もいっしょに流れてきたのにはとてもビックリしました。とうとう最後にはデザートはブドウまで流れてきて、さらにビックリしました。でもとても楽しかったです。食べた後はいっしょに片づけをして寝る準備をしました。蚊帳の中で寝るのでとてもわくわくしました。蚊帳の中で日記を書きました。みんなすぐに寝ました。

3日目の朝は、5時ぐらいに起きました。私が起きると本家さんが起きていました。4人でしおりを見ながら順備して、着替えをしました。4人とも準備が終わったら朝ご飯を食べました。メニューは卵と野菜とパンとスープとヨーグルトでした。ふだん朝はあまり食べないけど、たくさんあったのでとても満腹になりました。

この日は、アマゴのつかみ取りをする大暮養魚場に行きました。まず若本さん

家の車に乗って、バス停に行きました。バスに乗って見送りをされながら出発しました。大暮養魚場に着くと、開会式をしました。その後大暮養魚場のおじいさんの話を聞きました。火のおこし方や命の大切さについて聞きました。話を聞いた後、火をおこしました。燃えやすい細い枝を下に敷いてその上に枝をおいて一人ずつマッチをする事にしました。みんな火がなかなかつかず、マッチで火を付けることができなかつたけど、私のすったマッチで火がついたのでうれしかったです。順番に炭をおいていきました。次は少し移動して、アマゴの勉強をしました。アマゴとヤマメの見分け方も教わりました。いよいよつかみ取りです。私たちはアマゴがたくさんいる所でとることにしました。うまく捕まえる事ができ、捕まえたアマゴの内臓を取りました。少しかわいそうと思ったけれど頑張って2匹ともやりました。そのアマゴを焼いて食べました。身はふっくらしていて、骨はパリパリに焼いて食べました。とっても美味しかったです。

閉会式をしてバスに乗って民泊家庭に帰りました。休憩をして、ジャガイモほりと晩ご飯の焼き鳥の準備をしました。焼き鳥を焼く七輪の準備もしました。なかなか火がつかなくかつたけど若本さんが工夫してくださったので、なんとかつきました。お風呂に入って出ると、もう焼き鳥の準備がしてありました。みんなで焼いて食べました。タレも塩もどっちも美味しかったです。でもいちばん美味しかったのはつくねです。外はカリカリで中はジューシーでとても美味しかったです。食べた後は花火をしました。いろんな花火があつて楽しかったです。そのあと星の観察をしました。若本さんにいろんな星を教えてもらいました。9時ぐらいに布団にはいりました。

4日目は、3日目より早く起きました。準備をした後、朝ご飯を食べました。朝ご飯はご飯でした。登山をするのでたくさんご飯を食べました。おばあちゃんとお別れして車に乗りました。バス停まで車で行ってバスに乗って登るところまで行きました。開会式では登山のガイドさんが自己紹介をしました。自己紹介の仕方がとてもおもしろかったです。

11・12班のガイドさんはウォーリーという人で眼鏡をしていました。そしてみんなで円陣を組んだ後、出発しました。高杉山はスキー場なので最初から急でした。ウォーリーは危険な植物や豆知識などたくさん教えてくださいました。だんだん道が急になったりゴツゴツしてきたりして、足だけでなくこしまでいたくなりました。でもゴールが見えてきた時はみんなダッシュしました。みんなけがをせず無事につくことができました。そのあとお昼ご飯の弁当を食べました。私はとてもお腹が減っていたのでとても美味しく感じました。でも他のみんなは疲れてぐったりしていました。食べた後は下山しました。登る時より楽ですぐに下りることができました。下りた後は閉会式をし、バスに乗って芸北文化ホールに戻りました。閉会式をして、民泊家庭とのお別れ式をしました。一言ずつお礼や思い出などを民泊家庭の人にいいました。最後は全員で記念撮影をしました！

初めての民泊体験活動でとても不安だったけど思い出に残る活動ができました。

人と自然と触れ合えた宿泊体験活動

八重小学校 松本 柚菜

7月4日から7月7日までの4日間、北広島町内の5年生が民泊体験学習をしました。初日は学校で、そして2日目からは民泊家庭に泊まりました。

初日の午前中はいつも通り授業を行い、その後夕食のカレーとサラダを作りました。事前にカレーの作り方を一人一人が調べて把握していたので、それを手がかりに班毎で作っていきました。たまねぎを切る時に誰もが「切りたくない」と言ったので、正直私もいやでしたが私が切りました。切っていくうちに涙が出てきました。その時私は、お母さんがたまねぎを切ってもぜんぜん涙が出ていなかったのを思い出して、うらやましいと思いました。それから野菜をいため、水を入れました。しかし私は水の分量を間違えて入れてしまいました。思い起こせば、量を量るときに粉用の目盛りで量ってしまった気がします。班のみんなに迷惑をかけてしまい、申し訳なかったです。その後、先生や班のみんなに協力してもらい、水分を蒸発させて何とかトロトロになりました。そしてサラダと一緒においしくいただきました。

2日目はバスに乗り芸北文化ホールに行きました。人間関係づくりでは、自ら立候補して班長になりました。対面式では民泊家庭の方にあいさつをし、民泊家庭へ行かせていただきました。家に向かう途中、大きな橋のところに車を停めて「ちょっと下りてみんさい。」

と言われました。橋の下を見るときれいな川が流れていました。わざわざこのために車を停めて下さるなんて、とても優しい人だなと思いました。そしてお家で自己紹介をしました。民泊家庭の方は、おじさん、おばさん、おばあさんと呼んで下さいとおっしゃったので、少し気がひけましたがそう呼びながら生活しました。そしてさくらもちを作り、犬のコハルの散歩、そしてインゲン豆の収穫をしました。夕食には、手作りのそうめん流しをしました。お皿とそうめん流しのセットは竹で作ってありました。冷え冷えの水に流してとてもおいしかったです。ぶどうも流しました。

3日目は、朝ごはんをデッキで食べました。鳥の鳴き声を聞きながら食べました。それからバスで大暮養魚場へ行き、火おこしをし、アマゴのつかみどりをしました。周りから、

「ヌルヌルしてとれない。」

と声が上がっていました。私もヌルヌルして1ぴきしかとれませんでした。できれば2ひきとりたかったなと思いました。次に内臓を取る作業をしました。かわいそうだけど、食べさせてもらうのががんばってやりました。そして、塩をつけこんがり焼いておいしく食べました。民泊家庭に帰ると1時間位休み、焼き鳥の肉をくしにさして、じゃがいもを掘りました。涼しくなって七輪の火おこしをして、さっき掘ったじゃがいもで作ったフライドポテトと焼肉を夕食で食べました。夜には花火を楽しみ、夜空の星を見ました。寝る時は、蚊帳の中で寝ました。

民泊体験最終日、母屋で朝ごはんを食べ、バスに乗って高杉山の700メートル位まで登り、そこから山頂を目指してみんなです歩きました。登りはとても急で

大変でしたが、植物の名前を知ることができたし、山頂まで登れた時の景色は最高でした。

その後芸北文化ホールに戻り、お世話になった民泊家庭の方とのお別れ式を行いました。民泊家庭の方と過ごしたのは約3日間と短い時間だったけれど、思い出がたくさんできました。その思いを込めて一言言いました。

この民泊体験を通して、私は人や自然とたくさん触れ合えました。とても良い経験になったと思います。もし機会があれば、民泊家庭の方にまた会いたいです。

成長できた民泊体験学習

八重小学校 三宅菜々美

7月4日から親元を離れ、色んな学校の人たちと協力し合う3泊4日が始まりました。荷物は旅行に行くときと同じ位多く、そして重かったです。初日の夕方に学校へ着き、親とお別れをした後泣いている友達もいました。私はその様子を見て、とても良いことだと思いました。いつも一緒にいる親とはなれて生活をし、体験学習で色んなことを学び、家に帰ってそれを生かし、これからの生活でさらに成長していくことができるからです。

初日、まず学校でカレーを食べました。自分たちで作ったカレーは最高においしかったです。夜はミーティングをして、男女分かれて寝ました。電気を消しただけでキャーキャー騒いで、興奮状態でした。そして数時間後は夢の中でした。

朝目が覚めたら5時半でした。朝ごはんはサンドイッチとバナナ、そして牛乳でした。朝から栄養バッチリ、元気満タンです。着替えをすませ、先生方や学校とお別れして出発しました。他の学校の人とバスの中でみんな大はしゃぎ。そうこうしていると芸北文化ホールに到着し、いろいろな人と対面しました。人間関係づくりでは色んなゲームや遊びをして友達も増えました。そして、この度お世話になる民泊家庭の山崎さんと初めて対面しました。

とてもさわやかな笑顔で迎えて下さって安心しました。家に着いて興奮したのが、犬のサクラがしっぽを振り可愛らしい顔で迎えてくれたことです。おばあさんとも初対面でした。最初にカキ氷を食べ、色々なお話をしました。そしてその夜のごはん、カレーを作りました。ご飯はかまどでたきました。初体験でドキドキしたけど、とても楽しかったです。そして夏野菜カレーのできあがりです。すっごく美味しかったです。食後は片付けをしてお風呂に入り、その後熟睡しました。

そして3日目、この日は魚のつかみどりがありました。私たちはまず、養魚場の方から命のお話を聞かせていただきました。そして私は改めて命の大切さを知りました。班の人と協力し、班全体でアマゴを24ひきつかまえました。しかし私はなんと1ひきもつかまえられませんでした。アマゴを見つけはしてもつかまえることができませんでした。そして割りばしで調理して炭火で焼いておいしくいただきました。

4日目、この日は登山をしました。この日で犬のサクラともお別れです。そしてこの家とも。朝、バスに乗って高杉山に移動するために山崎さんに集合場所ま

で送っていただきました。登山では、ガイドのけんちゃんにいろんな植物について説明していただきながら山頂を目指しました。足場も悪く、坂道だらけで大変でした。休けいをしながら登っていきましたが、汗がたくさん出るし、暑いし足も痛くなりました。もう少しで頂上に着くという時に、みんなが待っていてくれると思うと元気が出ました。周りの山を見下ろしながら食べるお弁当はとてもおいしかったです。

今回の民泊体験学習の中で一番つらかったのがお別れ式でした。ふり返りのビデオを見た後、お世話になったおじいさんおばあさんとお別れをしました。全員泣いていました。3日間お世話になって感謝の気持ちでいっぱいでした。

私はこの学習のおかげで、また1つ成長することができたと思います。3泊4日、皆さん本当にありがとうございました。

アマゴのつかみ取り

八重小学校 三吉 亮太

民泊2日目、この日は大暮養魚場でアマゴのつかみ取りをしました。2つのグループに分かれ、一方は火おこし、もう一方はアマゴについて教えていただきました。ぼくは、まず火おこしを行いました。はじめはマッチに火をつけて、杉の葉に火を移す作業でしたが、何人もの人が苦戦しました。風ですぐ火が消えてしまって、杉の葉が燃えなかったのです。そこでぼく達は、加計高校芸北分校の生徒のみなさんにやり方を聞きました。すると直ぐに火がつきました。高校生の先輩に聞いて良かったと思いました。30分位経ってアマゴについて学習しました。そこではアマゴの特徴を教えていただきました。赤い斑点が魚の側面についていたらアマゴという見分け方も教えていただきました。

そしていよいよアマゴのつかみ取りが始まりました。アマゴをさわってみるとヌルヌルしていました。1人2ひきまでアマゴをつかまえることができます。ぼくは穴の中に手をつっこみました。すると、ピクッと何かが動きました。アマゴです。「チャンスだ。」と思いつかみしました。すると、大きくて生き生きとしたきれいな色のアマゴがとれました。

そしてアマゴの内臓を取り出す作業をしました。割りばしを2つに割り、口からエラを通して胸びれの付け根からお腹まで割りばしをさす作業を左右行います。そして2本の割りばしをつかみ、ぐるぐる回して引っ張ると内臓がきれいに出てきます。そしてくしをさして、塩をつけてできあがりです。先ほど火をおこしたところへ移動し、炭火で焼きました。予想していたよりも焼けるまでに時間がかかったので、用意していただいたお汁とおにぎりを一足先に食べ始めました。15分位時間が経つと、そろそろアマゴが焼けてきました。一口かじってみると身がホカホカしてやわらかくて、魚のくさみもなくとてもおいしかったです。皮のパリパリと塩が合っているところも最高でした。しかもそれを何度も味わうことができ、これもまた最高でした。

全部食べ終わると、魚の頭と骨が余りました。それを捨てようとしたら、梅田先生が

「まだ食べられるよ。」

とおっしゃいました。ぼくは「え？」と思いました。それで、それらを焼いてみました。すると黄金色の骨せんべいができあがりました。それを新庄小学校の難波先生に差し上げると、

「すごくおいしい。」

と笑顔で応えてくださいました。そしてみんなが食べ終えた後、各学校と全員で集合写真をとりました。その写真をぼくの宝物にしようと思います。

学ぶことの多かった宿泊体験活動

八重東小学校 田中 悠莉

私達は、7月11日から7月14日まで、宿泊体験活動をしました。

1日目は、みんなでウィンナーカレーライスとカラフルコンビネーションサラダを作り、初めて学校に泊まりました。

そして、2日目から芸北小学校の人と合流しました。対面式をした後、人間関係を深めるためにいろいろなレクリエーションをして、同じ活動班の人ととても仲良くなることができました。私の班には外国人の友達がいると聞いていたので、最初は、仲良くできるかな、きちんと話しかけられるかななどと不安な気持ちでいっぱいでした。でも、いろいろな話をしたりゲームをしたりするうちに自然に仲良くなることができよかったです。

午後から、民泊家庭の人との対面式がありました。私は豊平の中尾さんのところに泊まることになっていました。中尾さんは明るくてとても面白い人で、民泊がさらに楽しみになりました。

中尾さんの家に着くまでの車の中で、トイレが13個、お風呂が7個あると聞いていたので、家に着いたらさっそく家の中の探検をしました。とても広くて、迷子になりそうでした。丸い屋根の天文台もあり、星や月のことについて教えてもらいました。でも、その日の夜は天気が悪く、実際に天文台で星を見ることはできず、とても残念でした。夜に、ブルーベリージャムを作りました。次の日の朝食で食べるということで楽しみにしながら作りました。朝食では、前日に取った野菜もいっしょに食べました。最高においしかったです。

3日目は、大暮養魚場でアマゴのつかみ取り体験をしました。初めに、育てておられるアマゴとヤマメを見に行きました。アマゴとヤマメはよく似ているけれど、アマゴには腹に赤い点々があり、ヤマメには赤い点々がないという違いがあることを知りました。

次に、命についてのお話を聞きました。

「生き物には命が1つしかないから、その命をいただく『いただきます』を心をこめて言いましょ。」

と言われました。私は、今まで「いただきます」を特に何も考えずに言っていたので、これからは、心をこめて「いただきます」を言おうと決めました。

いよいよアマゴのつかみ取りが始まりました。私は、アマゴを見つけてつかもうとしたけれど、とても素早くて何回も逃げられてしまいました。それでも岩の

下の方へ手を伸ばして、2ひきつかまえることができ、「やったあ。」と思いました。昼食は、つかまえたアマゴとおむすびとみそ汁でした。おなかがぺこぺこだったので、とれたて焼きたてのアマゴの味がおなかにしみわたりました。

4日目には、登山体験とお別れの式がありました。登ったのは龍頭山です。登山が始まって少しだけ歩いたら、もう疲れてしまいました。しかも、虫に刺されたところがいたかったので、とてもしんどかったです。へとへとになって、もう歩きたくないという気持ちでいっぱいでした。でも、駒ヶ滝に着いて水しぶきを浴びたら少し楽になり、「まだ、歩ける！」と思えるようになりました。頂上が目の前にせまったところでまた急な階段があったので、すぐつかれました。やっと頂上に着くと、とてもきれいな景色が見わたせたので、つかれがとれてきました。最後までがんばって本当によかったと心から思いました。

宿泊体験学習も終わりをむかえ、お別れの式となりました。中尾さんは、私達の後ろにずっとおられたので、

「前のいすに座ってください。」

とすすめました。でも、中尾さんはずっと私たちのそばにおられました。登山のことや民泊の思い出について話した後、龍頭山登山の記念に木のペンダントをもらいました。輪切りにした板に龍頭山の焼き印を押したペンダントでした。焼き印は中尾さんに押ししてもらいました。人によって文字がうすかったり、こげたり、二重になったりといろいろでした。おもしろくて、よい思い出になりました。

最後に、宿泊活動の思い出の映像を見ました。いろいろな活動の写真が映し出されて、また初めから宿泊体験活動をやりたいなと思いました。芸北小学校の人や民泊家庭の人達とのとても楽しい思い出が、たくさんできました。

この宿泊体験活動で、今までよりもっと友情や信らい関係が深まったり、人のことを考えて行動することやみんなで協力することを学んだりすることができました。これからは、この宿泊体験学習で学んだことをいろいろな場面でしっかり役立てていきます。

協力することの大切さを知った宿泊体験学習

八重東小学校 川上 ゆい

7月11日から7月14日まで、私達はずっと楽しみにしていた宿泊体験活動を行いました。

1日目は、学校に泊まりました。私は、とてもワクワクしていました。夕食作りでは、私達の班はカラフルコンビネーションサラダを作りました。4人みんなの手分けをしたら何とか作り上げることができました。ほかの班の人が作ったカレーライスといっしょに、みんなで食べたら格別においしかったです。

夕食の後は、みんなでレクリエーションをしました。私は、大きな輪を作り、隣の人の手を握って次々と合図を送っていくゲームが心に残りました。合図が全員に伝わるまでに、初めは7秒かかりました。しかし、繰り返すうちにだんだん速くなり、5回目には3秒になりました。みんなの心が一つになっていくのを感じることができました。

2日目に、芸北小学校の5年生の人と合流しました。交流会の開会式では、私は児童代表のあいさつをしました。みんなの前であいさつをしなければならなかったけれど、何回も練習をしていたのであまりきんちょうしませんでした。と中でつまることなく言えてよかったです。活動班は4班で、班長になりました。芸北小の横畑君、江川さん、そして八重東小の細田さん、隅井君、政国君といっしょでした。横畑君と江川さんの呼び方は「いち君」「みあちゃん」になりました。初めは、仲良くなれるか心配していたけれど、意外にすぐに仲良くなれたので安心しました。

開会式の後、お互い仲良くなるためにいろいろなレクリエーションをしました。私が一番心に残ったゲームは、ホワイトシート列車です。このゲームは、1枚のホワイトシートの上に班のメンバー全員が乗り、シートを移動させながら前に進み、かかった時間を競うものです。1回目、私達4班は6分1秒で、すごくおそかったです。2回目は、みんなで作戦を立て、心を合わせてチャレンジしたら、なんと1分51秒になりました。協力することの大切さを実感しました。

昼食の後、民泊体験をさせてくださる「土居田屋」の堀田さんの家に行くことになりました。どんなお家なのか、どんなことが体験できるのかワクワクしながら車で家に向かいました。「土居田屋」では、川遊び、五えもん風呂わかし、食事作りなどを体験させていただきました。江の川でライフジャケットを着て川遊びをしました。川で泳ぐのは初めてでした。プールとちがって流れがあるので楽しかったです。五えもん風呂には初めて入りました。自分たちで火をたいてわかしたお風呂に入るなど考えてもみませんでした。しかも入るときは、板をふんではずめ、ふんだままで入らなければなりません。バランスよくふまないと板がうかんでくるのでむずかしかったです。初めての体験だったので一生の思い出になりました。夕食は、ぎょうざ、キュウリのすの物、とり団子のスープ、かき氷を作って食べました。ぎょうざ作りを中心にやったので、ぎょうざが一番おいしく感じられ、たくさん食べました。

3日目は、大暮養魚場でアマゴのつかみ取り体験をしました。アマゴをつかまえる前に、みんなで協力して炭火を起こしました。五えもん風呂をわかした時のことを思い出しながら火をつけようとしていましたが、なかなか火を大きくすることができず苦労しました。やっと炭火が起こせた時には、みんなで思わず「よかった。」

と声を上げました。

炭火の準備ができたら、いよいよアマゴのつかみ取りです。アマゴは動きが素早く、つかまえるのに手こずりました。でも、最後の最後にやっと1ぴきとれてほっとしました。それからアマゴの内ぞうを取り出し、塩をまぶして焼きました。焼きたてのアマゴはとてもおいしかったです。

午後は、「土居田屋」に帰って手打ちうどん作りをしました。材料の準備をして粉をこねるところから、うどんを食べるまで2時間以上もかかりました。もっと早くできるかと思っていたので、うどん1ぱい作るのに2時間もかかってびっくりしました。めんが太くなってしまいました。苦労しただけあってとてもおいしかったです。

4日目は、龍頭山に登りました。登る前は、山が高すぎると思って少しゆううつな気分でした。けれど、みあちゃんとはげましあいながら歩いていくと、しんどさやつらさを忘れることができ、楽しさを感じることができました。と中に「頂上まで2.3km」と書かれたかん板がありました。私は、「なんだ。通学路の距離より短いじゃないか。」と思いました。しかし、山道の2.3kmは遠く、歩いて歩いて頂上につきませんでした。でも、前龍頭、中龍頭ときれいな景色を見ると元気が出てきて、やっと頂上にたどり着くことができました。すごくうれしい気持ちとがんばって登ったという達成感が合わさって、「やったあ。」と、思わず叫んでいました。虫さされではれた足が気になっていたけれど、360度の大絶景に感動し、いつの間にか忘れていました。とにかく最高の景色でした。

山を下りてから、お別れの式がありました。「土居田屋」のおばあちゃんとたくさん話をしました。楽しかったことをいっぱい話しました。思い出のDVDを見ていたら、ますますなごりおしくなったので、何回もあく手をして別れました。

私は、この宿泊体験学習を通して、友達の大切さ、協力することのすばらしさ、家で手伝いをするの大切さを教わりました。登山では、友達がいなかったら頂上まで登りきることはできなかつたと思います。レクリエーションでは、協力しないとタイムを縮めることはできませんでした。民泊家庭では、いろいろな手伝いを体験させていただいて実際に自分でやってみることのおもしろさが分かりました。私は、この宿泊体験学習で学んだことをこれからの生活にしっかり生かしていきたいです。

たくさんのお話を学んだ宿泊体験学習

八重東小学校 隅井 貴徳

7月11日から待ちに待った3泊4日の宿泊体験学習が始まりました。

1泊目は学校に泊まりました。自分たちで夕食を作ることがこの日の大きな仕事です。班ごとにカレーライスとサラダを作りました。ぼく達の班はサラダを作りました。野菜を切る人、ゆでる人、片付ける人など役わりを決めて調理をし、色取りのよいおいしいサラダができました。食べた時に、みんなで協力して作ることができてよかったなと思いました。

食べ終わった後、みんなでレクリエーションをしました。高槻先生が見えない力の玉を前に押し出すふりをされた時、みんなが倒れるふりをしたら、高槻先生が、

「みんなすごいね。みんないっしょに倒れるふりをすることができるなんて。

協力できるからいいね。」

と言われました。ぼくは、どんな時も男女関係なく助け合いをしようと思いました。

2日目は、芸北小学校の人といっしょになり、班を作って活動しました。ぼくは3班で、政国君、細田さん、川上さん、芸北小の横畑君と江川さんといっしょでした。いろいろなミニゲームをしました。ミニゲームをしているうちに

芸北小の人とも仲良くなり、新しい友達ができました。一番心に残ったのは、班ごとに白いシートの上に乗る、シートの位置を動かしながら前に進むというゲームです。最初は、ゴールまでかかった時間が6分台でした。先生たちも参加されており、記録は44秒でした。ぼく達はもう一度チャレンジして、先生たちのやり方のまねをしました。すると、1分台になりました。みんなで大喜びをしました。ぼくは、みんなと協力して物事をやりとげれば、いい結果が出ることが分かりました。

3日目は、芸北大暮養魚場でアマゴのつかみ取りを体験しました。最初に、アマゴとヤマメのお話をしてくださいました。アマゴとヤマメのちがいは、アマゴには体に赤い点があるけれど、ヤマメには赤い点がないことだと知りました。

次に、炭に火をつけました。マッチの火がなかなか木の枝につきませんでした。4年生のとき、竹炭焼きの火入れの前に、有田神社で杉の葉を集めたことを思い出し、杉の葉をたくさん入れたり、うちわであおいだりして工夫をしました。すると、だんだん火が大きくなり、一安心しました。

それから「命の話」もされました。今からつかみ取りするアマゴも、いつも食べている牛やぶたもみんな生きており、食べる時に「いただきます。」というのは命をいただくことだと教えていただきました。その後つかみ取りをしましたが、アマゴのスピードはとても速く、ついていけませんでした。それでも4ひきぐらいつかまえることができました。食べる時に、「命の話」を思い出し、「いただきます。」と心をこめて言い、おいしくいただきました。ふだんは食べない頭や骨も食べました。ぼくは、これからはご飯を食べる時に、「命の話」を思い出し、毎日おいしく食べようと思います。

4日目は、龍頭山に登りました。とても坂道が多く、登るのがしんどかったです。と中に駒ヶ滝がありました。滝の近くに行くと水が少し散り、気持ちよかったです。後ろにはお地ぞう様があり、何か元気をもらったような気がして頂上まではりきって登りました。ぼくの前の人が間をあけていたので、「がんばれ。」

と声をかけながら、背中をおしてあげました。頂上に着くと、景色がとてもきれいでした。しんどくてもはげまし合って登ったかがありました。

民泊家庭では、宮前さんの家族の人といっしょに過ごす時間がとても楽しかったです。宮前さんの家には動物がたくさんいて、動物たちの世話をさせてもらいました。ヤギを小屋にもどしたり、犬に散歩をさせたり、カモにえさをやったりしました。いろいろな動物とふれ合えてとても楽しかったです。最初は、知らない人の家に泊まるのがすごく不安でしたが、宮前さんやフランスから来られたシャーロットさんと料理を作っているうちに、だんだん不安な気持ちがなくなりました。フランス料理も食べさせていただき、大変よい体験をすることができました。料理の作り方を優しく教えてくださったり、いろいろな動物に優しく接しておられるのを見たりしていると、ぼくは何だか心が温かくなるのを感じました。

この宿泊体験学習でたくさんの方にいろいろなことを教えていただきました。

命の大切さ、友達との協力などです。ぼくは、みんなと協力すると何かよい結果が出るということを体験しました。この体験をいつもの生活に生かしていきたいと思います。この4日間で、ぼくは、今まで知らなかった北広島町の自然にふれたり、町の人々の優しさを感じたりして、ますます北広島町のことが好きになりました。大人になってもこの北広島町に住みたいと思います。

民泊体験活動に行ってきたこと

壬生小学校 吉満 直美

7月19日から7月22日まで、民泊体験をしました。

1日目は、学校へ泊まりました。みんなで「牛丼」を作ったり「すまし汁」をつくったりしました。最初は「だいじょうぶかな？」と思うこともあったけれど、みんなと協力して楽しくやりきることができたのでよかったです。ごはんの後にお風呂に入りに行きました。「アザレア」のお風呂は広いのでとても気持ちよかったです。前にも一度行ったことがあったけれど、みんなと行くと、またちがう感じがしました。その後、学校に帰ってねました。なかなか眠れませんでした。

1泊目を過ぎて思ったことは、みんなでやるというのはしんどいこともあるけれど、みんなでやらないとできないこともあるということです。

2日目は、おきてラジオ体操をしました。そのすぐ後に、朝食作りがスタートしました。美味しくできました。ご飯を食べた後は、バスで大朝小学校に行き、その後、「芸北文化ホール」に行きました。「芸北文化ホール」では、大朝小学校の人と、「心ほぐしゲーム」をしたり、「ビリーブ」を歌ったり、民泊体験活動の目標を決めたりしました。

お昼からは、民泊家庭の方との「対面式」をしました。最初は「どんな所なのかな」「どんな方達なんだろう」とたくさんの不安がありました。対面式の後には、民泊家庭の方と一しょに家に帰りました。民泊家庭に着いて、自己しょうかいをしました。とっっても「しーん」としていて息がつまりそうになりました。私は正直「2泊もここにいるのに、うまくやっていけるのかな」と少しあせっていました。そのまま、山に行くことになりました。私は、虫などが苦手なので少しゆううつでした。しかし、いざ行ってみると、空気がおいしくて水もすごくきれいで緑がたくさんおいしげっていてとてもよかったです。お父さんがいろいろなことを一つ一つていねいに教えてくださってとても勉強になりました。家に帰ってからは、お母さんと一しょに夜ご飯を作りました。「コロッケ」を作ることになりました。とっってもおいしくできあがりしました。

夜は、ホテルを見に行きました。小さな光がまるで宝石みたいでした。うさぎとたぬきもいました。そして、何よりも星がとっってもきれいでした。帰ってきてからは、甘酒のムースを食べました。甘酒の甘さと、ブルーベリーのさん味がとても合っていました。とっってもおいしかったです。ねむるのに少しドキドキしながら明日を待ちました。

3日目の朝食は「イワシ」でした。とっってもおいしかったです。朝ごはんを食べた後は、お母さんがバスをいまで送ってくれました。

この日は、アマゴのつかみ取りをしました。自分たちで火起こしをして、自分たちでとったアマゴを焼いて食べました。身がフワフワでとってもおいしかったです。この体験の中では、養魚場の方の話を聞いて、どんなものでも、たった一つの命をもっていて、大切にしないといけないなと思いました。

アマゴのつかみどりがおわって家に帰って花火を買いに行きました。その日の夜ごはんは「オムレツ」でした。とってもたまごがふんわりとしていておいしかったです。夜ごはんの後は、8時から花火をしました。とってもきれいでした。でもパチパチと光った後、きえていく花火を見るとすこしさみしい気持ちになりました。

いよいよ最終日です。もう今日でおわりだと思うと、とても気持ちが重くなりました。お母さんとお父さんに「2泊ありがとうございました。」と手紙を書きました。

最後の活動は登山です。私が山登りで一番うれしかったのは、私が下りでとまどっていた時、「ガンバレ！」とみんなが声をかけてくれたことです。

登山の後の「お別れ会」では、もうなみだが止まりませんでした。私はなみだが出るほどこの2泊が楽しかったんだなと思いました。お母さんとお父さんがバスが見えなくなるまで手をふってくれました。その時、私はお母さんとお父さんに「ありがとうございました」と強く思いました。

民泊体験活動で学んだこと

壬生小学校 山口 舞雪

7月19日から7月22日にかけて、民泊体験活動がありました。

1日目は、終業式の後、荷物整理などをしました。その後、夕食準備をしました。班ごとに自分たちの食べる夕食を作りました。民泊体験活動の夕食は、牛丼・キャベツもみ・すまし汁でした。作っている時に、豆腐を切っていたら、数が大変なことになったり、牛丼の材料をいためるとき、まぜすぎたりと、とても大変でした。いつもこんな大変なことを朝早くから1人ががんばっているお母さんに「ありがとう」を伝えたくなってきました。そして、一番こまったのは、次の日のみそ汁に使うえのきをすまし汁に全部入れてしまったことです。そんな大事にはならなかったけど、今度からは気をつけようと思いました。みんなで作った夕食はとてもおいしかったです。満足感と空腹がいつぱんに満たされた感じがしました。

2日目は、おもに、芸北文化ホールでの活動でした。各校の自己紹介をして、人間関係づくりという交流活動をしました。最初は、とてもきんちょうしていました。でもだんだんときんちょうもほぐれていって、だんだんと話もはずむようになってきました。最初は、「大朝小学校の人たちと仲良くなれるかな？」などいろいろな不安もありましたが、とても仲良くなれたのでよかったです。

次は、民泊家庭の方との対面式でした。民泊家庭の方の車で民泊家庭に行きました。そして、まずおばあちゃんとたくさん話をしながらゆでたまごをもらいました。家で飼っているにわとりのたまごだそうです。それから、おじいちゃんが

竹のぼうを持ってきてくれて、みんなで竹をけずって竹のはしを作りました。他にも、野菜の数や重さをはかってふくろづめをしたり、にわとり小屋に行ったりしました。とても楽しかったです。

3日目は、バスで大暮養魚場に行きました。まず、お話を聞きました。そして、命の大切さと「いただきます」の大切さを改めて知りました。食べ物や生き物、植物にも、命と心があるから、たくさん「いただきます」と言いたいと思いました。アマゴをつかむ時、なかなかつかめませんでした。でも、たくさんの方が声をかけてくれたので、私もつかめました。今度、私もこまっている人がいたら声をかけてあげようと思いました。

終わったら家に帰りました。家に帰ってからは、牧場に行きました。牛や鳥がたくさんいました。今日買って来たという、子牛を見せてもらいました。子牛は、約50kgから60kgだそうです。自分の体重より重たかったのでびっくりしました。この牧場で一番大きい牛は、約800kgだそうです。夕食は、しゃぶしゃぶでした。牛肉と豚肉をだしでしゃぶしゃぶして食べました。橋奥さんの家の牧場のお肉だそうです。とても美味しかったです。

4日目は、登山をしました。雲月山という山に登りました。芸北トレッキングガイドの方がいろいろな花や鳥を教えてくださいました。その中で、心にのこった花が二つあります。一つ目は、ナデシコという花です。やさしいピンク色でとてもきれいな花だなと思いました。ナデシコという花は、名前は知っていたけれど、実際に見たことはなかったので、見られてよかったです。二つ目は、花ではないけれど、くりです。くりは、見たことがあるけれど、この日見たのは、まだ小さいくりでした。外側のとげとげは、もうあったけれど、さわってみると、まだやわらかかったです。これから、どんどんかたくなっていくのかなと思いました。

どんどん進んでいくと、広島県と島根県のさかいがありました。みんなで両手を広げて「ひろしまねー」などとわいわい楽しく頂上まで登りきりました。頂上から景色を見ると、とてもすがすがしい気持ちになりました。

次に、お弁当を食べる場所まで移動しました。でも、移動する時、私は、足をくじいてしまいました。川魚つかみ取り体験の時助けてもらったので、次は、こまっている人がいたら、助けたいと思っていただけ、逆に私はめいわくかけてばかりでなんだか申しわけなく感じました。でも、みんながリュックを持ってくれたり、声をかけてくれたりしたのはとても嬉しかったです。みんなとがんばった後のお弁当はとてもおいしかったです。

最後に、民泊家庭のみなさんとお別れ式をしました。なみだといっしょに楽しい思いでもこみあげてきました。つらい時こそ、笑顔でいようと思ったけれど無理でした。どんどん悲しくなるばかりでした。いままでの感しゃのきもちをこめてビリーブの歌をおりました。うれしい思い出をくれた民泊家庭の方にとっても感しゃしています。

楽しかった民泊体験活動

壬生小学校 小田 裕汰

ぼくは、7月19日から7月22日まで、民泊体験活動に行きました。そこでの目標は、「北広島町がもっと好きになること」に決めました。

初日は、学校に泊まりました。まず、みんなで牛丼を作りました。ぼくは皿をあらったりつくえを出したりする係でした。それから、次の日の朝食べるおむすびを作りました。楽しかったです。それから、みんなで作った牛丼を食べました。おいしかったです。それから、アザレアのおふろに行きました。お湯につかると、つかれが取れました。そして、学校に帰ってから寝ました。なぜかねむれませんでした。

二日目は、起きてラジオ体操をしました。それから朝ごはんを作りました。朝ごはんはみそしるとおむすびとパイナップルでした。おいしかったです。朝ごはんが終わるとバスに乗って芸北文化ホールに行きました。そこで、大朝小学校の人と合流しました。最初、人間関係作りでゲーム（人間知恵の輪）などをしていうちにあずちゃんと友達になりました。それからお弁当を食べて対面式がありました。三日間お世話になる民泊家庭の人と会いました。そのときはまだドキドキしていたけど、車で家に着いたら、おかしをだしてもらい、きんちょうがほぐれました。それから、外に出てじゃがいもをほりました。と中、くわをじゃがいもにさしてしまいました。大きいものや小さいものがたくさんありました。服がよごれたので、川に行っておふろの時間になるまで遊んでいました。魚をとったりしました。おふろに入ってからはほったじゃがいもで、ポテトチップスを作りました。じゃがいもをうすく切って油であげました。じぶんたちでほったじゃがいもでつくったポテトチップスはおいしかったです。食後には花火をしました。今年最初の花火でした。とってもきれいでした。

三日目は、魚のつかみ取り体験をしました。先に炭おこしをしました。ぼくたちのグループは早くに火がつきました。そして、養魚場の見学をしました。たくさんのアマゴがいました。それからアマゴのつかみ取りをしました。アマゴのかんしょくは、ヌメヌメしていてつかみにくかったです。だけど、すぐにつかまえることができました。とったアマゴは塩をふって焼いて食べました。それからくらたやに帰っておやつを食べ、川に行きました。水が冷たかったです。この日は、もぐったり魚をとったりしました。その後、ホウレン草をとりました。かまで土ごと根を切りました。いっぱいホウレン草がとれました。夕ご飯には、ホウレン草のシャブシャブを作りました。食べるととってもおなかがいっぱいになりました。くらたやさんに芸北の自然館に連れて行ってもらいました。連れて行ってくださったのでとてもやさしいなと思いました。自然館では、芸北の植物などを教えてもらいました。

四日目は、雲月山に登りました。雲月山は、木がほとんどなくてきれいな花がたくさんさいていました。と中、北広島町と島根県のさかい目をまたいで写真をとりました。山が三つありました。三つ目の山が一番つらかったです。とても暑かったけれど、みんなで声をかけ合いながら協力して登りました。頂上で景色を

見てみるととてもきれいでした。下山して閉会式とお別れ式がありました。お別れ式では、お世話になった民泊家庭さんに「ありがとうございました。」と言いました。別れる時はさみしかったです。

四日間の民泊体験活動を終えて、目標であった「北広島町がもっと好きになる」ことができました。なぜかという、北広島町には自然が多いこと、魚や虫などの生き物が多くいることが改めてわかったからです。また、ホウレンソウやじゃがいもなどの農作物が豊富にあるということも分かりました。しょう来ぼくは、北広島町の会社にしゅうしょくしておじいちゃんの農業を手つだいながらすごしたいと思います。

いろんなことが体験できた宿泊体験活動

本地小学校 迫田 莉真

1日目は、本地小学校の5年生だけで総合センターに泊まりました。夜ご飯は、カレーでした。カレーは自分達で作りました。カレー作りで心に残ったことは、カレーが上手に作れたことです。班の人と協力して作れたので、とてもおいしかったです。家庭科で学んだことを生かせたと思います。

2日目に初めて、他の学校の班の人と顔を合わせました。初めはすごくきんちょうしました。でも、直ぐに仲良くなれたのでよかったです。それから、来ていた小学校5校の全員で「人間関係づくり」をしました。その中で、誕生日順にならぶゲームをしました。しゃべってはいけなかったの、身ぶり手ぶりで表すのはむずかしかったです。ごちゃごちゃになったけどすごく楽しかったです。そして次に「もうじゅう狩り」という、ゲームをしました。1回だけ、人数がそろわなかったけど、同じく人数がそろわなかったもう1つのチームに、じゃんけんで勝てたのでよかったです。その後、受け入れ家庭の方との対面式がありました。だれが来るのかな、と待っていました。どんな人か知りたかったのできんちょうしました。式が始まると受け家家庭の方が会場に入ってくられ、女の人がわたし達の民泊班の前にすわられました。そして、わたし達の方を見て、にこっと笑ってくださいました。初めて話した時、とてもやさしくて、話しやすい方だったので安心しました。受け家家庭の方の家に行くと、その方のほかに、おじさんとおばさんの息子のお嫁さんの2人がいました。おばさんも入れて3人家族でした。犬もいました。犬はとてもかわいかったです。犬は、70才ということでした。びっくりしたけど、すごくかわいかったです。でっこしました。少し重たかったけど、もこもこで気持ちよかったです。民泊体験で心に残ったことは、ポテトチップスを作ったことです。火を作ったりするので少しあつかったけど、買った物みたいに作れたのでおいしかったです。

3日目は、アマゴのつかみ取りがありました。命について学びました。魚や野菜にも、1つの命があることを学びました。アマゴは、5匹くらいはつかまえられると思いました。しかし、やってみると、魚は泳ぐのが速すぎて1匹しか取れませんでした。でも、同じ班の人がとってくれました。そして、魚を焼く前に内ぞうのとり方を教えてもらいました。内ぞうは、とてもきれいに取れました。魚

は炭で焼き、班の人と仲良く食べました。

4日目は、登山がありました。1148mの高杉山に登りました。すごくしんどかったけど、最後まで登りることができました。それから休けいをして、下り坂をおりました。すべったりしてこわかったけど下まで行けたのでよかったです。その後、お別れ式がありました。受け家家庭の方とはなれるのはさみしかったです。家をはなれるときに、今でも心に残っていることは、受け家家庭の方に「また来てね。」と言ってもらったことです。そして、最後まで手をふってくれたので、すごくうれしかったです。

この体験活動で、日ごろ学校ではできない多くのことを体験し、たくさんのことを学びました。これからは、これらのことを生かして生活をしていきたいと思います。

心に残った民泊体験活動

本地小学校 平野 日加利

民泊体験活動1日目は、班の人と力を合わせてカレーを作りました。係分担して野菜を切ったり、ごはんをたいたりしました。カレーのルーの分量が少なかったけど、おいしそうなカレーが作れました。サラダもおいしそうなのが作れました。食べてみると、自分達で作ったこともあり、すごくおいしく感じました。七夕ゼリーも食べたのでうれしかったです。寝る前に「E T」という映画を見ました。おもしろかったり、感動したりしました。寝るときには学校の近くにある総合センターに移動して寝ました。寝るときに誰かがうるさいときがあったけど、寝ることができました。

民泊体験活動2日目は、朝の6時30分に起きて朝ごはんを食べました。その後、バスで芸北文化ホールに行きました。そこでは、いろいろな学校の人たちが集まっていたので少しくんちょうしました。でも、見てみると知っている人がいたのできんちょうもほぐれました。「人間関係づくり」では、「もうじゅう狩りに行こうよ」などをしていろいろな人とふれ合えたと思います。そして、対面式では、受け入れ家庭の三好さんと対面し、三好さんの家に車で行きました。「丸」という犬と「こい」というウサギがいたのでうれしかったです。夜には犬の散歩とホテルを見に行きました。ホテルを10匹以上見れたのでよかったです。

民泊体験活動3日目は、予定よりも10分早くバスが来たので、すぐ乗ることができました。大暮養魚場について、はじめに炭おこしをしました。その次に、「命のお話」がありました。ごはんをいただいている牛やぶたもちゃんと命があって、その命をいただいでご飯になることがわかりました。そして、アマゴのつかみ取りをしました。ぼくはあまりみつけられなかったけど、石の間などをさぐってみるとつかまえることができました。内ぞうを取り出すときには、見ていると気持ち悪くなってきたけど、焼いて食べるとおいしかったのでよかったです。その日は夜ごはんを食べる前に体調がよくなかったけど、寝ると少し元気になったのでうれしかったです。

民泊体験活動4日目は、高杉山という山に登りました。朝、バスで登山口に移

動しました。まだ少し、くらくとしていたけど、登山にチャレンジしました。はじめは、みんなについて行っていたけど、後から後ろの方に行きました。はじめよりしんどくなってきて先生から紙コップに飲み物を一口もらいました。最後の頂上では、坂道だったのですごくつかれたけど、登りきることができたのでうれしかったです。帰りの道は行きより楽だったし、お茶をもらえたのでよかったです。

最後に、受け入れ家庭の人たちとお別れ会をしました。ぼく達の班は、三好さんに一言ずつお別れのことばを言ってお別れをしました。少しなきそうになったけど、ちゃんとお別れができたのでよかったです。バスで学校に帰ると、3日間いなかっただけなのに学校がなつかしく感じました。

3泊4日の民泊体験活動でぼくが一番心に残ったことは、大暮養魚場での「命のお話」です。ごはんを食べるときの「いただきます」や、ごはんを食べた後の「ごちそうさま」を言っていたでいる命に感謝の気持ちを表さないといけないことなどがわかりました。これからも、「いただきます」や「ごちそうさま」をちゃんと saying いこうと思いました。

この民泊体験学習では、炭のおこし方を教えてもらい、みんなで協力して炭をおこしたり、ごはんできている生き物にもちゃんと命があるという命の大切さを学んだりしました。

これからは、民泊体験活動で学んだように、人間関係がうまくいくようにいろいろなことを考えて行動していきたいです。

北広島のよさを感じた民泊体験活動

本地小学校 頼政 滯

7月4日から7日まで、民泊体験活動がありました。活動では、学校や民泊家庭で自分達で協力して料理を作りました。

1日目は、学校でカレーとサラダを作りました。カレーの作り方は、パソコンで調べました。材料や作り方の手順はあっているかドキドキしました。いざ作ってみると、スムーズにできました。でも、まちがってやったところもありました。味の方は、ごはんとかレーがからみ合って、とてもおいしかったです。

2日目は、お昼に他の小学校5校の人たちと食べました。仲良くなれたと思います。午後からは、民泊させていただく家庭に行きました。長ぐつをはき、軍手をはめて夕食に使う野菜を畑に取りに行きました。まず初めに、じゃがいもをほりました。大きいいも、小さいいもなど形がさまざまなものがありました。次にきゅうりを取りました。長細かったり、曲がっていたりしました。次にトマトを取りました。赤いのが3つしかありませんでした。最後に、にんにくを取りました。とてもおいがきょうれつでした。とったじゃがいもでポテトチップスを作りました。今まで食べたポテトチップスの中で一番おいしかったです。また、ほったじゃがいもでコロッケを作りました。じゃがいもがやわらかくてとてもおいしかったです。

3日目の朝食に、ハートの目玉焼きが出ました。かわいくてなかなか食べられ

ませんでした。昼には、大暮養魚場に行ってアマゴのつかみ取りをしました。アマゴはすばやかかったけど、3匹つかまえることができました。わりばしで内ぞうや心ぞうを取りました。最初は気持ち悪かったけど、内ぞうを取っていくとだんだんなれてきました。魚は、くしにさし、自分達でおこした炭火で焼きました。とてもおいしくて全部食べました。手伝いに来ていた高校生とも仲良くなれたので、よかったし、楽しかったです。

4日目の朝食にヤクルトが出ました。おいしかったです。その日は高杉山を登りました。坂が急できつかったです。でも、頂上から見る景色は最高でした。おりるときには、ひざがガクガクになって、筋肉痛になりました。

私は、北広島町の良さを感じ、しょう来、北広島町に住みたいなと思いました。これからの北広島町を笑顔いっぱい、住んでいる人が仲良く元気で過ごせる町にしたいです。そのために今、わたしができることを一生けん命やりたいと思います。

民泊体験学習を終えて

豊平小学校 上田 佳乃子

7月4日から3泊4日で、民泊体験学習がありました。だけど、1日目は学校に泊まりました。私はこの3泊4日で、初めての体験をしました。いっぱいあった中で、一番印象に残っているのは登山です。民泊最終日に、高杉山の登山に挑戦しました。登山が初めてだったし、すごく暑かったから登りきることができるか心配でした。だけど、インストラクターの方が、

「みんなで登りきろう。」

と、言われたのでやる気でいっぱいになりました。最初から、坂がすごく急でした。地面がコンクリートだったので、まだ歩きやすいほうでした。走って坂を登っている人がいたので、「すごいな。」と思いました。私はその時、歩くのもしんどかったです。休憩所に着いた時、「やったぁ。」と思いました。日かげに行ったら、涼しくて気持ち良かったです。そこからも坂は、急になるばかりですごくしんどかったです。足が痛くなって、「もういやだな。」と思った時に、地面が土になりました。土が湿っていたので、すべってこける人が何人もいました。私もこけそうになりました。先生や、インストラクターの方が、

「あとちょっと。がんばろう。」

と言って下さっていました。だけど、みんな無口になってしまいました。私もです。疲れきっていました。だけど頂上が見えてきた時、みんなの顔が変わりました。しんどいことは変わらないけど、私も「がんばろう。」と思いました。班の人も手をつないで、

「あとちょっとだよ。がんばろう。」

と言いながら、頂上に着きました。頂上からの景色は、とてもきれいでした。

「がんばって良かった。」と思いました。下りの時、石が転がってきてびっくりしました。だれもけががなくて良かったです。ほっとしました。最後のほうは、みんなでしゃべっていたのであつという間でした。

この登山で学んだことは、2つです。1つ目は、しんどくてもあきらめないことです。しんどくて逃げたくもなりました。だけど、あきらめず最後までがんばることを学びました。2つ目は、仲間と協力する大切さです。しんどい時だからこそ、みんなで声をかけあうことが大切なんだと分かりました。これからは、今よりもっとみんなで助け合っていきたいです。学校だけではなく、他の学校の人と集まった時にも「協力」を大切にしたいと思います。この民泊体験学習は、私にとって良い経験になりました。すごく楽しかったです。

友達たくさん北広島

豊平小学校 杉野 晴菜

私は、この民泊体験学習が始まる1週間前から、心の中でいろいろ事を思っていました。「3泊4日どんな体験学習になるのかな。」という楽しみもあれば、「友達ができるかな。」という不安もありました。しかし、民泊体験学習が始まると、そんな不安は一切なくなりました。

1日目は、普段どおり学校へ行き、学校でご飯を作り、学校へ泊まりました。夜ご飯は、カレーを班ごとに作りました。私は、友達と二人で、ご飯を炊きました。火の調節がとても難しく、お湯がふきこぼれてしまいました。鍋の下の部分がこげてしまったけど、班のみんなで作ったカレーはいつもよりおいしく感じました。ご飯を鍋で炊いてみて、昔の人はこんなに苦労してご飯を炊いていたんだと改めて思いました。そして、今はほとんどの家に炊飯器があるので、便利だなと思いました。ご飯を食べた後には、龍頭温泉へ行き、学校で女子と男子に分かれて寝ました。いつも家では布団で寝ているので、あまり寝れず、午後11時ごろにようやく寝れました。そして、午前5時30分に起きました。起きた時にはもう始まっている民泊体験学習のことしか考えていませんでした。

2日目は、人間関係作り、対面式がありました。人間関係作りでは、山本先生、河野先生が考えてくださった遊びをしました。一言も話さずに誕生日の順に並んだり、猛獣狩りをしたりしました。時間がすごく早く進んでいく気がしました。その後、お昼ご飯を食べて、いよいよ対面式が始まりました。私は、対面式が一番緊張しました。理由は、二泊泊まらせてもらう家の方がどんな方なのかということばかり考えていたからです。しかし、会ってみると、宮本さんはとてもやさしそうな方だったのでよかったなと思いました。その後、いよいよ宮本さんの家に行きました。宮本さんの家は溝口で、私のおばあちゃんの家も溝口なので、溝口にはもう何度も行ったことがありました。泊まらせてもらう宮本さんの家に着き、早速、梅とらっきょうを採りに行きました。梅は食べたことがあるけど、らっきょうは食べたことがありませんでした。最初に、梅を木をゆらして採り、その後土を掘ってらっきょうを採りました。採った梅とらっきょうは、夜ご飯に食べました。ご飯を食べた後、食器を洗い、布団で寝ました。

3日目は、川魚つかみ取り体験をしました。私は、一回だけつかみ取りをしたことがありました。あまごはとてもぬるぬるしていてつかみづらかったので、班の友達と協力してつかみました。自分で魚を取り、班の友達と一緒におこした炭

で焼いて食べたあまごは、一段とおいしく感じました。そして、宮本さんの家へ帰り、流しそうめんをしたり木登りをしたりしました。楽しいことばかりだった3日目だったけど、「明日にはきつい登山がまっている。」と思ったら、早く眠ることができました。

民泊体験学習4日目は、高杉山登山、お別れ式などがありました。私は、龍頭山しか登ったことがありませんでした。だから、登山は楽しみだったけど、きついと聞いていたので、大丈夫かなという不安もありました。そしていざ登ってみると本当に高くて、「あと何分歩けばいいの。」ということばかり考えていました。しかし、新庄小学校の難波先生が、

「杉野さん、あともう少しだ。がんばろう。」

と言って下さいました。それで私も少し元気が出て、なんとか登りきることができました。帰りも、班の友達、先生やインストラクターの方と声をかけ合って降りることができました。その後、お別れ式がありました。宮本さんとお別れするのはさびしかったけど、またどこかでお会いしたいです。

私は、この民泊体験学習でたくさんの事を学びました。そして、民泊をやり、北広島町のよさも知ったし、北広島町にたくさんの友達ことができました。また、北広島町で生まれて、北広島町の小学校の五年生でよかったです。また北広島町の同級生で行う体験をしたいです。

民泊体験学習での新発見

豊平小学校 船木 崇志

ぼくは、3泊4日の民泊体験学習に参加しました。民泊に行く前は、僕がお世話になるお家はどんな所で、何をするんだろうか心配でした。

1日目は、学校に泊まりました。夜ご飯のカレーを班ごとに作りました。ご飯は、教科書通り作っていたら時間が足りなかったのもので、自分達で考えて作りました。カレーのルーは、とろとろしてとてもおいしかったです。ご飯は、せんべいみたいなところもあったけど、やわらかくておいしかったです。

2日目、対面式で森脇さんに会いました。森脇さんは、やさしそうな方だったので安心しました。ご家族は、たまたま帰省されていた二人を入れて七人家族でした。森脇さんのお家では、いもほり、野菜の収穫、ダーツ、夕食作りなどを体験させてもらいました。夕食の手伝いでは、とんかつ、餃子、ポテトサラダ、肉巻きを作りました。でもぼくは、作っているとき、「家族は、僕の家より多いのにおかずの量が一緒だったので、足りるのかな。」と思いましたが、ぼくはたくさんいただいて、お腹がいっぱいになりました。しかし、「森脇さん家族は、足りないのかな。」と思いました。ぼくのお母さんは、毎日大量のおかずを作っているのだなと思ったと同時に、「なぜ僕の家族は、みんな大きいのか」分かった気がしました。

僕が一番心に残ったのは、とんかつのカツに衣やパン粉を付けたことです。わけは、初めてカツに衣やパン粉を付けたので、おいしいか心配だったけれど、森脇さん夫婦に、

「上手だね。」

とほめてもらい、とてもうれしかったからです。

そして僕が一番うらやましいと感じたのは、森脇さんのおうちのお父さんが自分達が寝るまでに家に帰られたことです。僕のお父さんは、今までも、僕たちが寝る9時まで帰って来る事がほとんどなく、時には次の日に帰ってくることがあるからです。「休みの日は一緒にご飯が食べられるからうれしい。」とお母さんは言うけれど、森脇さんのおうちは「家族でいる時間が長くていいな。」と思いました。

ぼくは、親せきのおうちやおばあちゃんの家泊まることはあるけれど、他の人の家に泊まるのは初めてでした。だから、いろいろな家庭があるなと感じ、また、手伝いをしてみて、「お母さんが全部毎日していて、大変なんだな。」と改めて思いました。正直なところ、少しくたびれて、「やっぱり家が一番だな。」と思いました。けれど、見ず知らずの僕達を泊めてくださり、いろいろな経験をさせてくださったから、森脇さんに感謝しないといけないなと思いました。

3日目の魚のつかみ取りでは、やまめやあまごの説明と命をいただくということのお話があり、そのお話を思い出して、「かわいそうに。」と思いましたが、始まると必死で、思わず「むぎゅっ。」とつかんでしまいました。取った魚は炭で焼いて食べました。僕は、お魚が少し苦手だけど、命をいただいているので、全部食べました。

4日目の山登りでは、とてもきつくて、心臓が飛び出しそうでした。僕は最初の坂でめっちゃくちゃ疲れてしまいました。「最後まで登れるだろうか。先生が言われるとおり、体幹トレーニングをもっとすればよかった。」と後悔しました。登っていると横にリフトが見えて、「リフトで登りたい。」と何度も思いました。頂上に着いたときはへとへとで、倒れそうでした。でも最後までみんなと一緒に登れてよかったと思いました。

僕達のために、たくさんの方が準備などたくさん協力してくださったからこそ、民泊体験学習が無事に楽しく終われたんだなと思いました。それと、北広島町にはまだまだ僕の知らない自然などがあることを知りました。だから、せっかく北広島町に住んでいるので、もっともっと北広島町のすばらしいところを知りたいなと思いました。

6年生

夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう



北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年生）実施要項

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

1 日時 平成28年10月20日（木） 9:00～14:30
 場所 千代田運動公園（総合体育館 多目的広場）
 〒 731-1514 広島県山県郡北広島町壬生字西谷 500
 TEL 0826-72-8822

2 目的
 ○植松電機 植松努専務取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 ○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 ○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
男子	9	7	4	2	12	7	12	9	5	67
女子	8	7	8	4	11	12	16	5	9	80
児童数	17	14	12	6	23	19	28	14	14	147
引率者	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18
計	19	16	14	8	25	21	30	16	16	165

※ 原則、各学校2名の職員が引率をする。八重東小学校は、養護教諭が参加する。

4 日程

(1) 各学校より会場への集合 [大型バス4台]

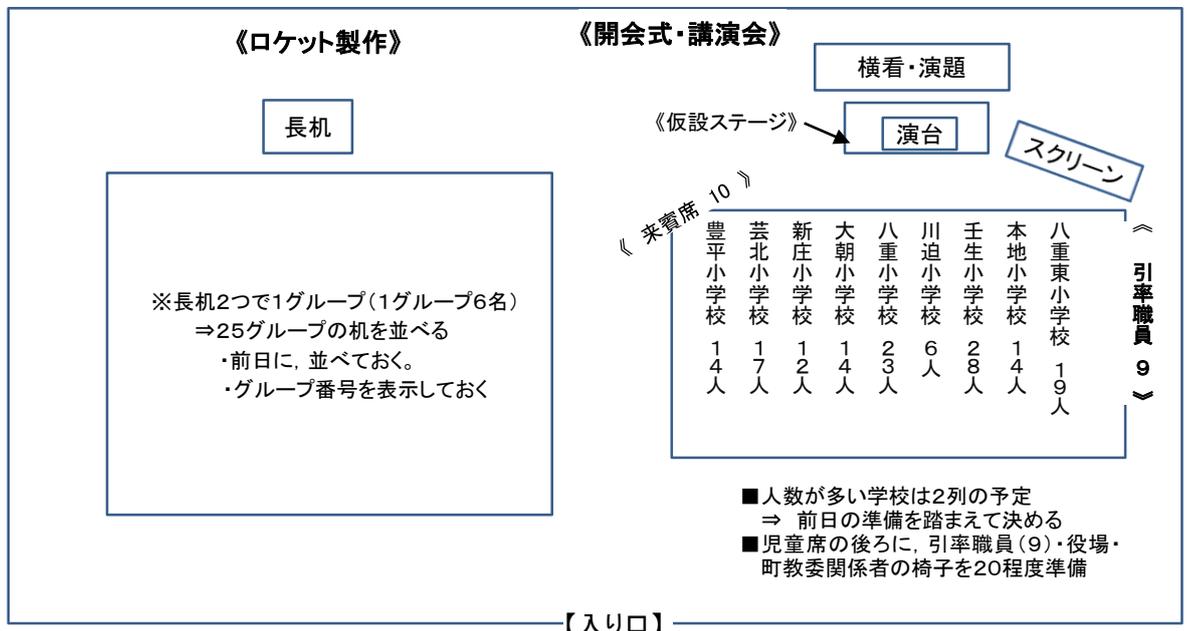
- ①芸北小 [8:15] = 中型バス(19)
- ②豊平小 [8:20] = 中型バス(16)
- ③大朝小 [8:10] → 新庄小 [8:30] → 川迫小 [8:40] = 大型バス(38)
- ④本地小 [8:30] → 壬生小 [8:45] = 大型バス(46)
- ⑤八重小 [8:30] → 八重東小 [8:40] = 大型バス(46)

※ 9時00分に会場に到着できるように、計画をしている。

(2) 全体会・活動の流れ

- 各学校よりバスで総合体育館に到着後、2階の観覧席に荷物を置いて(指定なし)、1階のフロアに集合する。
- 持参した屋内シューズに履き替えて二階へ(くつはビニール袋等へ入れて持っておく)
- 何も持たずに1階へ。講演会はメモなどを取らない。お茶もフロアでは飲めない。

◆開会行事(9:15～9:50) - 総合体育館(講演・ロケット作りも) -
 児童の並び(開会式・講演会は椅子に座って)



【流れ】

- ①開会挨拶（応援隊長－町長 ※町教委が連絡調整する）
- ②校長代表挨拶（担当校長代表〔沖田〔川迫小〕〕）※講師紹介を含む
- ③学校紹介（各学校2分程度）＜時間厳守＞
 - 全員が前に並び、学校の特色ある取組とロケット作りへの意気込みなどを発表。
 - 発表の順番は、豊平小学校から並びの順にする。
- ◆植松電機の植松努専務取締役の講演会（10：00～11：00）
 - メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。
- ◆休憩（11：00～11：10）※トイレ、水分補給等
- ◆ロケット製作（11：10～12：20）
 - ロケット製作をするグループ机に移動して、指導を受けて製作（グループ表示あり）。
 - 児童の準備物は特になし。
 - 職員は、別紙の計画（目安）に基づき、担当するグループの児童に関わり製作の支援をする。
- ◆記念写真（12：20～12：30）
 - 講師を囲んでロケットを持って。－体育館の二階より撮影
- ※昼食（12：30～13：20）－学校ごとにアリーナの二階で弁当を食べる。
 - 引率職員（各学校1名）は事前指導を受けて、講師のロケット点検に協力する。
- ◆ロケットの打ち上げ（13：20～14：20）－多目的広場－
 - 帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。
 - 職員は、安全に発射できるように児童に指導したり役割分担の仕事をしたりする。（児童は4グループに分かれる予定）
- ◆閉会行事（14：20～14：30）－多目的広場－
 - 児童の並びは、開会式と同じ。
 - ①閉会挨拶・謝辞（担当校長代表〔栗栖 八重東小〕）
 - ②児童代表挨拶〔豊平小学校〕
 - ※植松電機(株) 植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）
- ※閉会式後、バスのグループごとに学校へ帰る。15：00に千代田運動公園を出発する。

◎雨天のために、ロケットの発射ができなかった場合は、弁当を食べて13：30に千代田運動公園を出発して、学校へ帰る。学校で、後日ロケットを発射する。

5 会場・準備物等〔植松電機と確認〕

(1) 開会式・講演会

【町教委】

- 横看板
 - 演題
 - 仮設ステージ
 - 演台（パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台）
 - プロジェクター
 - スクリーン
 - パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
- パソコン（マック）は持参される。
- 植松電機が指定している内容を確認して、準備をする。

【千代田運動公園総合体育館】

- 音響装置（マイク・スピーカー 等）
- 椅子－190脚程度

(2) ロケット製作

【町教委】

- 長机－51台
 - 製作に使用する道具が6人1セットで用意されているため、6人が向かい合わせで1つのグループ（2台で1グループ）になるようにテーブルを配置する。
 - ＜6人×25グループ⇒147人 長い机が最低で51台必要＞
- マジック〔油性〕－黒147本
 - 6色等がセットになっているマジック〔油性〕
 - 各学校で事前に持ってこられる数を把握して、足りない分だけ購入

(今後連絡)。

全部で、50セット必要。モデルロケットに絵を描くのに使う。

【学校】

○6人一組のグループ分け・引率者について、10月3日(月)までに町教委共有フォルダ(H28 6年夢プロ)の所定の所に入力をする。

○マジック〔油性〕を持参する。

(色が6色等セットになっているもの一持って来られるだけ)

⇒全部で、50セット必要。事前に学校より持参できる数を、9月29日(木)までに町教委共有フォルダ(H28 6年夢プロ)の所定の所に入力をする。

※児童が準備する物はない。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教委】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員(10人程度)

(4) 費用について

【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代(消費税別)

小学生以下・・・2800円/1人-175人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、会社規定の往復料金が必要。(後日にまとめて請求あり)

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

6 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。アンケートを事前に各学校へ送付する。

○次の内容の報告書を作成する。

【内容】プロジェクトのねらい、実施計画

講演会の内容、ロケット実施の様子

<写真入りで、概要をまとめる>

児童の作文<各学校3人以上(川迫小2名)-400字原稿用紙で4枚程度>

実施後のアンケート結果

7 役割分担

担当学校を中心に分担

○植松電機・講演講師との渉外(豊平小<佐々木>) ○講師の昼食(町教委)

○バス会社と連携(豊平小<佐々木>)

○教育委員会届出(各学校) ○保護者通知(各学校) ○会計(町教委)

○全体会に関わって

◆全体会進行<梅田(川迫小学校)> ※事前に進行細案を提示

◆開会式挨拶<沖田〔川迫小〕>

◆閉会挨拶・謝辞<栗栖〔八重東小〕>

◆児童代表挨拶(閉会)<豊平小>

○報告書作成

◆プロジェクトのねらい(豊平小)

◆講演会の内容-A4で、2~4枚程度(八重東小)

講演会・活動の様子-写真入り、A4で4枚程度にまとめる。(豊平小)

◆記録用写真撮影-※担当校以外にお願いする-参加者が決定したら事務局より個別に-

◆作文<各学校3人以上(川迫小2名程度)>

学校ごとに指導して作成-作文をパソコン入力して、共有フォルダに入れる。

◆実施後のアンケート結果

学校ごとに集計して、11月4日(金)までに町教委共有フォルダ(H28 6年夢プロ)の所定の所に入力をする。

※講演会の内容、講演会・活動の様子、作文は、11月30日(水)までに町教委共有フォルダ(H28 6年夢プロ)の所定の所に入力をする。

○全体総括・事務局(豊平小-佐々木)

8 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させるようにするとともに、安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。服装は通常の通学服など。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具<あればカッパ・レインコート>等を持参する。

⇒当日、雨が降っている場合は、行き来に傘を使用し、発射の時(小雨-可)にカッパやレインコートを使用するという事。

○保護者通知は、9月26日を目安に学校ごとに配布する。

保護者の講演会への参加は、可能<二階席で>とする。ロケット打ち上げは、参観自由。ロケット製作に関わっては立ち入りを遠慮してもらう。

○特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について配慮する。

⇒ロケット製作時は、原則、各学校の職員1名は事前に決められたグループを担当して児童の支援をする。

○前日の19日(水)15時より、会場準備等を町教委職員といっしょにする。各学校1名以上の職員が参加して協力して行う。依頼の文書は、町教委より送付される。

○養護教諭が参加する八重東小学校は、想定される擦り傷などに対応できるように、応急措置の準備をして参加する。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

10月20日（木）に、北広島ふるさと夢プロジェクト「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が実施されました。この事業は、将来の「ふるさと」を担う人材の育成をめざして、町内の6年生（159名）を対象に行われました。

【学校紹介】

各学校の自慢や頑張っていることを工夫して発表し合い、相互理解を深めました。



【植松先生の講演】

幾多の困難を乗り越えて、民間企業で宇宙開発を成し遂げられた(株)植松電機専務取締役の植松努先生の講演を聴きました。

先生の経験をもとに繰り上げられるユーモアたっぷりのお話には、子どもたちみんなが釘づけでした。勇気や元気、やる気が出る魔法の言葉をたくさんプレゼントしていただきました。



不安の向こうに喜びが待っている。勇気を出して。

人は足りないからこそ助け合える。足りないことをバカにしないで。恥ずかしくないで。



人間は失敗する。失敗はだめじゃない。恥ずかしくない。失敗は乗り越えたら力になる。失敗をしたときに、どうすればいいのか考えよう。

【ロケットづくり】

ロケットは、グループごとに作りました。初めて顔を合わせる他校のメンバーを前に、緊張気味の子どもたち。組立説明書を読んで、自分たちの力でロケットを作っていきます。分からない所をグループの人と相談しながら作っているうちに自然と打ち解け、笑顔がたくさん見られるようになりました。

どうやって作ればいいのか。



なるほど。ありがとうございます。



こうやるんだよ。

困ったときには、植松先生がやさしく教えてくださいました。

パラシュートを作ったり、ロケットの中に入れてもらうのが、特に難しそうでした。



最後に、マジックで絵や模様を描いて完成。世界に一つだけのロケットが出来上がりました。

【ロケットの打ち上げ】

いよいよロケットの発射です。「3, 2, 1, 発射」の合図で、点火ボタンを押すとロケットエンジン（火薬）に火がつき、0.3秒で時速200キロを突破。ものすごい勢いで高さ100mくらいまで上がった時、子どもたちから、大歓声と拍手が沸きあがりました。

やったあ。飛んだぞ。

上空でパラシュートがパッと開けば大成功。ロケットがふわふわと落ちてきます。



ナイスキャッチ。



夢いっぱい忘れられない感動体験となりました。



講演会 宇宙へとばせるロケットづくり「思うは招く」 ～夢があればなんでもできる～

講師 株式会社植松電機専務取締役 植松 努 先生



今日はみんなに会えることを楽しみにしてきました。マイクのスイッチが入ったとたん、みんなは静かになりました。誰も静かにしなさいとは言っていない。みんなはすごいです。

今日は私の話を聞いてもらった後は、ロケットを作って飛ばします。小さなロケットですが実際宇宙で使うことができる本物の実験装置です。今日みんなが作るロケットは、スイッチを押すと0.3秒で時速200kmを越して飛んでいきます。ものすごい勢いで飛んでいき、空ではパラシュートが開き戻っ

てきます。今日みんなは本物のロケットが作れる人になってしまいます。ロケットなんて作れないと大人は思っているけど、みんなはそのロケットが作れる人になってしまうのです。ということは、どんなこともできます。どんな夢もかかないです。その可能性がみんなにはあります。

今からみんなに私の話を聴いてもらいます。話の中には、夢の話だったり、仕事の話だったりがあります。みんなが中学生になって役に立つ話です。今日、私の話の目的は、私の仲間を探すことです。今日の話はとっても簡単な話です。「思うは招く」という話です。中学生のとき母さんが話してくれた「思ったら願いがかなう」という話です。この言葉で私は何でもできるようになってしまいました。夢があったらなんでもできる。だからみんなには素敵な夢をたくさん持ってほしいと思います。

私は小さい頃から落ち着きがなく、いつもちょろちょろしていたので、学校の先生が「ちょろまつ君」というニックネームをつけてくれました。私は今北海道の真ん中の赤平という町に住んでいます。とても田舎で人口が随分少なくなりましたが、そんな町で生まれて初めて会社を経営しています。まさか自分が会社を経営するとは思っていませんでした。今ロケットを作ったり、宇宙の仕事をしたりしていますが、本当の仕事はリサイクルに使用するマグネットを作る仕事です。そのマグネットは私の会社しか作っていません。世界で使ってもらっています。マグネットの作り方は誰でも知っています。小学校5年生の理科の時間で習います。そのマグネットはただ大きくしただけです。発明したのです。小学校で学んだことを生かせば、会社が作れるのです。みんなも会社の社長になれます。社長になるためのコツは簡単です。いやなことがあっても、いやな顔をしたり、あきらめたり、愚痴を言ったり、無視したりしないことです。いやだなんて言っても何も変わりません。何でいやなのかを考えることです。そうすると人を助ける発明になります。いやな思いをしている人は自分一人ではないのです。世の中には山のようにたくさんいます。そこで勇気をだして自分を助ける方法を考えるのです。すると他で苦しんでいる人を助ける発明になっていくのです。いやだいやだと言っても何も変わりません。何でそう思うのだろうと考えることが大切なのです。そして話し合いをすることが大切です。それが考えることなのです。話し合いをするためには言葉が必要です。美しい言葉が必要です。美しい言葉を身に付けるためには本を読むことが大切です。たくさん本を読んで美しい言葉を身に付けてほしいのです。

私は今ロケットを作っていますが、ちょっと前まではロケットは危ないから作ってはいけないと思っ

ていました。安全なロケットを作ればいいのですが、それにはお金がかかります。そこで北海道大学の長田先生と出会い、お互いの足りないものをお互いで補い合いながらロケットを作るようになりました。足りないということを恥ずかしかってはいけません。足りないからこそお互い助け合うようになるのです。困っているときは誰かに話をしてください。すると誰かが助けてくれます。自分でできないことは、誰かに助けてもらえばいいのです。そうやって長田先生と私は安全なロケットを作ることができるようになりました。



最初は上手くロケットは飛びませんでした。爆発ばかりしていました。なんでこんなに失敗ばかりするのかと思いましたが、人間は初めてすることは失敗するのです。人間はやったことがないことに出会うのです。これから先みなさんも失敗しまくるのです。でも失敗は恥ずかしくないのです。失敗をたくさん乗り越えたら力になります。失敗しないためには色々なことを考えること、イメージすること、未来を想像することです。そうすることで安心して前に進んでいくことができます。しかし、それでも失敗はします。失敗しても失敗に罰を与えてはいけません。罰がいやだから失敗することから逃げてしまうようになります。そうすると何もできなくなります。失敗しないため、分からないことは調べればいいのです。工夫すればいいのです。私もそうしてロケットを飛ばすことができるようになりました。

私はおばあちゃんからお金があったら本を買いなさいと言われました。私の気に入っている本は飛行機をつくるための設計図が書いてある本です。しかも大人向けの本なので、とても読むことは大変でした。ペーパークラフトで飛行機を作っているうちに物作りが得意になり、お金を出して買わなくても自分で作ってしまうようになったのです。「これはいくらするのかな」とは考えなくなり、「どのようにして作っているのかな」と考えるようになりました。飛行機をつくることをたくさん勉強しましたが、一度も学校の試験には出ませんでした。先生からは「そんなこと止めてしまえ、もっと勉強しろ」と言われました。こんなことを言われた人はどうなるのでしょうか。人は頑張れなくなります。今できることしかできなくなります。考えることがいやになります。そうすると自分のことを否定するようになってしまうのです。「自分は何もできない。自分はだめな人間なんだ」と考えてしまうのです。

しかし本当は自分の心の中に「自分にもできる、頑張りたい」という気持ちがあるということを忘れないでください。今は、「自分はだめなんだ」という気持ちに負けたまま大人になってしまい、自分ではしない、考えない人がどんどん増えています。昔はこれでも生きていけました。言われた通りにすればできる仕事があったのです。

しかし今は違います。言われた通りにすればできる仕事は、今では全部ロボットがするようになってきました。このままだと世の中はロボットだらけになってしまいます。どんどん仕事がロボットに奪われて仕事ができなくなるかもしれません。しかしロボットができないことができる人になればいいのです。それは考える人になることです。今世界で求められる考える人は、やったことがないことをやりたがる人です。あきらめない人です。工夫をする人です。どこにも成績の事なんか書いてありません。そんな人と仕事がしたいです。それはここにいるみんなです。人は「あきらめる」とか「どうせ無理」とか知らないで生まれてきたのです。私は周りから「お前の夢なんか叶うわけないよ」と言われてきて、目の前が真っ暗になりました。そのとき母さんが「思うは招くだよ」と教えてくれました。だから私は思うことを止めないように頑張りました。

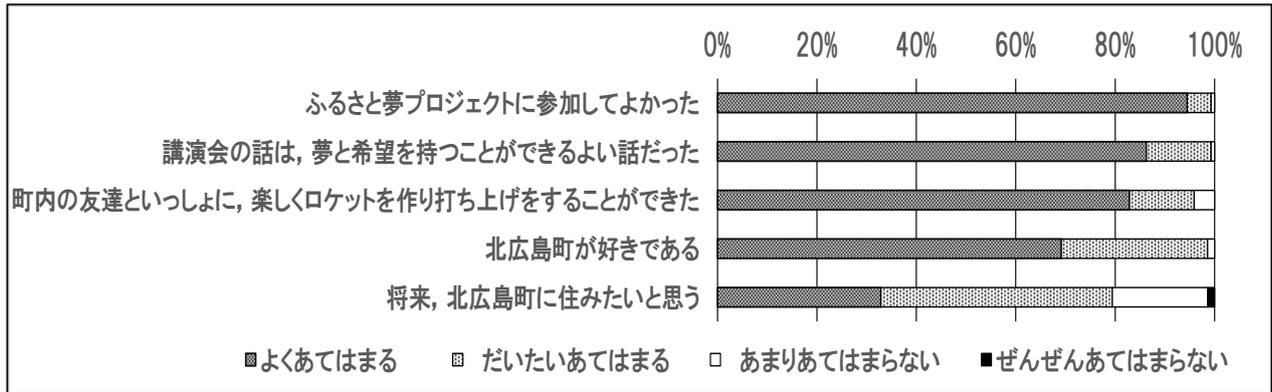
このように人の夢をつぶす人はどんな人かという、何もやったことがない人なのです。自分でやりたいことがない人に相談すると、できない理由を教えられるだけです。自分がやりたいことは、やったことがある人と仲良くするとできるようになります。でも私の生まれた町には残念ながらロケットや飛行機を作ったことがある人がいませんでした。だから出会いませんでした。しかし本があります。本はすごい所があります。死んだ人と仲良くなれることです。私はライト兄弟と仲良くなりました。ライト兄弟からたくさん学びました。彼らは高校も大学も行っていない。勉強の成績が悪くたって夢は叶うんだよということを教えてくれました。大事なことは、本を読むということです。



人生で大事なことはフライングすることです。できるだけ早く自分がやりたいことを始めてみることで、身の回りにあるものを工夫してやってみることです。その方が早く力が付きます。フライングするためには本を読めばいいのです。では、どんな本にめぐり合えばいいのか。どんな本でもいいのです。漫画でもいいのです。漫画にもたくさんいいことが書いてあります。私は本を読むことで伝記の人たちから「あきらめない」ということを教えてもらいました。だから自分の好きなことをどんどんやってきました。自分でできることがたくさん増え、こうしてロケットを作ることができるようになったのです。自分の夢を叶えることができました。夢を叶えることができたのは、「勉強とは関係ないから止めなさい」と言われても止めなかったからです。止めなくて本当に良かったです。大好きなことは、必ず力になります。テストの点数が悪かったかといってあきらめることはないのです。大好きなことを取られないようにしてほしいのです。みなさん一人一人は歴史を変える事ができる人なのです。ここにもたくさんいると思います。好きなことをどんどんやってください。好きなことをやっていると仲間が増えます。一人ではできないことができるようになります。その輪っかがどんどん広がると歴史が変わってくるかもしれません。その可能性をみんなが持っています。だからみんなの命は大切です。その可能性を言葉で殺してしまうようなことを絶対してはいけません。人が一生懸命やっていることを馬鹿にしたような言葉でつぶすようなことは様々ないじめの原因になります。

人は生きていくためには、自信が必要です。自信はお金では買えません。人に勝っても、見下しても手には入りません。自信はやったことがないことをやったとき身に付くものです。どんどんやったことがないことに挑戦してほしいのです。自分の未来を昔の常識であきらめないでほしい。今日作るロケットは世界中で飛んでいます。これがきっかけで世界中の人と仲良くなれるかもしれません。みんなは、これから先自分の夢が叶えられる人になってほしい。話をよく聞いてくれてありがとう。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果



講演会の話についての感想や思いについて

芸北小学校

- | | |
|---|--|
| <p>①将来の夢はと聞かれて、いつも一つにしぼらないといけないと思っていたけど、しょう来の夢がたくさんあった方がいいんだということが分かった。</p> <p>②「思うは招く」の意味が最初は分からなかったけど、思っていれば必ずかなうということを知ったし、本をよむといいことなどを学びました。私は、読書はにがてだけど、本をよんでみようと思えました。</p> <p>③ぼくは、植松さんの話を聞いて、いろいろなことをくふうすることが大切だということが心にのこりました。また、ほかの人がやったことがないことへ挑戦してみようと思いました。</p> <p>④「足りないから助け合う」という言葉が心に残った。他の人にできなくて、自分ができることは教えて、逆に自分ができないことは他の人に頼ることが大切だと思った。できない人をばかにするのではなく、助けてあげる。するといつか自分が困った時に助けてもらえると思う。</p> <p>⑤よく分かり、おもしろい話だった。「苦しみの向こうのよろこび」、「あきらめずにやり続ける」「失敗はOK! どうしてなったか考える」が心に残った。最後の話、イライラしても「この人は、こう思ってるからいそいでいるんだ」と別の考え方をする。</p> <p>⑥「ムリでしょ」と言われると、すぐあきらめてしまうから、言われてもあきらめずに最後までやり切ろうと思った。「どうせムリ」と言う言葉は、自分にも相手にもいらないと思った。</p> <p>⑦夢を何個も、もっていいんだよと言われたので、夢をたくさんもちたいです。がんばった先には、いいことがあると言うこと。いやなことを言われたら、相談をしたり、解決することが大切だとわかった。</p> | <p>⑧今までは、自分の成績ではこの仕事にはつけないと思っていました。でも、失敗するから成功するというのを聞き、失敗しても大丈夫と自信をもてるようになりました。</p> <p>⑨やったことないことは、だれでも失敗するからゆう気を出してやる。ということが心に残った。</p> <p>⑩植松さんの話を聞いて、ぼくもぜったにあきらめたりしないようにしようと思った。「思うは招く」という言葉が心に残った。色々ありがたい話を聞いてよかった。</p> <p>⑪話を聞いて、むりだとか言われてもあきらめない方がいい、不安でもやればよろこびになる。</p> <p>⑫私は、ネガティブに考えていたけど、植松さんは、ポジティブに生きている。</p> <p>⑬「思うは招く」ということをその人の話をきいてよくわかった。</p> <p>⑭失敗しても大丈夫!ということが、心にのこっています。失敗しても、自分で考えて、工夫すればいいんだということがよく分かりました。</p> <p>⑮ぼくは、失敗しても、次につなげるために「どうすればいいのか」ということを自分で考えることが大切だということが心に残っています。ぼくは、失敗することが多いけど、なぜ失敗したのか、どうすれば失敗しなくなるのかということをあまり考えていませんでした。だから、失敗を生かすようにすることが、できるようになりたいと思いました。</p> <p>⑯「夢と希望があれば何でもできる」「できないと周りに言われてもあきらめない」というところが心に残った。</p> |
|---|--|

大朝小学校

- | | |
|---|---|
| <p>①失敗をおそれず、何ごともチャレンジしようと思いました。</p> <p>②人の夢をバカにするのは、人を殺すのと同じだから、夢は人それぞれでバカにしてはいけないと思いました。そして、植松電機はいろいろな会社と協力していることが分かりました。</p> <p>③私には「料理屋を開く」という夢がありますが、家では「大変な仕事だからやめたほうがいい。」といわれています。でも植松先生は、「『どうせ無理』に惑わされないで、夢のためにがんばる」とおっしゃっていました。私も夢に向かってがんばりたいという気持ちをもつことができました。</p> <p>④失敗をおそれずがんばっていきたい。</p> <p>⑤私は、あきらめる前に次は何ができるか考えることが大切だと思いました。あと、美しい言葉を話すために、本を読むことも必要だと思いました。</p> <p>⑥長かったけど、全然あきませんでした。</p> | <p>⑦ポッキーの話もおもしろかったけど、やっぱり「あきらめないこと」が心に残った。「無理」とは言わないようにしようと思った。</p> <p>⑧自分の未来をつぶすことは、夢と希望を持たないことだと思う。いろいろ失敗しても、それでいいんだということがわかった。</p> <p>⑨人間は失敗をもとに成長するということが心に残った。だから失敗をダメだと思わなくてもいいということが分かった。</p> <p>⑩植松先生の話は、とても笑えることや真剣なところがあって、おもしろかったです。失敗することも大切って言っていて、私は失敗しても別に恥ずかしくないんだと思いました。ポッキーを飛ばす時刻や高さの条件がいっぱいあって、とても難しいんだろうなと思った。</p> <p>⑪小さいころから今まで続けてやっているってことがすごいと思った。あきらめなかったらできるということだと思った。</p> <p>⑫あきらめずに努力し続けるとその夢がかなうと聞いて、私は習い事をがんばろうと思った。</p> |
|---|---|

新庄小学校

- | | |
|--|---|
| <p>①私は少し前まで将来の夢をもっていたけど、その夢にあまりなりたくなくなって、将来の夢を新しく探しています。こんな時に植松さんが「夢をいっぱいもつことは大切なことだよ」と言っていたので、私も早く探していっぱい夢をもちたいなと思いました。</p> <p>②たしかにそうなんだと思えたことがたくさんあって、いろんなことを教えてもらえてよかったです。</p> <p>③勉強ができなくても、仕事につける、仕事に必要なのは自信と好奇心だということが分かりました。</p> <p>④亡くなった人とでも本で友だちになれるってすごいと思った。小さいころからロケットを作っていたので才能があるのだと思った。</p> <p>⑤みんなはいろんな可能性をもっていると聞かれて、ちょっと夢をかなえる自信がつかしました。</p> | <p>⑥自分の好きなことが仕事になっているのでもいいなと思った。</p> <p>⑦植松さんはペーパークラフトを使っているの作っていたので私も作りたいと思った。</p> <p>⑧話がおもしろかった。</p> <p>⑨私はあまり「がんばり続ければ夢はかなう」などを信じていないけど、植松さんが言われると説得力があり、なるほどと思った。</p> <p>⑩私は、お話を聞いて、まだ夢がないのでこれから夢を作ろうかなと思いました。</p> <p>⑪夢は絶対かなうんだなと思った。あきらめないで最後までがんばることが大切だと分かった。</p> <p>⑫大人になったら、植松さんに言われたことをいかしていきたいです。</p> |
|--|---|

川迫小学校

- | | |
|---|---|
| <p>①私は夢をあきらめないことの大切さを知ることができた。自分には無理かなと思ったこともあったけれど、植松さんの講演を聞いて自信がついた。とても良かったと思う。</p> <p>②植松さんの話は、分かりやすく、いい話がたくさんあった。特に本をたくさん読むことが心に残った。</p> <p>③「ムリ」や「できない」などを言うと、自分がダメになるし、相手に言うと相手もダメになるのであまり言わないようにしようと思った。</p> | <p>④失敗はだれでもすることだから、失敗をおそれず色々な事に挑戦したいと思う。</p> <p>⑤植松さんは「夢をたくさん持ってもいい」と言ってくださったので、私はたくさん持ち、最後まであきらめないようにしようと思う。</p> <p>⑥おもしろかったし、植松さんの素晴らしい話で、印象に残ったことがたくさんあった。</p> |
|---|---|

八重小学校

- ①自分が夢が決まっていなかったし、悩んでいた
のでアドバイスみたいになった。
- ②命の大切さが分かった。
- ③たくさん夢をもってほしいという気持ちが伝
わった。
- ④夢をあきらめずにかなえることが大切だと分
かった。
- ⑤「プロテニス選手になりたい」という夢で、「なん
でなりたいか考えよう。」と言われて可能性は
ゼロではないんだ、と思えずごく自信になった
ので参加してよかった。
- ⑥とても心に残るいいお話でした。
- ⑦将来役に立つお話でした。
- ⑧お話を聴いて、自信と希望をもつことができ
た。
- ⑨夢をあきらめない気持ちが強くなった。
- ⑩おもしろいお話だったので、興味をもって話を
聴くことができました。
- ⑪すごく心に残るいいお話を聴くことができ、
よかったです。
- ⑫今後のためになるお話をしっかり聴くことが
できたので、よかったです。

- ⑬自分の夢をばかにされてもあきらめてはいけ
ない、ということが分かった。
- ⑭失敗があっても、大人になった時、きっといいこ
とがあると思ったので、がんばりたいです。
- ⑮とてもためになる話でした。もっと夢に向か
ってがんばる自信がもてました。
- ⑯自分の趣味からでも、夢に向かって実現するこ
とができる勇気が持てました。
- ⑰様々な苦勞を乗り越えて今がある、ということ
と、夢をあきらめなかったら叶うということが
分かった。
- ⑱話を聞いていろんな人に「無理じゃない？」と言
われても、夢をあきらめないようにしようと思
った。
- ⑲「無理だろう。」と言われてもあきらめないこ
とが大切だと思った。
- ⑳自分に自信がもてました。

八重東小学校

- ①夢をもつことの大切さを改めて知ることがで
きた。
- ②少し自分にあてはまる場所があった。「どう
せ無理」という言葉を使わないようしようと思
った。
- ③安心・自信・自由という言葉が特に心に残っ
た。すぐにあきらめてはいけなと思った。
- ④「どうせ無理」「自分なんか」という言葉は絶
対に言うてはいけなと思った。
- ⑤今から困ったことや悩むことがあったとき、
どのようにすればいいか、夢を実現するために
大切なことを教えていただいて、とてもこれか
らの生活に役に立つと思った。
- ⑥植松さんの話はおもしろいところもあって、
集中して聞いた。
- ⑦夢に向けて、今できることなどを挑戦してみ
たくなった。植松さんの話をもとに、自分自身
が反省することがたくさんあったので、改善し
ていきたい。
- ⑧植松さんの話の中では、今まで何とも思っ
ていなかったことが大切に思えてきました。言葉
を大切にしていきたいと思いました。

- ⑨自分にあてはまることがいくつもあった。「思
いついたらすぐやってみる」というのが心に残
った。
- ⑩夢を大切にす。
- ⑪自信を持てばなんでもできるということがわ
かった。
- ⑫自分の将来の夢について、あきらめずに前に
向くことの大切さを学んだ。「夢は誰でもかな
う」という言葉で、今からどんなにつらいこと
があっても大丈夫と思える。
- ⑬夢をあきらめないことを学んだ。
- ⑭絶対にあきらめないということに改めて気が
ついた。
- ⑮植松さんの話を聞いて、ぼくは夢というのは
いくつあっても良いのかなあと思いました。
- ⑯失敗しても大丈夫という言葉が心に残った。
- ⑰自分の経験をくわしく教えてくださり、自分
ががんばっていることと重ね合わせて、どうす
ればいいかを考えていきたいと思った。
- ⑱あきらめず、挑戦していきたいと思った。
- ⑲あきらめないことが大事だと分かった。

壬生小学校

- ①植松さん自身が他の人に夢をつぶされるよう
な言葉を言われているから、すごく説得力があ
ったなと思いました。
- ②私も植松さんのようにどんなにひどいことを
言われても夢をあきらめずに持ち続けようと思
いました。また、私自身が人の夢をつぶすよう
な言葉を言わずに他の人の夢を応援してあげたい
です。

- ③植松先生の話が画像や動画をつかって実際に
あったことをおっしゃっていたので、楽しみな
がら学びながら聞くことができました。
- ④「思うは招く」や「協力」という言葉が心に
残った。
- ⑤自分の夢をあきらめかけていたが、自信をも
てた。
- ⑥努力すれば、夢はかなうと聞いて努力しよう

③植松先生の「思うは招く」で、植松先生は、自分でプラモデルなどを作ったりできていたので、ぼくも自分で作れるものだったら自分で作ってみようと思った。

④「思うは招く」の意味を知って確かにと考えた。

⑤「ダメ」や「もうむり」ではなく、考えようと思った。

⑥本をたくさん読もうと思った。

⑦周りが何を言っても夢をあきらめないようにしようと思った。

⑧「自分なんて」と思うと何もかもできなくなるという言葉に共感した。

⑨「仕事は夢とちがう」というので「仕事」というプレッシャーがなくなった。

⑩夢をもつこと、夢をあきらめないことは本当に大事だということがすごくわかりました。

⑪とてもためになる話だと思った。不安の後には、よろこびがまっているという言葉が心にのこりました。また、お話を聞きたいです。

⑫夢をあきらめなくていい、夢に向かってがんばろうと思いました。

⑬マイナスな言葉を言わないようにしようと思った。

⑭夢は何こあってもいいといわれ、少し安心した。

⑮人に何を言われようとあきらめてはいけななんだなと思った。

⑯夢は沢山もっていいんだと思った。

⑰夢と成績は関係ないのだと知った。

⑱友達が夢を打ちあけてきた時は応えんしてあげようと思った。

⑲マイナスに考えずにプラスに考えるようにしたい。

⑳失敗をおそれずチャレンジしていきたい。

㉑植松さんの話はとても分かりやすく笑えるところもあってとても楽しかった。

㉒自分の夢は努力すれば成功することが分かった。

㉓よく、勉強ができないといい仕事に入れないと聞くけど、話を聞いて、そんなのはあまり関係ないし、やりたい夢にむかっていけばいいと思った。

㉔自分の好きなことを仕事にしようと思った。

㉕何を言われても自分の好きなことをしようと思った。

㉖夢をいっぱい持とうと思った。

㉗「むり」とか「いやだ」などと思ったりすることはだめだということ、失敗してもあきらめないことが大事だということがわかりました。

㉘失敗したら悪いのではなく、成功に導くものだと思えた。

㉙ぼくも、まだできていないものをつくってみたいと思えた。

㉚周りがどんなことをいおうと自分がしたいものをしようと思った。

㉛最初から「無理」や「いやだ」などと言わないように、どんなことにも取り組もうと思っ

と思った。

㉜何でもあきらめないことが大切だと思った。

㉝「どうせ」や「もう無理」という言葉をなるべく使わないようにしようと思った。

㉞これからは、新しい事にチャレンジしようと思った。

㉟「思うは招く」という言葉を聞いて、今からでもいろんな発想をして実現させていきたいです。

㊱夢をあきらめないということは大切だと思っていただけ、夢というものは、何か大きいもののような気がしてあまり身近に思っていなかったけど、あきらめるということは身近なような気がするからあきらめるというハードルを1つ1つ乗り越えて夢をかなえたいです。

㊲夢は決まっていなくても、小さなことでも何個でもいいと分かり安心した。

㊳本をたくさん読もうと思った。

㊴新しいことを（やったことがない）やってみようと思った。

㊵「やだーむりー」を言ってしまってあきらめていたけど、なぜ「やだーむりー」なのか考えればいいとわかりました。

㊶弱音を言うと夢はかなわないことが分かった。（「だめだ」「むりだ」など）

㊷「思うは招く」という言葉が心に残った。

㊸何事にもチャレンジすることが大切だと分かった。

㊹失敗してもあきらめずにやっていけば、どんな夢もかなえられるということがわかりました。

㊺何でも新しい事にチャレンジしたいと思いました。

㊻むずかしい話でした。

㊼「思うは招く」という言葉を考えながら今後も楽しく生活をしたいです。

㊽大切なことをわかりやすく話してくださった。

㊾「夢をあきらめないで」とよく言われるけど何でか分からなかったが、今回の講演会でよく分かり希望もてる話だった。

㊿植松先生がどんな生活を送り、夢にむかって走っていたかがよくわかりました。ぼくも、まわりから否定されても夢を思う気持ちだけは忘れないようにしようと思いました。

㊱夢は一つじゃなくても良くて、どんなに悪いことを言われても夢を捨ててはいけなないということが分かった。

㊲心に残っている言葉は「苦しみの先に喜びがある」という言葉です。

㊳こうすればいいんだなと思った。

㊴「思うは招く」をいつでも思っていた方がいいということがわかりました。

㊵植松先生は小さいころから夢をもち、大人にだめだといわれてもあきらめなくて夢がかなったので、ぼくも夢をあきらめずに追いつきたいと思いました。

㊶努力することは夢につながると思ったので努力を大切にしようと思いました。

<p>た。 ③植松さんの話で、いい夢のすじ道ができてうれしくなった。</p>	
<p>本地小学校</p>	
<p>①「夢」の大切さや、希望をもつことで叶う夢があることを知り、とても心に残った。 ②夢を実現させるためには失敗はつきもの。でも、その失敗をおそれてしまうと夢は実現できないことが分かった。 ③何かのことをやりたいと思えば、道は無限にあると言われたのが心に残った。 ④話を聞いていると「あっ、そうだったんだな。」と色々と考えられるようになって、自分の心のことが分かってきた。 ⑤とても分かりやすく、楽しく、夢などについて考えながら聞いたので良かった。 ⑥「思うは招く」という言葉が心に残った。 ⑦あきらめないことが大切だということがよく分かった。 ⑧分かりやすい表現で説明してもらったので、お話を聞くのが楽しかった。 ⑨言葉がポジティブなものばかりで元気が出た。 ⑩いやなことがあったとしても、あきらめなければ必ず実現するのだと思った。</p>	<p>①人の可能性をつぶすことはこわいことだと分かった。 ②「どうせ無理と言う人はやったことが無い人」と言ってくださったので、ポジティブに考えようと思うことができた。 ③テレビ番組や本で言われていたことと同じことを聞けて、うれしかった。 ④一回失敗すると、それから失敗するのがこわかったけど、先生の話聞いて自信がついた。 ⑤とても分かりやすいし、共感できるようなところもたくさんあった。 ⑥「できなくても自信をもってやること」と「人を傷つけるのではなく優しくしてあげる」という言葉が心に残った。 ⑦色々な話を聞いて夢をもつことが大事だと分かった。 ⑧自分で工夫したり、人に聞いたりすることが大事だと思った。 ⑨一度あきらめかけていた夢と希望をもう一度もつことができた。</p>
<p>豊平小学校</p>	
<p>①私は、挑戦する時、「失敗したらいやだから、しない。」とか言っていたけど、植松先生の話聞いて、失敗はしても良いことに気がついて、考えが変わりました。また、すごく簡単で分かりやすくて、おもしろい話だったから、楽しんで聞くことができました。「夢はかなう。」という言葉聞いて、将来に自信がつけました。 ②夢をあきらめなければ実現するというお話を聞いて、私の夢は獣医なので、そのために、たくさんの勉強をして、動物の性能を知って、夢に近づけるように頑張りたいと思います。 ③自分は無理っぽいことは、あきらめたこともあったけど、今度は絶対にあきらめたくないと思った。ぼくは、テニスが好きでプロになりたいけど、無理と言われても必ず続けてプロになると思った。また、失敗をおそれずになんでも挑戦して失敗しても、次につなげていい方向に結びつけたいです。また、ぼくは夢は、一個しか持ったらいけないと思っていたけど、いくつも持って、その夢を叶えてみたいと思った。 ④すごく大切な話をしてくださったので、とてもいい体験になりました。また、スクリーン・画像があったので、とても分かりやすかったです。話の中で、「何度もロケットを作って失敗した部分もあった」という話で、できるまで挑戦することが大事だと分かりました。 ⑤講演会の話を書いたことで、自分に自信が持てたし、将来に向けてがんばっていけそうな気</p>	<p>⑧植松先生に、あきらめずにがんばって続けると必ず良いことがあるということを教えてもらって、私も夢に向かってがんばりたいと思いました。「失敗の先に喜びがある」という言葉から、失敗してもいいんだということと、失敗をおそれず挑戦することが大切だということを学んだので、自信をもつことができてよかったです。これから、植松先生の言葉を大切にしたいです。 ⑨好きなことをやって大人になって、その夢が実現することがすごかった。成功に失敗はつきものということを知って、確かに自分もたくさん失敗したなあと思いました。 ⑩植松さんの話を聞いて、どんなに夢を否定されてもがんばればかなうということを知りました。 ⑪植松先生は、子供のころからの夢をあきらめず、たくさん失敗してきたけれど、夢が叶ったということを知ると、私も夢をあきらめずがんばろうという気持ちになった。勉強ができなくても、頭がよくなくても、夢は叶えられるということ。今もっている夢に向かって、できることをがんばってやってみたいと思った。 ⑫私も植松先生と同じで、マンガをよく読みます。だから「マンガを読むことでいろいろなことが分かるんだ。」と思いました。他にも、好きなことは、やめなければ絶対役に立つと聞いて、私も「好きなことはやめないようにしよう。」と思いました。</p>

<p>がしました。そして、植松先生が話された興味を持ったらすぐに実行することを私もがんばりたいです。</p> <p>⑥夢をあきらめずこれからの将来に、希望をもつことが出来たので、とてもためになる話だった。これからは、この体験を生活にも生かして、友だちともきずなをもっともっと深めたいと思った。今、自分が好きなことはあきらめず最後まで続けたいと思いました。</p> <p>⑦何度失敗をしても、次にいかせればいいということが分かりました。どんなに人からせめられても、とにかくやってみせるということを知りました。バカにされても、前を見て進めばいいと思いました。自分のやりたいことをして、もっと学ぶことを知りました。</p>	<p>⑬「どうせむり」という言葉は、人の可能性をつぶす言葉だから言ってはいけないということが分かった。失敗を恐れずにやればいいということが分かった。夢は、1つだけじゃなくて、いくつも持っていてもいいということが分かった。いろんなことに挑戦しようという気持ちになった。</p> <p>⑭画像や映像の説明がおもしろくて分かりやすかった。夢は叶わなくても、その夢に関わる仕事ができることが分かった。(ヒーローになりたい→ヒーローの番組)</p>
--	---

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて	
芸北小学校	
<p>①友達といっしょに協力して楽しくロケット作りや、打ち上げができたのでよかった。</p> <p>②今まで、知らなかった友達と、班になって、最初はあまり話すことができなかったけど、打ち上げのときには、たくさん話せて、友達になれたのでよかったです。</p> <p>③作るときは、協力して完成したときはたっせいかんが味わえました。飛ばす時は飛ぶか分からなかったけど、うまくとんでちゃんとパラシュートも出たのでうれしかったです。</p> <p>④去年、打ち上げるのを見た時は、感動はなかったけど、自分で作ったものを打ち上げた時は、とても感動した。</p> <p>⑤たくさんの人と話し、友達になれた。色々な話題で笑顔になれた。(ロケットをとれなかったのが気がかり)</p> <p>⑥他の学校の人と楽しくロケットが作れてたくさん話せたのでよかった。</p> <p>⑦新しく友達ができて、「よかったね。すごくとんだじゃん。」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。自分が作ったものが空高くとんだのでとてもうれしかったです。</p> <p>⑧ロケット作りでは、たがいに助け、助けられたりと協力する良さを改めて感じる事ができました。打ち上げでは、自分の初めて作ったロケットがうまくとび、感動した。</p>	<p>⑨作るときは、あまり話ができなかったけど、打ち上げの時いっぱい話せてよかった。しっかり上がってパラシュートが開いたから、うれしかった。</p> <p>⑩町内の友達と、相談しながら、ロケットがつくれて楽しかった。思っていたより、打ち上がったので、うれしかった。</p> <p>⑪ロケット作りをして、いろんな事を聞いた事がうれしかった。</p> <p>⑫ロケットを作るときに、友達とあまり話さなかった。</p> <p>⑬ロケット作りで知らない人ともなかよくなれたからよかった。</p> <p>⑭ロケットを作るときには、楽しく作ることができました。分からないところは、ちがう学校の人が教えてくれて、うれしかったです。ロケットをとばしたときには、あんなに高いところまでとぶロケットを作れたんだと思った。</p> <p>⑮みんなと協力しながらロケット作りやロケットをとばすことができたので、よかったし、もっと6年生の交流を深めたいです。楽しかったです。</p> <p>⑯教えたり教えてもらったりしながら、作るのがとても楽しかった。</p>
大朝小学校	
<p>①ロケットを作ったり、飛ばしたりしたことがなかったから、とてもよい経験になった。</p> <p>②知らない人とやるのは初めはいやでしたが、でも積極的に話す友達になれました。行事を通して触れ合うことができたし、分からないことやどんな色で塗ろうか悩んでいたとき、友達と協力できてよかったです。</p> <p>③ほかの人と協力しないとできないことがある</p>	<p>⑦家に帰って自慢したら、妹も「ロケット飛ばしたい!」と言っていた。</p> <p>⑧ロケット作りでは誰とも話せないと思ったけど、向こうのほうから話しかけてくれたので、少し楽になった。友達を作るっていいことだなと思った。</p> <p>⑨班の人とロケット作りを協力してできて楽しかったです。</p>

<p>から、とても大切だと思いました。</p> <p>④2回やったけど、ぼくのロケットはパラシュートがうまく開きませんでした。</p> <p>⑤少しだけ心配もあったけど、ちゃんとパラシュートも開いてほっとしました。</p> <p>⑥知らない6年生と一緒にだったけど、友達が出てよかった。</p>	<p>⑩私は一回くらいしか話ができなかったけど、男子は初めから横の人と話していてすごいと思った。</p> <p>⑪植松先生はロケットを飛ばす前、「不安で怖い」と言っておられた。ぼくも飛ばすとき植松先生と同じことを思いながら飛ばした。</p>
---	--

新庄小学校

<p>①二人の人と一緒にロケットを作ったり打ち上げたり出来て、とても楽しかったです。一緒にロケット作りなどをすることで、知らない人も友達になれたのでいいなと思いました。</p> <p>②自分が組み立てたロケットを自分で飛ばすことができて楽しかったです。飛ばす時友達とお話できたのでよかったです。</p> <p>③飛ばす前はうまくパラシュートが開くかなと不安があったけど、うまく飛んだのでうれしかったです。</p> <p>④打ち上げをしているときに「夢がかなった！」と思った。北広島町の人と仲良くできてうれしい。また町内でこういうものがあつたらうれしい。</p> <p>⑤打ち上げの順番がきたときに打ち上げがやっと思えました。でも、なかなかピーッと音が出なくて、やっと飛ばすことができたのでよかったです。</p>	<p>⑥ロケットがすごい勢いで飛んでいって、パラシュートを開いて落ちてきたから、なぜかすごく感動した。</p> <p>⑦打ち上げるときびっくりした。</p> <p>⑧ロケットを作るとき、あんまり班の人と話せなかったので残念だった。</p> <p>⑨私は、ロケットを無口で作ったので、今度そういう機会に参加する時は、ちょっとだけでも話そうかなと思いました。打ち上げでは、パラシュートがちゃんと開いてくれたのでうれしかったです。</p> <p>⑩失敗したけど、ちゃんと飛んだのでよかった。ちょっとどきどきした。</p> <p>⑪同じ班の人がやさしくしてくれたり、話しかけてくれたりして、とても楽しかったです。</p> <p>⑫知らない人と少しだけ話すことができた。すごく高く飛んだのでびっくりした。</p>
---	---

川迫小学校

<p>①ロケット作りは、班の人とたくさん協力したり、話したりして交流が深まったと思う。打ち上げは夢と希望を乗せてロケットを飛ばすことができた。ものすごいスピードでびっくりした。他の学校の人と交流ができてとても楽しかった。</p> <p>②ロケット作りでは最初、班の人としゃべれていなかったけれど、だんだんしゃべれるようになって、楽しく作れてよかった。打ち上げでは、となりの班の女子や男子としゃべれた。最初、パラシュートが開かずに落ちたけれど、次に打ち上げた時は、ちゃんとパラシュートが開いたので嬉しかった。</p>	<p>③ロケット作りでは、友達とあまり話せなかった。でも、分からないことを教えてあげたりできたので良かった。打ち上げる時は、友達と楽しんでできた。成功したのでとてもうれしかった。とても迫力があつてすごかった。</p> <p>④私は、打ち上げをしたとき、時速200kmで飛んでいったので、すごくびっくりした。それから、友達とも交流ができたので良かった。</p> <p>⑤とても楽しかった。しかも、時速200kmで飛んでいくので驚いた。</p> <p>⑥200kmのスピードは、ものすごかった。班のみんなと話す事ができた。</p>
---	---

八重小学校

<p>①今まで触れ合ったことのない人と会えたのでよかった。</p> <p>②たくさんの人といっしょに作って楽しかった。</p> <p>③話しながら作ることができた。</p> <p>④陸上記録会で仲良くなった人とまた話せてもっと仲良くなれた。</p> <p>⑤友だちに教えてもらって仲が深まりました。</p> <p>⑥ロケットが打ち上がって本当によかった。</p> <p>⑦ロケット作りの時、教え合いながら作ることができました。</p> <p>⑧最初、パラシュートが開かなかつたけど、2回目</p>	<p>⑫1回目がうまくいかなかつたけど、2回目はうまくいったのでよかった。</p> <p>⑬パラシュートがうまく開いたのでよかったです。</p> <p>⑭飛ぶかどうか心配だったけど、ちゃんと飛んだのでよかったです。</p> <p>⑮高く打ちあがったのでよかったです。</p> <p>⑯分からないところを教えあつたり、協力して作ることができたので、よかったです。</p> <p>⑰友だちができたし、成功してうれしかった。</p> <p>⑱作るのが上手だね、と言いながらロケットを作ることができてよかったです。</p>
--	---

<p>は開いたのでうれしかったです。 ⑨グループの人と協力しながら製作できました。 ⑩友だちとの仲も深まりました。 ⑪分からないところは教え合い楽しく取り組むことができました。</p>	<p>⑬何回でも打ち上げをしたかったです。 ⑭みんなと協力してロケットを作ることができて、よかったです。 ⑮ロケットを打ち上げて、とてもすっきりしました。</p>
---	---

八重東小学校

<p>①すごく楽しかった。またロケットを自分の手で作って飛ばしたい。 ②ロケット作りでは、みんなと協力して作り、打ち上げの時は小さくても、ものすごいパワーですごいなと思った。 ③ロケットを作ったり打ち上げたりするのは初めてだったので、良かった。 ④パラシュートが開くか心配だったけど、ちゃんと開いたのでよかった。 ⑤初めて会った人と話すことができてよかった。他の学校の人と聞き合いながら、ロケットを作れたので良かった。 ⑥他校の人と協力してロケットを作ることができた。 ⑦自分で簡単にロケットが作れてよかった。分からないことは他校の人に聞き、他校の人とも話すことも多くて、良い経験になった。 ⑧新しい友達もできたのでよかった。 ⑨ロケット作りでは班の仲間と「これどう？」などの会話があり、他の小学校の人ともふれあうことができ、楽しい思い出になった。打ち上げの時「パラシュートがちゃんと開くかな？」と不安だったが、きちんと開いた。もっとたくさんものづくりをしたいと思った。</p>	<p>⑩飛ばす時ちゃんとパラシュートが開くか心配だった。友達と仲良くロケットを作れた。 ⑪うまくいったのでよかった。 ⑫ロケットを打ち上げて、ロケットができたと思った。 ⑬班の人と助け合いながらロケットを作ることが楽しかった。植松先生のおっしゃった「努力すれば喜びは大きい」という言葉をロケット作りで実感した。説明書を何度も読んで、やっとならできたロケットを飛ばしたときは、とてもうれしかった。 ⑭知らない人に教えてもらったり、教えたりして友達が増えた。 ⑮豊平の人と友達になった。 ⑯友達と協力してロケットを作り、最後にはロケットを飛ばしたことができたので、とてもうれしかったです。 ⑰ロケットを作るとき、話したこともない人に話しかけられて、友達になれてよかったです。ロケットを他の小学校の人たちと協力して作ることがとても楽しめた。 ⑱他の小学校の人と協力してよかった。 ⑲すごく高いところまで飛んだのでびっくりした。</p>
---	---

壬生小学校

<p>①班の中や外で新しい友達がたくさんできてうれしかったです。しかし、班全体で交流が少なかったため、自己紹介の時間があればよかったです。 ②ロケットを打ち上げて、ちゃんとパラシュートが出たので良かった。 ③他の学校の人と仲良くなれたのでよかった。 ④みんなで協力できてよかった。 ⑤高く飛んで感動した。 ⑥みんな笑顔になれた。 ⑦ロケット作りでは他の学校の人と交流できてよかった。 ⑧打ち上げるとき、みんなとても楽しそうだった。 ⑨ロケットを打ち上げたり、ロケットを作ることによって他の小学校の友達がたくさんできたのでよかったです。 ⑩すごいなと思いました。何がすごかったかというとき速200kmで飛ぶというところがすごかったです。 ⑪ロケット作りでたくさんの友達ができた。 ⑫ロケットを打ち上げてよく飛んだので気持ちよかったです。 ⑬ロケットを協力して（班の人と）できた。</p>	<p>⑭打ち上げでは、空まで飛んでいった。夢を追いかけてみたい気持ちになった。 ⑮ロケットをつくったり打ち上げたりするときに全ぜん話さなかった。あまり楽しくなかった。 ⑯作る時は、交流する事ができなかったけど、時間がたつにつれて話をする事ができた。 ⑰他の学校の人と仲よくなれて良かった。 ⑱夢や希望をのせてロケットを飛ばせた。 ⑲たくさんの人と友達になれたり、仲が深められたりして良かった。 ⑳みんな（班）で協力して、ロケットを作ることができた。 ㉑ロケット作りが意外と簡単だと思っていたけどそのロケットが時速200kmをこえるということを知って、ロケットはどういうしくみになって飛ぶのか不思議に思いました。 ㉒自分で本物のロケットを作り、打ち上げることができ、すごいなと思った。 ㉓班の人と相談しながらでき、良かった。 ㉔ロケットを他の人に見せたいなと思った。 ㉕ロケットを打ち上げる時にパラシュートが開くか不安でした。 ㉖ロケット作りは説明書が簡単で作りやすかった。</p>
--	--

<p>⑭パラシュートのしくみなど、とても細かくてすごいなと思いました。</p> <p>⑮最初はきんちょうしていたけど会話がふえてとても楽しかった。</p> <p>⑯協力する大切さを学んだ。</p> <p>⑰多くの人と友達になれてよかった。</p> <p>⑱ロケットを作るのは少し難しかったけど、班の人と交流することができた。</p> <p>⑲初めての体験ばかりできんちょうしたけど、きれいにパラシュートが開いてよかった。</p> <p>⑳他の人と協力できてよかった。</p> <p>㉑分からないことを教えあえたこと。</p> <p>㉒作る時はぜんぜんしゃべらなかつたけど、飛ばす時にしゃべることができてよかったです。</p> <p>㉓カウントダウンで、今から打ちあがるのだからふんした。</p> <p>㉔話をしないときもあつたけど、いい仲間になってときどき話す回数も増えていってよかった。</p> <p>㉕周りの人にも声をかけたり、手遊びしたりした。</p> <p>㉖ロケット作りは少し難しかったですが、知らない人に声をかけるとやり方がわかり、友達も増えてよかったです。</p> <p>㉗ロケットとばしは、自分で作ったこともあり感動しました。</p> <p>㉘助け合いながらロケットを作ることができてとても楽しかった。</p>	<p>㉙友達に聞くなどして交流しながらロケットを作れた。</p> <p>㉚一回目は失敗したけど、二回目はしっかり打ち上げられてよかった。</p> <p>㉛他の小学校の6年生の人と少し仲良くなれたのでうれしかったです。</p> <p>㉜初めてロケットの打ち上げをしたので楽しかったです。</p> <p>㉝ロケット作りは、たいへんだつたけど、打ち上げをして、とおくまでとんだのでうれしかった。</p> <p>㉞友だちや他の学校の人たちと仲良くロケット作り集中できたのでいい思い出になりました。</p> <p>㉟ロケットの打ち上げはすごく高く飛んだのでびっくりした。</p> <p>㊱ロケットを打ち上げる時は、ほんの1分もなかったけれど、自分たちが作ったロケットが空高く飛んでいったのはものすごく感動しました。</p> <p>㊲ロケットづくりによって友だちもふえました。</p> <p>㊳ロケット作りでは分からないところは聞いてみんなで楽しくできました。</p>
---	--

本地小学校

<p>①「あんなにロケットが飛ぶなんて」と思わず驚いた。</p> <p>②友達同士で協力してロケットを作ることができた。</p> <p>③相談しながら最後まで自分たちの力で作ることができた。</p> <p>④他校の人ともいっぱい交流できたし、ロケットを見ていると、ロケットのように空へはばたいていきたいなと思った。</p> <p>⑤他校の友達とも仲良くできた。</p> <p>⑥ロケットの打ち上げが上手くいって、ホッとしました。</p> <p>⑦ロケットを友達と協力して作った。</p> <p>⑧ロケットが打ち上がったときはとてもうれしかった。</p> <p>⑨楽しかった。本当に夢を乗せて飛んでくれた。</p>	<p>⑩みんな上手に飛ばしていた。</p> <p>⑪新しい友達も作れ、楽しく過ごすことができた。</p> <p>⑫すごく作りやすいし、打ち上げたときにとてもよく飛んでいったのでびっくりした。</p> <p>⑬うまく打ち上がって、パラシュートも出たので良かった。</p> <p>⑭グループの人たちと話し合つて作った。</p> <p>⑮ロケットが空高く飛んでいって、とても感動した。</p> <p>⑯班の人と友達になれて良かった。</p> <p>⑰自分のロケットが飛んだとき、とてもうれしかった。</p> <p>⑱仲間がいるからこそ、ロケット作りは成功したのだと思う。</p>
--	--

豊平小学校

<p>①初めは無言のままだったけど、分からないことを聞いて協力できました。それに、柄を何にするか聞いたりして楽しんで作ることができました。打ち上げするときは、パラシュートが開くか心配だったけど、無事に開いて安心しました。友達もつくれて良いプロジェクトになりました。楽しかったです。</p> <p>②ロケットを作るのは初めてだったけど、同じグループの人と助け合うことで、ちゃんと作る</p>	<p>③チームの人たちは、初めて会う子ばかりだったけど、自分から積極的に話しかけている子を見て、「私もがんばろう。」と思い、いろいろな子に話しかけ、友達を作ることができました。自分が作ったロケットがうまく飛んだときは、とても感動しました。</p> <p>④町内の6年生と一緒に作って、一緒に飛ばすことができてよかった。自分が作ったロケットが、ちゃんと飛んでくれたのでうれしかった。</p>
--	--

ことができました。ロケットの打ち上げは、1回目は失敗してしまっただけ、2回目に成功したのでとてもうれしかったです。友達も11人作ることができたのでうれしかったです。

③思ったより飛んで、自分のパラシュートも開いてよかった。また、友達の成功したのを喜べて仲良くなれた感じがした。ロケットを作るのは大変で、分からないこともあったけど、となりの人に聞いて、みんなで協力して作ることもできたのでよかった。みんなで感動できてうれしかった。

④分からない部分では、同じグループの人と協力できたし、とてもいい思い出もできたのでとてもよかったです。ロケットを打ち上げて成功したのは、同じグループの人と協力したからなので、協力するのは大切だと思いました。

⑤私は知らない人とロケットを作って、たくさんの方が分かりました。分からないことがあったら周りの人に聞くと、絶対だれかは教えてくれるということを知ったので、本当に分からなかったら人に教えてもらいます。楽しくロケットを打ち上げることができました。

⑥簡単にロケットを作ることができて、とても良かった。友達と助け合いながら楽しくできたので、来年もこの体験を今の5年生にしてみたい。また、まだだれもしたことのないようなことにも、ちょうせんしてみたいと思いました。

話し合ったり助け合ったりして作れたのでよかった。

⑨ロケット作りを通して、町内の6年生と友達になることができて、とてもうれしかったです。ロケットがきちんと打ち上がるか心配だったけど、友達と協力して作ったロケットが打ち上がったので良かったし、勢いよく上がったときは、とてもうれしかったです。友達とのいい思い出になったと思います。

⑩自分のロケットや友達のロケットが飛んでうれしかったし、後からこういうロケットを作りたいと思いました。ロケットを作るとき、分からない所を教えてあげて、そこからだんだん会話が広がって仲良くなることができて良かったです。

⑪ロケットが打ち上げられたときすごく感動したので、この感動を求めて、これからも夢に向かってがんばりたいです。

⑫ちがう小学校の人と話をすることができたのでうれしいです。最初から友達だった子も、いろいろな話をしたり助け合えたりしたので良かったです。自分のロケットを作って飛ばすことができたので作って良かったと思いました。

植松さんの話を聞いて

芸北小学校 東條 純平

植松さんの話のテーマは「思うは招く 夢があれば何でもできる」だった。話をきく前は全く意味が分からなかったが、話をきいた今では植松さんが伝えたかったことがはっきりと分かる。それは諦めないこと。諦めずに夢を持ちつづけていれば、いつか夢がかなう。そんな話の中で心に残っていた言葉が三つある。

一つ目は、「足りないから助け合う」という言葉だ。自分ができることができない人がいると、すぐにかからかったり、「どうせお前なんか」と言ったりして人の夢を潰そうとするのではなく、相手ができないことがあれば、助けてあげる。そして、自分ができることがあって困った時は、他の人に頼って助けてもらう。そんな事をしていけば、一人でいる何倍もすごいことができる。この話をきいて、仲間はとても大切なものだと思えて感じた。

二つ目は「不安の先に喜びがある」という言葉だ。植松さんがロケットをとばす前は、ものすごく不安そうだった。だけど、ロケット打ち上げが成功した時の映像を見ると、みんなで抱き合っただけで喜んでいて、自分にも心あたりがある。それは挑戦科でせどやま教室をやった時だ。みんなで切った木を計量する時、目標の重さをこえているかとても不安になる。でも重さが出て、目標の重さに到達していると分かると、胸の中が喜びでいっぱいになる。そんな時、不安だったけど諦めずにやり切ったよかったですよ、ということができる。失敗をおそれて、自分のできることや、人に言われたことだけをやっていたら、喜びは感じられないと思う。それどころか、何も考えられず、ただ作業するだけの人形になってしまうのではないかなと思う。できないことを避けて通るのではなく、あえて挑戦し、どうすればできるか考えることが大切だと思ふ。

三つ目は、「将来の夢と仕事は一緒じゃない」ということだ。例えば、将来の夢が医師だとする。なぜ医師なのか考えると、人の命を助けたいという考えに行きつく。人の命を助ける仕事は医師だけではない。医りょう機械を作る人や、消防士、救急隊員など様々な道ができてくる。つまり、医師と最初から決めつけるのではなく、一歩さがって、自分が何で医師になりたいのかを考えると、人生に様々な道がうかび上がってくるのではないかな。つまり、将来やりたい仕事というのは、将来の夢ではなく、将来の夢を実現させるための、方法にすぎないということだ。「どうせお前なんか。」や「お前にできるわけない。」と言われたって、決して諦める必要はない。なぜなら夢をかなえる方法は一つじゃないからだ。この話をきいて、どんな事があっても、どんなに傷ついても、決して、諦めないようにしようと思った。諦めなければ夢は必ずかなう。だから、どんな壁に打ち当たっても夢を持つことやめないようにして、生きていきたい。

成長する自分

芸北小学校 杉本 青凜

北広島町、百四十七名の六年生が集まりロケットを作りました。植松先生の講演があり、講演をきいた後、ロケットをつくりました。

初め、植松先生の話をおききました。私の心に残っていることは、「夢があればなんでもできる」と「失敗をバカにしてはいけない」という言葉が印象に残っています。「夢があればなんでもできる」の言葉のように、私にもしょう来の夢が二つあって、でも、きつと一つ

の仕事しかできないけれど興味はあるから「私には、どうせできない」「絶対むり」と言わず「私はこれをやりたい」「やってみたい」と挑戦したいです。

「失敗をバカにしてはいけない」という言葉も印象に残っています。人の失敗をバカにしてはいけないということを植松先生に教えられました。私は、挑戦科の「ふれあい教室」のときに、発表せず人の意見をきいていました。発表しないのは、五年生のとき発表して笑われて失敗するのが怖くなったからです。失敗をおそれて、六年生の一学期まであまり発表しませんでした。二学期のとき先生が、「みなさんまちがっていいから発表してください」と言われました。そのとき、私は心の中で目標を決めました。それは「失敗をおそれずがんばる」という目標です。そうすると一学期に比べて、少しは成長できたと思います。もっと「失敗をバカにしてはいけない」という意識が高まりました。

講演が終わると、ロケットを作りました。

最初は、すごく楽しみにしていました。しかし、グループの席にすわると、となりに男の子がいました。私は、まよいました。男の子のとなりにいてもいいのだろうか。それとも男の子の目の前にすわればいいのか。まよってしまいました。ロケットを作り始めました。みんなの班は、しゃべっていたのに、私たちの班は、まったく話せませんでした。でも、私の目の前の人と私の左ななめの人、分からないときには「どうやってすればいいん？」と助け合いながらやっていました。

私もよく分からないところがあって今さっきの人たちのように分からないところを聞こうとしました。勇気をもって一言目を言いましたが声が小さすぎて聞こえなかったのだと思います。言うことがいづらくなってしまいました。そのまま私は他の人の手をかりずロケットを作ってしまった。

しかし、ロケットに絵をかくときに、一人の男の子は私より先に終わっていました。そのとき、「話せるチャンスだ」と思い話しかけました。「かかないの？」といったとき「ありがとう」といってくれて、あたりまえのように感じるけどすごくうれしかったです。

私は、まだまだ「挑戦科の力」は大切だとこの夢プロジェクトで分かりました。

挑戦科できたえた力

芸北小学校 沖 百華

今日は、北広島町の六年生が集まって、「夢と希望を乗せてロケットを飛ばそう」というテーマのもと北広島ふるさと夢プロジェクトが行われました。

学校紹介のあと、植松さんの講演がありました。私が一番心に残っていることは、「夢は一つにしぼらなくてもたくさんあるほうがいい。」という言葉です。いつもしょう来の夢はと聞かれてこの仕事もやってみたいし、あの仕事もしたいけどどうしようとなやみます。

でも私の問いに答えてくれたような植松さんの言葉を聞いて「ああ、一つにしぼる必要はなかったんだ。夢がたくさんあればあるほど自分の可能性が広がるからたくさんあった方がいいんだ。」ということ学びました。

もう一つ心に残った言葉があります。それは、「どーせ無理」という言葉を使うと可能性がつぶれるということです。せっかくなつくしょう来の夢も「どーせ無理でしょ。」という一言でつぶれてしまいます。だから私も友達に「どーせ無理でしょ。」という言葉を使いません。こういった「どーせ無理」や「私にはできない」というちょっとした言葉だけで自分の可能性や友達の可能性をも、つぶしてしまいます。これから少しずつでもいいから、マイナス発言をする人が減ればいいなと思います。

植松さんの講演が終わるとロケット作りがはじまりました。先週の金曜日の記録会で話

しかけることはなれていたけど少し不安がありました。でも植松さんがおっしゃっていた「どーせ無理。という言葉は言わない。」ということ胸に勇気を出して話しかけようと思いました。すると、相手の女の子から話しかけてきて、女の子も勇気を出しているんだな、と思うとよけいにもっと話さなくてはと思いながら話していました。でも、もっと話さなければと思いはじめてすぐに、とても仲良くなれました。なぜかという、話していると話題のここは広げられるな、と考え、それを話していくうちに仲良くなれました。それは、ふれあい教室できた力だと思います。ふれあい教室で間があかないように、話がつながるように、広げられる話題は広げるという挑戦科できた力をはっきすることができたから仲良くなれたのだと思います。ふれあい教室のはじめのころは何のやくにたつのだろう、とっていたけど、顔も名前もしらない人と仲良く話をするのにもふれあい教室できた力はやくにたつということ学びました。

これからの、私の人生はまだ長いと思います。知らない人といっぱい出会うと思います。でもそんな時は、挑戦科できた力を武器にして、どんどん友達を作っていきたいです。また、植松さんから教えていただいた言葉も忘れないようにたくさん自分の可能性を増やしていきたいです。

「思うは招く」

芸北小学校 上前 明里

「思うは招く」私は、その言葉だけきくと、あまり、意味が分かりませんでした。しかし、今日、植松さんの話をきいて、学ぶことができました。それは、失敗しても良いということです。人は、やったことがないことばかりして生きています。だから失敗をしても良い。そこで、失敗してできると思わなかったら、夢もついてこない。できると思いつけた人には、夢や希望などがついてくることも分かりました。

私の将来の夢は、小さい子と関わることのできる仕事です。そこで、植松さんの話にもあったように、フライングしてもいいといういいことをきいたので、今からでも、小さい子と関わったり、小さい子の特ちょうを知ったりしていると、少しでも、小さい子の気持ち分かると思うので、フライングして、小さい子と関わりたいと思います。植松さんは、今の私にピッタリなことをたくさん言って下さいました。何かというと、本を読むと、いいことを学べるということです。私は本を読むのが、あまり好きではありません。しかし、今日の植松さんの話をきき、本を読みたいと思うようになりました。植松さんは、今までの人生、いろいろなことに努力しているということも分かりました。

植松さんは、他にも、心に残る言葉を残して下さいました。それは、不安のむこうには、よろこびがまっているということです。不安で、そこから不安をのりこえられない人には、よろこびもこず、不安をのりこえた人にだけ、よろこびはついてくるといういみだと思います。私は、これをきいたとき、挑戦科に似ているなと思いました。役に立つ話ばかりきいたので、生活に生かしていきたいです。

ふるさと夢プロジェクトでは、友達ができるのでいいと思いました。三人の人と友達になれました。夢プロジェクトは、北広島町内の人とやるので、そこが良いと思います。

もし、芸北小の人だけだと、知っている人ばかりで、あたりまえに協力できると思うので、作るいみがないと思います。しかし、知らない人と協力するのが、いいところだと思います。

いよいよ、打ち上げるとき。私は、パラシュートがひらくか不安でした。もしひらかなかつたらどうしよう・・・私は、不安であふれていました。そうすると、植松さんの、不安

のむこうにはよろこびがまっているという言葉が思いうかびました。そうすると、やってやるという気持ちが出てきました。コントローラをもつのもきんちょうしたけど、シューとどうじに、パラシュートがひらいたので、不安のむこうには、よろこびがまっているということは、本当なのだなと思いました。

夢プロジェクトは、短い一日だったけど、いろいろなことを学ぶことができ、すばらしい一日になったと思います。

夢プロジェクトに参加して

大朝小学校 芥子田 愛華

私たちの学校紹介の前は、新庄小学校の「はやし田」。テレビでしか見たことがなかったもので、目の前で見ると迫力があつた。

「次は、大朝小学校です。」

司会者の先生の声が聞こえた。いよいよ私たちの番がきた。とても緊張した。私たち大朝小学校は、一列に並んだ端から順番に発表した。みんな大きな声で発表できて、よかったと思った。ちょっとほっとした。八重小学校はソーランを踊っていた。他の小学校も、リズムに合わせて学校の魅力を紹介していた。町内の6年生は、写真を出したり、踊りを踊ったり、リズムに合わせて発表したりなど、工夫があつてすごいなと思った。

次に植松先生のお話を聞いた。植松先生は、「失敗することは誰にでもあるから、あきらめないで。」と話された。私は失敗したらすぐにあきらめてしまうところがあるので、その言葉が心に残った。

先生の作られたリサイクルの機械には、5年生の理科で学んだコイルが使われていると聞いて驚いた。また、先生はおもしろい話もしてくださつた。ポッキー&プリッツの日というのがあつて、11月11日午前11時11分に高度1111mまで、ポッキーの形をしたロケットを飛ばしたのだそうだ。そんなにぴったりにするのは難しいことだと思った。

先生の話を知っていると、私は人に言われたことしかしないところがあると気づいた。「もう少し自分の中で考えて、あきらめずに、自分から行動する。」このことを心にとめて、残り5か月の小学校生活を過ごしたいと思った。

次はいよいよロケット制作だ。私はすごく楽しみで仕方なかった。知らない6年生と一緒にテーブルに着いた。男子3人と女子3人。となりのななほちゃんと一緒に作るうちに友達になった。私の班の人はみんな静かだったが、話ができるようになった。作っていて分からないことは、となりの人に聞いたら分かるようになった。分からないことは先生にすぐ聞くのではなく、友達に聞いたり、自分で考えたりすることが大切だということに気づき、このことは将来に役立てたいと思った。ななほちゃんの学校の人とも仲良くなれたのでうれしかった。一緒に班の中から友達が2人できたので、また交流を通して、新しい友達ができたらいいなと思った。

私の将来の夢は、「バレー選手」になることだ。今はソフトバレーをがんばっている。ソフトバレーのチームには、川迫小や八重小の子と、大朝小のみんなと一緒にやっている。また、試合の時には五日市や三次の子と試合をすることもある。私は試合のときは、「落ち着いて、緊張しないように」と心がけて試合に出場している。でも、私はまけたらすごく落ち込んでしまう。だから、植松先生の話がすごく心に残った。「努力を続けたら、絶対に夢はかなう。」という言葉は、今の私に合っていると思った。植松先生の話を知って、「がんばろう」という気持ちが強くなった。今は足を怪我しているけど、治った

ら本気で練習してみんなに追いつきたい。そして、私は中学生になってもバレーを続けていきたい。

空に舞い上がるロケット

大朝小学校 林 桃奈

夢プロジェクトで、植松先生のお話を聞いたり、ロケット作りをしたりしました。

まずは、学校紹介をしました。私たちは、「川ガキ再生プロジェクト」のことを紹介しました。練習の通りしっかり発表できたと思います。他の8校の学校紹介もすごかったです。ソーランやリズムに合わせて学級の目標を行ったり、歌を歌ったり。それぞれの地域や学校の伝統も知ることができました。みんなが笑顔になっていて、印象に残る学校紹介でした。

次は約1時間、植松先生から、植松電機の歴史や失敗したこと、成功したときの喜びなどのお話を聞きました。スクリーンを使って伝えてくださったので、分かりやすかったです。服装も植松電機のマンガと同じで驚きました。もう一つ驚いたのは、子どものころの先生のことです。今はロケットや飛行機を造るすごい人だけど、子どものころはプラモデルを作っただけで、学校の勉強は全然できなかったそうです。

先生は、自分の夢を見つけたときに、みんなからは、「絶対無理でしょ。」「できるわけない。」と言われることによって、逆に「がんばろう」「絶対にあきらめない」という強い気持ちが出てきたそうです。世界に二つしかなかった無重力状態を作る設備を、先生は自分で工夫して作っていました。お菓子会社とコラボしてポッキーの形をしたロケットを飛ばしたときは、その期間中に売り上げが30パーセントも上がったそうです。先生はどんなときも、「無理」という言葉に負けずに、ロケットや飛行機を造り続け、大きな仕事をされていました。私も、「できるわけない。」と人に言われても、そんな言葉に負けずに、がんばりたいです。また、植松先生は、「逃げてもいい」とも言われました。私は逃げることはあっても、人の夢を「無理」などと言ってつぶす（夢を殺す）ことはしたくないと思いました。できることばかりするのではなく、できないこともあきらめず、先生の言われるように、「失敗しても大丈夫」と思ってやっていきたいです。

ロケットは、知らない子と一緒にグループになって製作しました。「できるかな」と少し不安に思ったけど、先生のお話を思い出して、がんばろうと思いました。私には分からないところがあったとき、壬生小学校の子が、「こうするんよ」と教えてくれたり、「そうそう」と言ってほめてくれたりしました。それをきっかけに話ができるようになりました。

ロケットの模様も、それぞれ違うがらやキャラクターや字を描く人もいたりして、いいなと思いました。

お弁当を食べた後は、外でロケットを飛ばしました。晴れていてよかったけど、パラシュートが開くかが心配でした。でも、地上200メートルのところまで飛んでちゃんと開きました。植松先生が話されたように、すごくうれしくなりました。待っているとき、「かわいいね。」「ありがとう。」など、他の学校の人とたくさん話もできました。他の学校の子と交流をしながら、あきらめずにやることの大切さを学ぶことができ、とてもよい経験になりました。

夢プロジェクトで学んだこと

大朝小学校 中屋原 友唯

いよいよ初めの学校紹介です。小学校によってはしゃべる人数を変えたり、みんなで声を合わせたりなどたくさんの工夫があってとてもよかったです。

「大朝小学校さん、お願いします。」

それを聞いていてすごく緊張してきました。前に並ぶとたくさんの人がいて、どんな顔をしていいか分かりませんでした。私は落ち着いて最後まで言えたのでよかったです。八重小のソーランや、八重東小はリズムに乗った学校紹介など、印象に残るものはいいなと思いました。

次は植松先生の話です。植松先生の話は分かりやすく、心に届きました。私は将来の夢という仕事を考えるけど、夢ってやりたいことだから、かたく考えなくていいということが分かりました。だから、これからやりたいことをたくさん見つけたいです。

植松先生は自分でロケットを作っていて、人がやっていないことをやっていて、勇気があるし、強い方だと思います。私は人のまねをすることがたくさんあるし、失敗したらどうしようと思ってばかりです。でも、その失敗が次につながる第一歩だと教えてくれたので、私は恥ずかしながら、堂々といろんなことをやろうと思いました。

私が、「すごい」と思ったのが、無重力になる装置です。ドイツとアメリカの会社と、植松先生の会社にしかないもので、独自にそんなすごいものが作れると知り、驚きました。さらに、11月11日はポッキーとプリッツの日ということでロケットを作ったそうです。私はこの話を知っていたので、それを植松先生が作ったんだと感心しました。ポッキーとプリッツのロケットはかわいらしかったです。

楽しい話が終わると、ロケット作りが始まりました。私の班にはテニスをいっしょにしている八重小の鷗さんがいたので、話しながら作りました。となりの班の机には土間君がいましたが、工作が得意なだけあってとても早く作っていました。私も早かったけど、さすが土間君と思いました。

途中どうやったらいいか分からなくて困ったときもあったけど、それを班の人と話して協力してできたのでよかったです。絵や色をつけるとき迷ったけど、書いているうちに楽しくなったし、世界に一つだけのものができたのでうれしかったです。交流もでき、いい思い出になりました。

弁当を食べ終わったあと、作ったロケットを飛ばすために、午後からはグラウンドにみんなで出ました。ためしにモデルロケットを飛ばすと、空高く飛んでいきました。発射する音は気持ちのよい音でした。植松電機の方によると、0.3秒で200kmにもなるそうです。私がやる前の人たちは、みんな成功ばかりで、私のパラシュートが開かなかつたらどうしようと思いました。でも、開かなくて芝生に落ちてくる人もいて、それでも大丈夫なんだと思いながら、発射台に行きました。ポチッとボタンを押すと、ビューンとロケットは空に向かって伸びていきました。そしてパラシュートが開いて、下りてきました。大成功でした。

最後にみんなが飛ばし終わると、一人の男の子が少し強い火薬で飛ばすことになりました。私もやりたいと思ったけど、言えませんでした。飛ばすと、今までと違ってとても高く飛んでいき、一瞬ロケットが見えなくなりました。パラシュートも開き、下りてきたところをそのままキャッチ。拍手が起きました。

今日、植松先生に教わった、「考える・思う」は忘れられないと思います。また、いろんな人たちとの交流も大切なことだと思いました。知らない人と話すことはとても楽しか

ったです。

私はこれからの生活で、いつもより少し深く考えることができたらいいなと思います。それから、小学校に戻ってロケットを飛ばして、みんなに見てもらいたいです。その飛ばすロケットには、夢と希望がきっと乗っていると思います。

楽しかった夢プロジェクト

新庄小学校 有田 結羽

今日、夢プロジェクトがありました。ロケットを作って飛ばすのが楽しみなところもあったけど、知らない人と同じ班になって活動するのが不安なところもありました。

学校紹介の後、植松さんの「思うは招く」というお話を聞きました。司会の先生が、植松さんは、北海道でロケットを作っておられると紹介されました。私は、植松さんがどんな人なのか、最初はよく分かりませんでした。でも、植松さんの話はとても楽しく、すうっと話に引き込まれました。植松さんは言葉だけでなく、スクリーンに写真や映像を映して説明していたのでとても分かりやすかったです。そのうち、植松さんのことがよく分かってきて、植松さんってこんなにすごくて、いい人なんだなと思いました。

私は、植松さんのお話を聞いて、一番心に残っているのは、『どうせ無理』に負けないでほしい』という言葉です。この言葉を聞いて、私は、なんだか勇気をもらいました。それは、私がお母さんに「〇〇になりたい」と話をすると、お母さんは「でも〇〇は大変よ」とよくマイナスなことを言うからです。私は、『どうせ無理』じゃないんだ、あきらめずに思い続ければいいんだと思いました。最後に植松さんが、『どうせ無理』に負けない子が増えていってほしい。でも、そのためにはぼく一人の力じゃ足りないんです。みんなも協力してくれたらうれしいです。」と言っていたので、私は自分にできることがあれば協力したいな、でも、協力ってどういうことかなと思いました。きっと夢に向かってがんばっている人を応援することかななと思いました。植松さんは、これからの将来に役立つことや夢を持つことの大切さなど、約一時間の時間の中で話してくれました。スクリーンをずっと見ていたので目がつかれたり、ずっと同じ体勢でいすに座っていたので背中が痛くなったりして、途中動いてしまったけど、いいお話をしていたので、耳は疲れず、ずっとお話を聞くことができました。植松さんに出会えたことで、こんなにすばらしいお話が聞けたのでとてもよかったです。

次に、他の学校の人と同じ班になってロケット作りをしました。私たちの班は自己紹介もしなかったの、知らない人のままで緊張して、全然話せませんでした。ロケットを作り始めてもずっと無言だったので、気まずい雰囲気でした。そんな中、他の小学校の先生が来て、分からないと言っている子に向かって、「もうできている子もいるから、その子に聞きなさい。」と言われたのがその雰囲気を和ませるきっかけでした。もう終わった子が分からない子に教えてあげて、その場の雰囲気がどんどんよくなって、みんなと話せるようになりました。

私は、特に二人の女の子と友達になりました。一人は私が「ここどうやるの」と質問した時に優しく教えてくれた片桐まおさんです。私が一番初めに話したのがこの片桐まおさんでした。二人目は、ロケットを飛ばすために運動公園に行って順番を待っている時、相手の方から「有田…なんて読むの？」と話しかけてきてくれました。私は、うれしくて、「ゆうです！」と答えたら、「私は、じゅりね！」と言ってくれたので、それからもっと話したりしました。その子は「さんたじゅり」という名前でした。夢プロジェクトに行く前に、優空ちゃんが、「結羽ちゃんと同じ班のじゅりちゃんって優しい子だよ。」と言ってい

ました。優空ちゃんは、弟のサッカーでじゅりちゃんを知っていたのです。友達になれてうれしかったです。

お昼ごはんを食べて、いよいよロケットを飛ばすときになりました。ロケットは、グループの人と協力してできたので大丈夫だと思っていたけど、色つけがまだ中途半ばでデザインが上手くいかずに自分では失敗したと思っていました。説明の時、ロケットがすごく勢いよく飛んだので、こんなに飛ぶんだとびっくりしました。いよいよ自分の番です。私は最後の方だったので、みんなが見ていて恥ずかしかったです。「OKです。」と言われて、レバーを倒すと「ピー」といったのでボタンを押しました。でも、なんにもなりません。いろいろな人がざわざわして、本当に恥ずかしかったです。でも、2回目は、「プシューッ」とすごい音がして、ロケットが飛んでいきました。上を見たらまぶしかったけど、パラシュートも開いてきれいに落ちてきたのでよかったです。作り方は簡単なのに、時速200キロメートルで空へ飛んでいくのですごいと思いました。

私は、夢プロジェクトを考えてくれた人に感謝したいと思いました。なぜなら、植松さんのすごくすてきな話を聞けたし、自分で作ったロケットも高く飛ばせたので、とても満足できたからです。そして、夢について考えることができたからです。私は今将来これになりたいというものがないけど、もしなりたいものが見つかったら、どうやったらなれるかなと考えて、あきらめずに勉強を続けていきたいです。緊張もしたけど、とても楽しい一日でした。

まだまだ続く夢プロジェクト

新庄小学校 大島 奈々

今日、夢プロジェクトでロケットを飛ばしに行きました。去年の6年生が卒業する時、ロケットを飛ばしたらすごく勢いよく飛んで、あれと同じのを作るのは楽しみでした。でも、知らない人とできるかなと不安で、きんちょうしていました。でも、バスの中では、悠斗くんと優妃乃さんといろんな話をしたのできんちょうがなくなったのでよかったです。

体育館に着いて、いすに座ると、床に足が届かなくて、またきんちょうしました。学校紹介では、歌声が小さくなってしまったけど途中で止まらず最後までできたのでよかったです。他の学校はソーラン節をおどったり、大きな声で発表したり、音楽に合わせて紹介したりしていてすごいと思いました。

植松努さんから、ロケットのことや夢と仕事について話を聞きました。植松さんの話は、おもしろいだけでなく、そうなんだと感心したり、これから大人になるのにためになったりする話でした。「失敗ははずかしくないし、悪いことじゃない。『どうせ無理』は人の自信や自分の自信をなくすこと。いやだなと思っているだけでは何も始まらない。成績が悪くても何か夢を持っていればいい。夢を反対されても相談する相手をまちがえたと思って他の人に相談するといいい。人に相談されたら無理とは言わずに『いいと思う』とか言ってあげて、人の自信をうばわない。」このようなことを話されました。私は、植松さんの話を聞いて、確かにそうだと感じ、失敗があっても喜びがあるということは大切だなと思いました。それに、紙を拡大して作ったロケットでも飛ぶことができると聞いてびっくりしました。紙飛行機も、作り方がちがうだけで遠くまで飛ばすことができるのですごいと思いました。

私たちの班は、初めはだまってロケットを作っていました。でも、となりの人が「ここ、どうするの」と聞いてきたので、一緒に説明書を見たりして話すようになりました。5年生の時に行った山海島体験活動や修学旅行と一緒にいった大朝小学校の三宅さんもいたの

で、三宅さんとも話をしました。ロケット作りは難しいと思っていたけど、分からないところは聞き合ったりしてできたのでよかったです。私は、テレビなどで見て、「何でパラシュートが出てくるのかな」「どうなっているのかな」と思っていたけど、作りながらパラシュートは風で出てくるのかなと思いました。パラシュートに穴はないと思っていたけど、はさみで真ん中を切って穴を開けたので、えっと思いました。でも、穴があるからパラシュートが風でかたむかないのかもと思いました。よく考えられているなど感心しました。色をぬって、作り終わった時に同じグループの本地小学校のあやねちゃんに、「ロケットかわいいね」と言いました。そしたら、たくさん話ができるようになって、あやねちゃんも「ななちゃん」と呼んでくれるようになりました。友だちができてとてもうれしかったです。

お昼ご飯も終わって、外にロケットを飛ばしに行きました。並んでいる時みんなのを見るとパラシュートがちゃんと開いていたから、私も大丈夫かな、ちゃんとパラシュートが開くかなと不安でした。私は綾ちゃんと一緒に飛ばしました。ボタンを押すとすぐロケットが飛んでいきました。落ちてくる時、くるくる回ってパラシュートが開いていなかったのがダメかなと思ったけど、途中でパラシュートが開いたのでうれしかったです。ロケットを飛ばすのって楽しいな、またロケットを作って飛ばしたいなと思いました。

夢プロジェクトは終わったけど、飛行機の作り方の本を見てみようと思いました。ロケットに色をぬれていないところがあるので、ぬってステキなロケットにしたいです。そして、植松さんの話のことを忘れないで、夢をもって、それが失敗しても思い続けたいです。

「あきらめないこと」を学んだ夢プロジェクト

新庄小学校 山根 涼

10月20日木曜日、ぼくは初めて夢プロジェクトに参加しました。北広島町全部の小学校の6年生が来ていて、大勢いておどろきました。

初めは、学校紹介でした。新庄小学校の前は芸北小学校で、とても声が大きくて見習いたいと思いました。ぼくたちの発表は声が少し小さくて早口になってしまったけど、はやし田をやって最後まで伝えることができました。ぼくの印象に残った学校は、八重小学校と八重東小学校です。それは、八重小学校はソーラン節を長くやって、大勢の前でも堂々としていたからです。八重東小学校は、リズムに乗って長い言葉をまちがえずにやっていたからです。ぼくは、とても練習をしたんだなと思いました。どの学校もよかったです、特に2つの学校は印象に残りました。

ぼくは、きんちょうするとすぐ頭の中が真っ白になってしまいます。でも、他の学校の人達は、あせらずゆっくりしゃべっていたので、とても聞き取りやすかったです。ぼくは、あせらずゆっくり堂々とするのをこの学校紹介で学びました。

次に、北海道から来てくださった植松努さんの話を聞きました。植松さんから子どものころの話やロケットを作る話を聞いて、ぼくは、植松さんはすごい人だなと思いました。今ではとてもすごい人なのに、子どものころの植松さんは、とてもやんちゃで、運動はあまり得意ではなかったそうです。飛行機やロケットが好きで、ボール投げは苦手でも、よく飛ぶ紙飛行機の作り方を知っていて、友達からも教えてといわれるくらいだったそうです。紙飛行機やロケットが好きになったきっかけが、アポロ宇宙船の月面着陸で、そのことをおじいちゃんがうれしそうに見ていたことだと言われました。おじいちゃんが喜ぶからロケットが好きなんて優しいなあ、小さいころ好きだったことがずっと好きだなんていいなあと思いました。今では、植松さんのところに日本の JAXA やアメリカのロケット会

社が来るので、本当にすごいです。

ぼくが、植松さんの言葉でとても心に残ったのは、「思うは招く」です。思い続けると夢がかなうからです。ぼくは、失敗しても「どうせ無理」とあきらめるのではなく、人に聞くとか、どうして失敗したのだろうと考えて、じゃあこうしてみようと試していきたいと思います。なぜなら、あきらめたままにすると後悔するし、あきらめなかったらいいことがあるかもしれないし、できるかもしれないからです。だから、ぼくは、あきらめずにいろいろなことに挑戦したいです。

植松さんの話の後は、ロケットを作りました。ぼくが、説明書を読んでもよく分からないところがあって困っていると、同じグループの水川あいりさんがやさしくていねいに教えてくれました。ぼくに初めて会ったのにとってもやさしく接してくれてうれしいなと思いました。そして、最初はとてもはずかしかかったけど、話す間にだんだんはずかしさもほぐれてきました。すると、となりにいた男の子もきんちょうがほぐれたのか、ぼくに話しかけてきました。とてもびっくりしたけど、ぼくは無言よりはいいかと思いました。

午後から、いよいよロケットの打ち上げです。ぼくは、最後でした。「いいですよ」と言われたのでボタンを押しました。でも、なんにも起こらずあれっと思いました。2回目も失敗でした。でも、あきらめないと学んだので、次はできるぞと思うことにしました。3回目は大成功でした。勢いよくロケットが飛びました。パラシュートも開いて、追いかけて行ってキャッチしようと思ったけど、あと少しでできませんでした。少し残念だったけど、打ち上げたときはとてもほっとしたし、うれしかったです。

今回の夢プロジェクトで、ぼくはいろいろなことを学び、友達も増やすことができました。夢プロジェクトは1回しかやってないけど、とてもいい勉強になりました。

夢プロジェクト【思うは招く】

川迫小学校 河内 乃愛

先日、北広島町の6年生が集まる、夢プロジェクトがありました。そして、植松努さんに、遠く北海道から来ていただいて、講演会や、ロケット作りをしました。

まず講演会では、たくさんのお話を聞きました。その中で特に心に残っているのは『『むりー』『できな一い』などの言葉を言わない。』ということです。生まれてきたときには、むりーなどの言葉を知っていなかったのに、今まで生きてきた中で、そういう言葉を知ってしまい、めんどくさいときや、いやだ、と思う場面で言い訳として使うようになってしまいました。また、自分が自分に言うのではなく、自分が相手へ、相手が自分へ、「むりでしょ」「どーせできない」と言う人もたくさんいます。そんなことがあったら、今まで叶えようと思っていた夢も、「自分には、無理なんだな。」と、あきらめてしまうようになります。そんな言葉をなくすため、一人ひとりが、意識して生活していかないといけないなと考えました。

私にも夢があります。その夢を叶えようと努力しています。努力している途中に「どうせむりでしょ。」というような言葉を言われるのは、だれでも嫌です。だから、自分も相手にそんな言葉を言わず、相手が喜ぶ言葉や、「ありがとう」と言ってくれるような言葉を使っていこうと思いました。そうしたら、自分も笑顔になるし相手も笑顔になります。だから友達のを応援したいと思えました。先日の講演会を聞いてよかったです。これからの日々を大切にしていきたいと思えます。そして夢に向かって頑張りたいと思えます。

次に、ロケット作りをしました。植松さんは、今まで、何回も失敗してきたそうです。でも、たくさんのお話を聞き、乗り越え、努力してきて、今、夢が叶っておられます。そして私

達も実際にロケット作りをさせてもらいました。元がもうできているので作業は、簡単でした。その時も植松先生に教えてもらったことがあります。それは、一人で作業するのではなく、グループの人達と協力してしゃべりながら作業することです。そしたら、みんなわからないことでもグループの人に教えてもらったり、協力し合えたりします。だから、私もなるべくグループの人と相談しながらやろうと決めました。そして、うまく完成しました。

完成した後は、ロケットを飛ばしてみました。3, 2, 1の合図で8人ずつロケットを飛ばしました。ものすごい速さでした。迫力がありました。植松さんも言うておられましたが、飛ばす前はとても緊張しました。でも無事成功しました。パラシュートもきちんと開いて嬉しかったです。

たくさんの学校の人と交流できました。班で、ロケットを作るときも話し合いながらできました。わからないところを教えてあげられたのでよかったです。移動の時、16班は集まるのが早かったと思います。あまり話せなかった人もいたから、もっと自分から話しかければよかったなと思います。

もちろん、交流したのは、班の人だけではありません。久しぶりに会えた友達や初めて話す友達。この夢プロジェクトという行事があったから、たくさんの交流ができました。

これから私も、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦していきたいです。

ふるさと夢プロジェクト

川迫小学校 水川 愛梨

先日、北広島町の6年生が集まって行われる、ふるさと夢プロジェクトがありました。講師の植松努さんに来ていただいて「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう！」をしました。

まず、植松さんの講演を聞きました。とてもいい言葉がたくさんあった中で、私が一番心の残った言葉は「夢をあきらめない」です。私には小学校1年生からずっと変わらない夢があります。それは「学校の先生」になることです。なぜ私の夢がずっと変わらないかという私は、一度決めた事は最後までやり遂げたいという気持ちがあるからだと思いません。授業を楽しく受けられるように工夫し生徒たちを笑顔にし、学校での教育もしっかりとしている先生方を見てとても感心しました。そんな姿を見て私も学校の先生になってみんなを笑顔にしたいなと思いました。私は、勉強もたくさん頑張っています。コツコツ努力をして、家でも勉強をしたりして「夢をあきらめない」ことを決めました。夢も変わるかもしれませんが誰に何を言われても決してくじけず、あきらめないように頑張ります。

次に、ロケット作りを行いました。各班に分かれてしました。私は25班で最後の班でした。班の人が集まってから「始めてください」と言われました。最初は、どうしようか迷っていたけど私はみんなに「自己紹介をしよう。」と言い自己紹介をしたので、みんなの名前を知ることができました。その跡からも名前と呼んで話し合っできたし、みんなが同じところまで一緒にやって、次の作業へ進むことができました。周りを見るとシーンとしていて一人で黙々とやっている人が多かったけど、私たちは班の人たちとたくさん話したりみんな同じペースでやったりしたので「良かったな。」と思いました。

最後に、ロケットを打ち上げました。4つの班をつくって4つの発射台で二人ずつ打ち上げていきました。待ち時間の間もほかの班の人たちと話をしていました。ロケットを飛ばす番になった時は、「うまく飛ぶかな」と思っていました。そして打ち上げの時は、ものすごい勢いで飛んで行ったし、パラシュートも開いたので「すげー」と「よかったー」と

いう気持ちが浮かびあがりました！ダイレクトキャッチはできなかったけど、成功してよかったです。

今年のふるさと夢プロジェクトは、とてもいい経験・思い出になりました。講演会はあきらめないことの大切さを知ることができました。ロケット作りでは、班の人と協力しあいながら交流できました。ロケット飛ばしでは、夢と希望を乗せてロケットを飛ばすことができました。

でも、一番交流できたのは昼休憩の時でした。男子も女子もみんなと話せてとても楽しかったです。たくさんの同級生と交流できてよかったです。この経験を生かして夢への第一歩が踏み切れたと思います。とっても楽しくて最高でした。

夢をとばすロケット作り

八重小学校 大久保 柚

今日、「ふるさと夢プロジェクト」がありました。まず、北海道から来て頂いた植松努さんの講演を聴きました。おもしろい話を交えながら説明して下さったので、とても分かりやすかったです。ためになる話がたくさんありました。

例えば、だれもやらないこと、だれも知らないこと、教えてもらえないことは、自分で考えて行動したり工夫したりすることです。自分たちの生活で考えると、難しい問題があった時に、すぐ友だちに聞くのではなく、自分で教科書を調べたりして答えを出すことができます。こういったことでも日頃から工夫していきたいと思いました。

驚いた話もありました。それは、植松さんは、勉強が苦手だったけど、ロケットを作るために何度も研究してロケットを作り上げていたことです。自分なりに挑戦した植松さんは、本当にすごいなあ、と思いました。それだけでなく、11月11日のポッキーの日にはポッキー型のロケットを打ち上げたりもしていて、楽しんでいらっしやるんだな、とも思いました。

こんなすごい方でも、成功ばかりではありませんでした。ロケットは何度も爆発したそうです。その映像を見ると、とても衝撃的でした。しかし、これにくじけずロケットを作り続けた植松さんは、かっこいいな、と思いました。今後の生活に生かすことのできる、ためになるお話を聴かせて頂きました。

次に、違う学校の人たち6人とロケット制作をしました。初めは話しかけることができなかったけど、困っている様子だったので、

「手伝おうか。」

と声をかけると、だんだんと話せるようになっていきました。私は、物を組み立てること等が得意だったので、すいすい作ることができました。けれど、途中からパラシュートの糸がからまってしまい、少し手こずってしまいました。しかし、何とか組み立てることができました。色塗りでは、カラフルな明るい色で塗りました。とても明るいロケットができました。完成した頃には、班の人ともけっこう話せるようになっていて、よかったです。

その後は、母が朝早くから作ってくれたお弁当を食べました。ずっと座ったままだったので、こわばった体がほぐれました。みんなでわいわい楽しく、おいしいお弁当を頂きました。

最後は、一番楽しみにしていたロケット発射です。いろんな人を見ながら、順番を待ちました。中にはパラシュートが開かなかった人もいたので、「開くといいな。」と思っていました。操作の方法は、左のレバーをずっと押したまま右のボタンを押すだけのとても簡単なものでした。ついに、順番がきて、ロケットをセットしてもらい、ボタンを押すと、思いっきりロケットが空高く打ち上がりました。どこかで見失ってしまうほど速くて、見つけるのに時間がかかりました。少し、恥ずかしかったです。

今回の夢プロジェクトでたくさんのお話を学びました。植松努さんのお話で、自分もできないと思わず、様々なことを工夫して、がんばって夢に向かっていきたいな、と思いました。他の学校の人から、「名前なんて言うの？」等と話しかけてもらえたり、話もでき、顔も覚えてもらったのでうれしかったです。また、ロケットもとばすことができ、いい思い出になりました。

良い体験・経験～ふるさと夢プロジェクト～

八重小学校 増本 花鈴

今日、千代田ブロックの皆が集まる「ふるさと夢プロジェクト」がありました。九校、約150人位の多くの人たちと一日ふれあいました。

まずは、学校紹介でした。各学校、それぞれに学校の伝統や特徴などを紹介していました。リズムや踊り、写真など、どの学校もとても分かりやすかったです。そして、私たちの学校「八重小」が呼ばれました。緊張して声が裏返ったり、短期間で覚えた言葉を忘れてしまったりしたが、なんとか最後まで発表することができました。ソーランは時間の関係でいつものように最後まで踊ることはできませんでしたが、迫力は伝わったのではないかと思います。発表が終わるとほっとしました。やはり、人前に立つことは苦手だけど、次への「力」になったと思いました。

次は、わざわざ遠い北海道から来て頂いた植松努さんの講演会でした。植松さんはとてもやさしそうな方で、お話を聴くと今までにとっても苦勞をされてきた方でした。植松さんは、子どもの頃、あまり勉強や運動ができず、友だちからからかわれていたそうです。でも、そんな植松さんが、自分の趣味を生かし、苦勞を重ね、今では自分の会社まで持っておられるそうです。植松さんは子どもの頃、ロケットが飛ぶ瞬間のおじいちゃんの喜ぶ顔を見たり、ロケットの名前を覚えると、おじいちゃんが褒めてくれたりしたことがきっかけでロケットが好きになったそうです。

ある日、植松さんが友だちの持っているプラモデルがうらやましくて、父親に

「プラモデルを買ってほしい。」

と、頼んだそうです。しかし、父親は

「男なら自分で作れ。」

と言ったそうです。そこから、植松さんは大人顔負けの火花が飛び散るような鉄鋼の接着技術を知り、やけどを負うようなこともあったそうです。この頃、植松さんはバイオリンとピアノを習っていましたが、その機械のせいで大事な人差し指を少し失ってしまったそうです。とてもショックだったそうです。

植松さんは、子どもの頃からロケットを作る夢があり、「勉強もできないのにそんな夢が叶うわけない。」と猛反対されていたそうです。しかし、植松さんの周りにいた、物作りを教えてくださいましたおじちゃんたちの影響で、ロケット作りの夢をあきらめずに勉強して、ついに夢を叶えることができました。植松さんはロケットを制作するまで何度も爆発したり墜落したりと泣いた時期もありましたが、今ではアメリカと仲良くなるくらいなので、とてもすごいと思いました。これからの人生にとっても役立つお話を聴かせてもらい、本当に感謝しています。

次は、ロケット制作・発射です。初めて会う人たちと緊張しながら、助け合いながらなんとかロケットを完成させました。いよいよ発射です。うまく飛ぶかな、と心配しましたが、すごい音とともに煙を立てながら発射しました。自分のロケットがどこに飛んでいったのか分からないくらい速く、高く飛びとても感激しました。

今日は、ロケットを生まれて初めて作り、飛ばすことができうれしかったです。植松さんの心にしみる良い話を聴かせて頂き、良い体験・経験となりました。

夢プロジェクトに参加して

八重小学校 日高 愛海

十月二十日。今日は、待ちに待った「ふるさと夢プロジェクト」の日です。前から楽しみで、わくわくしていました。今回の夢プロジェクトのテーマは

「思うは招く～夢があれば何でもできる～」でした。私は最初「え？」と思ってしまいました。その意味を教えて下さったのは、植松努さんという、植松電機の社長さんでした。

講演が始まると、私は興味津々でお話を聴きました。お話はとてもおもしろく、ためになるお話でした。その中でとても心に残ったお話が2つあります。それは、仕事がないのであれば、作ればいい、と考えた植松さんの考えです。理由は、仕事がないからいいままでいい、なんて思わずに会社を作ってしまう方がいい、というそこで止まらず突き進むところがすごい、と思ったからです。二つ目は、周りの人に「どうせ、無理。」や「お前なんてできるわけがない。」と言われても、「無理かも。」や「自分なんて・・・。」と思わず、あきらめないことが大切だというお話です。理由は、植松さんは幼い頃、落ち着きがない、忘れ物が多い、服が後ろ前など、先生からはチョロ松と言われるような子どもだったそうです。テストでも決して良いと言える成績でなく先生から「くだらないことはしなくていいから、勉強しなさい。どうせむりなんだから。」と言われていたそうです。私だったら、テストの点が悪かったり、成績が悪かったり、先生に楽しくやっていたことを、「どうせ、無理。」と言われてたら、嘆いて全部放り出してしまおうと思いました。自分なんて・・・、どうせ無理・・・。とってしまうと思います。しかし、植松さんはそれでもやり続けて夢を叶え、すごいなあ、と思いました。また、植松さんの同級生で、仮面ライダーになりたい、といった人も、周りに「がんばって。」など言われなくてもがんばり続け、今では仮面ライダーの番組を作る人になっているそうです。植松さんもその同級生も、夢をあきらめず、大好きだからできたんだと思います。私も絶対にあきらめないことを忘れないようにできたらな、と思いました。

次はロケット制作でした。分からないところがありましたが、自分で考えてみてから、友だちに相談するようにしました。作る時、考えることが大切だなと思いました。それから、新しい友だちもできてとても楽しくロケットを作ることができました。植松さんのお話の内容をロケット作りで生かすことができ良かったです。

お弁当を食べた後は、ロケット発射です。みんなが見ている中、飛ばなかったらどうしよう、と思っていました。しかし、そんな心配は無用でしっかり飛んでパラシュートもきれいに開いてくれました。パラシュートが開いてくれたのは、先生方や植松さん達が、私たちがお弁当を食べている間、休憩もせずロケットを確認してくださったおかげだと思います。生まれて初めて自分で作ったロケットを自分の手で飛ばすことができ、とても感動しました。

今日は、植松さんに大切なことを教えて頂き、友だちとも協力できてとても楽しく学べた一日となりました。それから、もう一つ学べたこと、それは感謝とあきらめないことです。それは、前日から私たちのために準備して下さったり、休憩もとらずロケットを確認して下さったりしたこと。そして、もう一つは、失敗してもあきらめないことです。これからの生活で、今回学んだことを生かしていきたいと思います。また、感謝の気持ちを忘れず生活していきたいです。

勇気をもたらった

八重東小学校 梅野 由実

「思いは招く」とは、今日来て下さった植松さんの言葉です。私は、植松さんがおっしゃったいろいろな言葉で人生が変わるような気がしました。

その中で、一番心に残ったのは「失敗しても大丈夫。はずかしがらないで。」という言葉です。考えてみると、私にあてはまると思います。例えば長縄跳びのことです。私は全然跳べなくて、いつも失敗しています。みんなから「ちゃんと跳んで。」とか「早く跳んでよ。」と言われたこともあります。それで、だんだん長縄跳びがきらいになっていきました。それから長縄跳びはさけてきました。でも、「失敗はだれにでもある。だから大丈夫。」という言葉は、私をはげましてくれました。

他にも心に残ったのは「どうせ無理」という言葉を使わないということです。私は長縄跳びでできなかつたら「もう無理だ。」とあきらめていました。今日の植松さんの話を聞いて、『無理だ。』と言ってはダメだ。がんばるぞ!』という気持ちになりました。

私には夢があります。それは作家になることです。みんなからは、簡単にはなれないと言われます。ですが、私は長縄跳びと同じく、あきらめたくないと思いました。私が書いた本を読んでくれる人に笑顔になってほしいです。なぜなら、この夢の目的は、私が人を笑顔にすることだからです。今まで、「自分は何もできない。」とっていました。しかし、今日の植松さんの話を聞いているうちに、挑戦したらできるのではないかと思えるほどになりました。

植松さんの話のあとは、ロケット作りをしました。私の班のみんなは着々と作っていくのですが、とても静かでした。すると、壬生小学校の大久保君が、

「何か話そうや。静かなのは、さみしいじゃない。」

と、みんなに言いました。私は、となりの席の川内さんと島谷さんに話しかけようと思いましたが、でも、できませんでした。植松さんの言葉「挑戦」が頭に浮かんできました。私の前に座っている杉野君に声をかけようとしたのですが、ここでもできませんでした。そうしているうちに、ロケット作りは終わってしまいました。

最後のロケット飛ばしになりました。終わるまでに同じ班の人と一回は話しておきたいとっていました。ロケットを飛ばす順番を待つ間、川内さんに話しかけられました。

「次だね。きんちょうするね。」

私からはなかったけど、今日初めて話ことができました。すごくうれしかったです。何だか自信がわいてきました。ロケットを飛ばし終えた川添君が

「すごく飛んだよ。」

と言っていました。そこで私は、

「そうなの。すごいね。」

と、小さな声でしたが返すことができました。

今日は、少し自信がついた一日になりました。植松さんの言葉のおかげです。

自分にもできたロケット作り

八重東小学校 神名 俊佑

ぼくが心に残ったことは、今日あったこと全てです。

植松先生はロケットを作った人だから、すごい人かなと思っていました。しかし、講演の中で、成績が悪かったと聞いてびっくりしました。それよりびっくりすることがありま

した。それは、植松さんはロケットのつくり方が分からないのに、軽くて小型のロケットを作ったからです。ロケットを飛ばせるようになるまで何度も失敗を繰り返して、大変だったことが分かりました。植松さんは、子供の頃、飛行機の勉強をしていたそうです。その時、学校の先生に「そんなこと止めてしまえ。もっと勉強しろ。」と言われて、やる気がなくなったと言っておられました。でも、ロケット作りをやりとげることができたのは、自分の心の中に「自分にもできる、頑張りたい。」という気持ちがあるからだと言っておられました。

ぼくも、「自分にもできる、頑張りたい。」という気持ちの大切さが分かります。ぼくは空手をしています。試合の時は緊張して、勝てるかどうか不安になります。でも、「練習してきたのだから勝てるぞ。」と強く思うことで試合に勝ったことが何度もあります。今のぼくの目標は黒帯になることです。昇段審査は厳しいそうです。空手の先生に、もっと練習をするようにと言われて遠くの道場にも通っています。昇段審査に自信を持って臨めるように、練習をがんばります。

講演会の後のロケット作りでは、班のみんなは無言で取り組んでいました。ぼくもだまってやっていたのですが、分からないところがあって困っていると、

「どこが分からないの。教えようか。」

と声をかけてくれる人がいました。そのことが解決して、また作っていると、また分からないところがありました。今度は、さっきとちがう人が教えてくれました。おかげでロケットが無事できあがりしました。そのうえ、班の人ともよく話ができるようになりました。

いよいよロケットを飛ばすときになりました。ぼくがロケットを飛ばす順番がきました。どきどきしてスイッチを押すと、ぼくのロケットは空高く上がりました。しかし、パラシュートが開きません。落ちたロケットを拾ってもどつてくると、植松さんがロケットを直してくださいました。もう一度飛ばすことになりました。ぼくが最後になり、みんなより強力なエンジンをつけてもらいました。打ち上げたロケットは、みんなのロケットよりも速く、倍以上の高さまで飛んでいきました。無事パラシュートが開いて、落ちてきたロケットをキャッチすることができました。

このロケットは、ぼくの「夢」だと思いました。それを飛ばすエンジンは「自信」です。パラシュートは夢の到着の合図です。ぼくのロケットは、一度目はパラシュートが開きませんでした。でも、二回目には開きました。ぼくの本当の夢は、まだ到着をむかえていません。これから自信をつけないといけません。

今日のことは、これからのぼくの人生の糧にします。失敗しても今日のことを思い出してがんばります。

植松さんの話から考えたこと

八重東小学校 河野 優希

「やりたいと思う心を大切にする」この言葉は、植松さんの話を聞いて、私が最も印象に残った言葉です。

私は今までやりたいことや好きなことがあっても「続けられないかもしれない。」とか「続けても何の役にも立たない。意味ないじゃないか。」と思うことがありました。続けることや挑戦することをあきらめていました。でも、今日の植松さんの話を聞いて、「挑戦して失敗することは悪いことではない。そして、その失敗は意味がないことはない。」と考えが変わりました。失敗したからあきらめるのではない。次に、どのように工夫すれば成功できるか考えて、また挑戦することが大切だという植松さんの話に、自分の経験を思い出し、

納得しました。

私はピアノを習っています。今、難しい曲を練習しています。私はピアノをひくことが大好きです。でも、時々「やめたい。」とか「もしかしたらこの曲は難しくてひけないかもしれない。」と思えば不安になることがあります。でも、そんな思いを胸にしまいこんで、たくさん練習してきました。すると、私の演奏を聞いてくださったピアノの先生達から、「上手だね。」

と声をかけてもらえるようになってきました。難しいと思っていた曲が、今では楽しく自信を持ってひけるようになりました。私は、やっぱりピアノが好きなんだなと思いました。

私はピアノをやりたいと思う心を大切にしていきます。植松さんは「もし不安になっても、不安の先には必ず成功や喜びが待っている。」と言っておられました。私もそうだと思います。わたしのピアノの体験は植松さんの話に近いと思ったからです。私は、これからたくさんいやなことや、もうだめだと思ふことを経験すると思います。そんな時は「やりたいと思う心」「不安の先には成功が待っている」ことを思い出していきます。そして、自分が好きなことややってみたいことを大切に、夢に向かっていきます。

夢プロジェクトを通して

八重東小学校 右田 亜莉菜

植松さんの話を聞いて自分にあてはまることはいくつかあると思いました。

植松さんがお金を貯めておかしを買おうとした時の話です。植松さんの祖母が、「おかしより、本を買いなさい。そうすると知らないことを知ることができるよ。」と言われたそうです。わたしもおこづかいをもらおうと、うれしくなってすぐに使おうとします。すると私の祖母が、

「そんなものより、本を買いなさい。頭がよくなるけえね。」と、よく言います。私は、いつもは祖母の言うことをあまり聞きませんが、植松さんの話と合わせて考えると、確かにそうだなと反省しました。

他にも植松さんは、ロケットが好きで、小さいときは紙飛行機の本を買って作っていたという話をされました。学校では役に立たなかったけど、仕事をするようになって役に立ったそうです。ロケットの作り方も分からないで挑戦した話もされました。これらの経験から「思うは招く」につながったことが分かりました。何でも挑戦することが大切で、やりたいことをしてみることは夢の実現につながるのだと思いました。

ロケット作りは、班のみんなで協力しました。デザインもすてきな良い作品ができました。きっと高く飛んでいってくれると思いました。でも、ロケットを飛ばすときが近づいてくると不安になりました。パラシュートはちゃんと開くかな、落ちてこわれたりしないかな、などと考えていました。いよいよ私の番になりました。しかし、心配はいりませんでした。私のロケットは空高く飛んでいきました。

夢プロジェクトでは、植松さんの話を通して、分かったことがありました。新しい自分を見つけたような気がします。植松さんの言葉をこれからも思い出しながら、気持ちを新たに私の夢に挑戦していきます。

「どうせ無理」をなくすことから

八重東小学校 梅尾 健琉

「人は誰でも『どうせ無理だ。』を知らずに生まれてきたのですよ。」と言われて自分のことを考えた。ぼくは体操を習っている。コーチから技をやるように指示される。でも、「できません。無理です。」

と言っている自分がある。いつもぼくは友達などに、

「できるかどうか分からないのに、あきらめるん。」

とよく言っていた。でも自分は挑戦という名のかべを越えようとせず、理由をつけては逃げていたのだ。植松さんの話を聞きながら、少しずつでもかべを越えていけばいいのだと思った。今日の話をつきかき、体操で挑戦していきたい。

講演の後は楽しみにしていたロケット作りをした。同じ班の人と交流を深めた。お互いのロケットに名前を書き記して、世界に一つだけのぼくの夢をこめたロケットを作ることができた。

いよいよ発射。このロケットは小さいながらも空高く飛んでいった。見事に成功した。ぼくもこの小さなロケットと同じように、全国では名の知られていない小さな体操選手だ。でも、いつかは世界にも知られるような体操選手になりたいと思った。

今日からぼくが心がけることは「どうせ無理だ。」をなくすことだ。今日、話を聞いたみんなも「どうせ無理だ。」をなくすことができれば大きなことにつながると思った。

よく分かった夢プロジェクト

壬生小学校 水越 真咲

私は、夢プロジェクトに参加して、自分がこれからどうすれば良いかよく分かり安心しました。また、ロケットを飛ばすことができ、楽しかったし、うれしかったです。植松さんの話を聞くこととロケットを飛ばすことができるとてもよかったです。

植松さんの話を聞いて、安心することができました。私は、何かがまあまあ上手くできたとしても「でも、やっぱり〇〇さんの方が上手だよなあ。」とってしまうことが多いです。でも「人には足りないからこそ助け合える。」「一人一人にいいところや苦手なところがある。」ということを知って全てが上手くできるわけではないし、一つのことでも自分をどうだあだと決めつける必要はないと思うことができました。他にも、植松さんの話を聞いて安心できたことがあります。それは、夢はたくさんあっていい、小さなことでもいいということです。私は、まだ、はっきりとした夢が決まっていません。周りの人からそろそろ決めないとと言われて、少しあせっていましたが、「夢は何ですか?」と聞かれることも大嫌いでした。でも、植松さんの話を聞いてあせって一つに決めなくてもいいんだ、別に職業じゃなくてもいいんだと思い、安心しました。

植松さんの話は、「こういう時はこうしたらいいよ。」「こういうことはしたらダメだよ。」ということを実践的に教えてくれました。だから、自分の生活と重ねて「あの時、ああしたからいけなかったな。」「だからこれからこうしよう。」と考えることができました。私は、いけなかったなと特に思ったことがあります。それは、私が妹がやろうとしていることややりたいことに「絶対できんけえ、やめときんさい。」と言っていたことです。植松さんは、自分がやりたい仕事について「絶対できない。」と親に言われ、ショックで可能性をつぶされたそうです。また、「新しいことにチャレンジした方がいい。」「不安はだれにでもある。」ということも聞いて、自分が不安だったから妹に「やめときんさい。」と言っていたことが

分かりました。失敗しても分かることがあるし、何もしないよりは全然いいということが分かりました。だから、妹や人に「やめときんさい。」や「絶対できない。」ということはいわないようにしようと思いました。

ロケットを飛ばすことについては、始めはあまり興味がありませんでした。でも、本物の時速200kmの速さで飛ぶロケットが自分で作れると聞いて、おもしろそうだと思います。興味をわいてきました。まず、自分でロケットを作る作業からです。「ちゃんと飛びますように」とドキドキしながら作りました。班の人と確認しながら作りました。班の人とは、たくさん話したわけではないけれど相談しながらできたので良かったと思います。組み立て終わったら色付けをして自分だけのロケットができました。

そして、いよいよ飛ばす時間になりました。試しに飛ばしたロケットの速さと音を聞いて、びっくりしました。これが本物なんだなと思いました。ますます、上手く飛ばしたいなと思いました。自分が飛ばす順番が来ました。レバーを押してスイッチを押すと、ロケットが高く飛びました。パラシュートも開きました。うれしかったです。本物のロケットはもう一生作れないかもしれないので、ロケットはずっと大事にとっておきたいなと思いました。

今回の夢プロジェクトに参加して本当によかったなと思いました。植松さんの話やロケットを飛ばしてみても思ったことや考えたことを実行したいなと思いました。自分がどう思うかで楽しいか、良かったかは決まるので、今日のことを思い出して、自分が楽しかった、よかったと思えるような生活を過ごしていきたいです。

夢と希望をのせて

壬生小学校 本田 花

10月20日は、夢プロジェクトがありました。私は、この日を楽しみにしていました。一番楽しみにしていたのは、やっぱりロケットを飛ばす時でした。約140人が集まるプロジェクトに参加することは、すごくドキドキしていましたが楽しみでもありました。

最初の学校紹介では、私達と同じように田楽をやっている学校がありました。壬生小学校と同じように昔から伝統を受け継いでいる学校があることを知りました。

そして、植松先生の講演がありました。私は「学校の成績は関係ない。だって教科書にのっていないことを自分で発明するのだから。」という言葉が一番心に残りました。私は何かを成し遂げるには必ず学校の成績が必要だと思っていました。だから、勉強ができませんと無理かと思っていましたが、この言葉を聞いて何だか自信が湧いてきました。また、植松さんの話の中にはロケットが完成するまでの、乗り越えてきた気持ちやショックを受けたことなどたくさんを伝えてくださいました。「ロケットが飛んだ時には、嬉しくて涙が出そうだった。」とおっしゃった時に、私は植松さんがどれだけの努力を重ねてここまでやってきたのだろうと思いました。先生などに、「どうせ無理。」などと言われながらも小さい頃からの夢をあきらめないということが、私には不思議でした。私だったら絶対あきらめていたと思います。もう自分に自信がなくなっていたと思います。そこで植松さんがすごいのは、『どうせ』や『もう無理』と心で思ってしまったら、自分の可能性がなくなってしまう。」と考えたところです。だから私は、植松さんのようにマイナスな言葉を考えずにあきらめない生き方をしたいなと思いました。

そして、「本を読むことが大切」という言葉も心に残りました。私は、あまり本が好きではありません。だけど、植松さんは、本のおかげでたくさんの人と友達になったり、たくさんの事を知ったりしたとおっしゃっていました。その時、本は私のためになることが書

いてあるから、役に立つものなんだと改めて思いました。これからは、いろいろなジャンルの本を読んでみたいと思いました。

植松さんの講演が終わると、次はロケット作りになりました。班のみんなと会うことを楽しみにしていました。だけど、ロケット作りが始まっても班のみんなはシーンとしていて思ったより話ができませんでした。でも、隣の班には同じ小学校の子がいて、その班はすごく楽しそうだったので、私も自分の班の人に話しかけてみようかなという気持ちに少しなりました。でも、やっぱり話しかけられません。私が、とまっていると、班の子が「分かる？」と優しく言ってくれました。その日、一番のうれしさを実感しました。私も「うん！」と元気な声でうなずき応えました。それからは、とてもいい気分でロケット作りを進めることができました。その後も、「どんな色にする？」などと声をかけ合い、助け合いながら作り、終わった時は、友達になれていたものでうれしかったです。

昼ご飯を食べたら、いよいよロケットを飛ばす時が来ました。私が一番心配していたのは、パラシュートが開くかどうかでした。最初の人たちは、とてもきれいにパラシュートが出て開きました。そして、いよいよ私の番がきました。ロケットをセットしたら「シューッ！」という音とともにロケットが発射しました。ドキドキしながらロケットを見守りました。そして、私の色あざやかなロケットは空高く飛び、パラシュートを開きながらゆっくりとおりてきました。その時、私は植松さんがロケットと飛ばした時の喜びがわかったように思いました。うまくパラシュートが出ていない人もいたけど、そこに優しい声をかけている人がたくさんいたので、優しい人がたくさん北広島町にはいるなと思いました。班のみんなと協力し合ってきたロケットはきれいで、最高だなと思いました。

その日は、いつもより一日がたつのが早かったです。植松さんの最後の言葉には、「またいつか私達は出会うから、くやしい事があっても絶対に死なないでほしい。」とおっしゃっていました。だから、私は、どんなに苦しい事があっても落ち込まないと植松さんに誓いたいです。また、このようなプロジェクトを考えてくださった方々に感謝し、植松さんにまた出会えるまでの一日一日を大切に過ごしていきたいです。

夢と希望をのせてロケットを

壬生小学校 野嶋 香里

昨日、夢プロジェクトで夢と希望を乗せてロケットを飛ばしました。私は、このプロジェクトを楽しみにしていました。理由は、去年の6年生が「楽しかった」「行ってよかった」と話していたからです。また、去年の6年生が持って帰ってきたロケットを見て、あんなに小さいのに本当に飛ぶのかなと不思議に思ったからです。前日までの準備では、学校紹介で田楽の「ゆり」を歌うことになったので頑張ろうと思いました。でもちゃんとできるかなという不安もありました。

運動公園について、開会式をしました。学校紹介の八重小学校をみているうち、少しずつ緊張してきました。そして、壬生小学校の順番になりました。早口にならないように、はっきりと言うようにと自分に言い聞かせました。「ゆり」の時は、他の小学校に分かるようにはっきり歌えました。自分が言う言葉では、語りかけるように言うことができました。私は、学校紹介でよかったと思う学校は八重東小学校です。理由は、リズムに合わせて言っていて、覚えやすく楽しかったです。また、他の小学校も良いところをアピールしていたのでその学校の伝統や良い所が分かりました。

次に、植松先生のお話を聞きました。題に「思いは招く」と書いてあったので本当にそうなのかなと思いました。夢についての話であることは聞いていました。私には、水泳選

手という夢があります。でも、上には上がいて、私よりタイムが速い人はたくさんいます。水泳の選手は無理なのかなと時々思います。だから、植松先生がどんなお話をしてくださるかとても楽しみにしていました。

お話を聞いて、今でも覚えている心に残っている言葉があります。それは、「苦しみの先に喜びが待っている」という言葉です。理由は、チャレンジをしないと何も始まらないということが分かったからです。むしろ、苦しいことから逃げてはいけないと思ったからです。今の私を一番勇気づけてくれる言葉です。他にも、「無理」とか「やだ」など言わないとか「夢はあきらめたらいけない」というお話が心に残っています。私は、話を聞いて水泳を今できる全力でやろうと思いました。勇気が出ました。植松先生に感謝したいです。

次に、ロケット作りをしました。班の人は、みんな知っている人はいませんでした。だから、仲良くなれるか心配でした。みんな、分からないところは聞きながら作っていましたが、黙々と真剣に作りました。絵をかくところではみんなが悩んで、相談しました。その時に、班のみんなが仲良くなったと思います。私は、カーブをイメージして赤を中心に塗っていきました。しかし、作るのが間に合わず、最後まで絵は完成できませんでした。けれど、班のみんなが仲良くなれて、ロケットが上手くできたので満足でした。

そして、楽しみにしていたロケットを飛ばす時間が来ました。最初に試しに飛ばしてもらったロケットを見たときは、改めて感心しました。2人ずつで飛ばすと聞いて、だれと一緒にかなと思っただけで、同じ班の友達が「一緒に飛ばそう」と声をかけてくれたのでうれしかったです。ちゃんと飛ぶか心配だったけど、空高く飛んでパラシュートでゆっくりと降りてきました。ロケットが空高く飛んだ時、夢がかなったような嬉しさがこみあげてきました。

昨日は、本当に楽しかったです。たくさんの友達が出来て、みんなとロケットが作れて飛ばすことができたからです。そして、植松先生の話からは、勇気をもらい、これからも水泳をがんばろうという思いになりました。夢と希望をのせた一日になりました。

夢に向けて

本地小学校 島谷 すみれ

私は、「北広島ふるさと夢プロジェクト」を通して、夢に対する気持ちが変わりました。植松先生のお話を聞くことができたからです。子ども時代や、ロケットが完成するまでに数々の失敗や不安などを乗り越えられて、植松先生の今があるのだと思いました。

私は、夢は一つと自分で決めつけていました。しかし、植松先生が、「夢というものは大好きなことややってみたいこと。だから、夢に限りはない。」と言われたとき、気持ちが楽になったような気がしました。

その他にも、植松先生の言われたことには、私の胸に響くすてきな言葉がたくさんありました。例えば、「どうせ無理」という言葉に負けないことです。「どうせ無理」という言葉は失敗をおそれている言葉です。失敗をずっとおそれて、できることしかやらなかったら自分が成長できません。中途半端でもいいから、ちょっとずつチャレンジしていくことが大事なのです。人間は必ず失敗をします。その失敗を少しずつでも乗り越えていくからこそ、自分にとっての大きな力になっていくのです。そして、自分に夢があれば、もし失敗しても次に生かそうとして、壁を乗り越えられるはずです。私はこれまで中途半端は良くないだけだと思っていましたが、失敗をおそれて何もしないことより良いことなのだと思います。だから、夢に向けてチャレンジする勇気をもとうと思いました。

お話の後に、ロケット製作をしました。このロケット製作を通して、少し勇気を出して、

チャレンジできたことがあります。ロケット製作はグループでしました。その時、初めて会う人に声をかけることなんて無理だと思っていました。声をかけたいけど、人見知りの私には大きな壁でした。「何て声をかけよう。」「大丈夫かな。」こんなことを思いながらロケットを作っていました。しかし、植松さんが言われたことを信じて声をかけることにチャレンジしてみました。

「のんちゃん、知ってる？」

と。相手も返事を返してくれて、徐々に仲良くなることができました。チャレンジすることで自分の力になるのだなと思いました。

それから、ロケットの打ち上げの時、上手くパラシュートが開くか不安でした。周りの人のロケットが上手く飛んでいくのを見ると、「私のも上手く飛ぶのかな。」と余計に心配になりました。心の中は、不安な気持ちでいっぱいでした。それでも、打ち上げるとパラシュートがしっかりと開いて、上手く飛ばすことができました。今度は途端に安心しました。植松さんが言われた「不安の向こうに幸せがある」ということは、こういうことだったんだと気付きました。

この夢プロジェクトを通して、私の夢は二つあることを改めて感じました。一つは、水泳選手になること。もう一つは、薬剤師になることです。薬剤師になるためには、勉強をちゃんとしなくてはだめだと思っていました。しかし、大事なものは「テストの点数」だけでなく「なりたい」と思う気持ちです。夢があれば、失敗をしてもまた夢に向かって走り始めることができます。だから、今の自分の夢を大切にしていきたいです。

「思うは招く」、夢に向かってあきらめずに進み続ければ、夢はかなう。この言葉は、私が将来つまずいたとき「あきらめずがんばろう」と思い起こさせてくれる大切な言葉になると思います。夢を追いかけて、どんな壁があっても乗り越えられるようになりたいです。そして、やったことがないことにもチャレンジをし、夢への一歩を少しずつでも歩き続けていきたいなと思いました。

夢への思いを乗せて大空へ飛んでいくロケットの姿は、希望にあふれていました。

夢があれば何でもできる

本地小学校 中村 菜月美

私は、この夢プロジェクトを通して、「自信」と「夢」をもつことができました。特に、植松先生のお話を聞き、そう思いました。

先生は、講演中に何度も自信と失敗という言葉が使われました。失敗は悪いことだと私は思っていたけれど、植松先生は、

「失敗したって大丈夫。失敗は悪いことではない。」

と、言われていました。私は、植松先生のこの言葉に心を打たれました。失敗するのがこわいから、今まで何もしてこなかったからです。

心に残ったお話は、仮面ライダーを作る人になった方のお話です。その方は、小さいころから仮面ライダーになりたいと言っていました。高校生になっても言っていたそうです。最初にそのことを聞いたとき、変な人だなと思ったけれど、最後はとてすごい人だと思いました。高校生になっても仮面ライダーになりたいと言っていたら、ばかにされることがあったと思います。でも、それを気にせず、そしてくじけず、ずっと思い続けていたからその人の今があるのだと思ったからです。誰に何と言われようと、自分の夢をつらぬく心はすてきだと感じました。

他にも心に残ったお話があります。「どうせ無理」というお話です。「どうせ無理」とい

う言葉は、自分や人の自信と可能性をつぶす言葉だそうです。植松先生がそのお話をされたとき、私は日々の言動を振り返りました。私は、「どうせ無理」という言葉を使っていました。意味を聞いて最低だと思った言葉を、私自身も使っていたのです。だからこれからは、「どうせ無理」という言葉は使わないように心がけたいです。植松先生の講演会は、どれも心に残るお話ばかりでおもしろかったです。

次にロケット作りをしました。班の人は知らない人ばかりで緊張しました。説明書を見ると、難しそうでした。でも、まずは一人でがんばってみようと思いました。途中まではうまくいったけど、最後が分かりませんでした。しばらく考えても分からず困っていると、同じ班の人が、

「大丈夫？ここはこうするんだよ。」

と、優しく教えてくれました。うれしかったです。完成したとき、班の人が教えてくれなかったらできなかったと思いました。協力、助け合いは大切なことなんだなと思いました。また、ロケットに絵をかいているときも、

「かわいいね。」

と言ってくれました。それに、私が話しかけると笑顔で答えてくれました。すごくうれしかったです。

写真撮影をして、昼食をとりました。友達と、

「友達できた？」

「どんな子？」

と、色々な話をしました。みんな新しい友達ができていました。

そして、いよいよ打ち上げです。自分の作ったロケットが空高く上がるのは楽しみでした。それでも、だんだんと自分のロケットの打ち上げの番が近づくにつれて、パラシュートが開くかなと心配になりました。ドキドキしました。そんな中、いよいよ自分の番になりました。カウントダウンが始まると、ドキドキは最高潮になりました。

「三、二、一、ゼロ！」

私のロケットは、大空へ飛んでいきました。そして上手くパラシュートも開いて、無事に自分のもとへ帰ってきました。うまく飛んで良かったです。失敗した人も成功した人もみんな笑顔で楽しそうでした。みんなが笑顔になるプロジェクトだと思いました。

このプロジェクトで私は夢について考えました。私の夢はパティシエになることです。私は、年に一、二回お菓子を作ることがありました。でも、前に一回だけ失敗してしまい、次も失敗するんじゃないかとかわがって、それからあまり作っていませんでした。しかし、植松先生のお話を聞いて、自信ができました。今までは、できる一種類のお菓子しか作ったことがなかったけれど、これからは色々な種類のお菓子を作っていきたいです。そして、大人になったら、自分のお店をもっとみたいです。

北広島町内の仲間とロケットも作ることができ、また「夢」と「自信」ももつことができたのでとても良い思い出になりました。

夢と希望を乗せたロケット飛ばし

本地小学校 藤岡 哲平

ぼくは、「北広島ふるさと夢プロジェクト」を通して、改めて夢をもつことは、大事なことだなと思いました。そして、植松先生のお話を聞いて、「どうせ無理」という人の夢をこわすような言葉をいくら言われたとしても、その言葉に負けずに夢を追い続けることが大事だなと思いました。このプロジェクトに行って、色々なことを学びました。

初めに、開会式の後に、学校紹介をしました。他の学校の学校紹介がすごいので、自分たちはちゃんとできるかなと、少し不安になりました。芸北小学校の学校紹介では、列の先頭の人と呼ばれました。ぼくは先頭だったので、前に出ることになりました。その学校紹介では、ミニゲームをしました。両手をとりの人をつないで、かけ声に合わせて手を挙げました。すると、笑顔を作ることができるというミニゲームでした。ぼくは、戸惑う気持ちだったけど、おもわず笑顔になっていました。こういったゲームをすると、友達をたくさん作ることができるのでいいなと思いました。

そして、ぼくたちの紹介の番になりました。ぼくは、一人で言うせりふはありませんでしたが、みんなと声を合わせて、「おはようございます。」と「ありがとうございました。」を言いました。みんながせりふを覚えて、大きな声で発表したのも、本地小学校の自まんの取組を伝えることができたと思います。他の学校の人に分かってもらえたと思うと、うれしくなりました。きちんとやり切ることができて良かったです。

次に、植松努先生の講演会を聞きました。そのお話は、植松先生が子どものころにロケットのことが好きになり、大人になった先生が、ロケットを作るようになったという内容でした。子どものころにロケットのことを覚えると、お父さんがほめてくれたことがきっかけだったそうです。お話を聞きながら、ぼくは思ったことがたくさんあります。その中で、一番心に残ったのは「思うは招く」という言葉です。その言葉は、夢に向かってがんばれば、その願いはきっとかなえられるという意味です。ぼくは、とてもカッコイイ言葉だと思いました。

他にも、「どうせ無理」という言葉に負けずに夢を追うことが大事であるということ、怒る気持ちを抑えて、他人を許す気持ちをもつということも心に残っています。遠い北海道から来ていただいて、ぼくたちにとっても良い経験をさせてくださった先生に感謝しています。

次に、ロケット製作をしました。グループごとに分かれて行いました。ぼくのグループには、話したことのある人が二人いました。少し不安だったけど、楽しくロケットを作ることができました。

そして、打ち上げです。打ち上げは自分で作ったロケットに火薬をつめて、発射台にセットします。そして、ボタンを押すと発射しました。ボタンを押した瞬間、ものすごい勢いでロケットが大空に飛んでいきました。自分のロケットがどこに行ったか分からなくなったくらいです。落ちてくるロケットをダイレクトキャッチしたいと思っていましたが、それは無理でした。でも、打ち上げが成功したので良かったです。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」はすごく楽しかったです。そして、楽しみながら、夢をもつことは大事だな、あきらめないことで楽しい思いをたくさんすることができるのだなと気付くことができました。

失敗をおそれずに

豊平小学校 岡田 里奈

今日、ふるさと夢プロジェクトがありました。

まず、植松先生の講演を聞きました。その中で一番心に残っていることは、「失敗したら、何が原因かを考えることが大切だ。」ということです。それは、この講演の後すぐに、このことを実感する出来事があったからです。くわしくは、後で書きたいと思います。

次に、班のみんなが集まって、ロケット作りをしました。私の班は、初めはあまりなじめていない感じだったけど、ロケットを作っていくうちに、分からないことはみんなと話

をしながらできるようになりました。すると、私は班のみんなと友達になることができました。そのとき作ったロケットは、不恰好だったけど、友だちと声をかけ合って作ることができたので、よかったです。作ってみて、こんなに簡単にロケットが作れるなんて夢みただなと思いました。どのような仕組みで飛ぶようになっているのだろうと疑問に思い、知りたくなりました。

最後にロケットを飛ばしました。私は心配でした。パラシュートがちゃんと開くかどうかです。私の前の人たちは、成功する人もいれば失敗する人もいて、とてもドキドキしていました。いよいよ私の番になりました。3, 2, 1でロケットを飛ばしてみました。とても勢いよく上がっていくロケットを見ていると、植松先生の「泣きたくなるほどうれしい気持ち」がとてもよく分かるような気がしました。しかし、パラシュートは出たものの開かず、そのまま落ちてしまいました。残念な気持ちで、ロケットを植松先生の所に持って行くと、植松先生がやさしく

「何が原因だったか考えてみよう。」

とってくださいました。そこで、パラシュートをよく見てみると、ひもがくるくるまわっていて、パラシュートが開ける状態ではありませんでした。だから、そこを直してロケットにつめてから、もう一度飛ばしてみました。すると、パッとパラシュートが開いて、ふわふわと落ちて来ました。きれいにパラシュートが開いたとき、ロケットを飛ばす前の不安がなくなり、うれしさがあふれてきて笑顔になりました。

原因を考えてみると、なぜそうなったのかも分かるし、その原因を次に生かすことで、同じ失敗を何回もせずにはすみます。これから私は、たくさん失敗をしていくと思います。失敗してしまった時には、一度落ち着いて、よく考えて原因を探すようにしたいと思いました。

この夢プロジェクトでの私の目標は、友達を10人以上作ることでした。今日できた友達は、13人でした。目標の人数よりも3人も多く友達ができただけでよかったです。また、植松先生のお話を聞いて、これからは私の夢のためにがんばっていきたくて、他の人の夢も応援したいと思いました。

夢に向かって今できること

豊平小学校 捻原 雪月華

今日、北広島町の9校の小学6年生が集まって「ふるさと夢プロジェクト」を行いました。

夢プロジェクトでは、ロケットを作ったり飛ばしたりと色々なことを行いました。私の目標は、班の人と仲良くなり、協力してロケットを作ることでした。初めは、みんな緊張して全く会話がありませんでした。しかし、一人の女の子が、作り方が分からなくて困っている子に話しかけて教えてあげていました。その二人は、友達であったわけでもなく、同じ学校の人たちでもありませんでした。私はその女の子を見て、「私もがんばって声をかけてみよう。カッコいいな。」と思いました。そして、その女の子がきっかけで話の輪が広がり、たくさんの友達ができました。

作ったロケットを飛ばすこともおもしろかったです。けれど、私が一番心に残っているのは、植松先生の講演です。

植松先生は、

「夢と仕事は別のもので。」

とおっしゃいました。私は、このことを聞いたとき、何でだろうと不思議に思いました。

なぜかという、いつも私は、将来自分がなりたい職業のことを「将来の夢」と言うからです。しかし、この疑問は、先生の話聞くうちに解決していきました。夢は自分の好きなことなどで、仕事は社会に出てからのことと別のものだったのです。そして先生は、

「夢は多いほうがいい。」とおっしゃいました。「今日はカレーライスが食べたい。」これだって立派な夢だとおっしゃいました。夢は多ければ多いほうがよい。多ければ、一つがだめでも他の選択肢があるのだからと教えていただきました。確かに、一つだけの夢で、もしそれがかなわなかったとき、私は先が真っ暗になって、もう一歩も進めなくなるでしょう。

次に先生は、「絶対にだれに何を言われようと、自分の好きなことはやめないで。」とおっしゃっていました。先生は、「私だって、子どものころ好きだったペーパークラフトや読書をやめていけば、今こうしてロケットを作る仕事につけていません。好きなことを批判されても、やめなかったから、今の自分があるのです。」

と話されていました。私は先生と同じで読書が好きです。いつか、本を読んではいけないと言われるかもしれません。でも私は、読書を大切にしていこうと思いました。

他にも先生は、「失敗はだれにでもあるもの。」とおっしゃいました。新しいことをやろうとすると必ず失敗してしまう。しかし、その失敗をバネにして、次は成功できるように工夫することが大切なのだと教えていただきました。

私は、今日の夢プロジェクトでたくさんの友達もできたし、将来についての大切なお話を聞くことができました。今日のこの体験を生かして、これからも将来に向けて一步一步大切に進んでいきたいです。

ロケットに願いをのせて

豊平小学校 加藤 和

今日、千代田運動公園でふるさと夢プロジェクトをしました。9校で142名が集まりました。

ぼくが一番心に残ったのは、植松先生の講演です。わけは、話の内容がとても自分に合っていたからです。演題は「思うは招く」でした。ぼくは、「どうせ無理。」などのマイナス発言をしたら、自分の可能性がなくなってしまうということが心に残りました。ぼくは、できるだけやろうとする時もあるけど、時々、自分の苦手なことは、「これは無理でしょ。」とってしまうことがあったので、そこは直していきたくて思いました。また、夢と仕事はちがっていて、仕事は人のためにすることだけど、夢は自分がやりたいことだと聞いて、なるほどと思いました。夢は何個もっていいことも分かりました。一番心に残ったのは、「大好きなことならがんばることができて、自然と夢が叶う。」ということです。わけは、ぼくはテニスが好きでがんばっているけど、他の人を見たら、つい自分がプロになれるのかなと思ってしまいます。だけど、もっと大好きになって、もっともってがんばって必ずプロになってやろうと思いました。

植松先生は、昔からクラフトが得意だったけど、担任の先生に「どうせ無理。」

と言って、やめさせられたそうです。しかし、植松先生は、あきらめずにそのクラフトを

やり続けていると、ロケット作りで世界でも有名になることができました。ぼくは、大人の夢をつぶすような発言にめげずに、自分の大好きなことをやっていこうと思いました。

ロケット作りでは、同じ班の人に、分からないことを聞いたり話をしたりするチャンスがあったので、仲良くなることができました。今日は、友達が6人できました。また、作り方で、2か所くらい分かりにくい所があったけど、説明書を見て、完成させることができました。図工は苦手だけど、今日、きれいにロケットができて自信ができました。色をつけるのは特に苦手だけど、となりの人と相談しながらうまくできました。

一番感動的だったのは、ロケットを飛ばす時です。自分のを飛ばすのはとても緊張しました。3回スイッチを押してもロケットが飛ばなくて心配したけど、最後には勢いよく飛んでいき、落ちてきたロケットを自分でつかむこともできて感動しました。また、みんなの成功を喜び合うこともできて、仲良くなれてよかったなあとと思いました。

最後のあいさつで、足がふるえたり、一つセリフがぬけたりと大変でしたが、最後にみんなにほめてもらえてうれしかったし、やってよかったなと思いました。

今日は、とても勉強になったし、楽しかったし、感動的でした。しかも、友達ができてよかったです。これからも仲良くしたいです。来年は、今の5年生にこのすばらしい体験をしてもらいたいです。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って

北広島町内小学校

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の2年目を終えた。

今年度は、対象学年を4～6年生とし、5年生では、新たに「“民泊体験”～北広島のよさを満喫しよう～」を実施し、町内での民泊を取り入れた宿泊体験活動を実施した。4年生の「北広島 お宝発見・体験ツアー」、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」は、昨年度に引き続いての実施で、諸計画作成・運営においてより円滑な実施をすることができた。

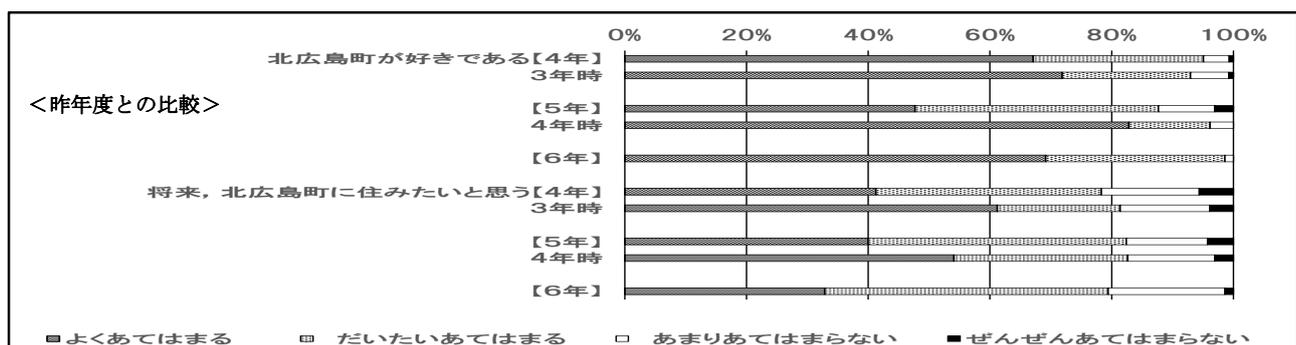
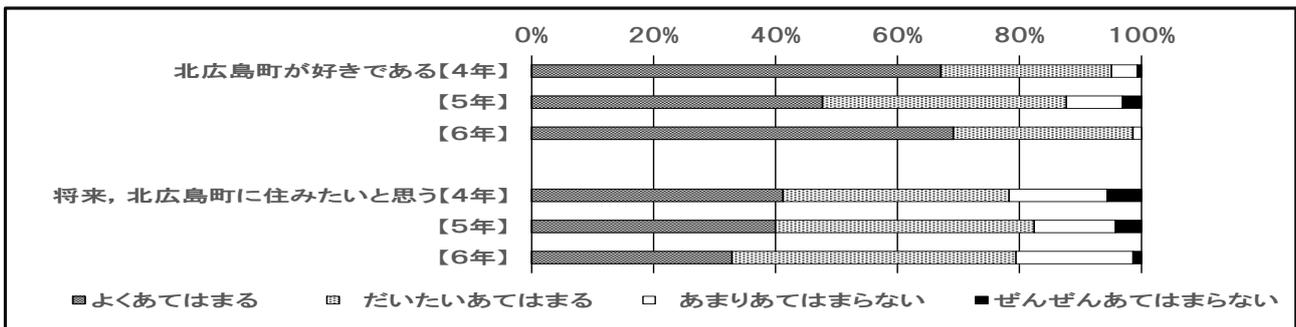
参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「子どもに町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思いや考えを育てたりすることに効果的であった」といえる結果が出ている。また、事業を通して町内の同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成することができたと考えている。企画・予算立てをしてくださった北広島町・北広島町教育委員会、町内関係諸団体・関係者に感謝したい。

各学校の教職員からは、次のような感想・意見があった。

- 同じ町内の他地域の児童との交流は、新たなつながりを生むものだと感じた。各学年のプロジェクト内容も児童の心に残るものばかりであった。意図的・継続的な取組を今後も希望する。
- 北広島町の「ひと・もの・こと」についての経験を、年々積み上げていけることが有意義である。今後も継続することで、4、5、6学年を通じての体系的な取組となるとよい。
- 将来「北広島町」に住みたい、貢献したいという子供を育てるためという目的は、とても大切だと思う。北広島町の「ひと・もの・こと」に実際に触れることで、よさを実感することができた。
- 単独の学校だけでは実施することが困難な活動を北広島町の支援をいただいて実施でき、子供達が貴重な体験をすることができた。
- 他校の児童と交流することで、他校の特色や同級生のがんばりに刺激をうけ、同級生としてがんばろうとする意欲が芽生えた。

【ふるさと(北広島町)への愛着心等に係る「アンケート結果」について】

各学年で実施した「夢・感動体験事業」を実施した際に、体験活動についての振り返りアンケートとともに、「北広島町が好きである」「将来、北広島町に住みたい」という項目についてのアンケートも実施している。その結果は、次の通りである。



肯定的評価が、昨年度と比べて下がった学年があったり学年によりバラつきがあったりするが、今年度も平均すると9割以上の児童が「北広島町が好きである」と回答し、約8割の児童が、「将来、北広島町に住みたい」と回答している。

このように、肯定的な評価が高いことは、本事業が一定の成果を上げていることの裏づけと言える。

また、事業実施にあたっての課題や改善点については、事業ごとのまとめの中に成果とともに付記している。北広島町の若者定住施策と連動した「北広島ふるさと夢プロジェクト」、各学校における「ふるさと・キャリア教育」の来年度以降の充実が、更に望まれる。

学年ごとの事業の振り返り（各学校教職員）

【4年生の「北広島 お宝発見・体験ツアー」について】

- 自分の住んでいる北広島町の歴史を調べたり、特産品を知ったりするなど、実際に見たり体験したりできる事は、児童にとって、とても良いことだと感じた。
- 他校の同級生と出会い、一緒に学び一緒に体験できることは一生の思い出になると思う。
- 4年生の町内めぐりの内容は、4年生の社会科の学習内容とあっており、よいと思う。
- 三島食品の見学は時間的には短時間ではあったが、全国的にも有名な企業の工場が北広島町にあるということ子ども達を知ることができ、地元の産業に興味関心を持つことができたように思う。工場内を案内して下さった方も非常に親切で分かりやすい説明をして下さった。
- サイオトスキー場では、普段なかなか体験できないジップラインを体験することができ、児童も満足できたと思う。来年度もぜひコースに入れてほしい。他の体験よりも経費がかさむという課題もあるが、3年に1回はどの学校も体験できるよう順番を組むように計画すればよいと思う。
- 同学年が2年続く活動だったので見学場所や体験活動選びに苦労した。しかし、情報共有をする中で新規の見学場所や体験活動を設定できた。地域の方の理解と協力により低価格で対応してもらい感謝の思いでいっぱいである。
- 学校紹介では、各校の特色が出ていた。他校の紹介を見ることにより、次回発表するときの参考にするとともに、他の学校に負けないようにより良いものにして発表したいという児童の意欲にもつながっている。
- 芸北高原では、グループに分かれてそれぞれトレッキングガイドさんについてもらったので、植物の名前や芸北高原の様子についてよく理解できた。専門家の指導の効果は大きい。
- 児童は八幡高原の自然に触れることができ、「町内にこんなすごいところがあるのか」と再発見していた。自分の校区以外の町内の自然と良い出会いをさせることは重要。
- 他校の児童と交流し、「友達ができた」と喜んでいた。グループ分けも配慮され良かった。
- 自分でそばを打つ体験は、なかなかできるものではないし、町内の自慢の一つを知る良い機会となった。誇れる地域文化にふれる体験を仕組むことで、地域への見方が変わった。
- 芸北高原の自然館では、白川主任学芸員と3名の芸北トレッキングガイドの方が、自然館の展示や周辺の山道を案内して下さった。一つ一つの植物の名前やその由来、特徴、人の暮らしとの関わりなどをくわしく教えて下さった。どの班でも楽しい雰囲気を作ってくださり、児童も興味深く観察できた。
- 自然散策では、3校混合で4班に分かれた。はじめは緊張した様子だったが、一緒にトレッキングをする中で、自然に会話が生まれ、交流を深めることができた。
- この学年は、2年連続での「北広島 お宝発見・体験」だったので、北広島町についてより詳しく知ることができ、自分たちの住む町についての愛着を深めることができた。
- 他校の児童と合同で体験学習に臨むことで、児童間の交流が持てた。体験や見学を共にするだけでなく、グループ内で自己紹介や簡単なゲーム等の時間を10分程度でよいので設けたら、より一体感が生まれるのではないかと。
- オオアサ電子と戦国の庭歴史館と、そばうち体験を行った。北広島の先人に学び、将来を見据えた

仕事で夢を抱き、地元の特産品の体験ができ大変充実した一日だった。

- 他校の児童とも関わることができてそれも大変良かった。
- 町内の特色をいろいろ知ることができたことはよかった。
- 昨年の3年生のときと違う別の活動ができ、2年間で多くを学べた。
- 見学地ごとに説明の方がいてくださり、人と出会う中で学ぶことができた。

【反省・改善点】

- 日程に余裕がなく、全体で集まる時刻がさがり、昼食時間が短くなったり予定していた児童の交流（ゲーム）の時間を持ったりすることができなかつた。全体会の持ち方・交流会の持ち方を検討する必要がある。
- 複数の学校が同じバスで移動すると、地域性により一緒に活動する学校が限られたり、見学・体験地の選定・余裕のある活動が難しくなったりする。新しい見学・体験の場所を開拓する必要がある。学校単独のバスで移動することで、全体交流の時間を確保しやすくなることも考える。
- 見学・体験場所によっては、活動が天気等によって左右される。いろいろな状況を想定して、見学場所を選定したり多様な計画を立てておく必要がある。
- 見学・体験学習をする場所について、事前に学習をしておくとともに、安全に実施できるように事前に詳細の対策・緊急対応などについて確認をしておく必要がある。

【5年生の「『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～」について】

- 自分達の住んでいる町で地域に関する体験・普段できないことの体験（牛との触れ合いなど）、地域の方と交流などがしっかりできたことは、子ども達の北広島町への思いが深まるという面で民泊の効果は大きいと思う。
- 合同で行なうものは昼間に限ってあったため、多くを民泊家庭で過ごすことができ、児童と民泊家庭の方との絆ができた。帰校後、暑中見舞いを送る等交流が続いている。
- 北広島町内での民泊は、家族のように温かく受け入れ、様々な体験をさせていただいたことで、ふるさと北広島町のよさや愛着を感じることができた体験であった。ただ、環境的には自分達が住んでいる地域とあまり変わらないので、海辺での体験のような新鮮な発見はなかった。
- 2日目の人間関係づくりでは、時間の余裕もあり、しっかりと交流する中で他校の児童とのコミュニケーションを図ることができた。
- 大暮養魚場では、どのように魚が育てられているか、どのような苦労があるかなどについても説明があり、とても分かりやすかった。活動前の命についてのお話が心に残った児童が多く、その後の体験活動とぴったりマッチしていて良かった。
- 民泊を通して、家族のように受け入れて下さった地域の方の温かさに触れたり、北広島町の豊かな自然を満喫できたりし、ふるさとへの愛着を深めた。
- 北広島町に住んでいても、訪れたことのない場所に行ったり普段なかなか体験できないことをしたりして、活動を楽しむことができた。活動を通して他校の同級生としっかり触れ合え、横のつながりも生まれた。
- 文化ホールで初日に各学校の児童と人間関係づくりを行ったのは良かった。
- あまごのつかみ取りや、登山等、普段なかなかできない体験をし、町内の自然を知ることができた。
- 地元の地域において民泊を行うことは、子ども達にとって第2のふるさとができたように感じた。民泊体験活動後の夏季休暇中に、再び宿泊に行った子どもが複数いた。
- 活動メニューがよく、タイムスケジュールにもゆとりがあり、無理なく楽しく活動できた。
- アマゴのつかみ取り体験では、命についてのお話を興味深く聞いた。この話は、その後つかみ取りをし、さばいていただくという体験に適したものであり、命の大切さや命をいただくことのありがたさを感じた子どもが多かった。学校の給食も残さず食べるようにしている。
- 初めての民泊体験では、各家庭に大変温かく迎えられ、様々な活動をさせていただいたことが深く

心に残ったようである。体験後も家族と一緒に民泊受け入れ家庭を訪ねるなど、交流が続いた子どももいた。

- 民泊先で、とても丁寧に対応していただき、充実した3日間を過ごすことができた。魚のつかみ取りでは、命の話をしていただいたことや、芸北分校生徒の参加があったことがよかった。
- 計画等大変ではあったが、大変有意義な体験であった。児童にとってあつという間の時間であったようだ。北広島のすばらしさを4年生のとき体験しているが、今回更に経験でき良かった。
- 北広島町内に民泊できたということで、町内でつながりを持つことができ、とても有意義な体験になった。
- 他校の児童と交流することで、人間関係づくりや諸活動への関わり方を学んだ。各校がいっしょになってのグループや班での活動があり、交流が深まった。
- 自分の家とは違う家庭(民泊受け入れ家庭)で生活することは新鮮で成長することが多かった。また、人との接し方や集団生活の仕方など学ぶことが多かった。
- 学校に泊る経験も良かった。
- 町内小学校と合同で行えた事で、指導者の役割分担ができて助かった。川遊びや登山など普段経験できない町内の活動が体験できたのでよかった。

【反省・改善点】

- 初めての実施で、実施計画の作成・関係機関との連携に労力を要した。来年度は、今年度の成果と課題を生かして、早めに計画を立てて準備していくことが必要である。企画・実施に関わっては学校間で分担・協力したが、一部の学校・担当者に負担がかからないようにしていかなければならない。
- 実施時期については、1学期末に重ならない方がよい。初めての町内での民泊、途中で学校宿泊が1日加わったこともあり、細やかな計画・準備をすることが大変であった。学校にそれぞれ泊まるより合同で泊まることができれば、学校間のつながりが深まりよりよい体験活動になると考える。1日目の活動・宿泊については、検討すべきである。
- 学校が3グループに分かれて実施したが、各グループの児童数に差が大きく、人数が多いグループは、活動したり交流したりするのが難しい状況があった。児童は、民泊先で多様な体験をしたが、各家庭で差があったり居住地と生活環境が同じなので新鮮味のない体験になったりしないようように、民泊先と連携して、対応策を考える必要がある。
- 安全・健康管理について、7月の時期に登山をするのであれば、熱中症・日焼けや雨に対する対策、登山中の怪我や事故の指導・対策について、より丁寧な計画が必要である。大量に虫に刺された児童や、刺された後の症状が悪化した児童がいた。児童自身に自分の身を守る意識を高めておく必要がある

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

- 植松さんの講演は、6年生児童にとってタイムリーな内容であるとともに、とても分かりやすく、将来について考えるきっかけになる話であった。
- 児童が「夢」について考える時間をもてることは、将来を決断するときに必ず役に立つと思う。
- ロケット作りにも真剣に取り組み、打ち上げを楽しむことができていた。
- 他校の同学年の児童と共にロケットを作る活動では、積極的に話しかけなければならない環境にするという面でよい設定だと思う。
- 植松先生の講演は、将来について考え始める時期の子ども達にとって大きな示唆をいただける内容であった。「思うは招く」という言葉が子ども達にとって印象に残る言葉だったようで、「思い続けることで夢はかなう」「何事にも諦めない心を持つ」「強い意志力」「夢に向かって努力し続ける」など、自分なりの言葉に置き換えてこれからの生き方につなげることができた。
- ロケット飛ばしの時間は、教育委員会の方々のお陰で昨年度に比べてスムーズに進行していただいた。ロケット作りの活動で他校の児童との関わりが持てたので良かった。自分達が作成したロケットを空高く飛ばす体験は、どの子にとっても心に残る素晴らしい体験であった。

- 植松先生にかかわる図書を事前に読んでから講演を聞く事ができているので、子どもにとっては「直接お話が聴ける。楽しみだ。」という思いで講演に臨めた。植松先生の話はとても分かりやすく、事後の感想文の中に、自分のこれまでの生活を振り返り、〇〇したいといった生き方にかかわる記述が多かった。
- グループごとのロケット作りの場は、子ども同士のかかわりが必然的に生まれるような設定・活動が仕組まれていた。その意図を汲んで、引率教職員等の見守る姿勢が良かった。
- 講師が素晴らしく、子ども達は講演内容を自分と重ねながら興味を持って聴き、自分の未来に展望を持つことができたようである。できれば今後も継続してほしい。
- 自分達で作った“ロケットを飛ばす”という事が、子ども達の心に強く印象付けられる良い体験であった。他の地域では経験できないことができたという印象を持たせることもできた。
- 学級文庫には植松さんに関する書籍が数冊ある。それまで関心を示す児童は少なかったが、プロジェクト以降、児童が頻繁に借りるようになった。講演で話されたことを確認したり、新たな事実を知って友達と話し合ったりするなどしている。
- 物事に取り組む際に、植松さんから聞いた言葉を引用して、友達を応援したり励ましあったりする姿が見られた。考え方や生き方に感化される素晴らしい体験であった。
- ロケット作りでは、説明書を見ながら作ることを心配していたが、隣の他校の児童と教え合いながら完成させることができており、児童同士の関わりの素晴らしさを感じた。
- 植松氏の講演は児童に、自分の可能性を信じる力を与えるものであった。「頑張れば夢がかなうかもしれない」「こんな自分でも何かできそうな気がする」「失敗したら何でそうなったか考えればいい どんどん失敗していい」等、児童が自己を肯定的に捉える契機となった。
- 他校の友達と共に作業する経験の中で、児童は、積極的に人と関わろうとする意欲や、人と関わることについての自信を持つことができた。
- 植松先生の講演は、児童にとって感動的なものだった。その講演を聞いた後のロケット作りは、わくわくして作業することができた。
- 作業は、他校の友達と交流を持ち和気あいあいと作業をすることができた。用具の準備等も確実であってよかった。作り方を相談したり、お互い進捗状況を確認めたりしながらやっていた。
- ロケット発射時も、周りの友達と楽しく話しながら待つことができた。
- 一校だけでは実施することができないロケットを飛ばすという感動体験を実施することができてよかった。植松さんの話は子ども達にとって、あきらめないで「夢」に向かっていく姿勢の大切さを学ぶことができた。
- 子ども達に夢を考える場となる活動であった。

【反省・改善点】

- 開催時期は、天候のことを考えると、郡陸上記録会など行事が多い時期なので、そのことを考慮して無理のないように早めに実施日を決めて、計画的に取組をする必要がある。
- 児童の交流のことを考えると、学校紹介の仕方・全体の流れ（交流の場の設定等）について、再考することも考えられる。
- パラシュートが開かずに落ちたロケットがあった。安全管理・指導の徹底と繰り返し発射できるようにエンジン（火薬）を余分に準備しておく等の対応が必要である。
（最終的にロケットを飛ばせない児童がいた。）
- 会場準備が、前日の遅い時間になった。また、長机の汚れ落としが、洗剤も無くて作業に時間がかかり、完全にきれいにすることができなかった状況があった。計画的で効率的な会場準備ができるようにする必要がある。

1 はじめに

『北広島ふるさと夢プロジェクト』とは、なんと子どもたちにとってわくわくする名称であろうか。」これが最初にこの事業の名称を聞いた時の筆者の感想である。北広島町という「ふるさと」で学ぶ子どもたちは、やがて大きく成長し、大きな社会、世界に出ていく。しかし、人の成長の過程の基盤である児童期を過ごす「ふるさと＝北広島町」は、多くのものを与え、その後の人生に大きな影響を与えるのは想像に難くない。

知識基盤社会になり、情報化によって世界のどこにいても同じような情報を手に入れることができる時代となったといわれる。しかし、本当にそうだろうか。インターネットで手に入る情報は、映像や音などのデジタル化できるものである。風景や、音、そしてコミュニケーションもデジタル化できたかのように思われるが、決してそうではない。風景ひとつとっても自分がどこに立って、どのような目線で見ただかによって全く違ってくる。大人にとって大きな木は、子どもたちに見ればとんでもなく大きな木なのだ。雨の音もそうだ。子どもたち、傘を差しながら歩いた登下校で聞いた雨の音は、冷たさやにおいととも心象風景として記憶されていく。では、コミュニケーションはどうだろうか。本当のコミュニケーションは、同じ時間に同じ場所にいるからこそ、成立するのではないだろうか。その場所にいることでしか手に入らない情報は多いのだ。子どもたちの成長にとって、児童期に何を見て、何を感じて、何に触れたのかということはとても重要である。だからこそ、我々は、子どもたちの教育に「ふるさと」でしか学べないことを見極めて取り入れていく必要がある。それこそが、これからの社会で生きていくための子どもたちの成長の基盤となっていく。

以下では、この「ふるさと」で学ぶという大きなテーマを持った「北広島ふるさと夢プロジェクト」について、その意義や今後の課題について考察していきたい。

2 これからの子どもたちに求められる力を育てる学校教育とは

1) これから求められる力

平成 28 年 2 月 21 日に中央教育審議会が「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」を答申した。ここでは、現代の子どもたちの課題の一つとして、「豊かな心や人間性を育てていく観点からは、子どもたちが様々な体験活動を通じて、生命の有限性や自然の大切さ、自分の価値を認識しつつ他者と協働することの重要性などを、実感し理解できるようにする機会や、文化芸術を体験して感性を高めたりする機会が限られている」との指摘があるとしている。実際に、教育に携わる者は、情報化社会によって子どもたちが得る情報は増えたものの、実際に五感を働かせて感じることのできる、いわば「本当の世界」との関わりが少なくなってきたことを感じているのではないか。これは北広島町に住む子どもたちも同じであろう。豊かな自然や文化がある地域でありながら、実際にそれらに触れ、自分とのかかわりの深さを感じる体験は、情報化社会と言われる現在においては、以前と比べると、やはり少なくなってきた。しかし、子どもは自分の手の届かないところにあるものについての情報をたくさん知っている。その情報はインターネットを使って個人で簡単に手に入れることができる。だが、友達との関わり合いによる体験を通じた情報の獲得は、そこでは生まれない。また、少子化が進み、

核家族が当たり前になってきている時代において、家庭におけるコミュニケーションのパターンも少なくなっていることも課題となってきているのであろう。

こういった現代社会とこれからの社会のありようを見定めて答申は行われている。そこでは、これからの社会について、おおよそ次のようにとらえている。

- ・21世紀の社会は知識基盤社会であり、情報化やグローバル化といった社会的変化は、今を生きる私たちの予測をはるかに超えた進展をするものであるとしている。
- ・人口知能の発達は、第4次産業革命と考えられ、ますます、デジタル技術が私たちの生活を変えていく。そういった社会は、ますます複雑になり、予測困難なものとなる。
- ・この社会の加速度的な変化は、どのような生き方や職業を選択しても、その影響からは逃れることはできないだろう。

これまで当たり前だと思われてきたことが当たり前でなくなる社会が、今後、我々が想像もしなかった速さで広がっていく。その中で、子どもたちには、「何が問題なのか」を見つけていく力が求められる。問題の正解は一つではない。そもそも正解などがない場合も多いだろう。単純な答えのある問題は、まさに人口知能が補っていく時代になる。人にはどのような力が求められるのだろうか。答申は、これから求められる力について、「子どもたち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。」としている。

今、教育に求められるのは「主体的」に世界と関わりながら自己を成長させることができる子どもを育てていくことなのである。

2) 社会に開かれた教育課程

これから求められる力については前述のとおりであるが、この力を育んでいくための教育課程の在り方について、答申では「社会に開かれた」というキーワードをあげている。答申は、新しい学習指導要領の改訂に向けた改善の方向性として、「学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である。そして、学校が社会や地域とのつながりを意識し、社会の中の学校であるためには、学校教育の中核となる教育課程もまた社会とのつながりを大切にすることが必要である。」と述べる。さらに、「特に、子どもたちが、身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感を持つことは、困難を乗り越え、未来に向けて進む希望と力を与えることにつながるものである。」ともしている。

前述したこれから求められる力の育成を学校教育において実現していくためには、教育課程そのものが社会とかかわりのあるものとなり、社会や地域と連携した取組が進められていくことが必要なのである。もはや学校の中で完結する教育課程によって進められては不十分なのである。

3) 「北広島ふるさと夢プロジェクト」の意義

これまで述べてきたことをもとに、今回のプロジェクトの意義について考えていきたい。

まず、最も重要なことは、このプロジェクトが答申されたばかりの、求められる教育課程の在り方を先取りしていることである。まさに「社会に開かれた教育課程」を体現しているといえる。本プロジェクトの目的を北広島町教育委員会は「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに

住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」としている。地域を題材とし、地域を舞台とした学習を進めるとともに、その成果を「自己の在り方」へと高めようとしている。当然、その実現のためには、地域の人や自然、文化との関わりが必須となってくる。子どもたちは、学校だけの学びで終わるのではなく、学校と地域で学ぶことが求められるのである。そのために、学校は子どもたちの学びを有意義なものとするため、地域との連携をしていくことが求められる。だが、体験活動を与える提供者の役割を地域の方をお願いするだけでは、この目的は達成されない。地域で学ばせるためには、地域の方に、教育の役割の一端を担ってもらうことが必要となる。情報の提供の仕方についての連携をするだけであった従来多く見られた形から、どのような子どもをどのような方法で育てていくかということ連携・共有することが求められるのである。この過程を通していくことで、教育課程が真の意味で地域に開かれたものとなっていくだろう。

次に、これから求められる資質・能力をバランスよく含んだ活動がプロジェクトの中で実現されるということである。今後、学習指導要領では、子どもにつけたい資質・能力を

- ①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- ②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の3つに整理していく。このプロジェクトでは、この冊子に見られるように子どもたちは、様々な活動の中で友達と関わり、地域の人と関わりながら考え、活動している。また、この活動をふりかえるときには、学校の学習で身につけたことを存分に生かそうとしていたのではないだろうか。一方、体験で学んだことも、これからの学校での学習にも生かされていくだろう。さらに、3つ目の「学びに向かう力・人間性等」に関しては、自分自身をふりかえり、「地域の中の自分」を発見したり、見つめなおしたりすることができる。6年生の作文には、「夢」をキーワードに生き方について、自分自身をふりかえりながら考えている様子がうかがえた。

さらに、このプロジェクトでは、主体的で協働的な学習活動を行うことが求められる場面が多くみられるということである。教室から飛び出し、普段とは違う場所、違う友達と共に学ぶということは、子ども自身が考え、判断し、かかわり合っていくことが求められる。与えられることを待っているだけでは、活動は十分進まない。主体性の発揮が求められる場面がたくさんある。そして、活動は、一人では進めることができない。仲間と、地域の人と協働することが求められるのである。普段の集団を離れて、違う集団を即興的に作り出し、協働しながら新たなものを作り出していかななくてはならない。これこそ、子どもたちに求めたい「学びの姿」である。体験はふりかえることによって経験となり、教室での学びを、より主体的に、より協働的に高めていくことが期待される。

以上のことから、本プロジェクトがこれからの時代の要請にこたえるものであることがいえる。

3 今後の活動への提言

本プロジェクトが今後充実したものとなるように、実際の活動や記録を踏まえていくつかの点を提言していきたい。

1) 4年生

4年生の活動の特徴はコースを選択する点であろう。自分たちの学校ごとに選択した体験活動を

行うことは、子どもたちにとって、とても意義のあることである。その中では、きっと学校ごとに議論があったことであろう。

ジップラインの活動では、互いに子どもたちが励まし合って活動する姿が見られた。筆者は、最後のグループと一緒に回った。順番を待つ場面のことである。スタート台からテイクオフする瞬間はどの子どもにとっても緊張する場面だ。2つ目のコースを回ったとき、「がんばれ」という声が自然に起こってきていた。練習の時には起きなかった声である。なぜ、このような声かけが生まれたのだろうか。課題が前回よりも高いものになっているということもあるが、一番大きな理由は、「共通の体験をしたことによる仲間意識の芽生え」であろう。体験が自然と仲間意識を生む。これから求められる協働の基礎である。違う学校で学んでいても、一つの体験を共有することで仲間意識が生まれてくる。そこには、いつも指導してくれる先生の姿はない。しかし、子ども同士の学びは生まれている。

一方、見学というスタイルの活動については、地域のことを学ぶことはとても重要であり、知識的な面での成果は大きいものの、より主体的と協働的な学びとしていくために、学習を「自分事」とするための工夫が求められるだろう。

これらの活動をより意義あるものとするために提言したい。まず、学校の枠を取り外して子どもが個人で「学習の目標＝夢」を設定し、体験したい場所を選択してみるはどうだろうか。人数の制限や交通の点で難しいということは考えられるが、効果としては大きいだろう。このことによって、訪ねる場所が、「コース」から、自分の「訪ねたい場所」になる。「なぜそこに行ってみたいか」という一人一人の願いが、主体性の発揮につながるだろう。さらに、学校という集団で行動するのではなく、その場で新たな仲間をつくるということも求められる。誰とでも協働することがより強く求められる場面を生み出すことができるであろう。

また、その選択の画面で、次年度は下の学年の子どもに対してプレゼンテーションを行うという方法もある。学習した内容を伝えるのではなく、下学年が「行ってみたい！」と思うためにどのようなことをアピールしたらよいか考えさせてみるはどうだろうか。目的によって話す内容の選択や表現の仕方も考えるという活動ができるとともに、子どもにとって、自分が訪ねた場所がプレゼンテーションすることによって、「ふるさと」として確固としたものになることが期待される。

2) 5年生

民泊は子どもにとって、大きな経験となったはずである。数件の家を回らせていただいたが、どの場所でも、子どもたちは「いつもと違う」ことを感じていた。はしゃぐ、遠慮気味になるなど表現は様々だが、全ての子どものに言えていたことではないだろうか。民泊先で味わえたのは、その家庭の流儀であったり、北広島町の生活であったりしたはずである。各家庭が、その家庭なりの体験を提供していた。いつもと違うところ、同じでないところに価値がある。個々や文化の多様性を受け入れ、その良さを見出し尊重していくことが求められる時代である。その基盤をこのような体験が築いていく。

養殖場での体験も子どもたちには有意義であった。生きている魚をさばいて食べていく。小売店に並べられている魚は、すでに食材である。しかし、生きて泳ぐ魚は生き物であり、その命を自らの手で断ち、食材へと変え、料理へと変えていくことは、現代の子どもたちにとってはなかなか体験できない。また、高校生が活動のサポートに来ていたが、学校種の枠を超えた交流もまた大きな意義を持つ。異学年や他校との交流の良さとは違い、普段、違う生活をしている他校種の生徒との

交流には違った良さがある。

この活動では、いかに民泊や自然体験に子どもを学校から離れて浸らせるかということが大きい。学校の先生の腕の発揮どころは、事前と事後である。この活動をどれだけ、子どもが自分事として捉えて活動に臨むことができるか、そして、活動の後のふりかえりを、何を視点として行わせるかが重要になってくる。子どもは担任の先生が大好きである。だからこそ、先生から離れ、先生の姿が見えないところで、これまでつけた力が発揮されるのである。そのためには先生と受け入れ先の方との連携が重要である。実は、実際の活動以上に、連携の時間を割く必要があるだろう。何を活動で子どもに学んでほしいのか、何を疑問に思ったり、何をもっとやりたいと感じたりしてほしいのかを学校はしっかりと伝えることが重要である。しかし、その中で、地域や民泊先からの思いにも耳を傾けていくことも大切である。学校と地域との双方向の連携・共有が、これからの教育のカギを握る。そのためにも地域との信頼関係の構築が求められていく。

しかし、学校は、子どもたちの健康や安全にも責任を持たなければならない。今回の活動では、先生方が状況の把握のために、何度か民泊先を訪ねていた。だが、先生の顔が見えたとき、子どもたちは「地域の子」から、「学校の子」へと引き戻されることも考えられる。重要となるのが、コーディネーターの役割だ。この活動を主として担当する北広島町教育委員会生涯学習課の持つ役割の拡大が必要になるのではないだろうか。

3) 6年生

6年生は、まさに「夢」の質がこれまでの学年と違っていた。それまでは、「夢」という言葉が子どもたちの「願い」を意味していたが、6年生では、職業や生き方とつながる「夢」にフォーカスされていた。講師の先生の話は、「生き方」そのものについての話であり、子どもは自らの夢に関してのかなえ方や勇気をもらい、自分自身の生き方について考えることができていた。この活動を、より効果的に進めていくには、やはり子ども自身がどれだけ「夢」について考えて、この体験に臨んできたかであろう。講師の話聞きながら考えていくことは重要であるが、子ども自身に講師から「夢」について聞きたいことを持って臨むことで主体性が生まれてくる。カリキュラム・マネジメントが、今後、重要になってくるとされている。この活動を、道徳教育や特別活動、総合的な学習の時間と関連付けることも大切である。もちろん、ロケット開発が題材であったことから、科学の発達という視点から理科や社会科との関連を図ることもできるであろう。この学びをきっかけとするのか、通過点とするのか、帰着点とするのかは各学校の腕の見せ所である。学校の教育活動との融合をますます期待したい。

午後からの活動は、ロケットを実際に作って飛ばすということである。ロケットに関する技術が凝縮されたものが自らの手で再現できることは大変魅力的である。現代では、科学の発達に伴い様々なものが、ブラックボックスになっている。科学の発達は、我々の感動を当たり前に変えてきたといっても過言ではないだろう。理科離れが言われている。それは、科学の素晴らしさを感じる体験の不足とも言えるのではないかと筆者は考える。「夢」に向かうことの大切さだけでなく、煙を出しながら、とんでもない速さで飛んでいくロケットの姿は、子どもたちにとって科学のすばらしさを感じさせる体験となったに違いない。また、その空は北広島町の空であり、歓声を上げたのは、ともに学んだ北広島町の仲間たちであることの意味も大きいだろう。

4) 全体を通して

ここで、全体的な活動の在り方について提言をしたい。それは、学校の果たす役割についての整

理である。

この活動のよさは地域を舞台に、地域の人から学ぶということではないだろうか。地域の人から学ぶ効果が大いなのは、「地域の子」として学ぶことによってである。今回の活動では、子どもの目前での学校の先生の役割が大きかったように感じる。学校ではできない体験こそ、学校という単位でコントロールする部分を減らしたい。そのためには「北広島ふるさと夢プロジェクト」での地域での活動は学校行事であるのか、それとも北広島町の教育行事であるかという点を整理する必要があるのではないかと考える。筆者は、この活動を学校の活動ではなく、北広島町の教育行事として捉えることが重要だと考える。進行や民泊の観察などそのものから、教育委員会生涯学習課の職員が担当してもよいだろう。学校が表に立たないことで、子どもたちは「地域の子ども」として、活動をますます活発にしていくだろう。学校や学級という枠組みをいったん外してみてもどうか。すると子どもは学校では見せない姿を見せるはずである。それは、違う見方をすれば、これまで学校がその子を育ててきた力の発露とも言える。例えば、あいさつや言葉遣いがきちんとできなければ、地域の人に注意してもらったらよい。うまくできないことは、子ども自身が地域の人にきけばよい。地域とともに子どもを育てるとするのはそういった取組を仕組んでいくことではないだろうか。

ぜひ、地域で学ぶ効果を最大限に生かす工夫を進めていっていただきたい。

4 おわりに

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子ども」は、学校だけでなく、地域に暮らす人々の「夢」ではないだろうか。筆者は活動に関わっていく中で、「わが町を大切に思い、次の世代につなげていきたい」という思いをぜひ、このプロジェクトを通して実現していくことができたと感じた。そうなれば、主人公は、子どもや学校だけではない。地域の人々もまた、主人公となる。「ふるさと」とは単に場所を示すものではない。そこに生まれ育つ中でかかわった人や自然、場所を含めて示す。ふるさとへの思いの強さは、そこでどれだけのかわりがあったかということだ。

このプロジェクトは、これから「社会に開かれた教育課程」の一つのモデルとなる先進的な取組である。今後のさらなる発展には、これまでの意識の変化や、理想と現実との間にある差を埋めていくための問題解決が必要となってくるだろう。しかし、これから必要とされる学びを北広島町の子どもたちに与える可能性を秘めた重要な事業である。そして、子どもの中に確かな「ふるさと」を育てていく取組である。ここまでの取組を作り上げていった関係者の方々に敬意を表するとともに、学校、地域の主体的な連携を通して、ますます発展していくことを期待したい。

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
アドバイザー 新川 靖
(関西福祉大学 発達教育学部)

おわりに

北広島町では、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の本格展開を始めて、今年度で2年目となりました。この事業を導入する時、数年前の町政懇談会で住民の方から教育へ対する意見として「北広島町に住む子どもを育てて欲しい」という願いがありました。私が教員になった頃、東井義雄氏の「村を育てる学力」に大きく影響されたことも思い出します。「若者定住」は町の重要な施策です、このことを教育の立場からサポートする事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」は始まりました。サブテーマは～ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成～としております。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業として2年目を迎えた今年度は、中学校も本格的にこの事業への取組を始めております。各小学校の同学年が同じフィールドで行う学年横断の事業については、昨年の自己評価を踏まえ4年生からの実施としました。4年生は町内の素晴らしさを体感する「お宝発見ツアー」、5年生は昨年度までは山海島体験活動で海辺を中心に宿泊体験をしていましたが、今年度は町内の民泊を利用させていただき、集団とは違う宿泊体験活動を行いました。6年生は昨年度に引続き、ロケット開発に携わり、夢を実現された方の講演会とロケットの制作打ち上げを行いました。何れの事業も町内の同じ学年が集い交流することで、いつもとは違う刺激を受けたり、友だちの輪も広がったと考えています。各学校単位でも特色ある「ふるさと夢プロジェクト」を始めており、地域の方々のお力を借りながら事業が展開されています。

また、今年度は外部の視点でこの事業の評価をしていただくため、関西福祉大学の新川靖様に外部評価を依頼しました。この評価を真摯に受け止め、自らの事業検証と合わせ、更なる発展に向けて取組みたいと考えています。

学校規模にも要因があると思いますが、学校区単位の事業や中学校については学校間で事業の進捗に温度差がありますので、応援隊としてもしっかりとバックアップしていく必要があると思います。

「ふるさと夢プロジェクト」の知名度は上がってきたと思いますが、この事業の本来の目的である「地域との繋がり」という面ではまだ不十分と感じています。学校だけでこの事業を進めることは困難ですので、地域の方々の更なるご協力をいただき、地域が中心となってこの事業を進めていただけるような体制を作る必要があると考えています。

今後も北広島町の子どもたちが、ふるさとに夢を持ち、大きく成長する「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

平成29年2月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
副隊長 池田 庄 策
(北広島町教育委員会教育長)